かえる

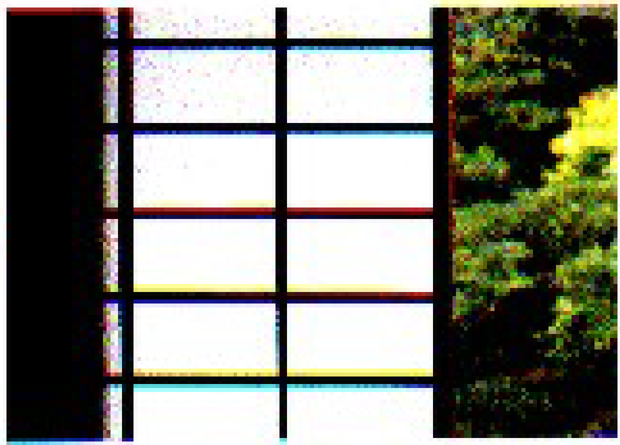
[illegible]



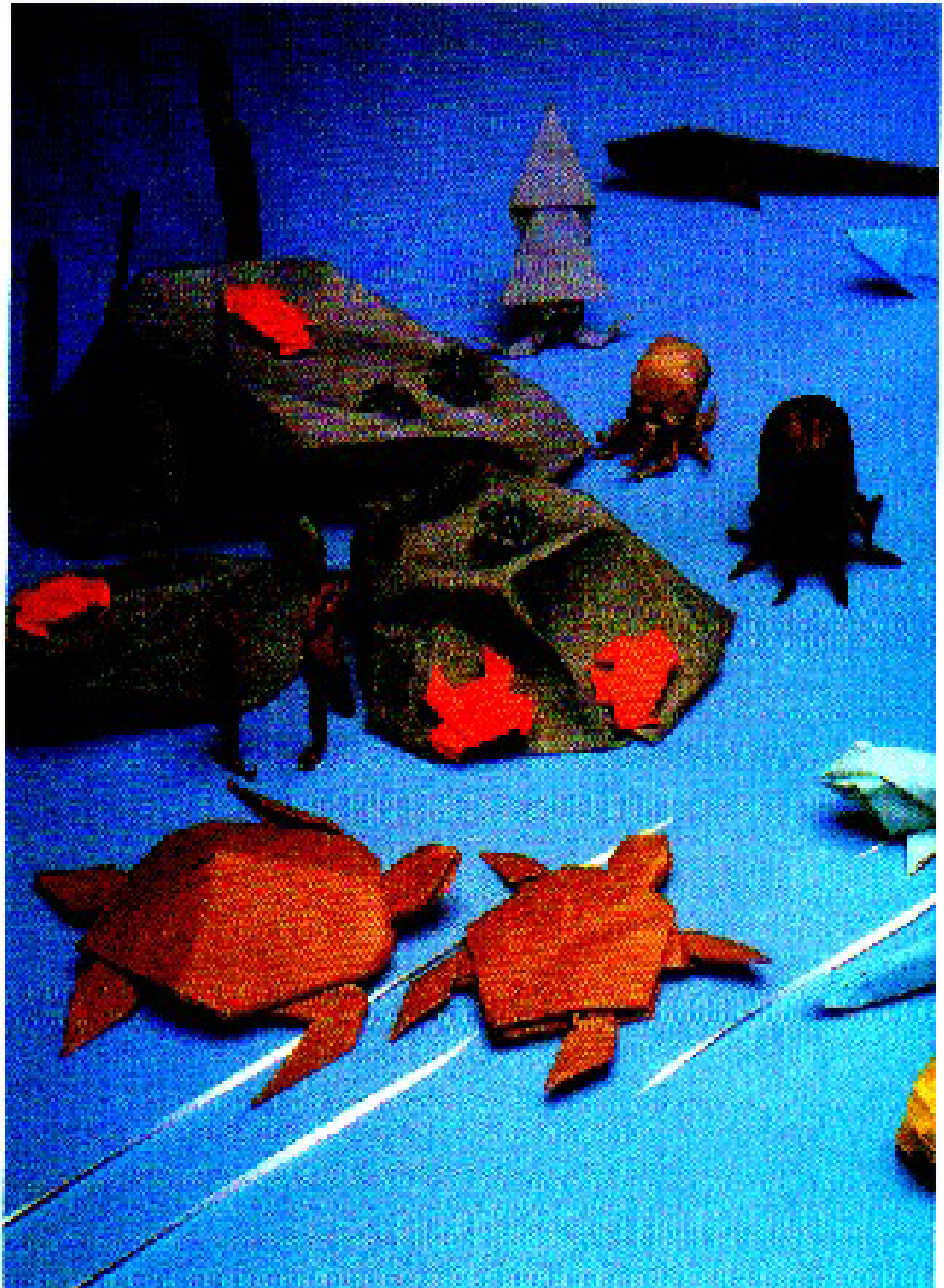


梅にうぐいす

[illegible]



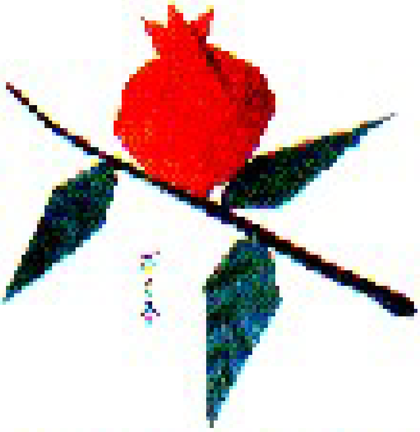




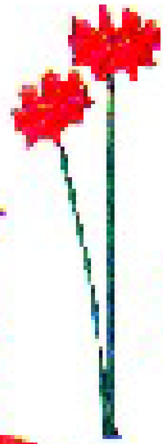
虫



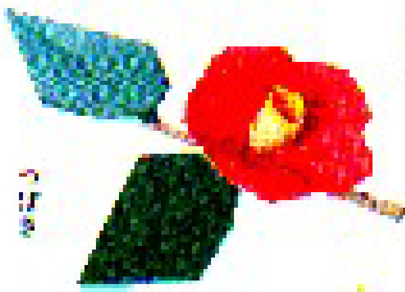

ひまわり







はなの四季

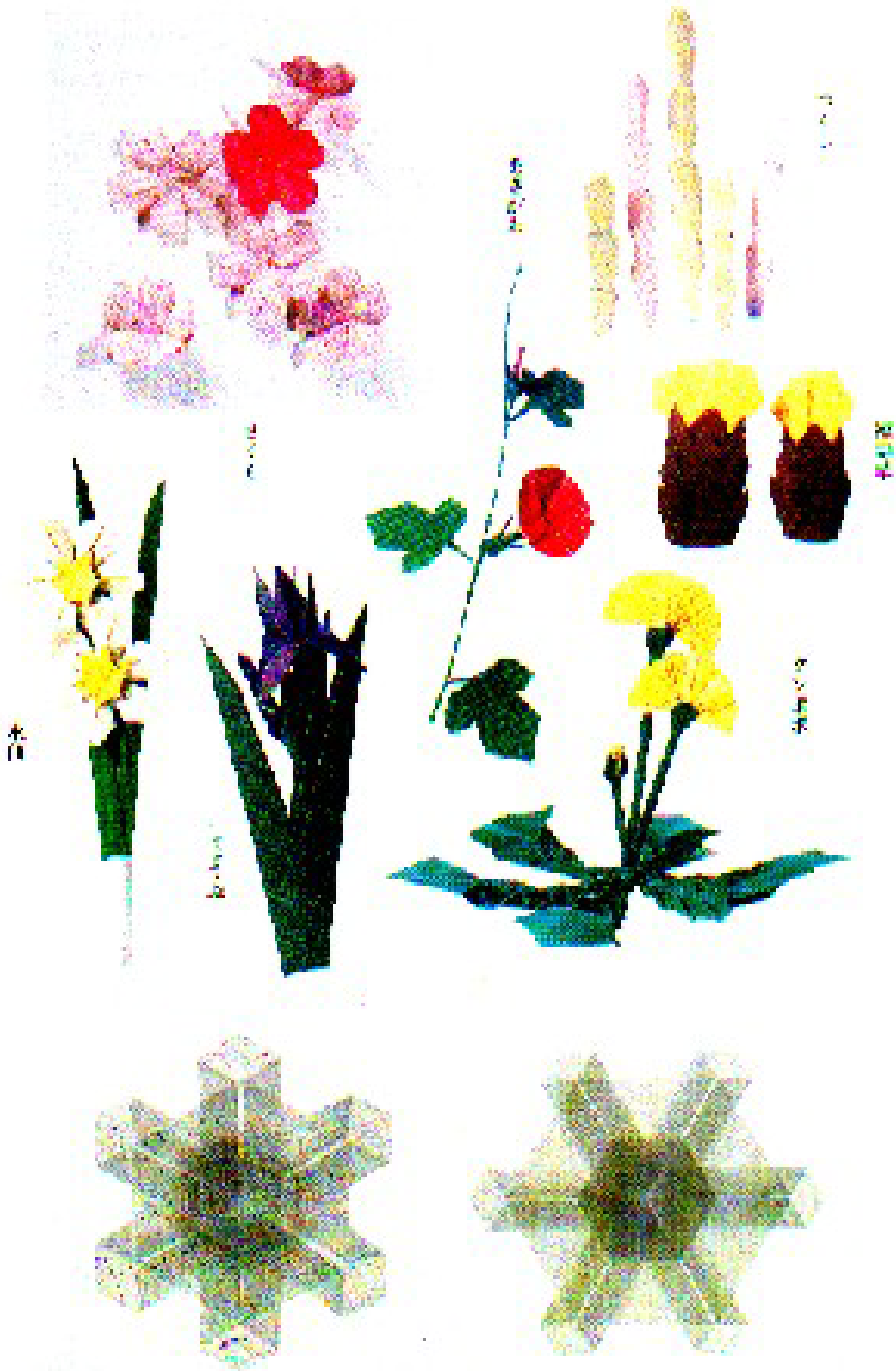










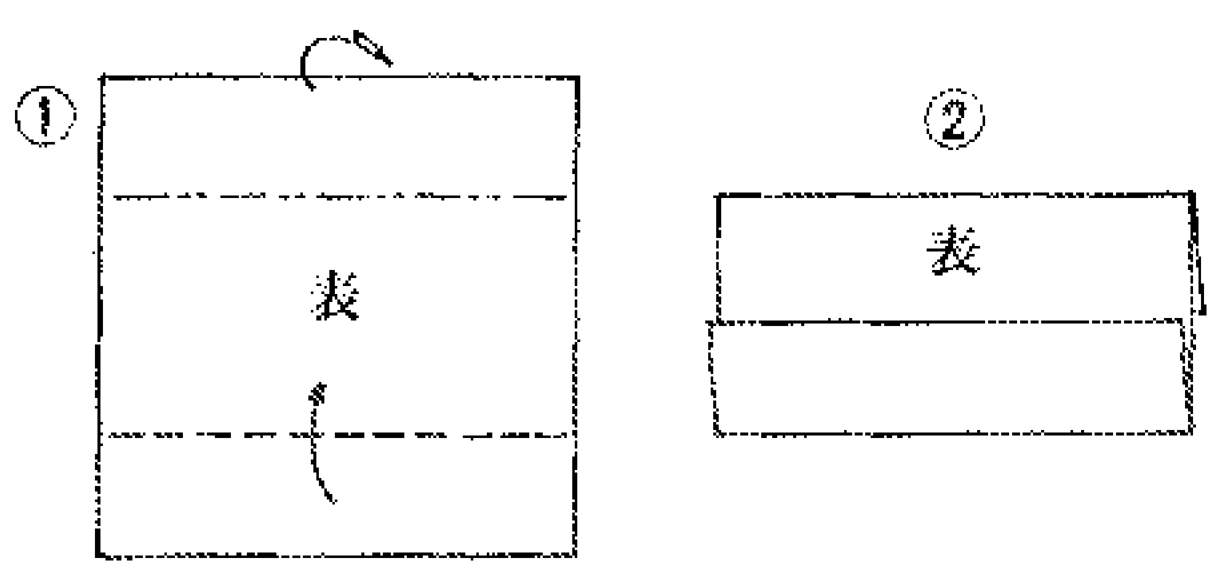

水仙

折り方の記号

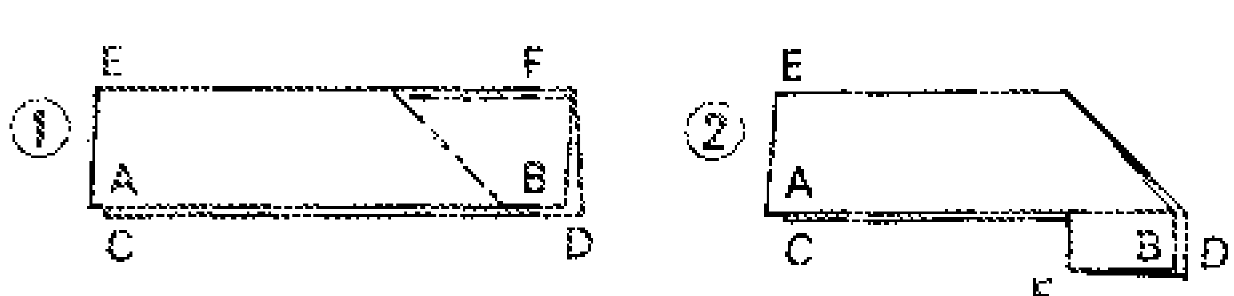
- 山線 ——— 細部は m 外にして折る
- 谷線 - - - - 細部は V 内にして折る
- - - 3 - - 数字の順に折る
- ……やわらかく曲げる
- 表に折る
- 裏に折る
- 矢の方向が縦紙
- 裏返す
- 巻き折り
- 引き出す・押し込む
- 途中から製図拡大
- 凹凸 凹面・凸面に使う
- 中心線
- 切り線

折り方例

折る

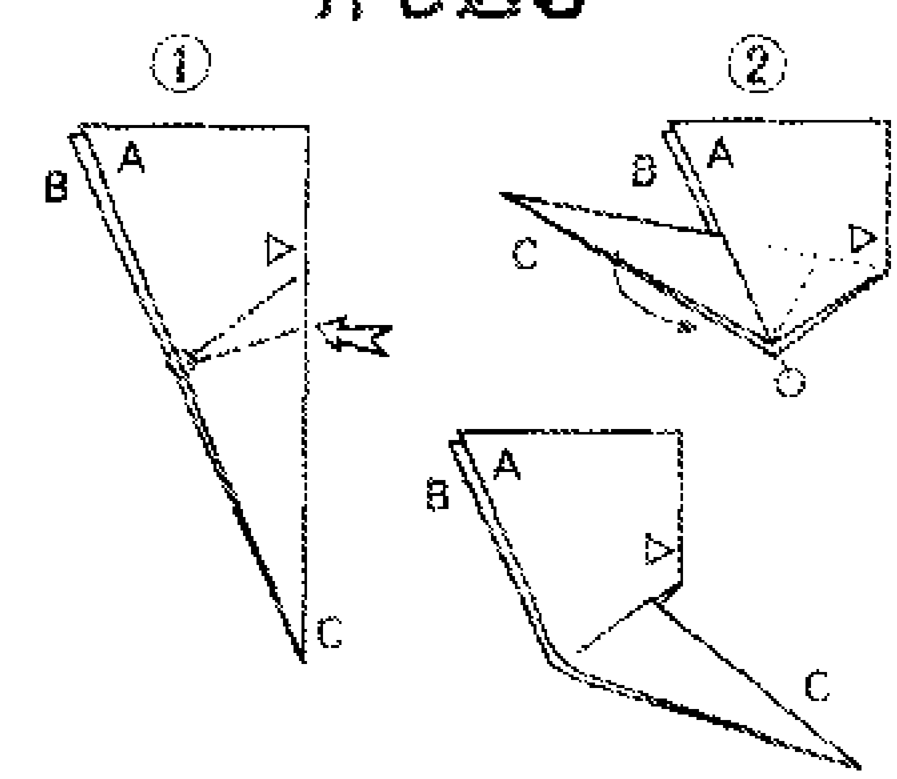


折り込む



Fの谷線はすでに折ってある折り目を折り返すので普通省略する。

押し込む



△印をもち、○印のところに折り目をつけないように注意して親指で押し込み、斜めに段をつけ、Cを引き出す。
鳥の胸や動物の関節などの折り方に使う。

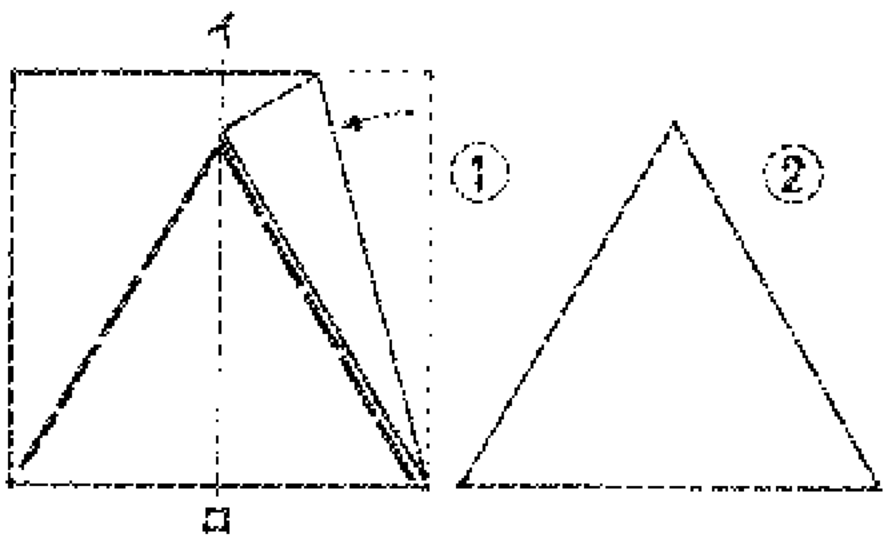
- 数字の順に折る。
- 製図に紙の表や裏の記号はつけないが、普通一回折って紙の表が外になるように折る。
- 重なっているところは表にだけ記号をつけてある。
- 途中まで同じ折り方は同じ部分を省略。
- 製図だけで判るものは説明文を省略した。
- カドや面に ABC や○□△をつけたり、そのほか適当な記号をつけてある。
- 角度を合わせながら折れるように、小さい部分は折り線を長くしてある。

※折り方の記号は折り紙の図解に大変重要である。紙という素材に最も適した記号として私の考案したものが世界に普及されてきている。

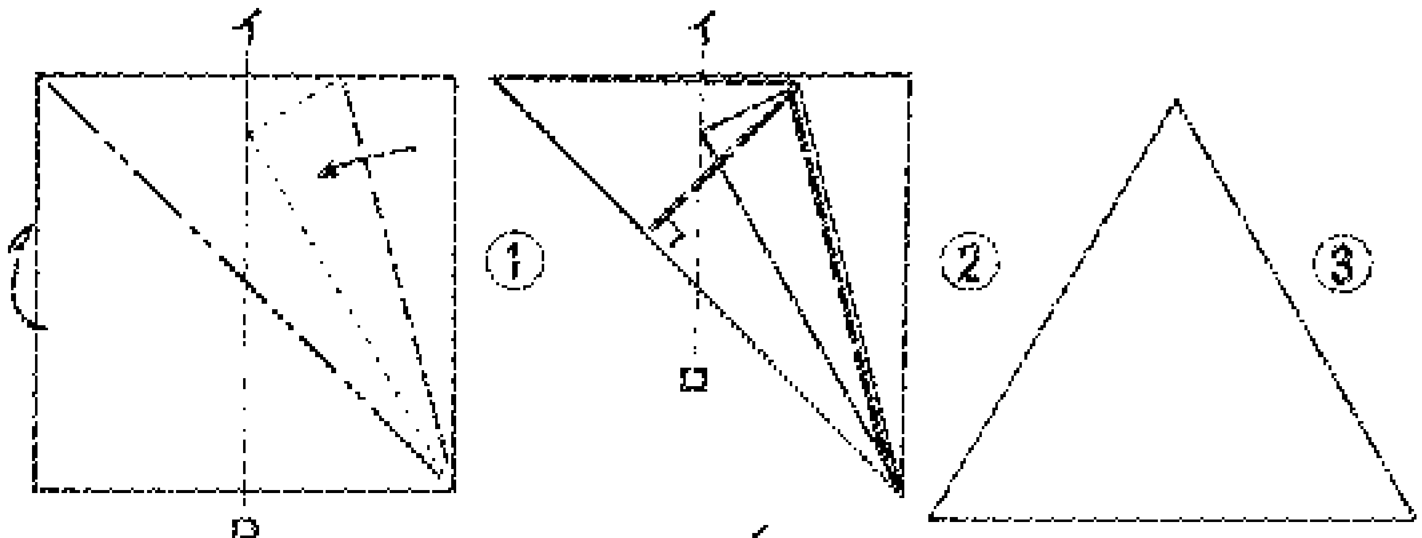
折り方例はごく一部で、実際に折る場合はさまざまの技法を用いることになる。

原形の作り方

(1) 正方形の紙から三角形

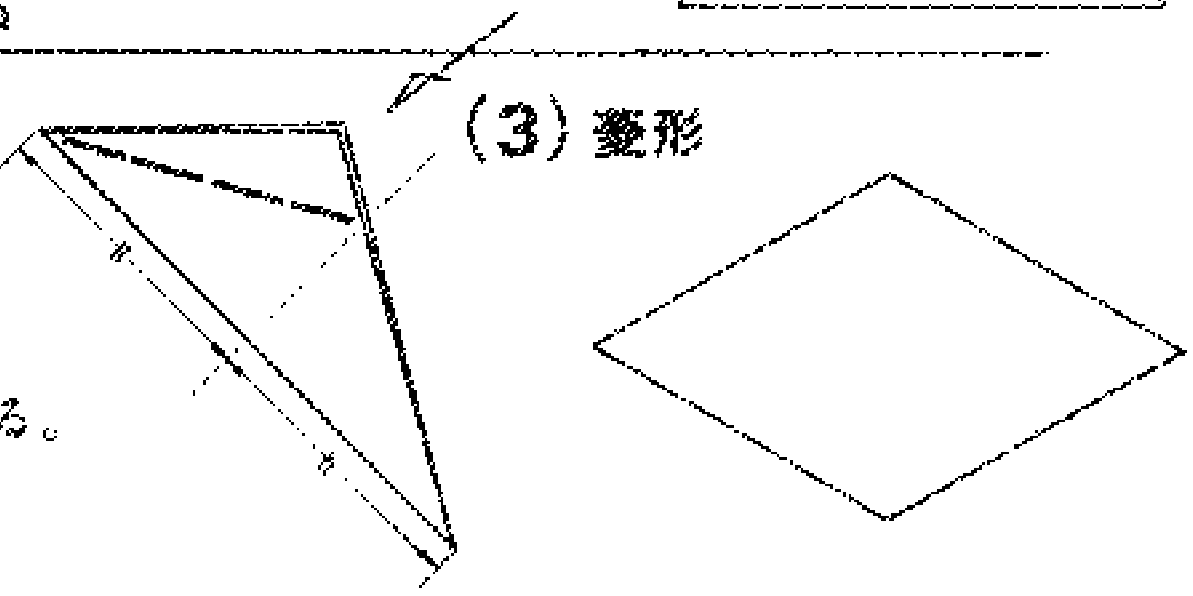


(2) 正方形の紙から三角形

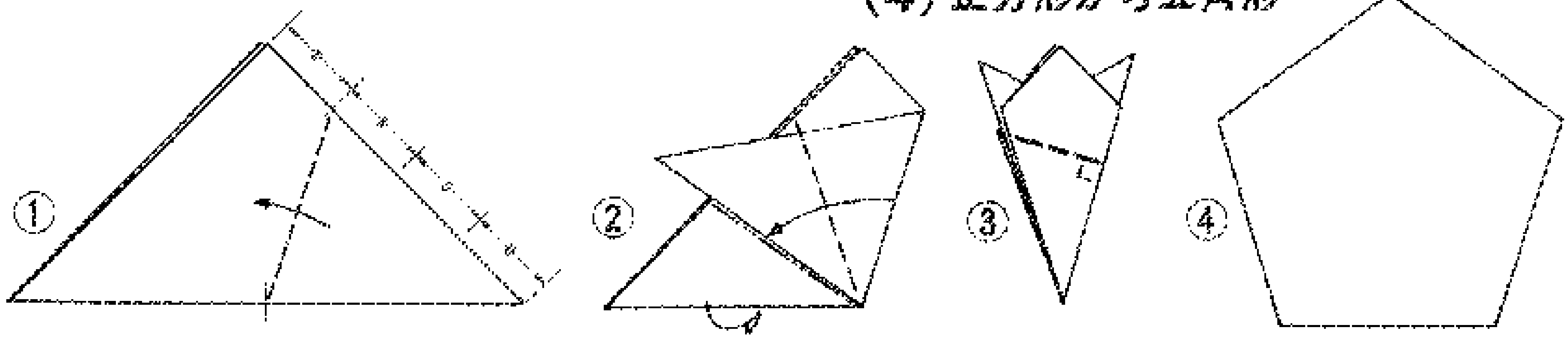


(1)正三角形　中心の垂線を縦にして紙どりをすると実際に使いやすい。垂線の折り目は頂点のあたりにだけつける。
(2)は(1)の方法よりも大きめの三角形が出来る。
(3)菱形は(1)(2)と同じ系統の折り線による。

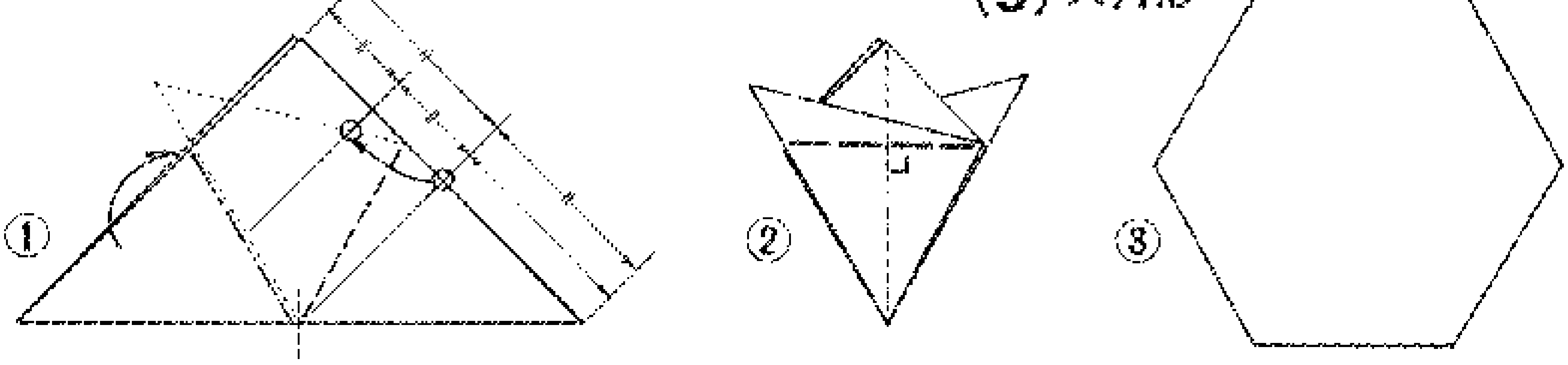
(3) 菱形



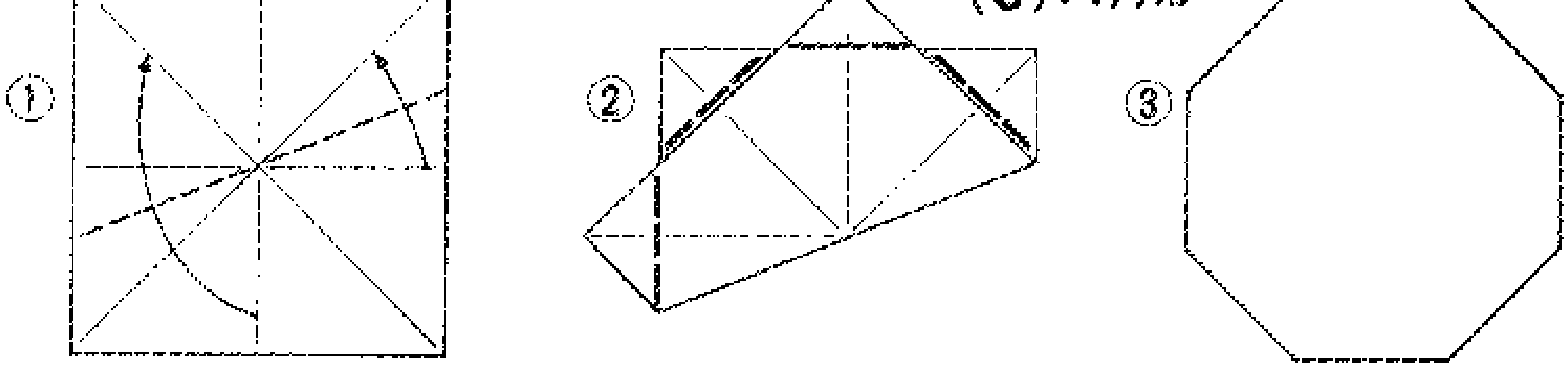
(4) 正方形から五角形



(5) 六角形



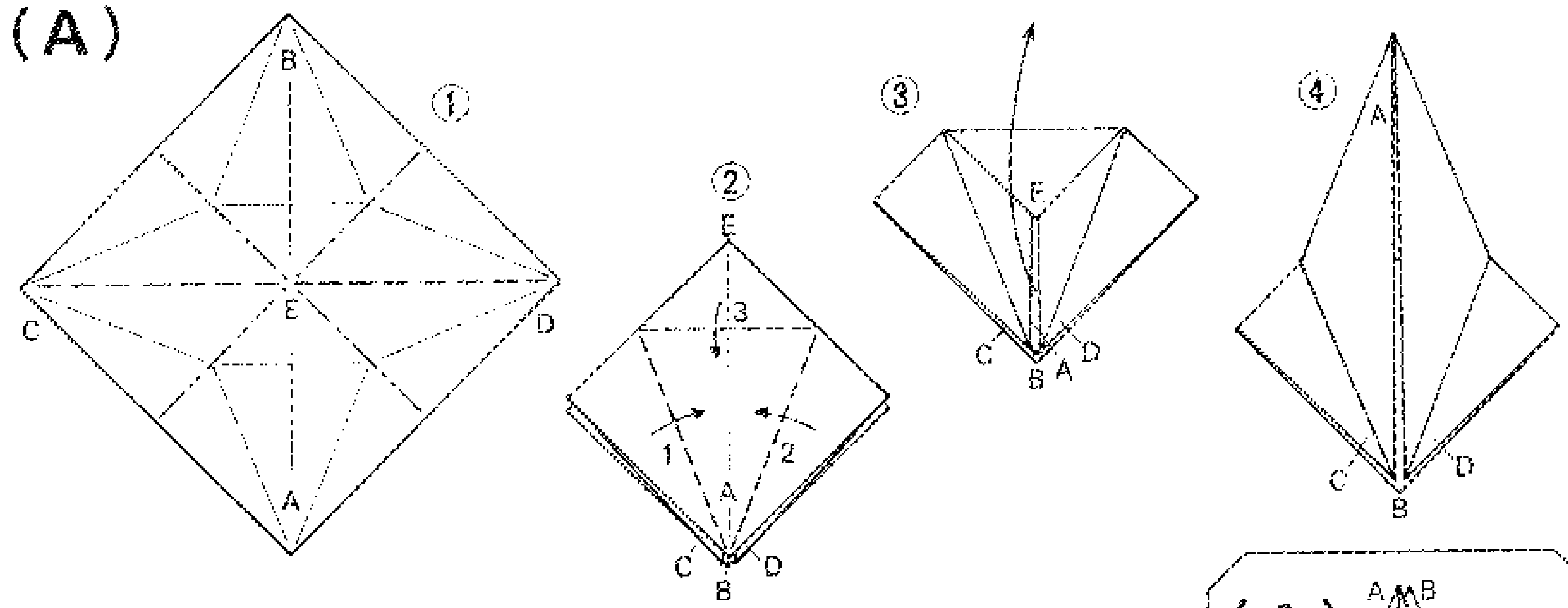
(6) 八角形

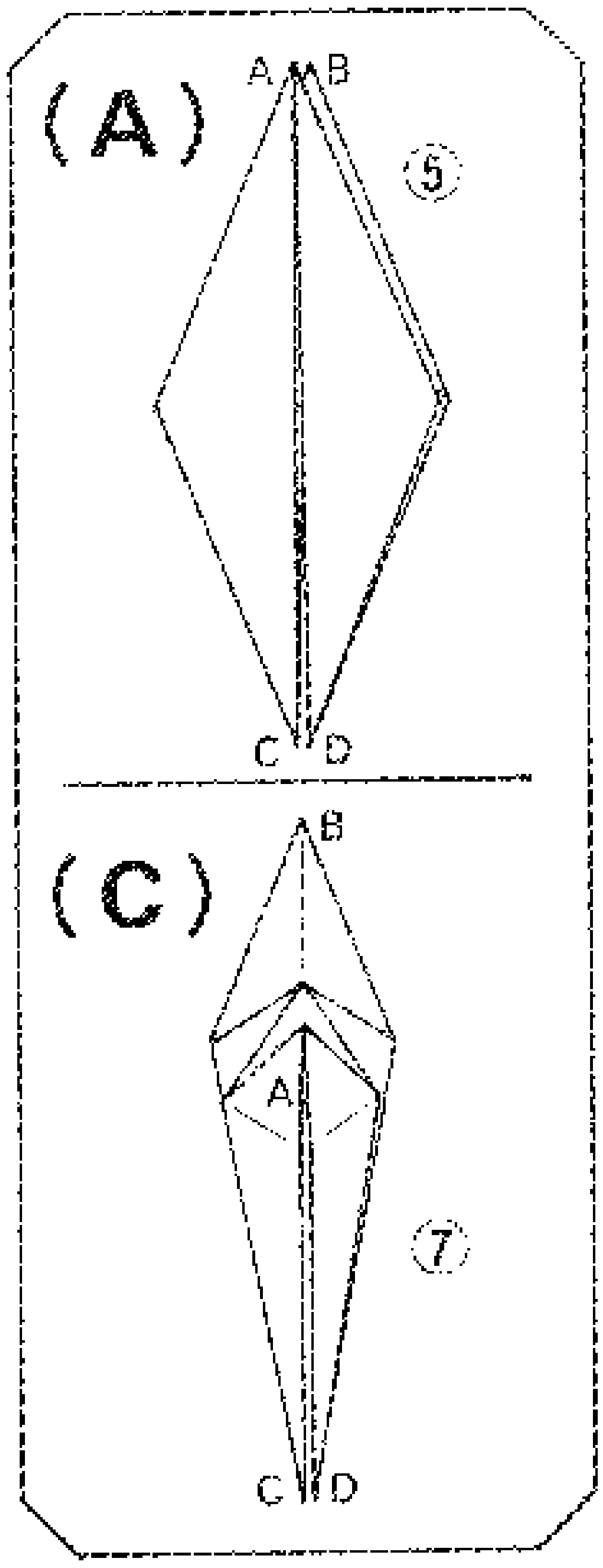


直角二等辺三角形は正方形の対角線を切って作ることが出来る。
(4)五角形　これは近似値であるが、他の正五角形を作る方法にくらべて、中心から放射線の折り目がつくだけなので、折り紙の用紙として作るにはよい。

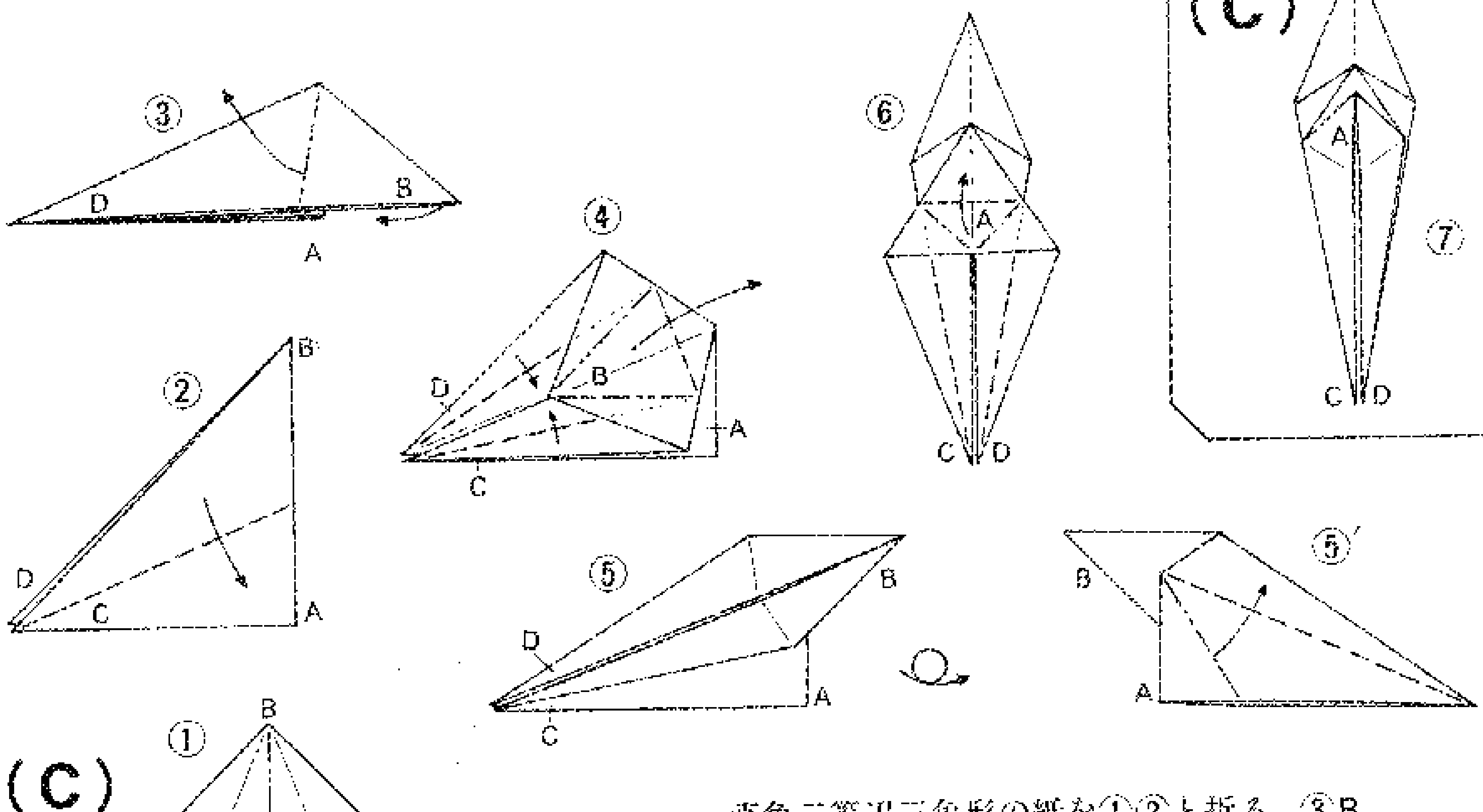
(5)六角形　正方形を直角二等辺三角形に折って底辺を60°に分割して作る方法である。
(6)八角形　紙の中心を通る４本の線を基本にして作る。
※一般には折り紙は正方形の紙からと考えるので、ここでは正方形から用紙の原形を作る説明にした。

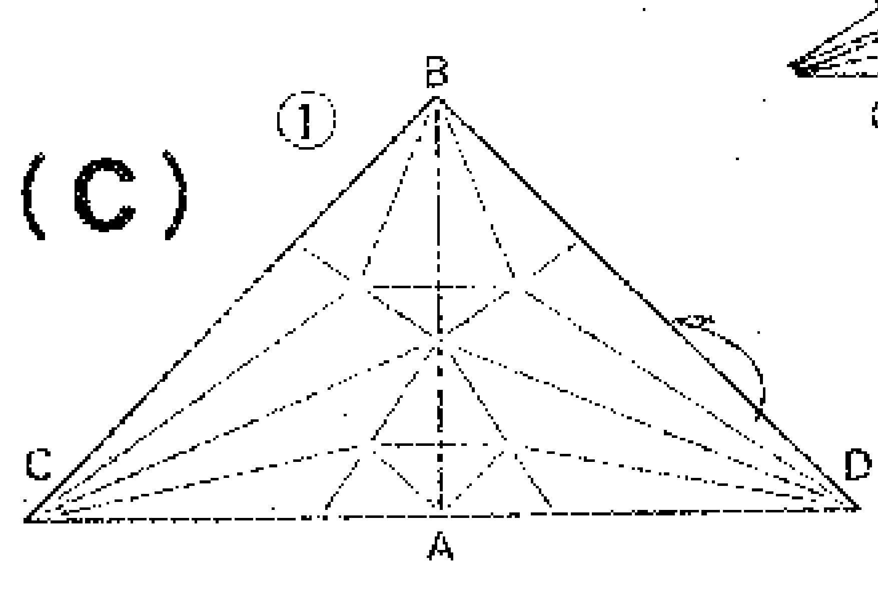
基礎折り





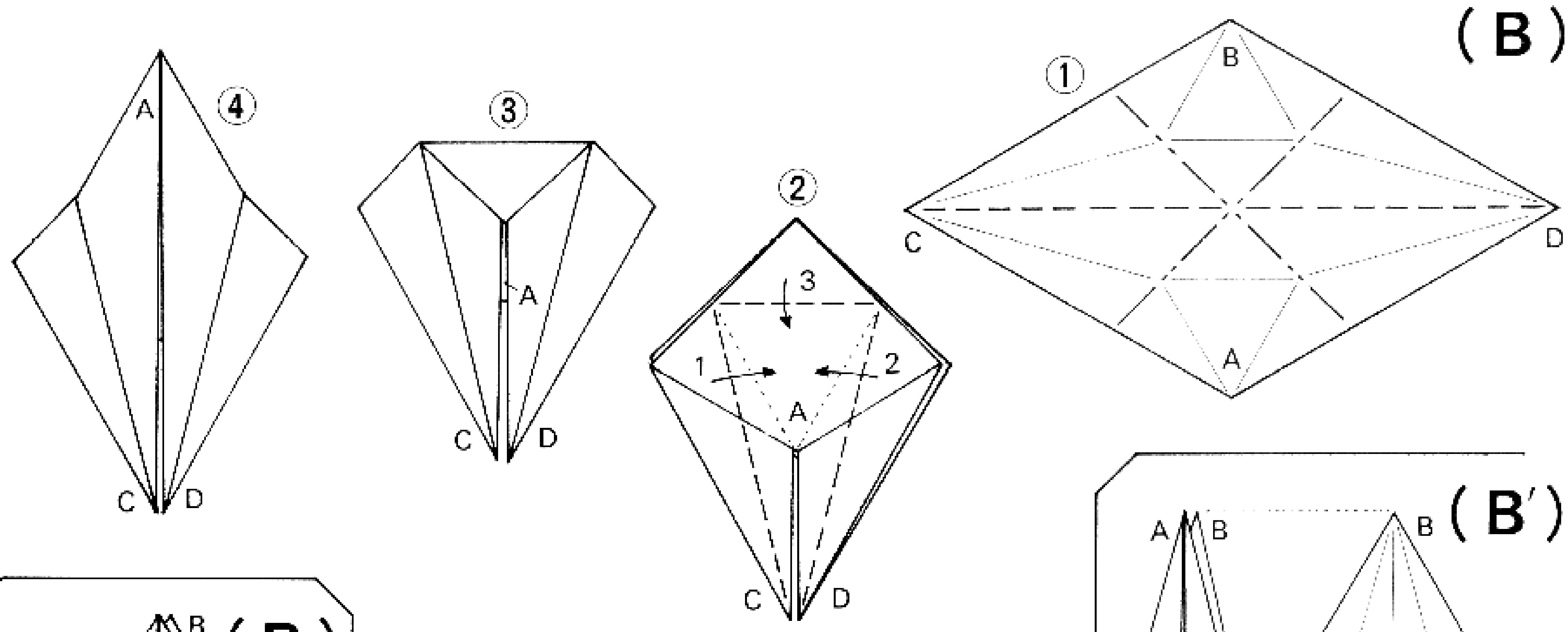
①正方形の紙を山線と谷線で②のように折る。②１２３の順に折り目をつける。③Ａを④のように開き出す。④裏側のＢもＡと同様に折る。⑤基礎折り(Ａ)。

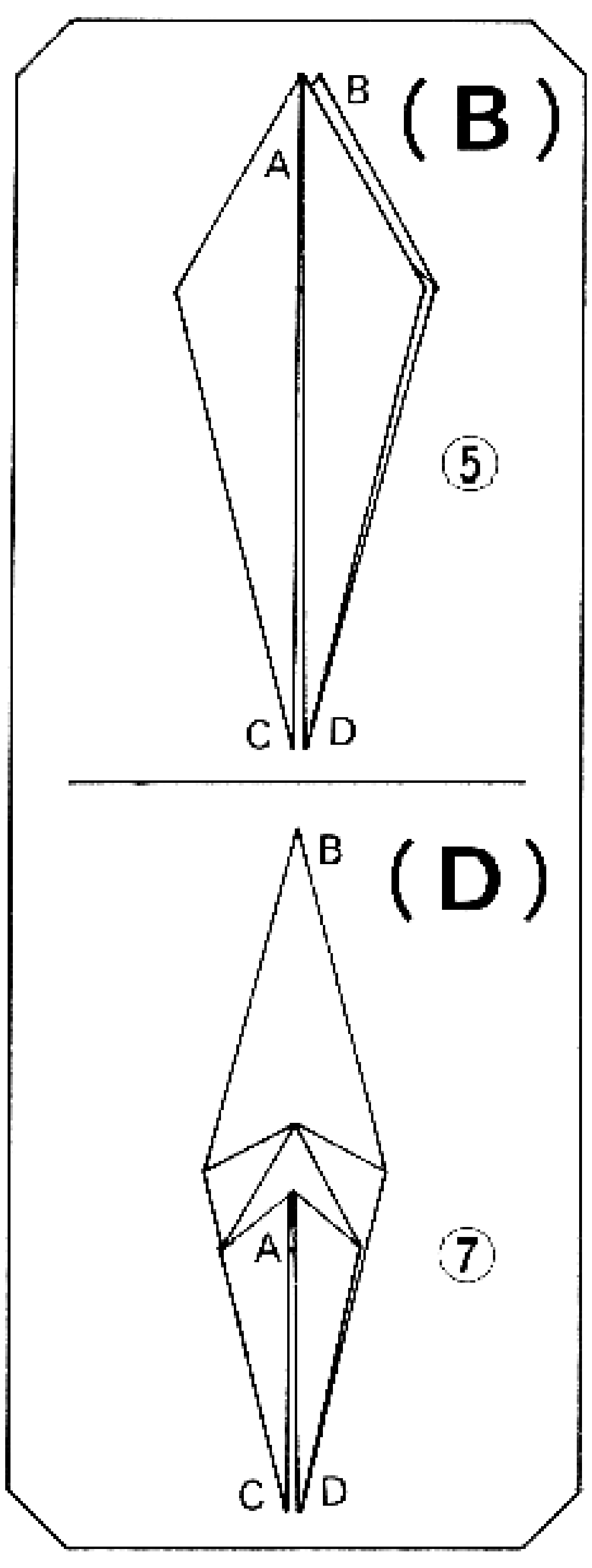




直角二等辺三角形の紙を①②と折る。③Ｂの袋を開く。④山線と谷線でＢを矢印に折り出す。⑤裏返す⑤′。⑥山線と谷線でＢを折り上げる。⑦基礎折り(Ｃ)。

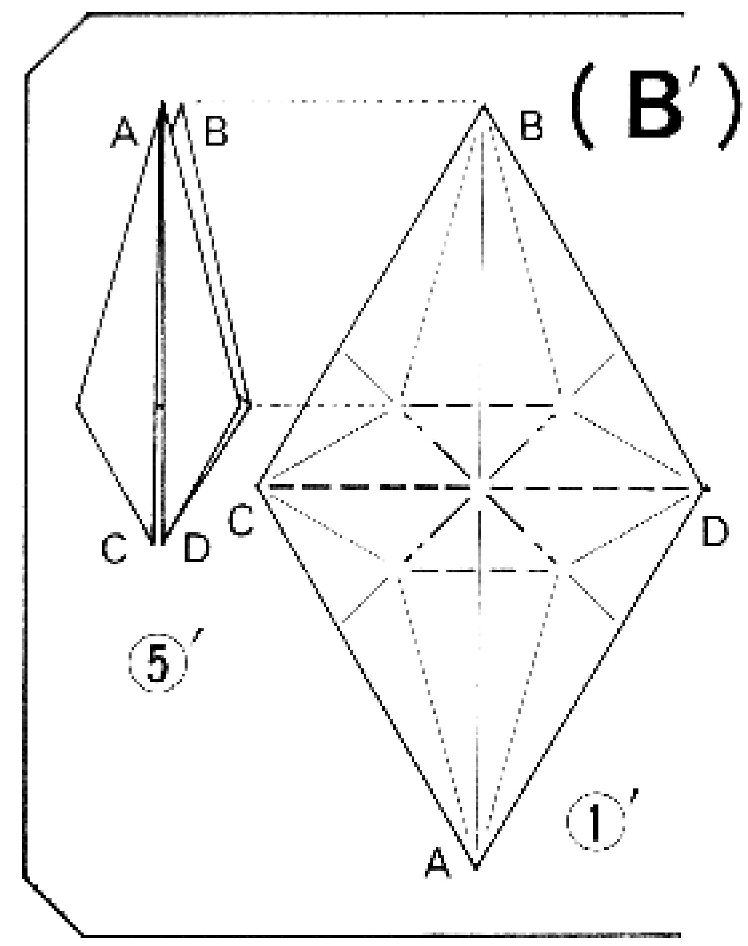
共通した構造をもつ異なった原形によるもの

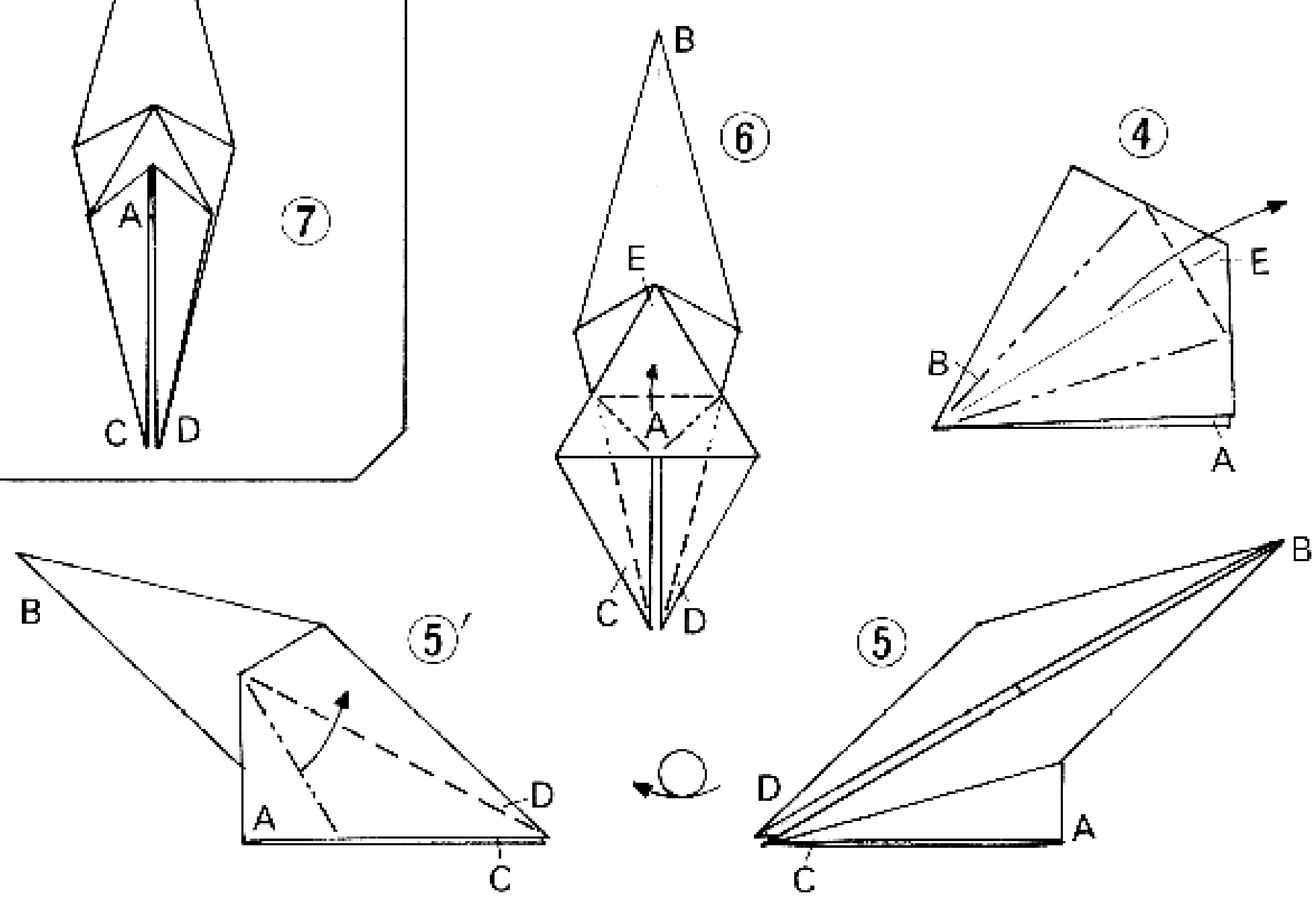


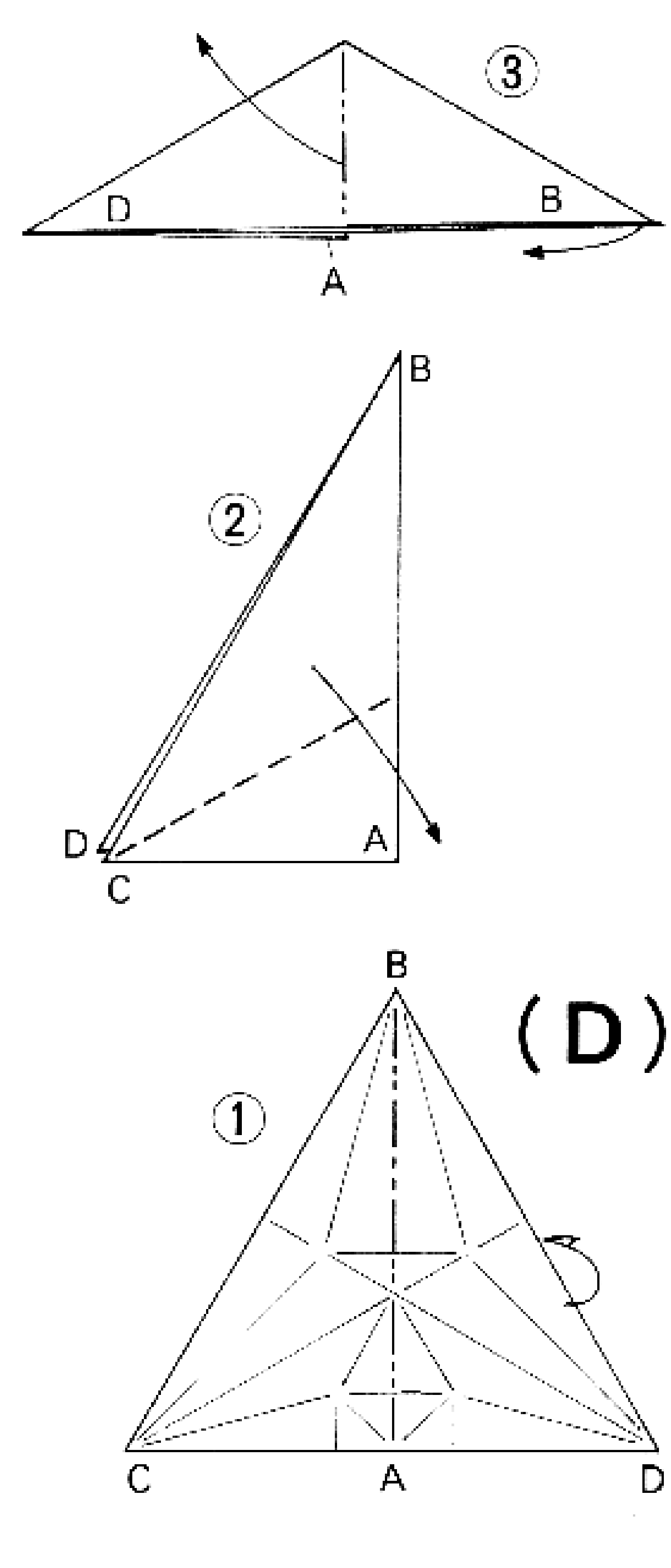


①菱形の紙を山線と谷線で②のように折る。②１２３の順に折り目をつける。③Aを中から開き出す。④裏側のBをAと同様に折る。⑤基礎折り(B)。

①′菱形の紙を山線と谷線で折り、同様の折り方で折る。⑤′基礎折り(B′)。



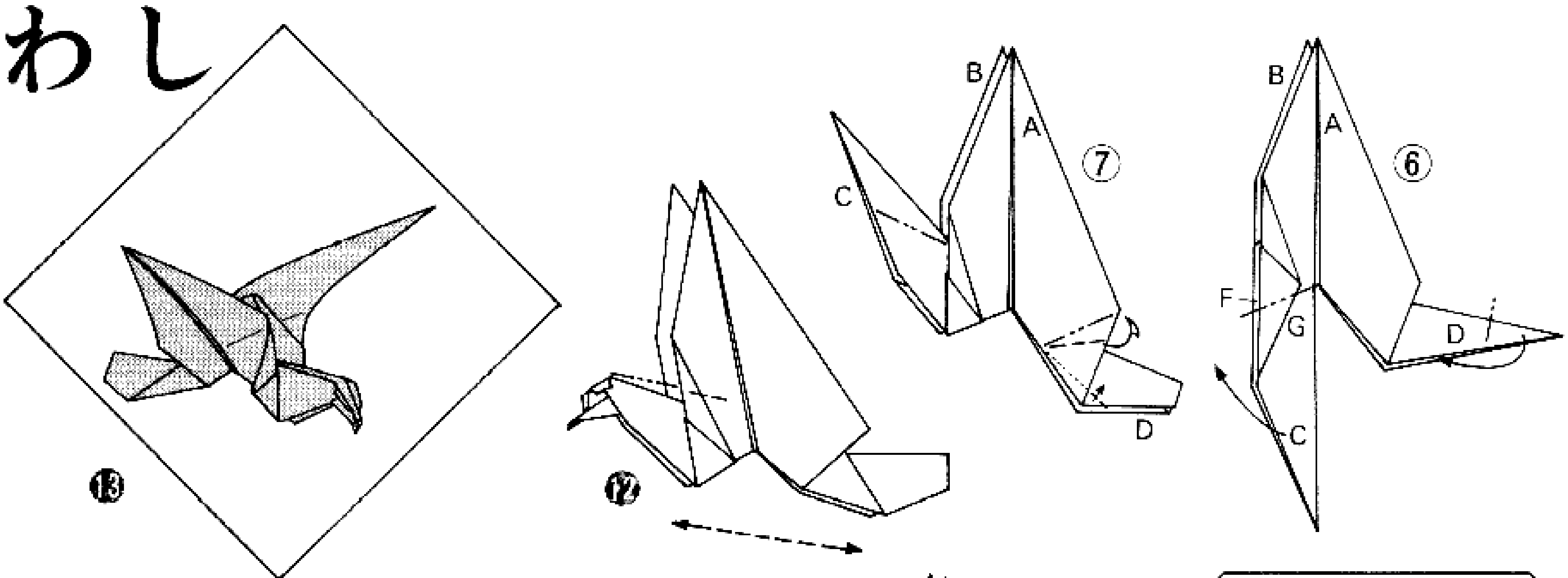


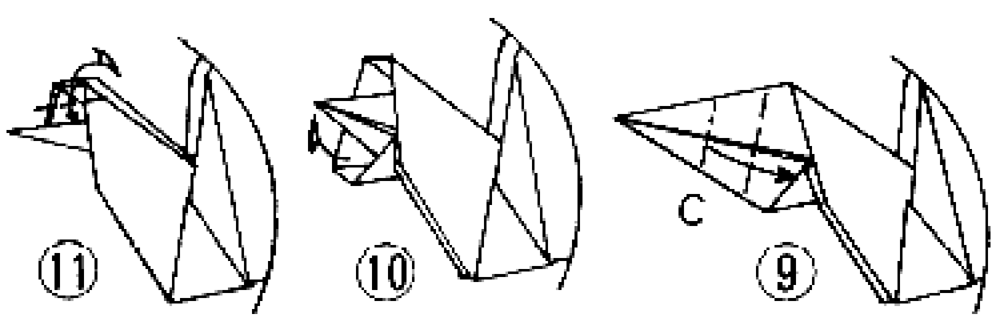


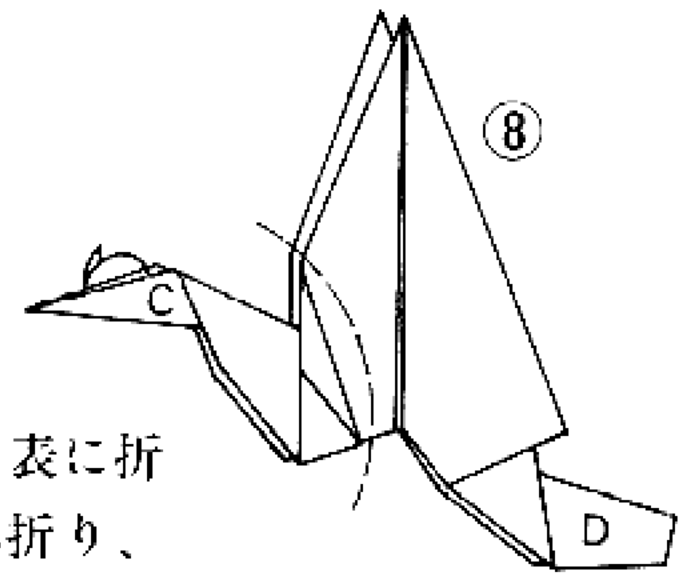
正三角形の紙を①②と折る。③Bの袋を開いて折る。④谷線と山線でBを折り出す。⑤裏返す。⑤′Aを開く。⑥Aを折り上げる。⑦基礎折り(D)。

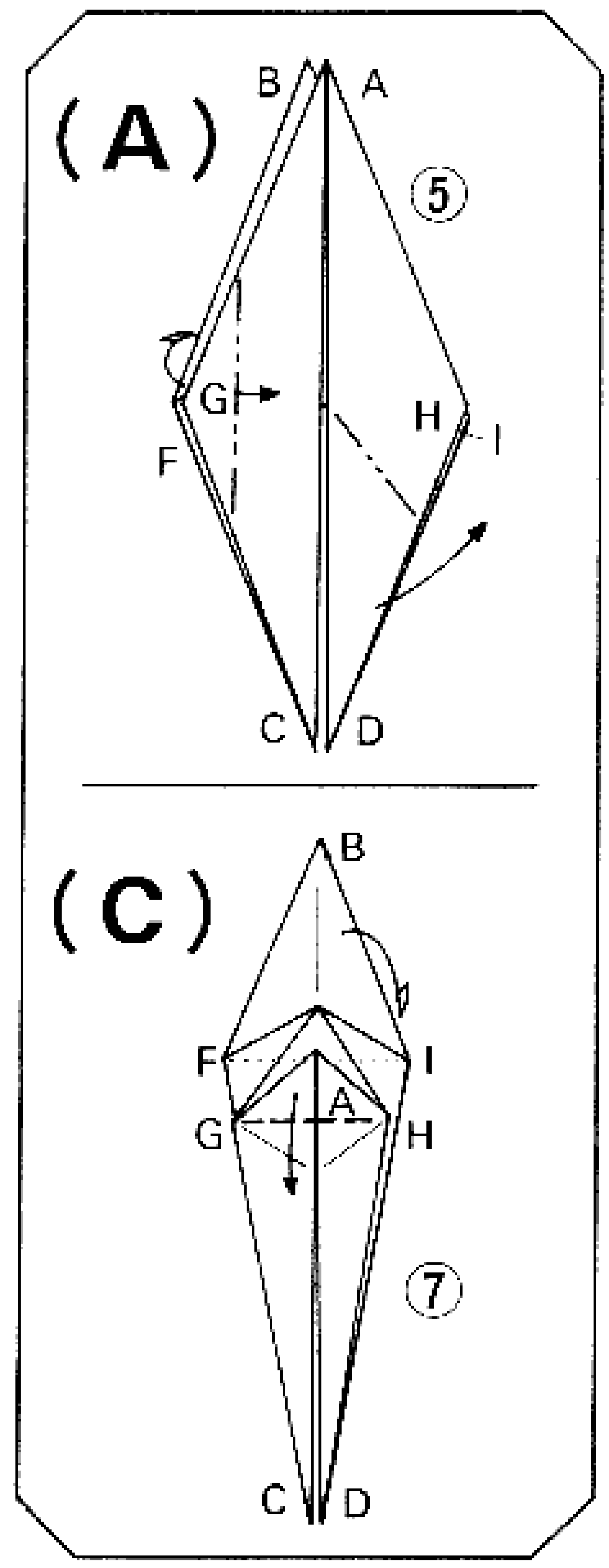
—基礎折りの応用— 鳥の羽ばたく姿

わし



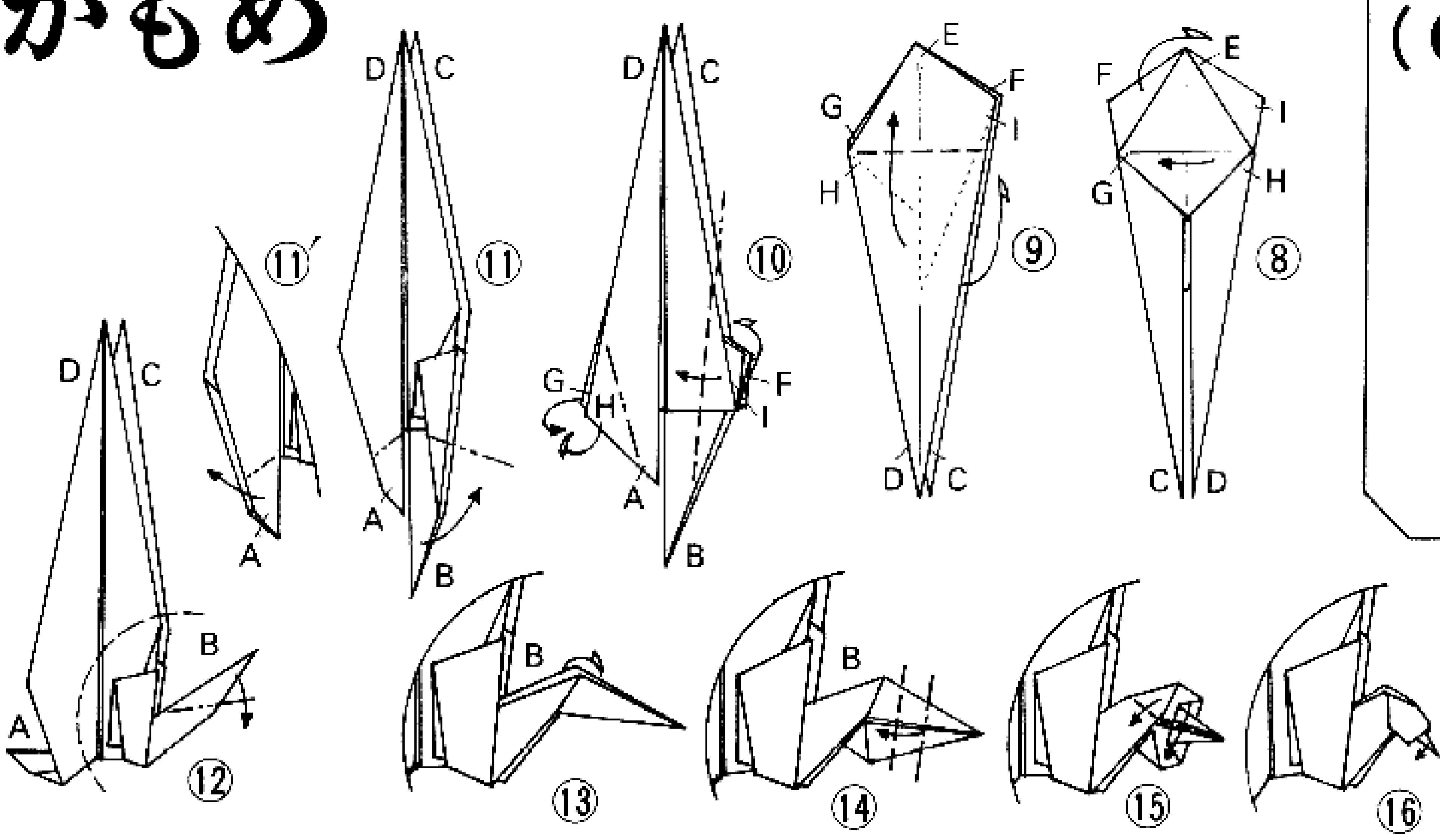


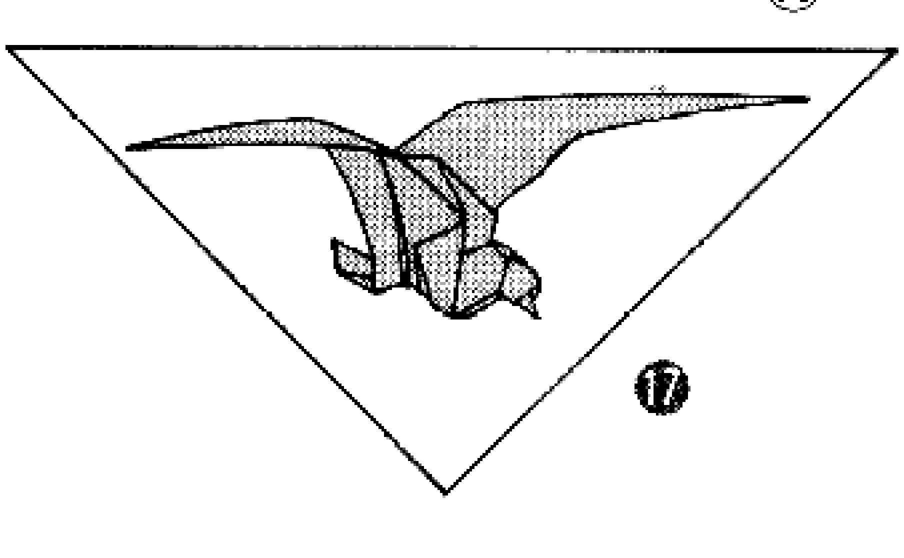




基礎折り(Ａ)から折る。⑤Ｆを裏へ、Ｇを表に折り、ＤをＨＩの間へ折る。⑥ＣをＦＧの間へ折り、Ｄの先を中へ入れる。⑦それぞれ矢印に折る。⑧⑨⑩⑪⑫頭を作り、形をととのえる。⓭出来上がり。

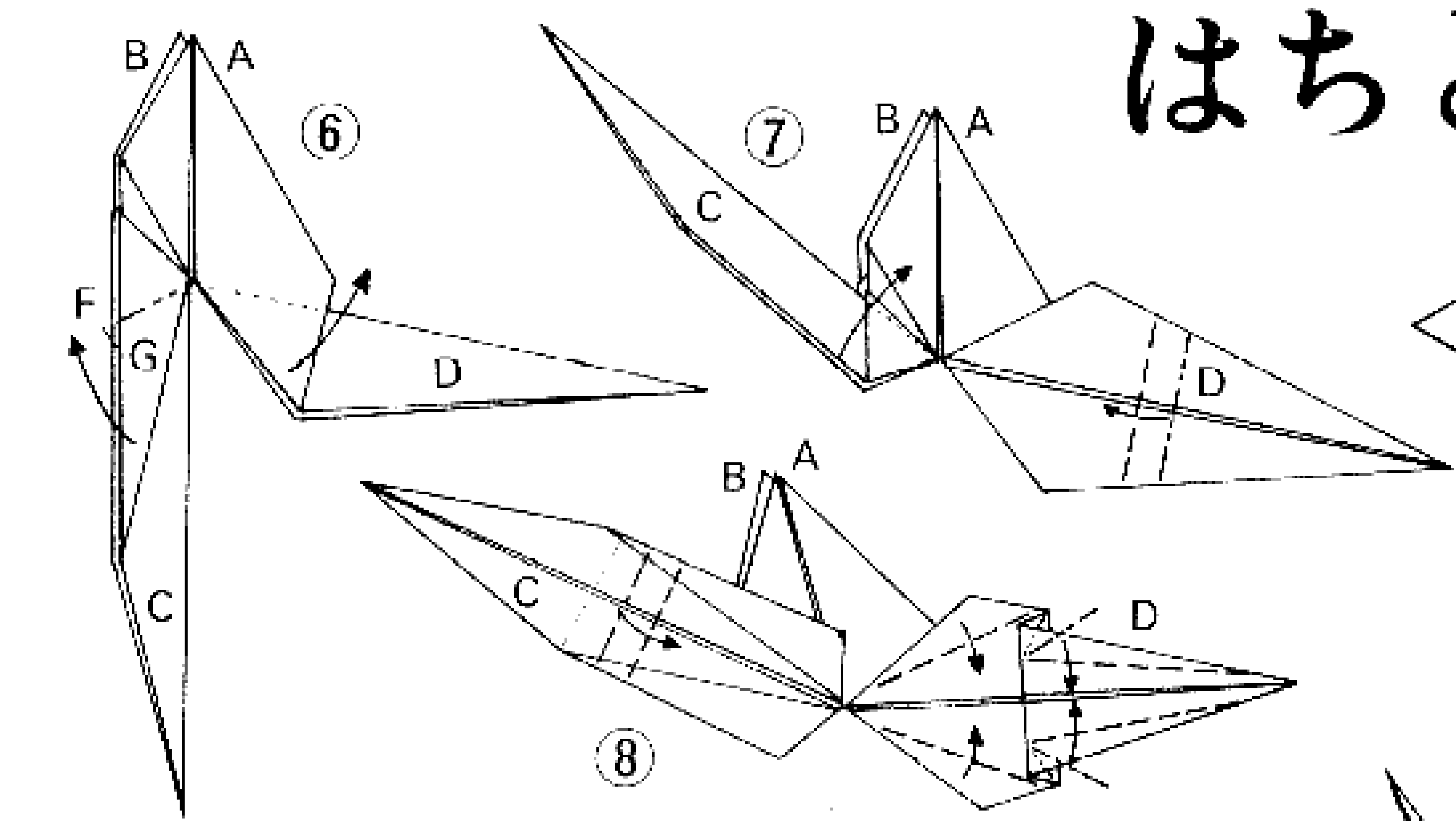
かもめ

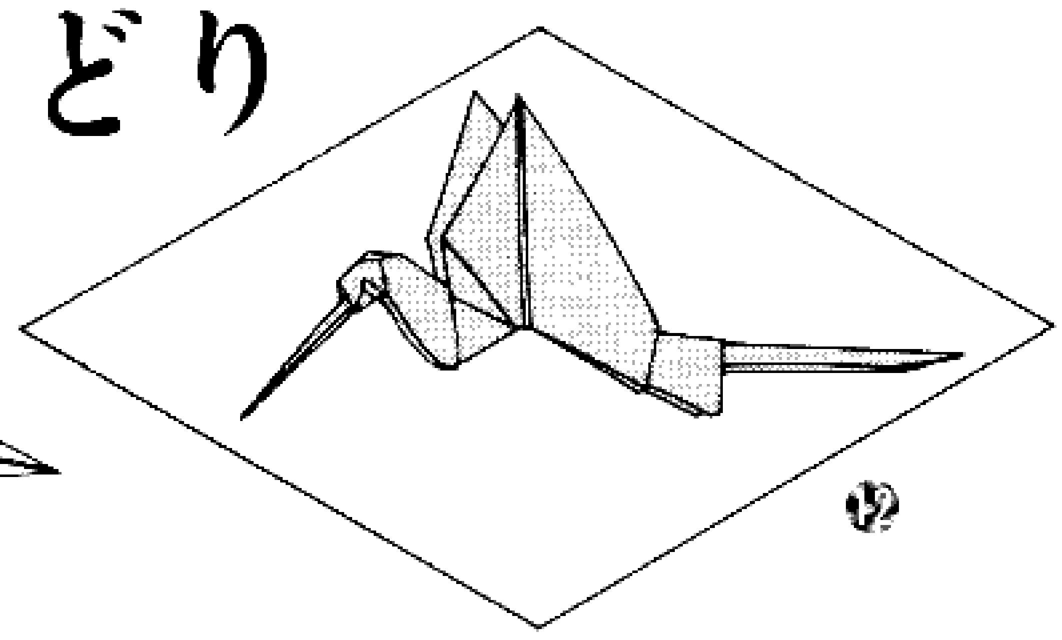


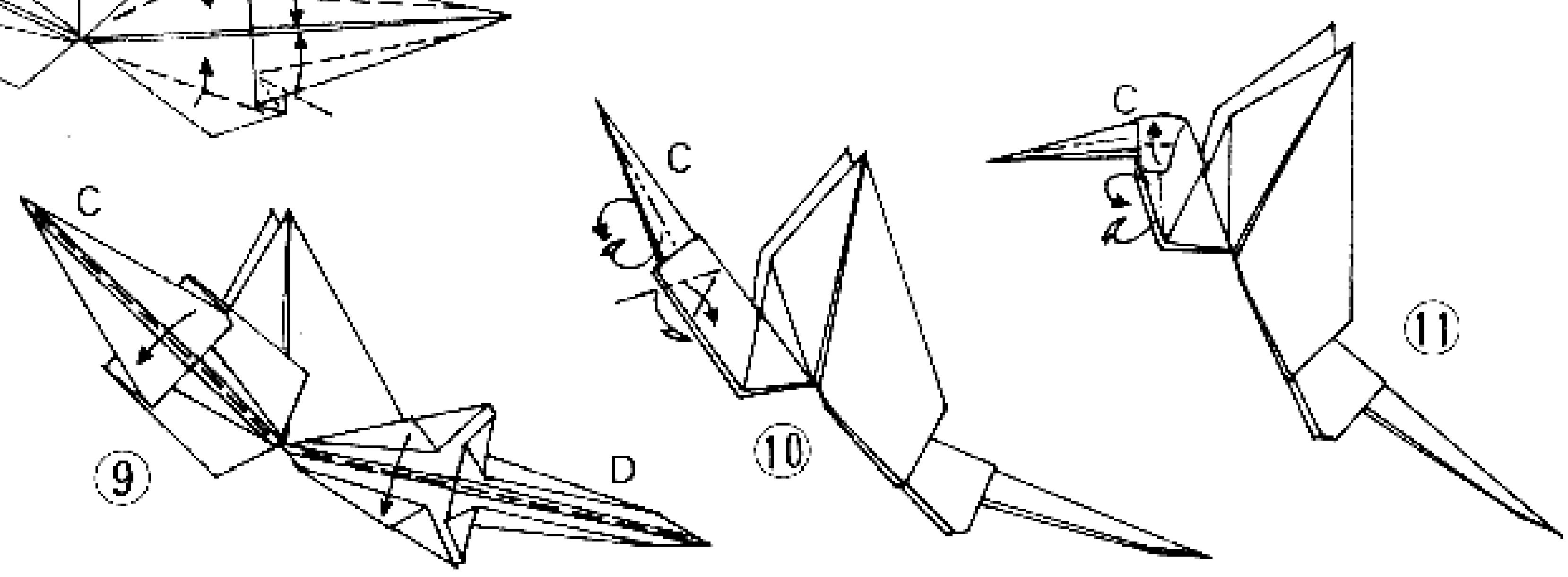


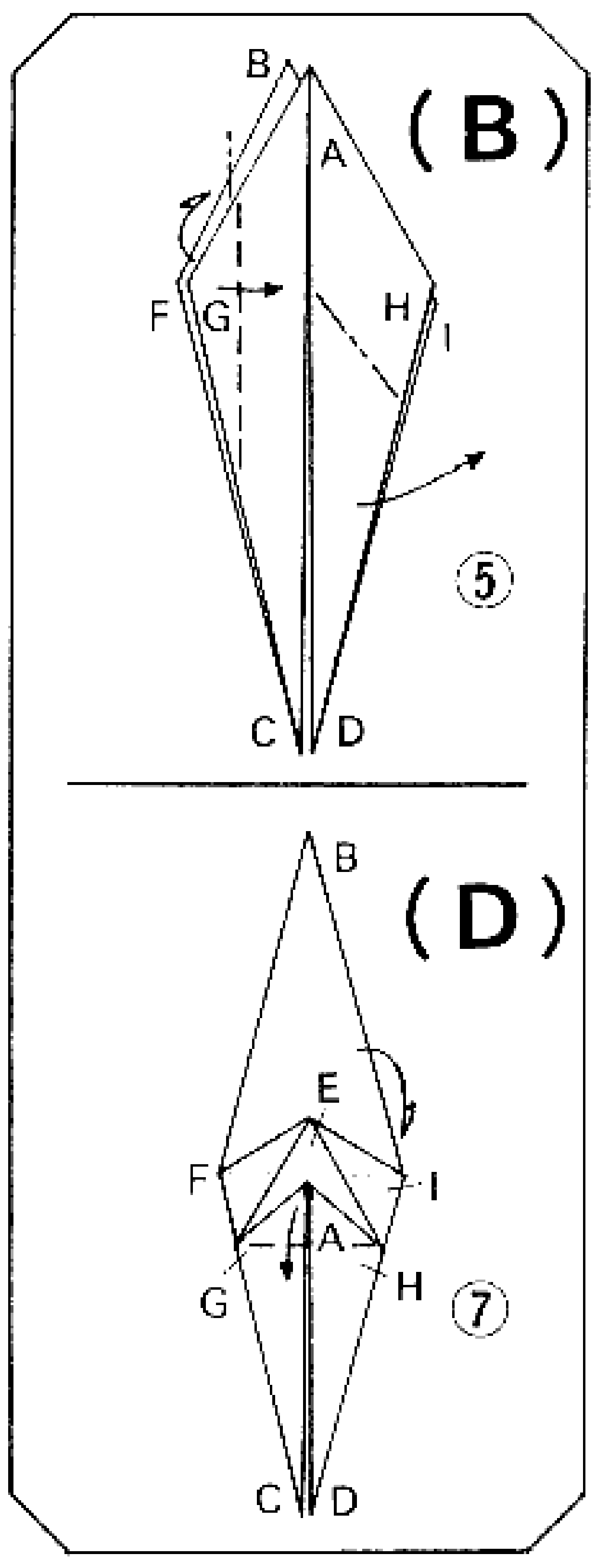
基礎折り(Ｃ)から折る。⑦ＡＢを折り下げる。⑧ＦをＩの裏へ、Ｈを左へ返す。⑨ＣとＤを折り上げる。⑩ＦＩを外へ折り、ＧＨを中へ折る。⑪⑪′ＡＢを矢印に折る。⑫Ｂを番号の順に折って頭を作る。⓱出来上がり。

はちどり



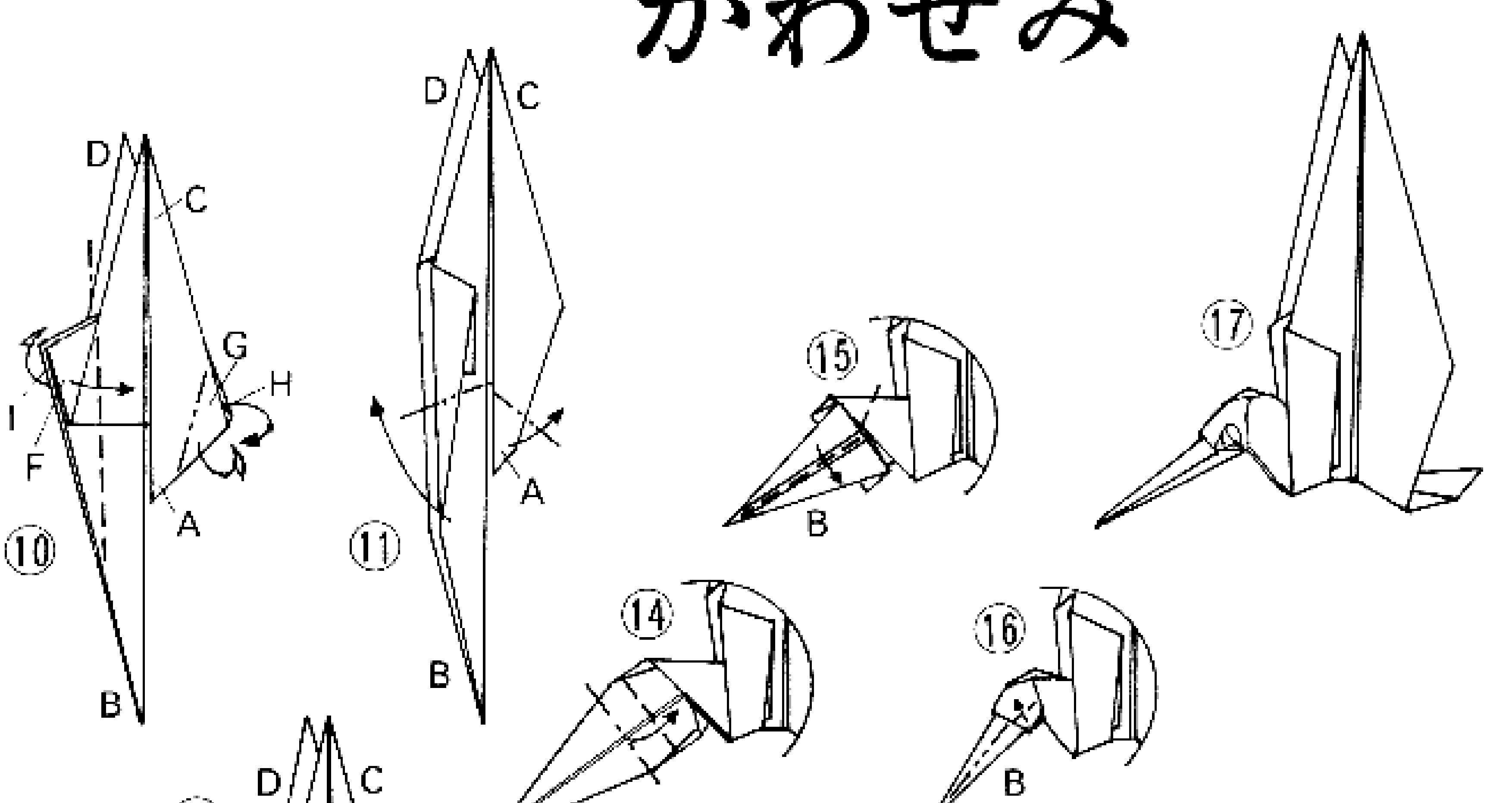


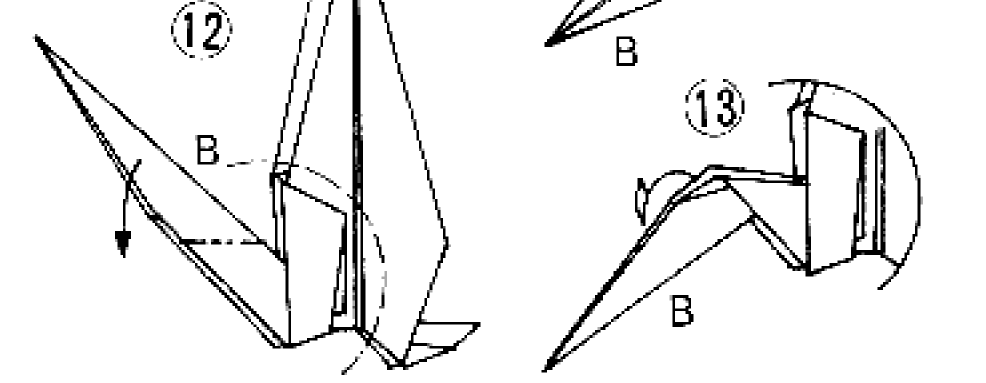


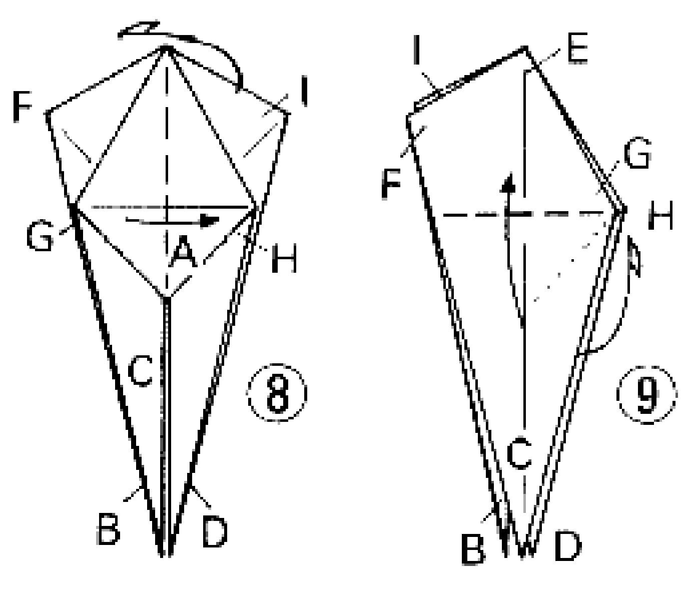


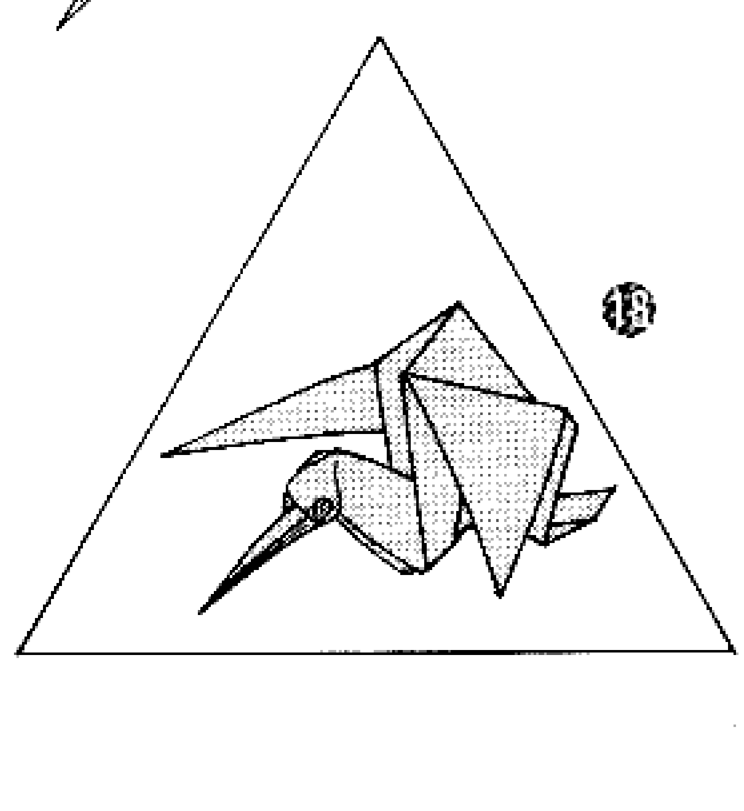
基礎折り(B)から折る。⑤FとGを外に折り、DをHIの間へ折る。⑥⑦⑧⑨矢印にそれぞれ折る。⑩Cを細く折り、頭のところを斜めに折る。⑪首を細く折り込み、くちばしに折り目をつけ、目を小さく広げる。⑫出来上がり。

かわせみ



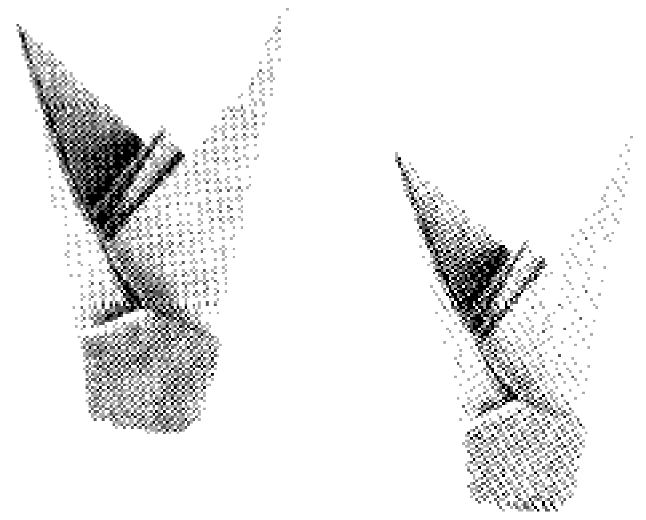


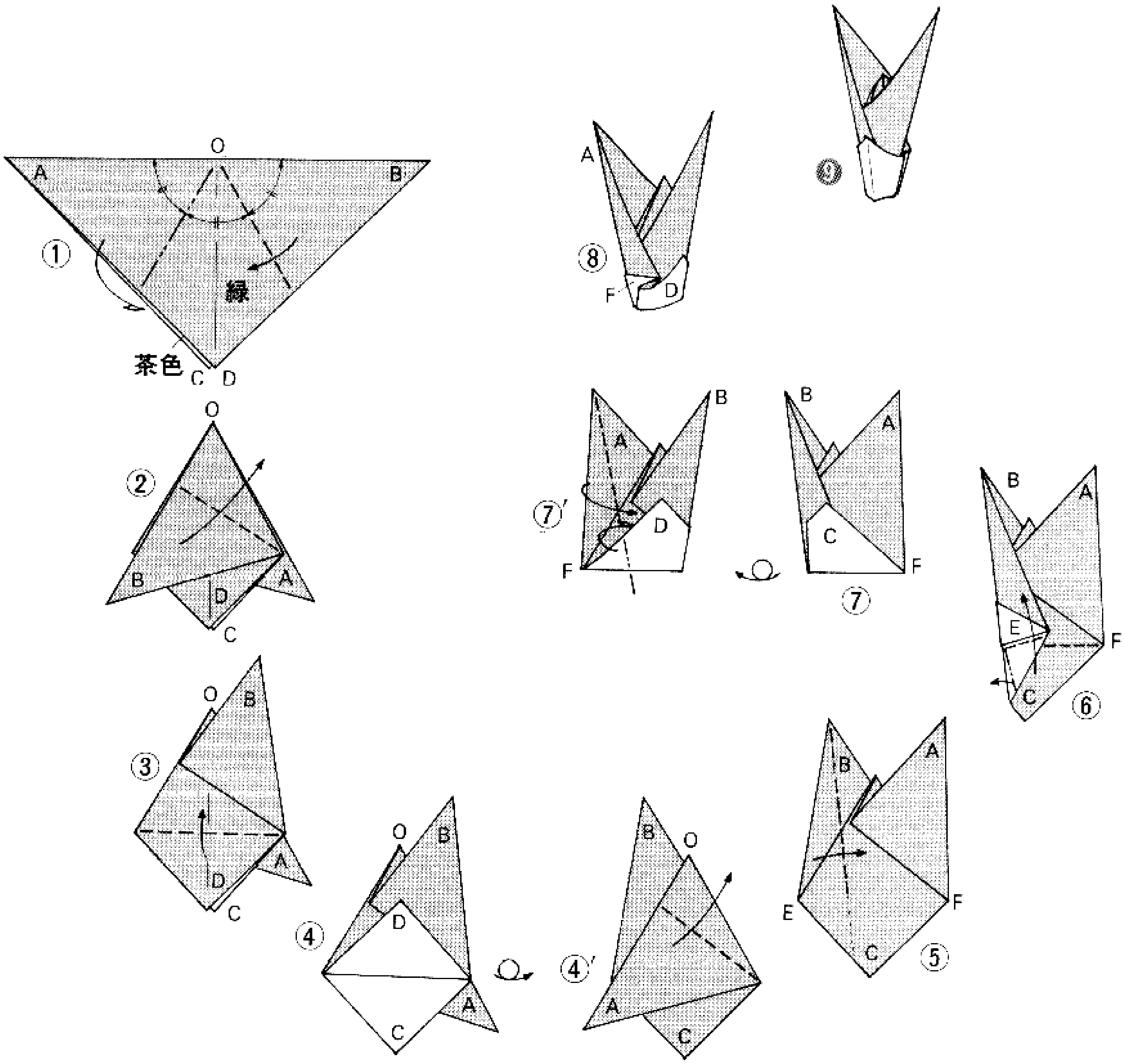




基礎折り(D)から折る。⑦AとBを折り下げる。⑧Gを右へ折り、Iを裏へ折る。⑨⑩⑪それぞれ矢印に折る。⑫Bを番号の順に折って頭を作る。⑯矢印に目の形に広げる。⑰出来上がり。⑱胸のところをしっかり持って尾を引っぱれば羽ばたく。

木の芽





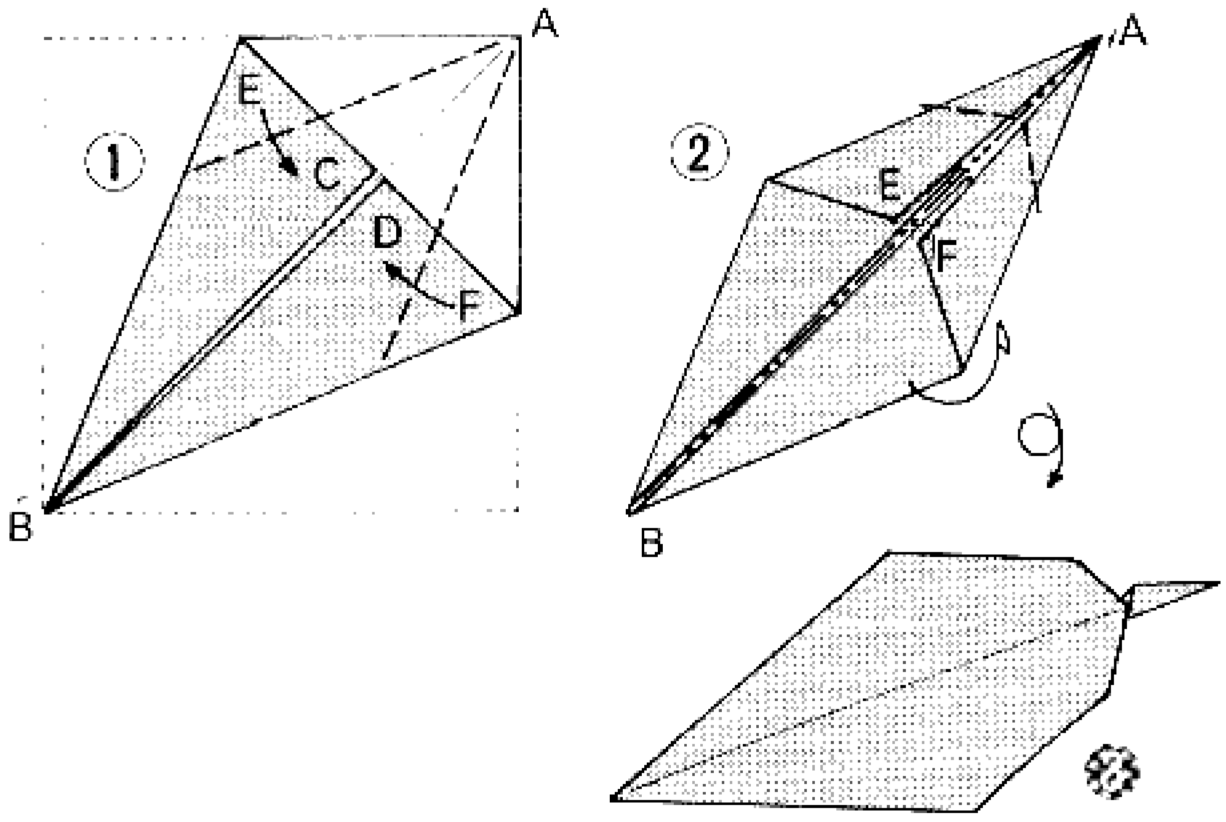
緑（または木の芽出しの色）と茶色の薄手の和紙を重ねて折る。

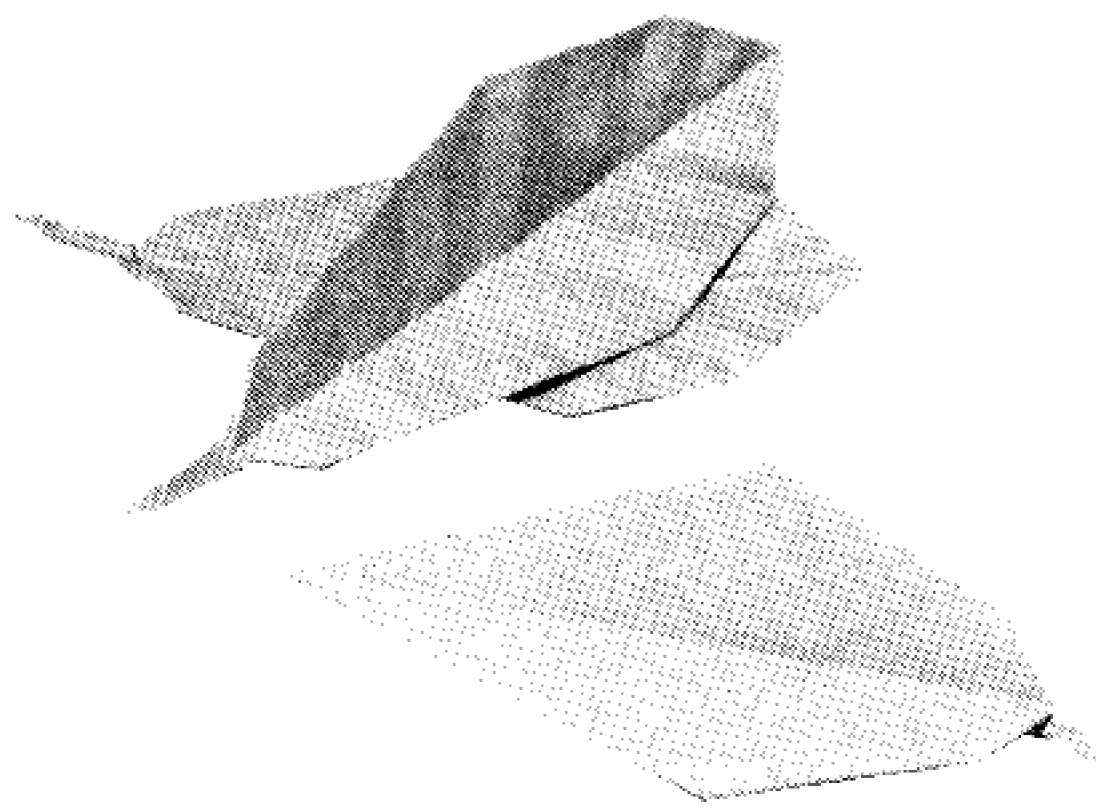
正方形の紙を対角線に折って①、ＡＢの中点Ｏを支点として、Ａを裏へ、Ｂを表に折る。②③矢印に折る。④裏返す。④′⑤矢印に折る。点線の部分はきつく折らないようにする。⑥Ｃの左側を開きながら折り上げる。⑦裏返す。⑦′⑧Ａの谷線を折りながらＦをＤの内側へ折り込んで形をととのえる。❾出来上がり。

ＡＢ、ＣＤそれぞれ対称形に仕上げるので、Ａの折り目も⑤と同様の折り方で、はじめに折り目をつけておいてから組み込むとよい。

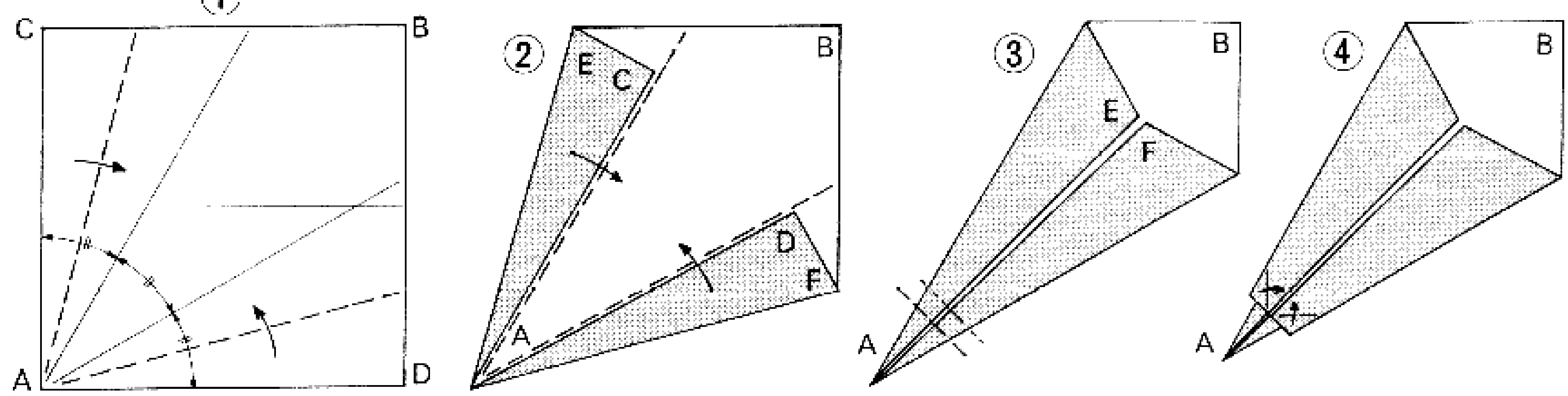
木の葉

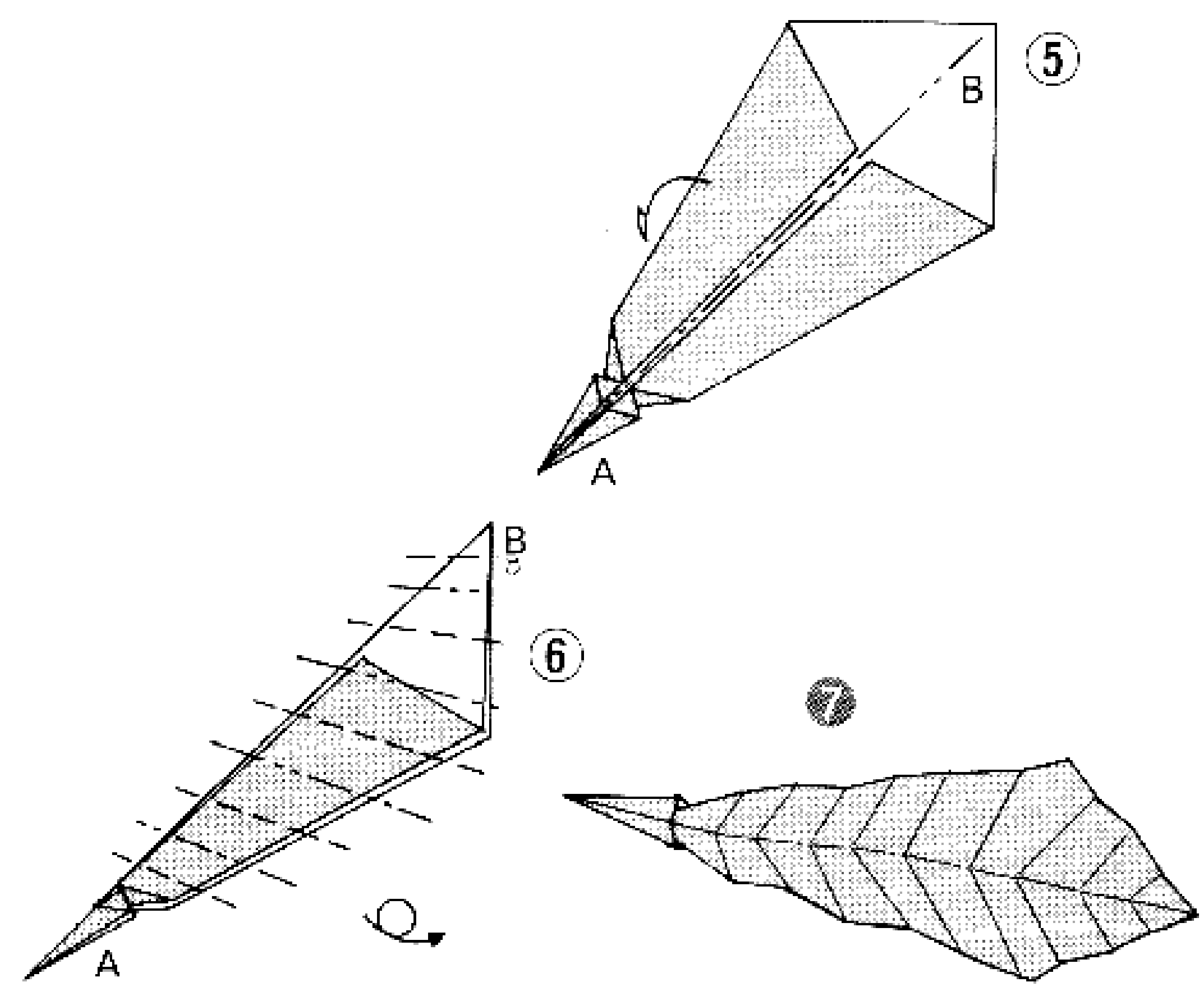
〔A〕

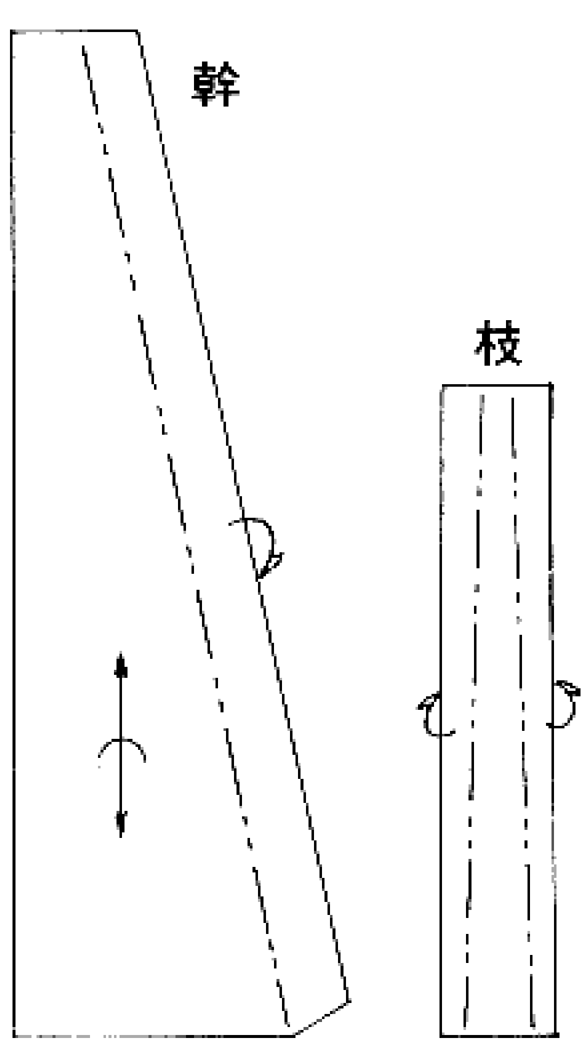




〔B〕







木の葉の折り方はごく自然な折り方であるが、これまでになかったものである。この折り方を基本として中脈や側脈をつけ、いろいろの種類の木の葉に変化させることが出来て、応用範囲が広い。りすに木の葉、栗と落葉などにして飾るとよい。

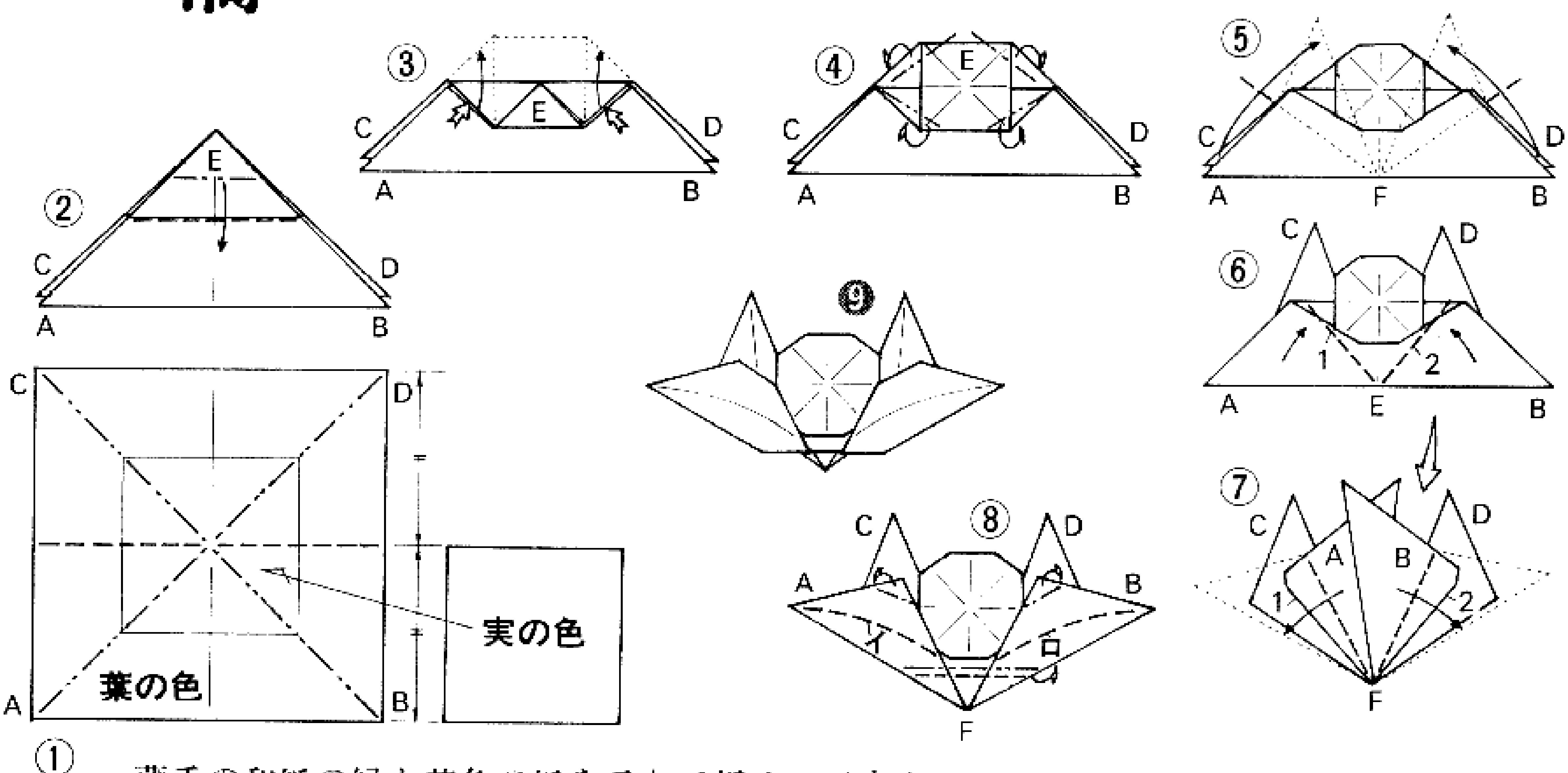
〔B〕は①正方形の紙のAのカドを三等分の折り目をつけてから折る。⑥山線と谷線に側脈の折り目をつけて広げる。

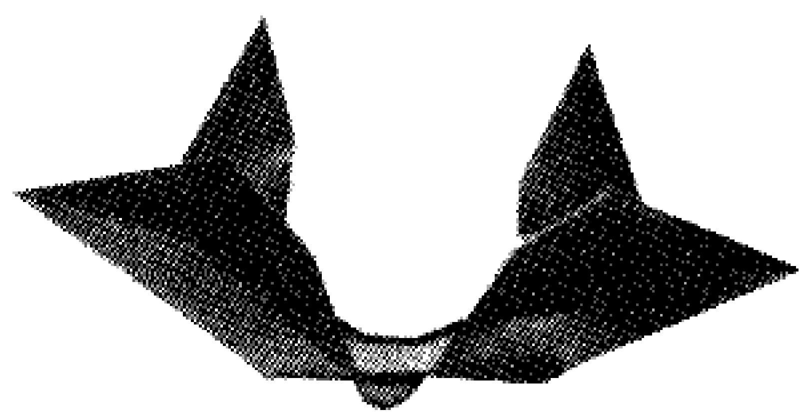
幹と枝

色紙にみみずくを構図する場合（口絵19ページ）などに用いる。

木の幹に合った色の紙を選んで、色紙の寸法に合わせて紙を切る。曲げやすいほうを縦紙とし、少しぬらして幹や枝の樹皮の感じを出してはる。枝は幹の下に少し差し込んではる。ぬれタオルで紙の裏から軽く湿り気を与えると、紙がやわらかくなって扱いやすい。

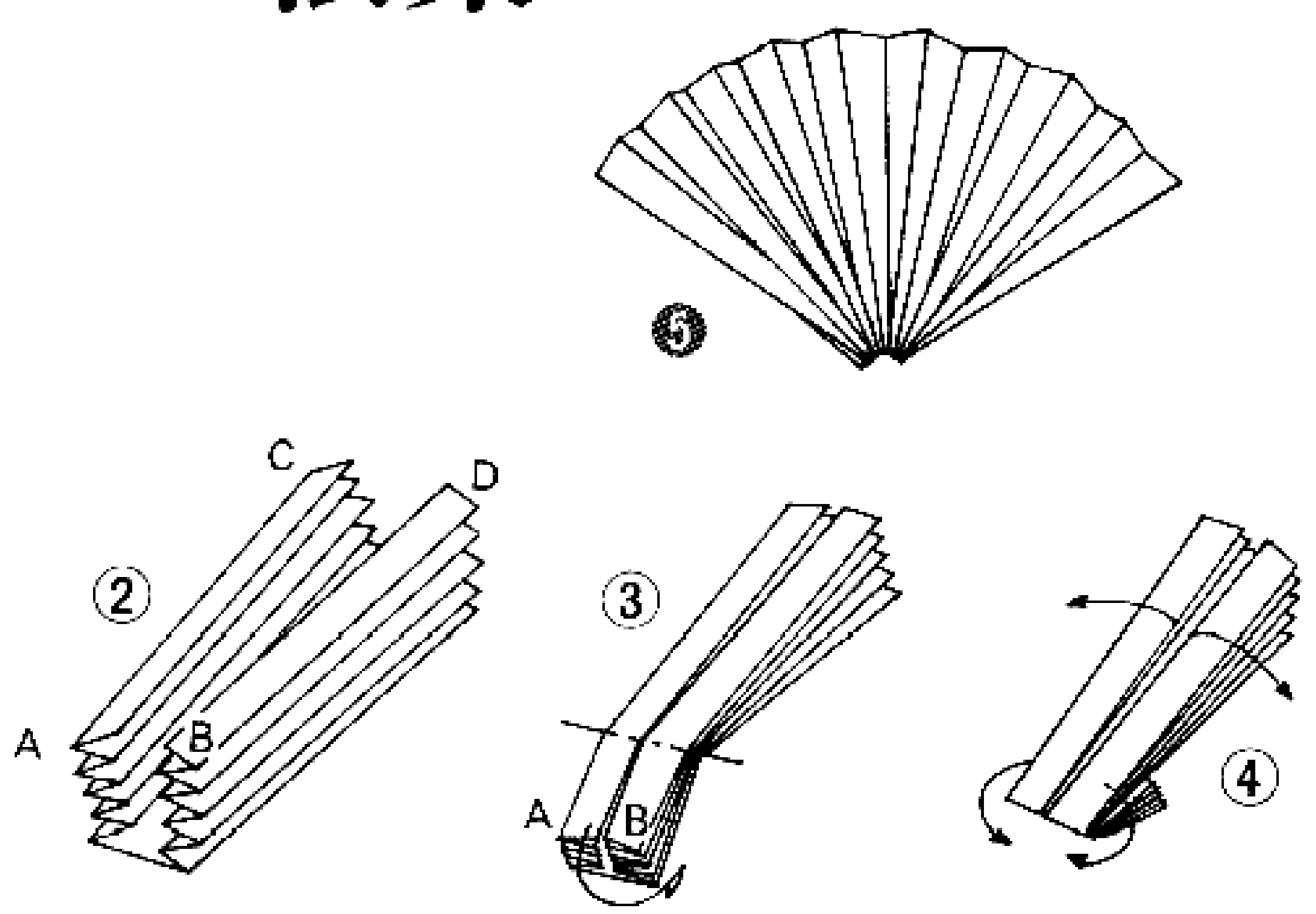
橘

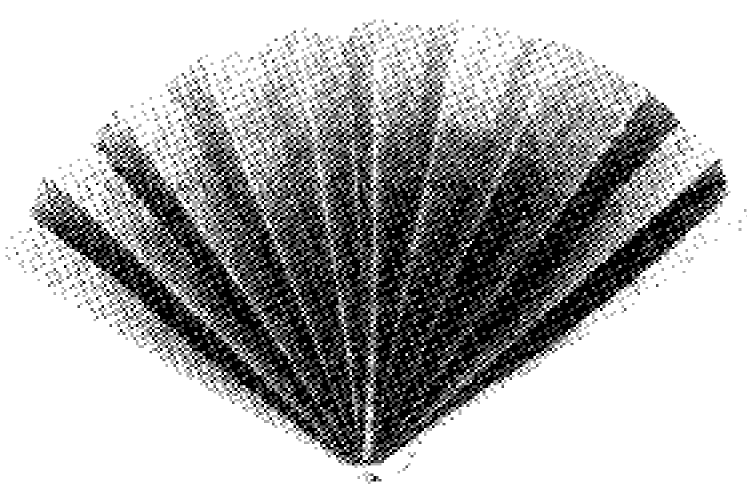


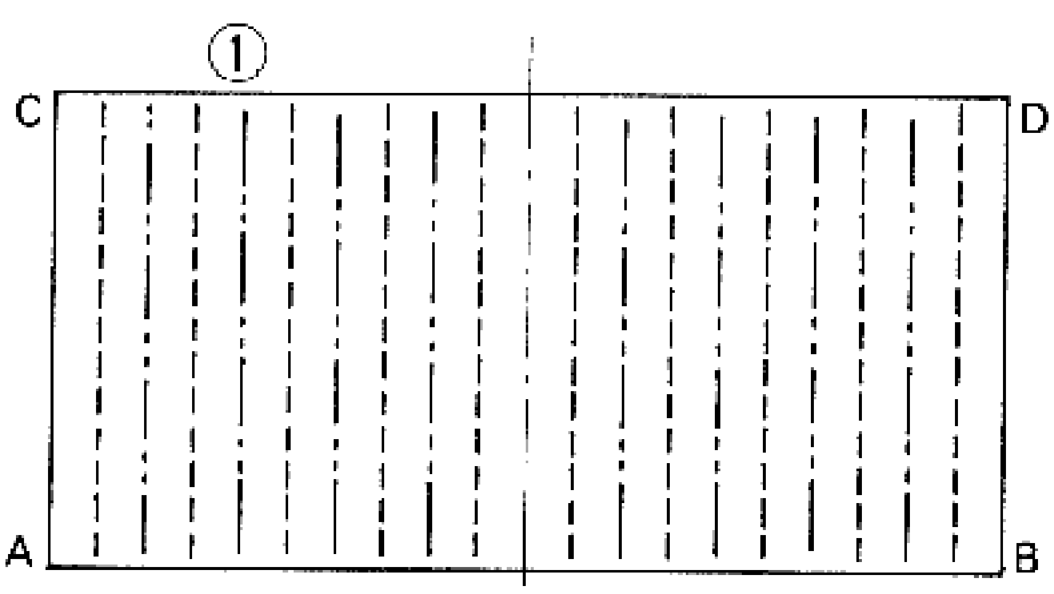


薄手の和紙の緑と黄色の紙を重ねて折る。正方形の紙を①②と折る。③Eの左右から両手の親指を深く入れて点線へ開く。④カドを折る。⑤CDを間へ折る。⑥1、2の順に折る。⑦ABを折る。⑧ABの内側のカドを間へ折り、Fに段をつけ、イロの谷線に折り目をつけて葉の中脈の感じを出す。❾出来上がり。

松葉

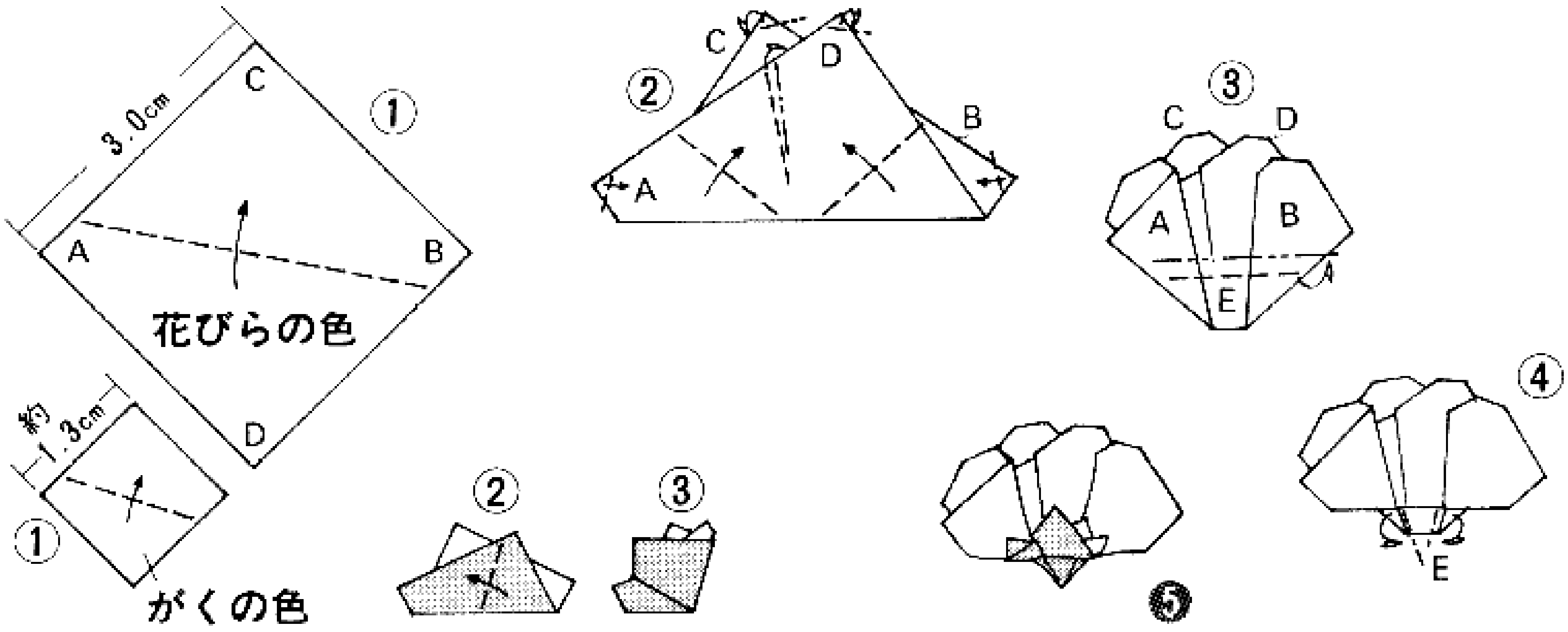


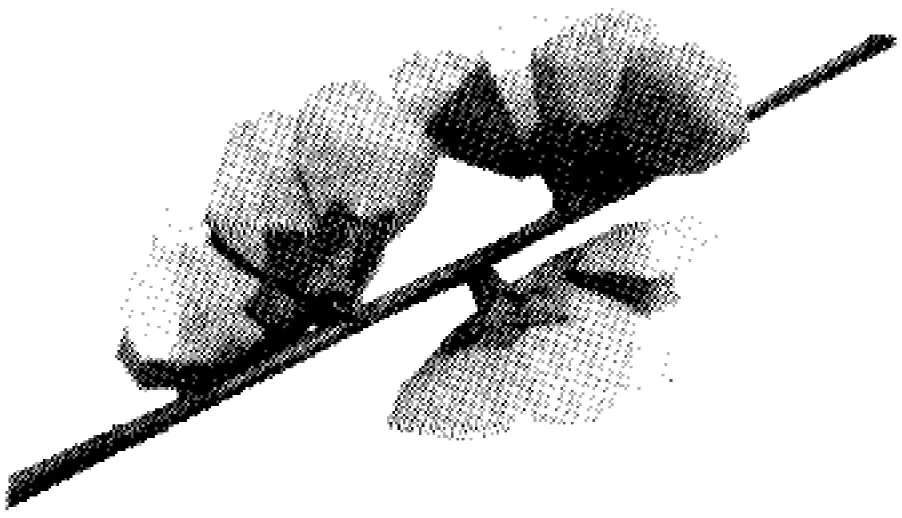




①1：2の長方形の紙を半分、半分に折って折り目をつけてから、山線と谷線に折り直して②③のように折りまとめる。③下のほうを裏へ折る。④矢印に折り返して上のほうを扇のように開いて形をととのえる。❺出来上がり。

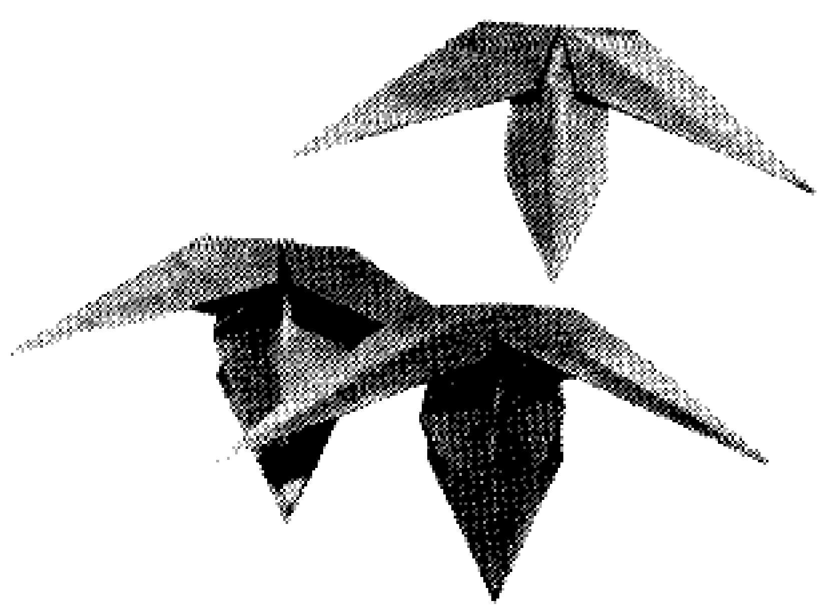
桃の花

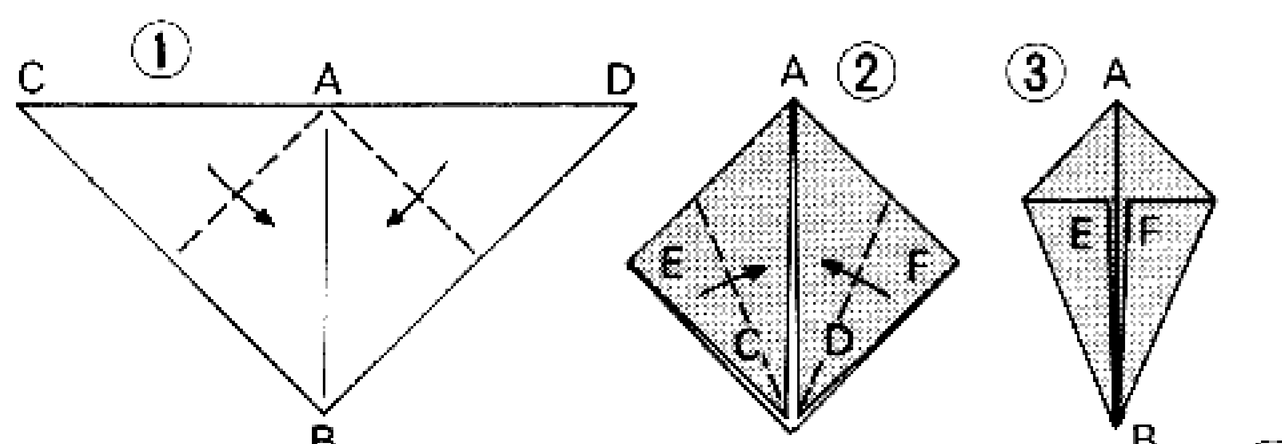


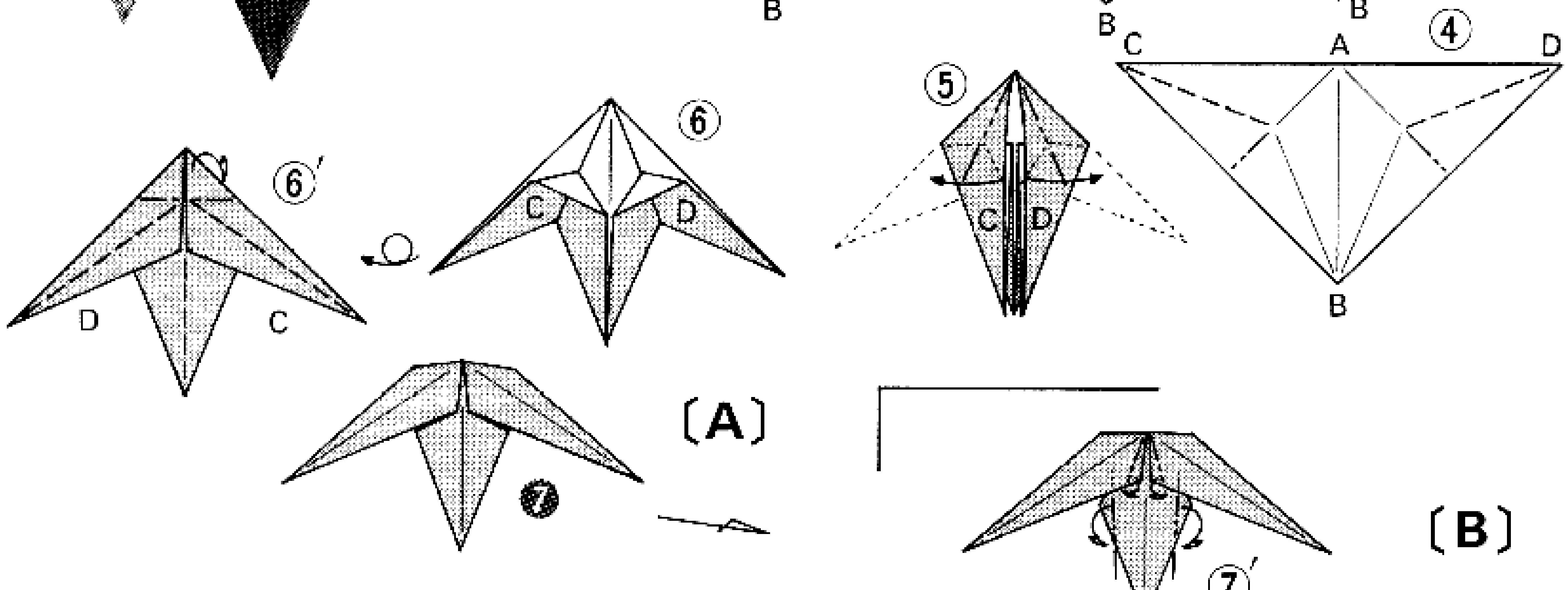


①正方形の紙を斜めに折る。②Dの一枚だけに細長いひだをよせてからＡＢを折り上げ、それぞれのカドを花びらの形に折る。③Ｅに段をつける。④Ｅの左右を裏へ折る。④まで折ってから③までもどし、がくを③まで折って花びらの上へ重ねて、元の折り目で形をととのえる。❺出来上がり。

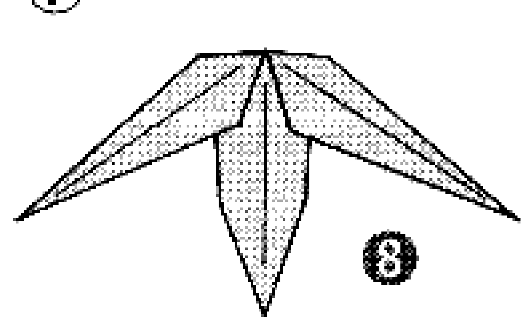
笹





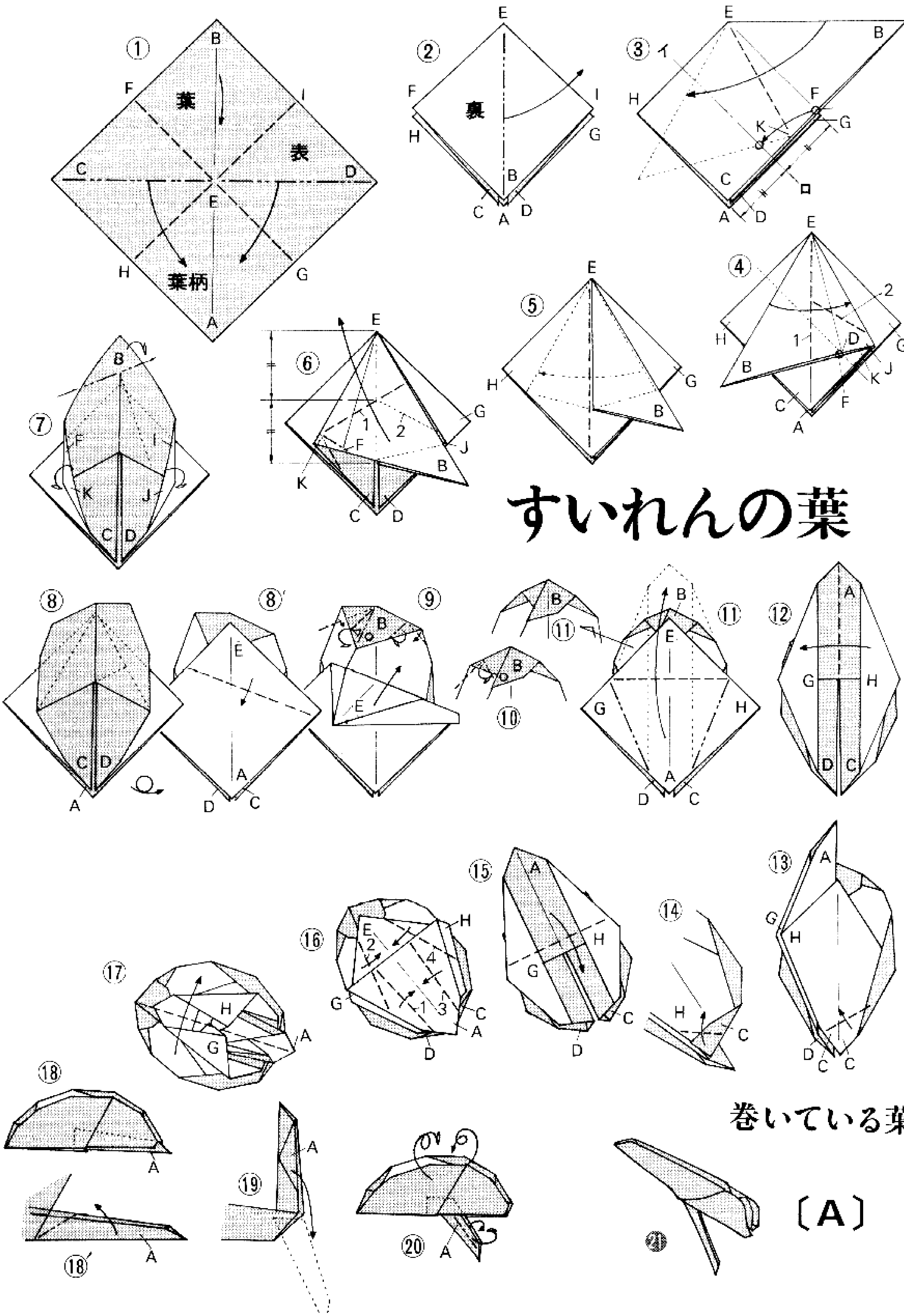


〔Ａ〕正方形の紙を対角線に切って直角二等辺三角形を作る。①ＣＤを折り下げる。②ＥＦを折る。④開いて折り目をつけ直して折る。⑤ＣＤを点線へ開く。⑥裏返す。⑥′Ａを裏へ折ってから谷線に折り目をつける。❼出来上がり。



〔Ｂ〕⑦′〔Ａ〕の出来上がりからそれぞれのカドを折って葉を細くする。❽出来上がり。

すいれんの葉



巻いている葉

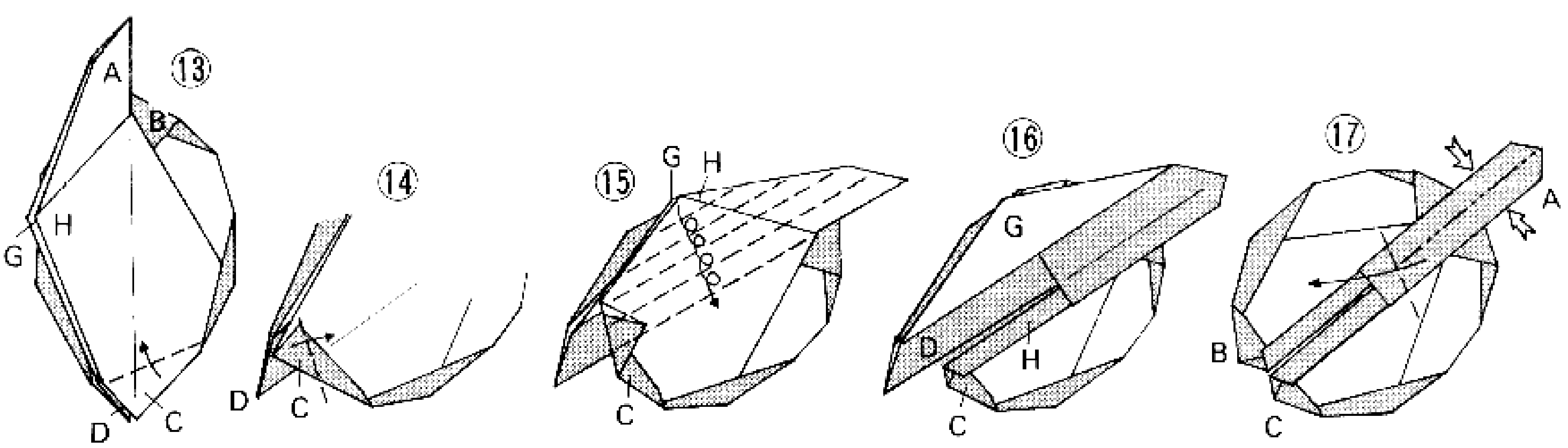
〔A〕

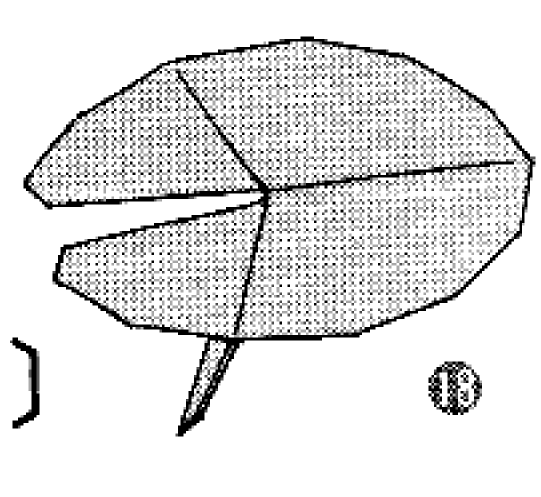
緑色の正方形の紙を用いる。

〔Ａ〕①山線と谷線で折る。②Ｂを引き出す。③Ｅを支点として、Ｆの折り目をイロの線上（○印）に合わせて、Ｂを点線へ折る。④１の谷線でＢを折り返す（２の谷線は⑥で折る）。⑤Ｂの内側からＫ（④のＪの内側）を点線へ引き出す。⑥Ｂの上側だけ谷線１を折って開きながら、Ｂの裏側になっているもう一つのカド、つまり④のＪの谷線を折って、Ｂを皿形に広げる。⑦Ｂの先を裏へ折り、ＦＫとＩＪを、静かに裏返す。⑧裏返す。⑧′Ｅを谷線から折る。⑨⑩Ｂの△印を○印の間へ折り込み、カドをそれぞれ矢印に折ってから、Ｅをもどす。⑪Ａを谷線と山線で折り上げる。⑫矢印に返す。⑬⑭Ｃのカドを矢印に折って、Ｈを戻し、ＤのカドもＣと同様に折る。⑮Ａを谷線から、折り下げる。⑯１、２、３、４の順に折って、Ａを葉柄にする準備として、細く折る。⑰二つに折る。⑱Ａを葉の外側に出して葉柄にする。この場合、⑰のＧＨはそのままにして、葉の内側でＡだけを⑱⑲のように折って先を外へ出す。⑳Ａを細く折り込んで葉柄を作り、葉を内側に巻いて形をととのえる。㉑出来上がり。

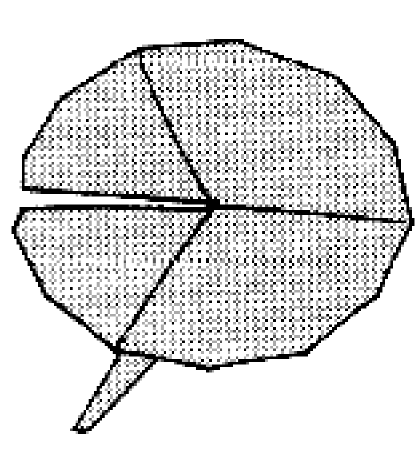
〔Ｂ〕〔Ａ〕の折り方で⑬まで同じに折る。⑬Ｃのカドを斜めに折る。⑭⑮と折って、Ｃの部分を丸やかにしてから、Ｈを巻き折りにする。⑯ＧとＤもＣＨと同様に折る。⑰Ａをつまみ上げて矢印に返し、葉柄を作り、形をととのえる。⑱出来上がり。

〔Ｃ〕〔Ｂ〕の折り方の応用で、各部分の角度や分量を加減して丸やかに仕上げる。

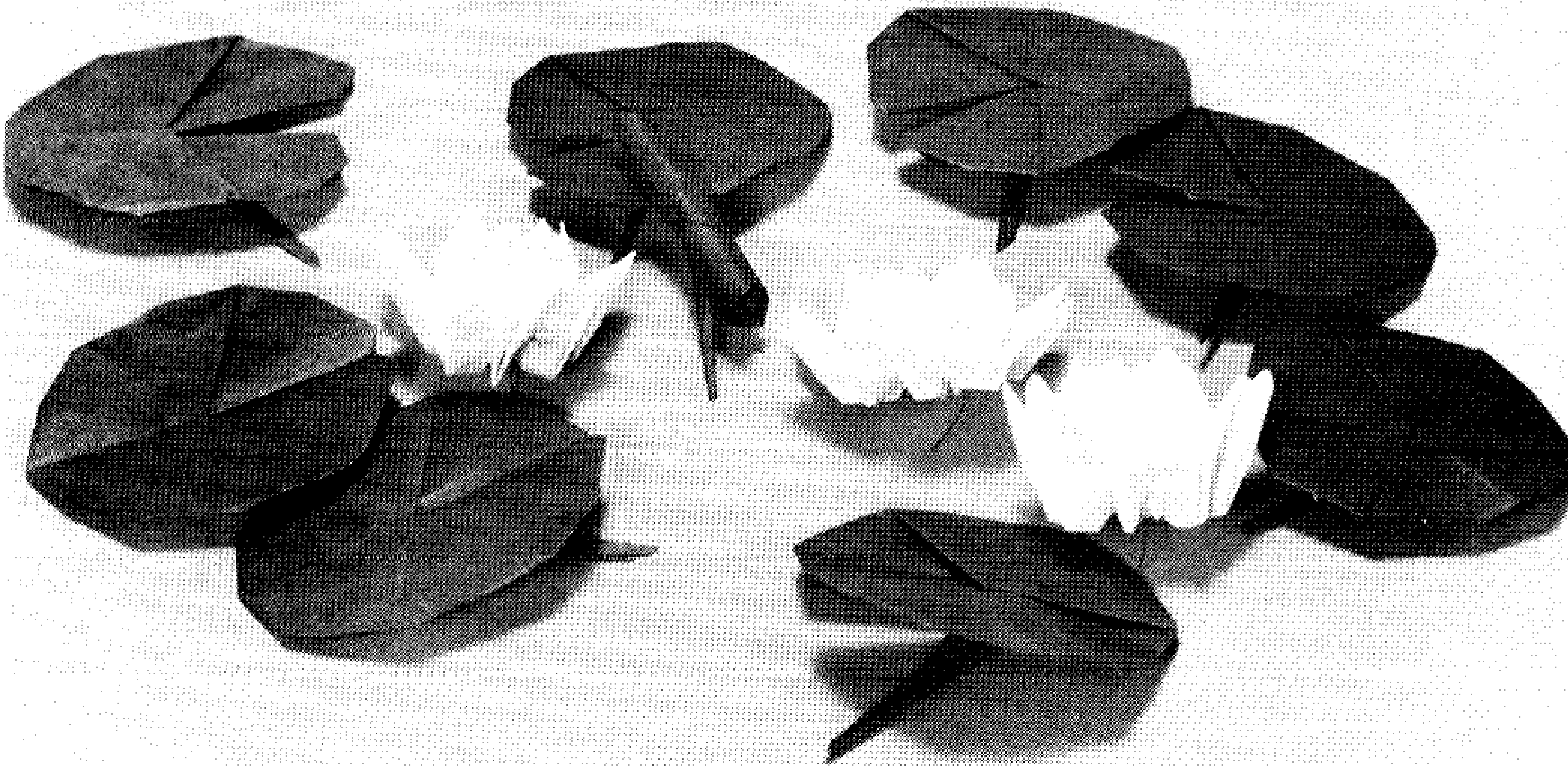




〔B〕



〔C〕

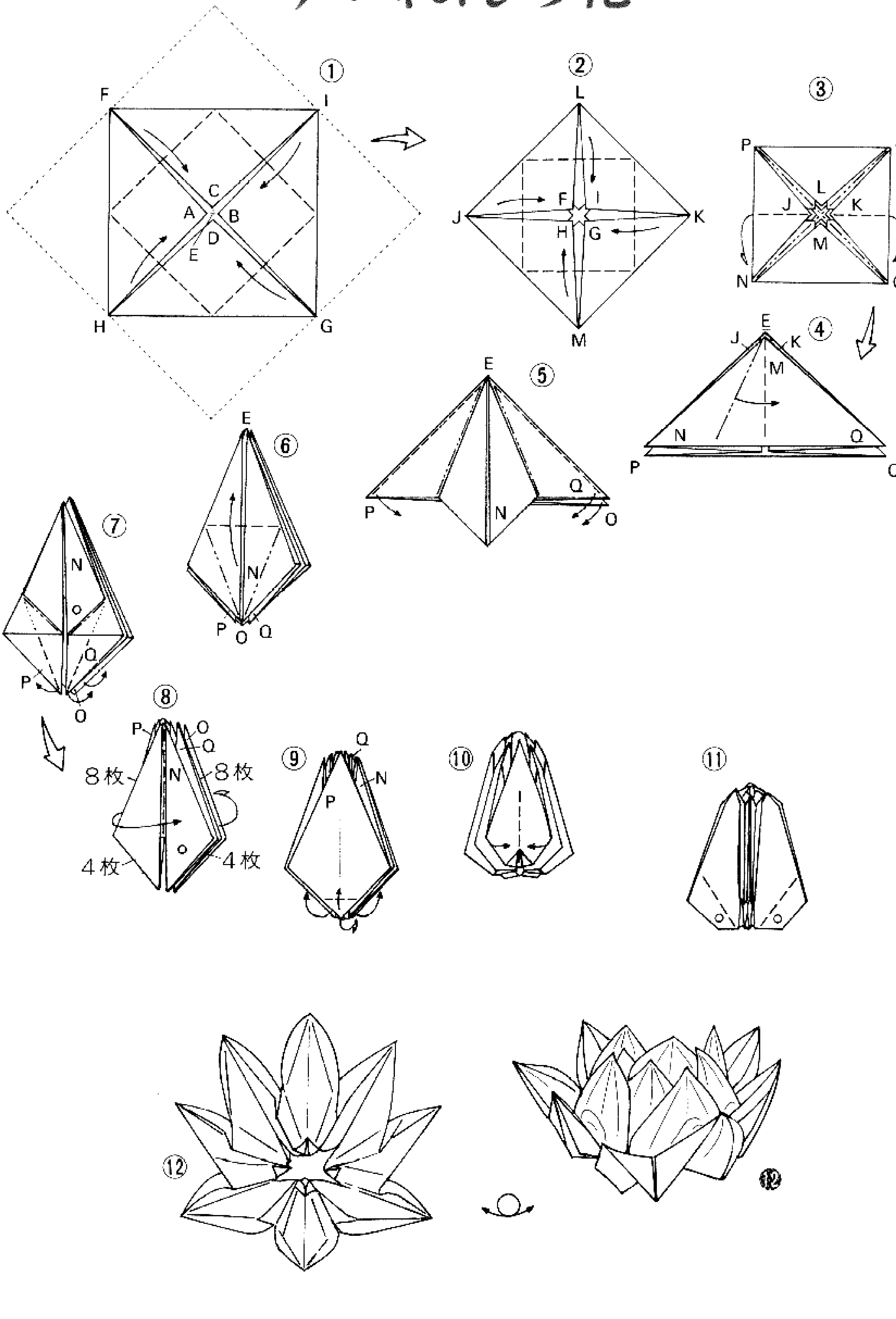


すいれんの花の色に合った薄手の和紙で折る。折り重なる分量が多いので、20㎝以上の大きさがよい。

①②正方形の紙の中心Eに、印をつけてから、それぞれのカドを中心に折る。③山線と谷線で④のように折る。④（製図拡大）Nの袋を広げて中心へ押しつぶす。⑤ＯＰＱもＮと同様に間へ折る。⑥Ｎを谷線と山線で矢印に折り上げる。⑦ＯＰＱもＮと同様にそれぞれ間へ折り上げる。⑧(製図拡大)左側の一枚と右側の後ろの一枚を矢印に返す。⑨下のカドをそれぞれ折り返す。⑩、⑨で折り返したカドが浮き上がらないように、それぞれ矢印に閉じて固定する。⑪谷線の位置をそれぞれに折り目をつけてから、○印のところを一つずつ持って、花びらのカドを傷つけないように、静かに花びらの先のほうに軽く引っぱるようにして、順々に少しずつ開いて開花させる。⑫開いた花を下から見た図。⑫出来上がり。

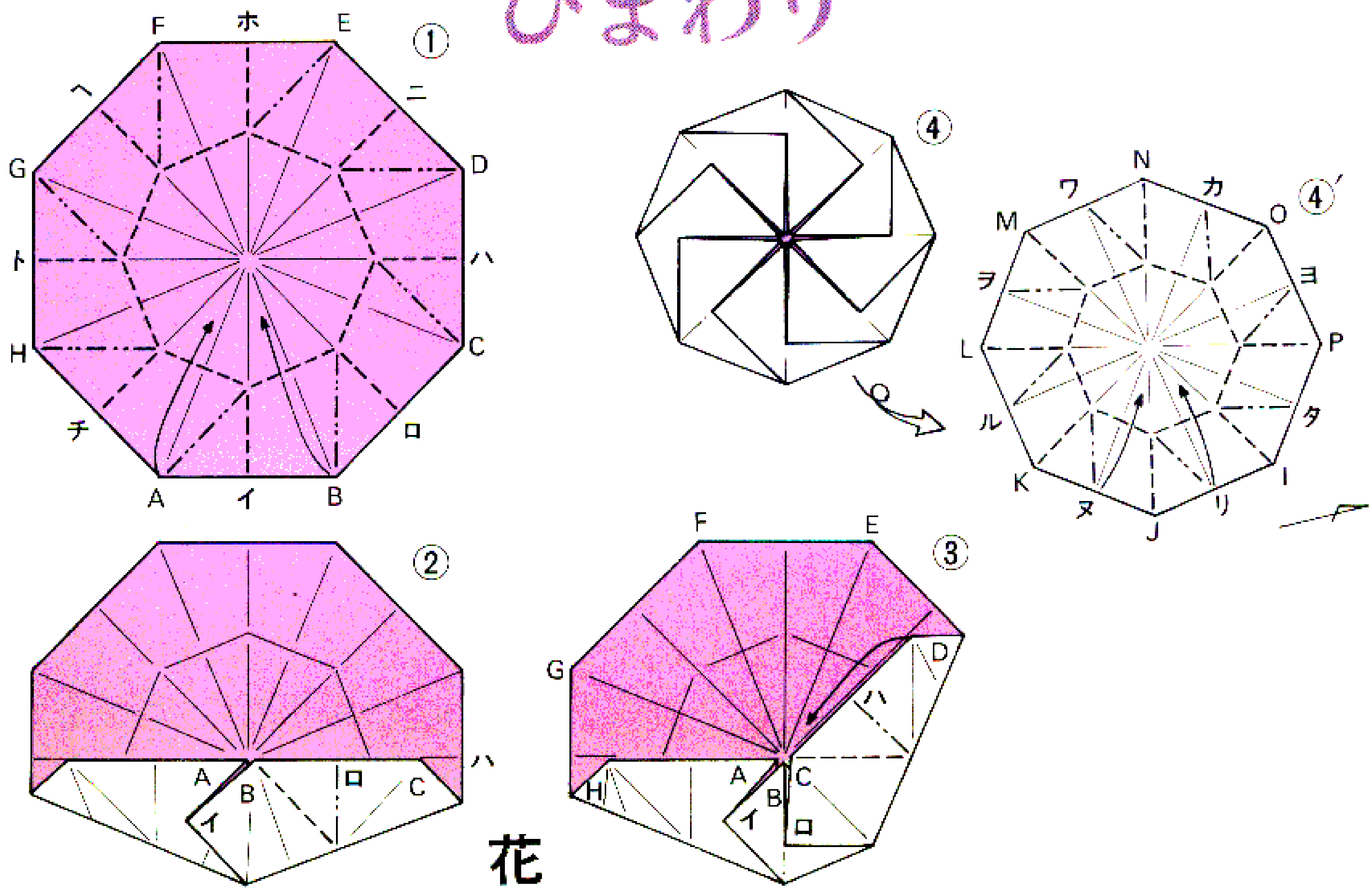
製図によって折り線構造を理解すれば、もちろん、花の形を完成することが出来ます。さらに、絵や彫刻と同じように、折り紙の技術が熟練してから折れば、生きている花の美しさを表現するむずかしさもわかり、自然に気品を出せるようになります。

すいれんの花

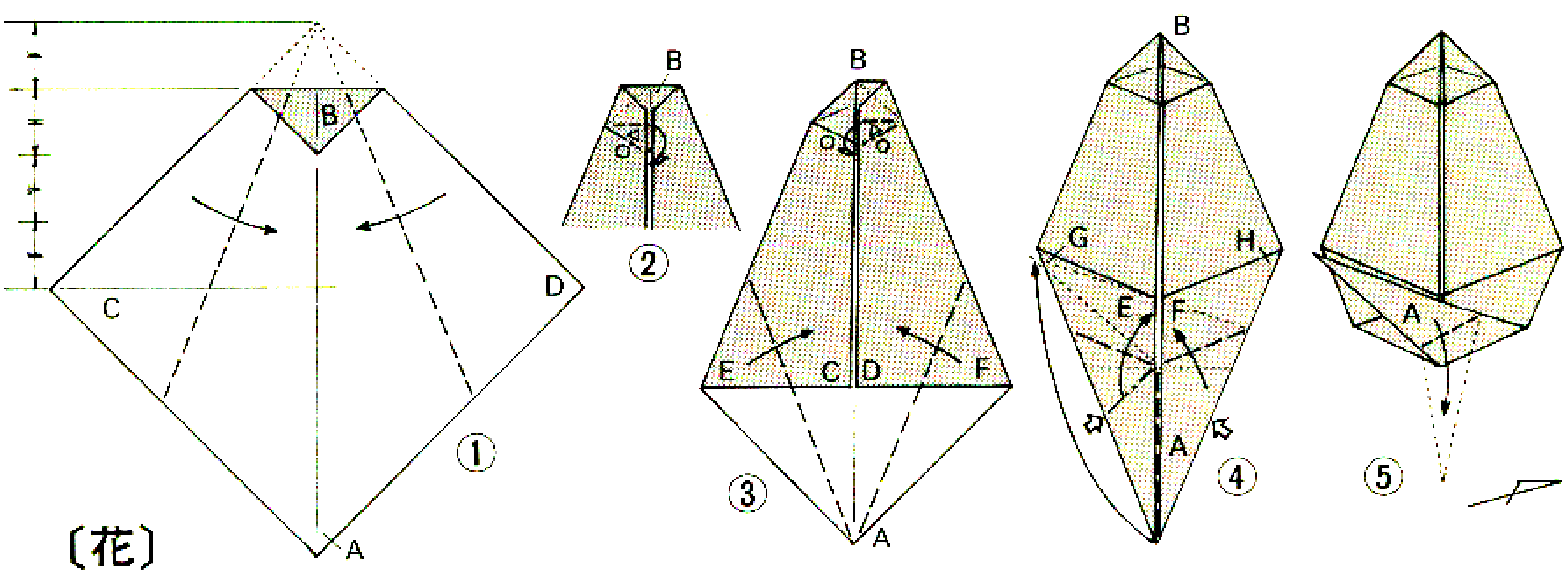


①
F
I
C
A
B
D
E
H
G
②
L
J
K
F
I
H
G
M
③
P
O
L
J
K
M
N
Q
④
E
J
K
M
N
Q
P
O
⑤
E
P
N
Q
O
⑥
E
N
P
O
Q
⑦
N
Q
P
O
⑧
P
O
Q
N
8枚
8枚
4枚
4枚
⑨
Q
N
P
⑩
⑪
⑫
⑫

ひまわり

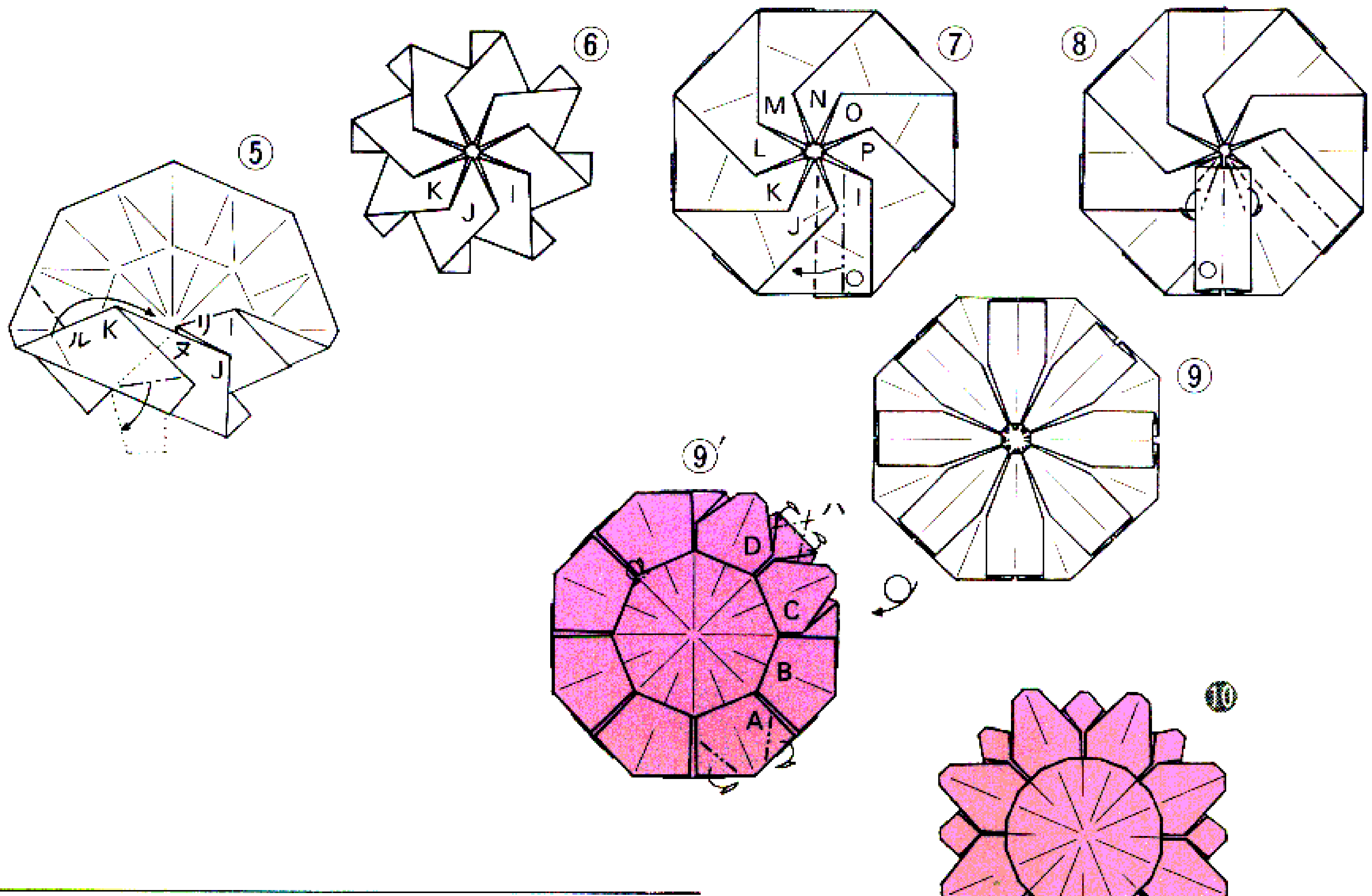


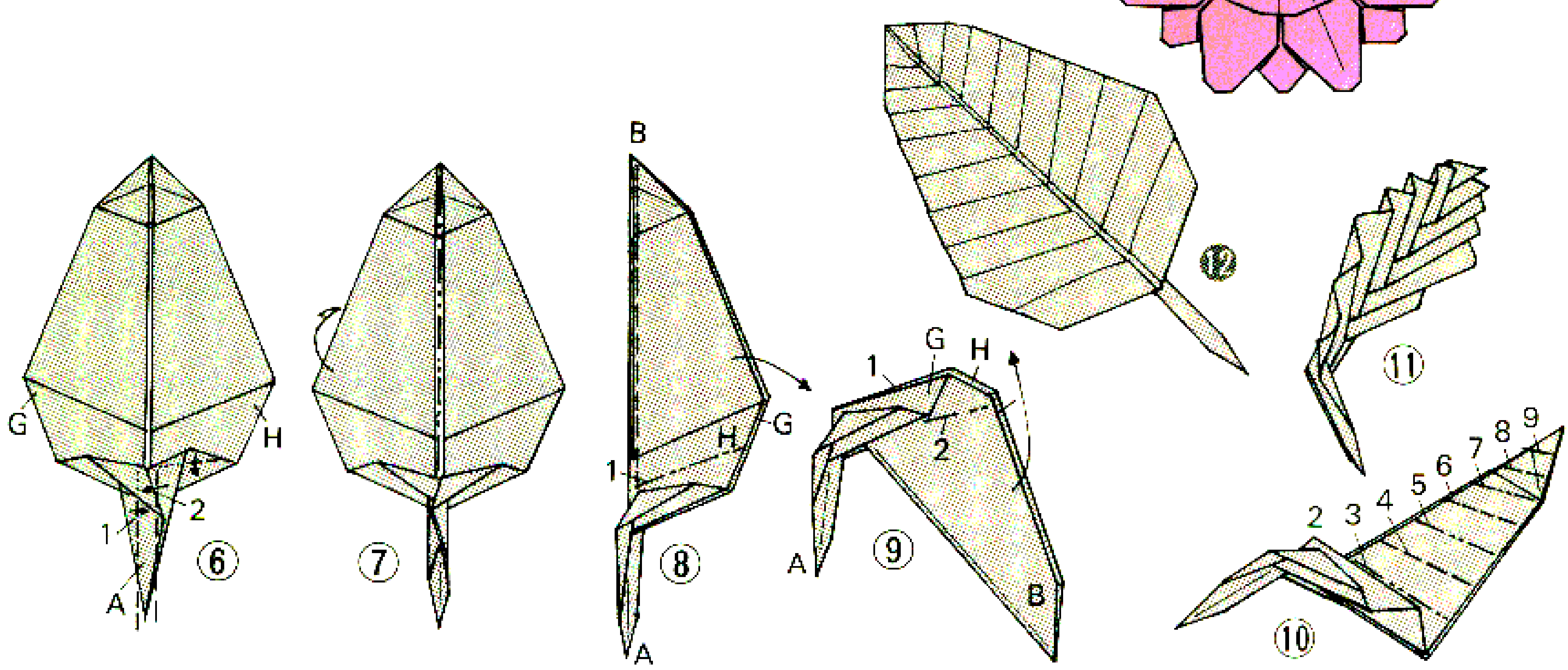
葉



八角形の紙を用いる（用紙の作り方は37ページ参照）。各部分に記号を書き入れて折れば、折り線がわかりやすい。

①それぞれの対角線を折って中心に印をつけ、さらにイホ、ロヘ、ハト、ニチの谷線に折り目をつける。つぎに、カドを中心に合わせて、内側の八角形の折り目をつけ、AとBのカドを中心に合わせ、イを外側につまんで、左へたおす。②Cのカドを中心に合わせ、ロをつまみ出す。③Dのカドを中心に合わせ、ハをつまみ出す。Eまで折ってから、ABCを開いてFGHに同様に折り目をつけ、④のように折りまとめる。④裏返す。④'IJの中点リを中心にあわせ、谷線に折り目をつけ、他も同様に折って、内側の八角形の折り目をつける。リヌを中心に合わせてJをつまみ出す⑤。⑤ルを中心に合わせてKをつまみ出す。全部折って⑥のようにする。⑥裏側を開き出して⑦。⑦谷線を折ってIを引き起こし、山線の位置に折り目をつけて、袋状に広げてつぶす。⑧カドを折り込み、それぞれ同様に折る。⑨裏返す。⑨'Aのように矢印に折り込んでCDの





ようにしてから、ハの矢印のように折って裏側の花びらを作る。全部を折ってから、花びらをもって内側の八角を少しずつ引き出して、カドを小さく折り込む。⑩出来上がり。

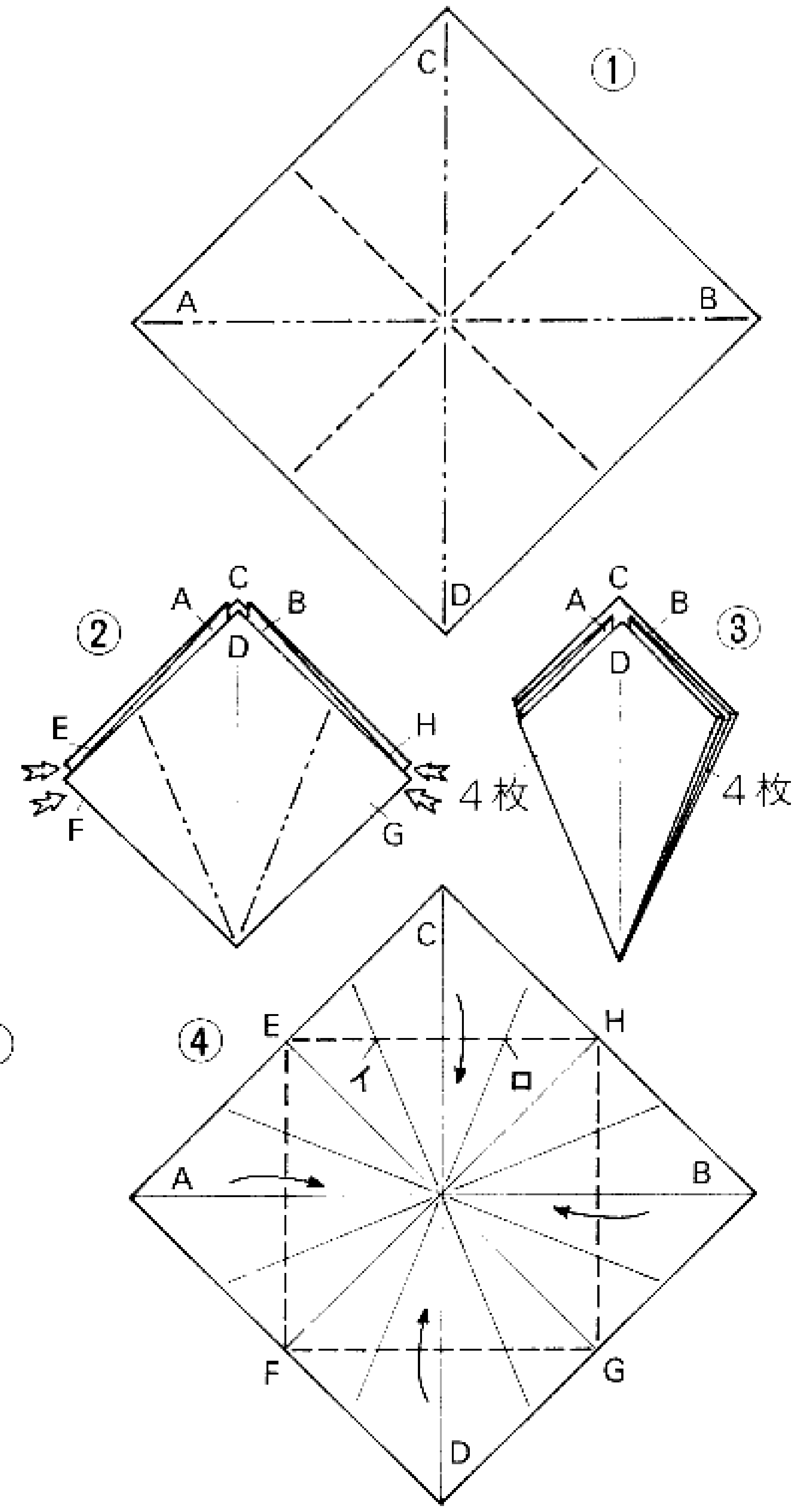
〔葉〕

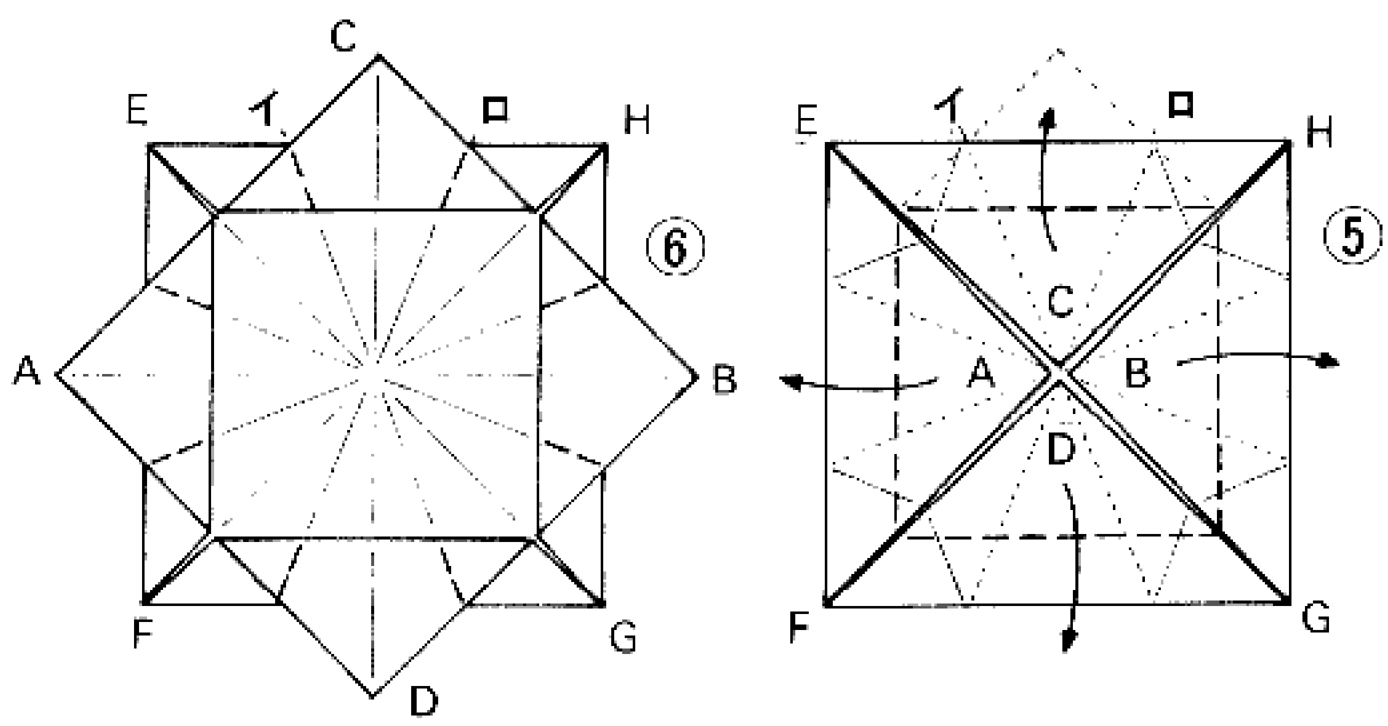
①正方形の紙のＡＢの中心に折り目をつけ、Ｂを図の割合に折ってから、ＣＤを折る。②△印を○印の下へ折る。③Ｂの右側も同様に折り、ＥＦを折る。④Ａを矢印につまみあげて点線へ折る。⑤Ａを折る。⑥Ａをそれぞれ矢印に細く折る。⑦二つに折る。⑧ＡＢの中心の線に平行に、細く折り目をつけて主脈を作り、１の山線の位置からＧＨを広げてＢを中へ入れる。⑨ＧＨを広げて、Ｂを２の山線から折り返す。⑩、⑧⑨の折り方と同様に山線で折り込み、谷線で折り返して、主脈をさかいにして斜めに側脈の畝折り（角度に注意して）を作る。⑪広げて、葉の形にととのえる。⑫出来上がり。

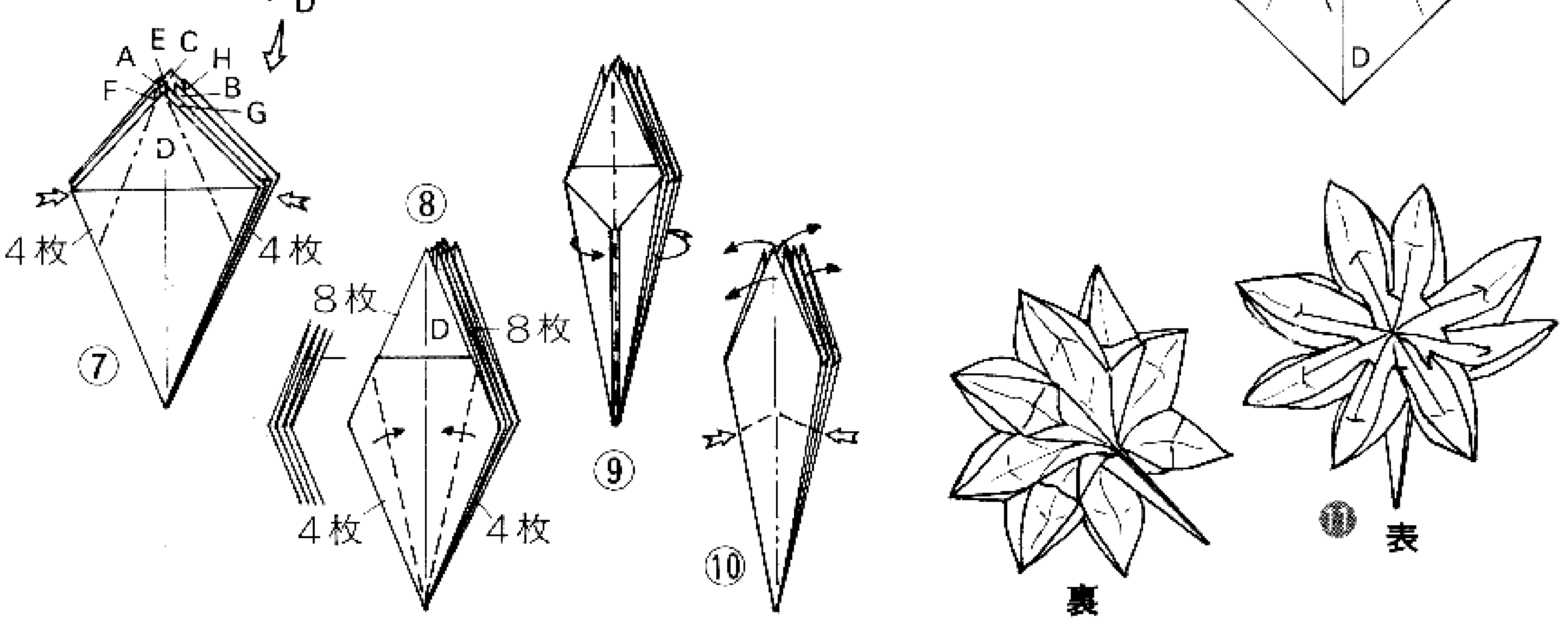
菊

菊の節句という行事もあり、昔から菊は秋の高貴な花とされてきました。





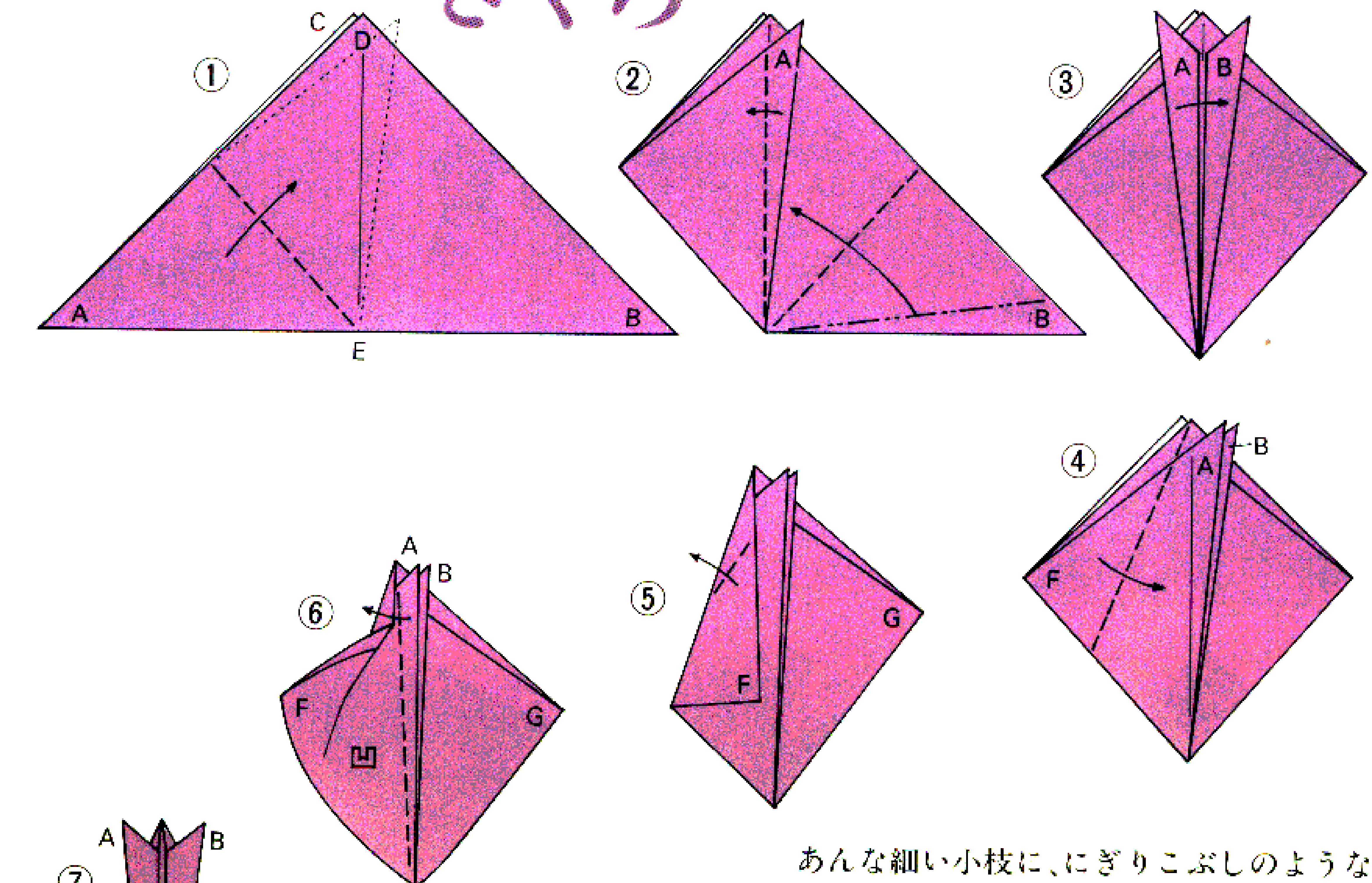


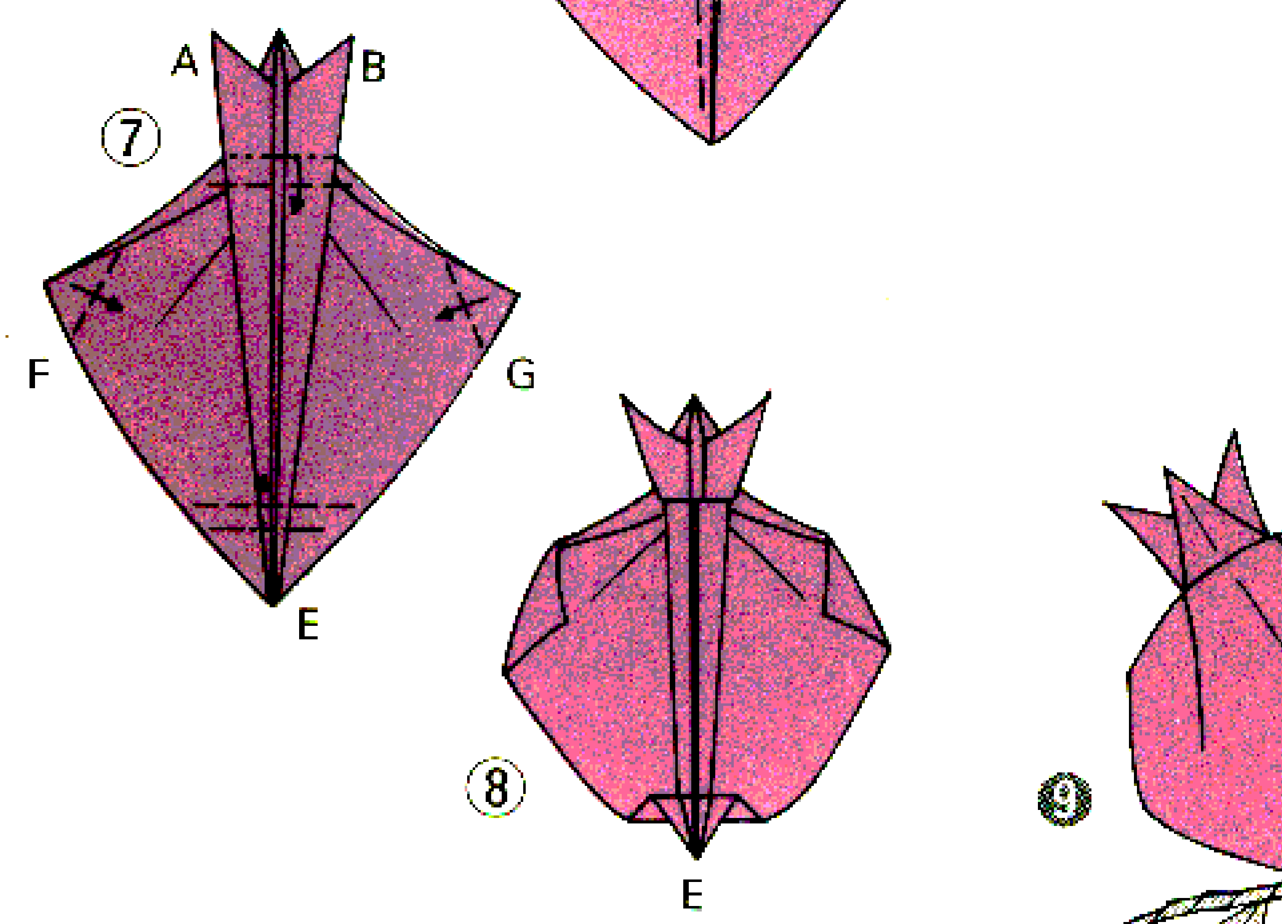


①正方形の紙を山線と谷線で②のようにする（ＣＤの対角線は折り目をつけるだけ）。②山線の位置からそれぞれ折り込む。③平らに広げる。④ＡＢＣＤのカドを中心に折る。⑤Ｃを放射線の折り目のイ、ロに合わせながら点線へ折り、ＡＢＤも同様に折る。⑥前の折り目にしたがって折る。⑦山線の位置からそれぞれのカドを間へ折る。⑧四枚重なっている上の一つずつを矢印に折り、開きかえて全部同じように折る。⑨表の右側の一枚を左に、裏の左側の一枚を右に返す。⑩矢印につまみ、花柄を作り、上のカドを開いて、花びらの形にととのえる。⑪出来上がり。

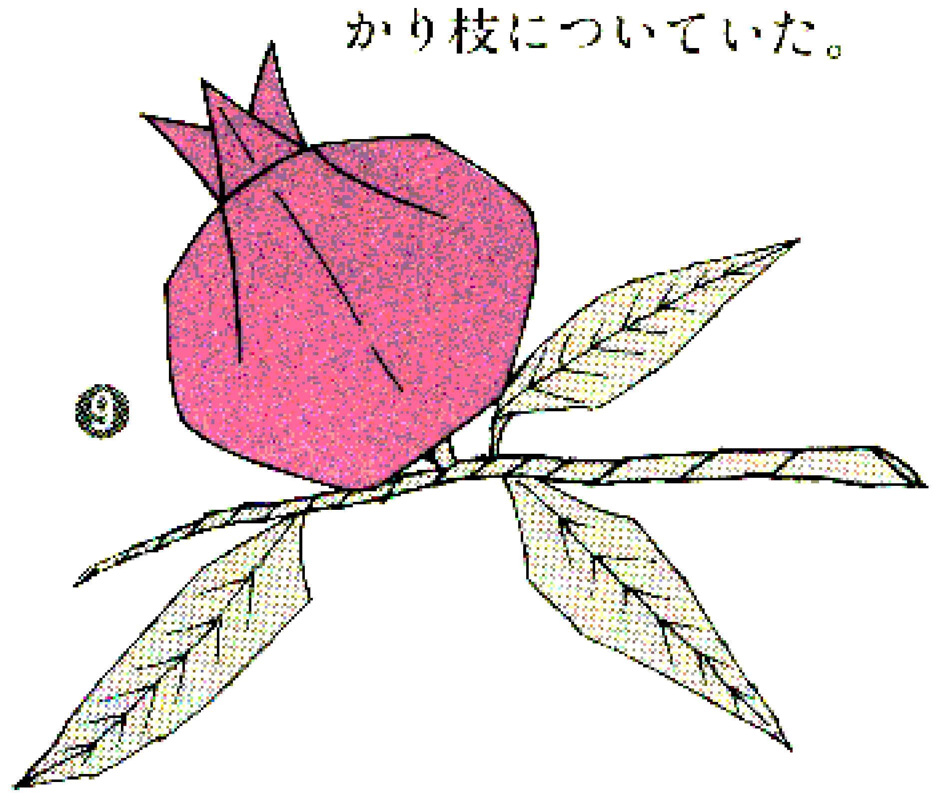
写真左は少し小さい花を作り、花柄をもう一つの花の中に差し込んで仕上げたもの。

ざくろ





あんな細い小枝に、にぎりこぶしのような、つぶらな赤々とした実。秦風のあとに、ほかのまわりの木々の葉っぱが散りしくほどに、風にゆれにゆれても、このざくろだけはしっかり枝についていた。



和紙の朱赤でどうさのきいたいろ紙を用いる。

①のように、正方形の紙を対角線に折ってから、ＡＢのカドを合わせて、Ｅ点に小さく印をつけて、Ａを点線へ折る。②Ａを谷線から折り返し、Ｂも Ａと同様に折る。③ＡをＢの上に重ねる。④Ｆを矢印に折る。⑤Ｆを谷線から折って⑥のようにくぼみを作る。⑥Ａを矢印に返して、右側のＢＧも左側と同様に折る。⑦それぞれ矢印に折る。⑧Ｅを細くして表に返す。❾出来上がり。

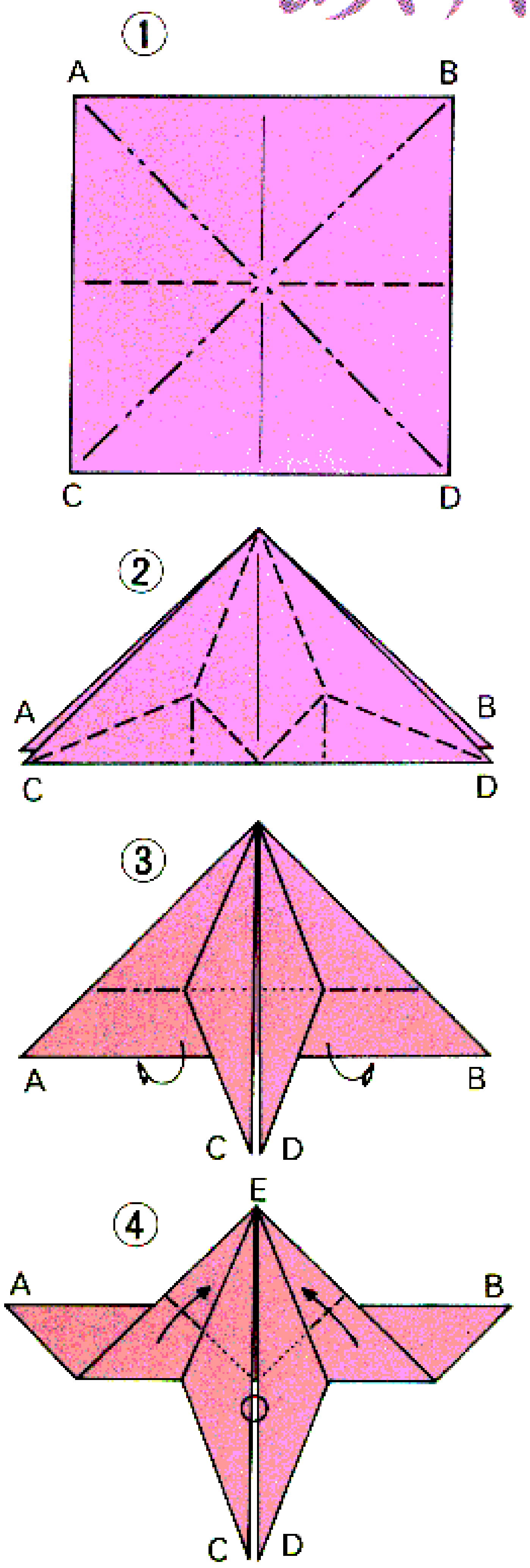
色紙や短冊にざくろの一枝を構図してたのしむこともできる。

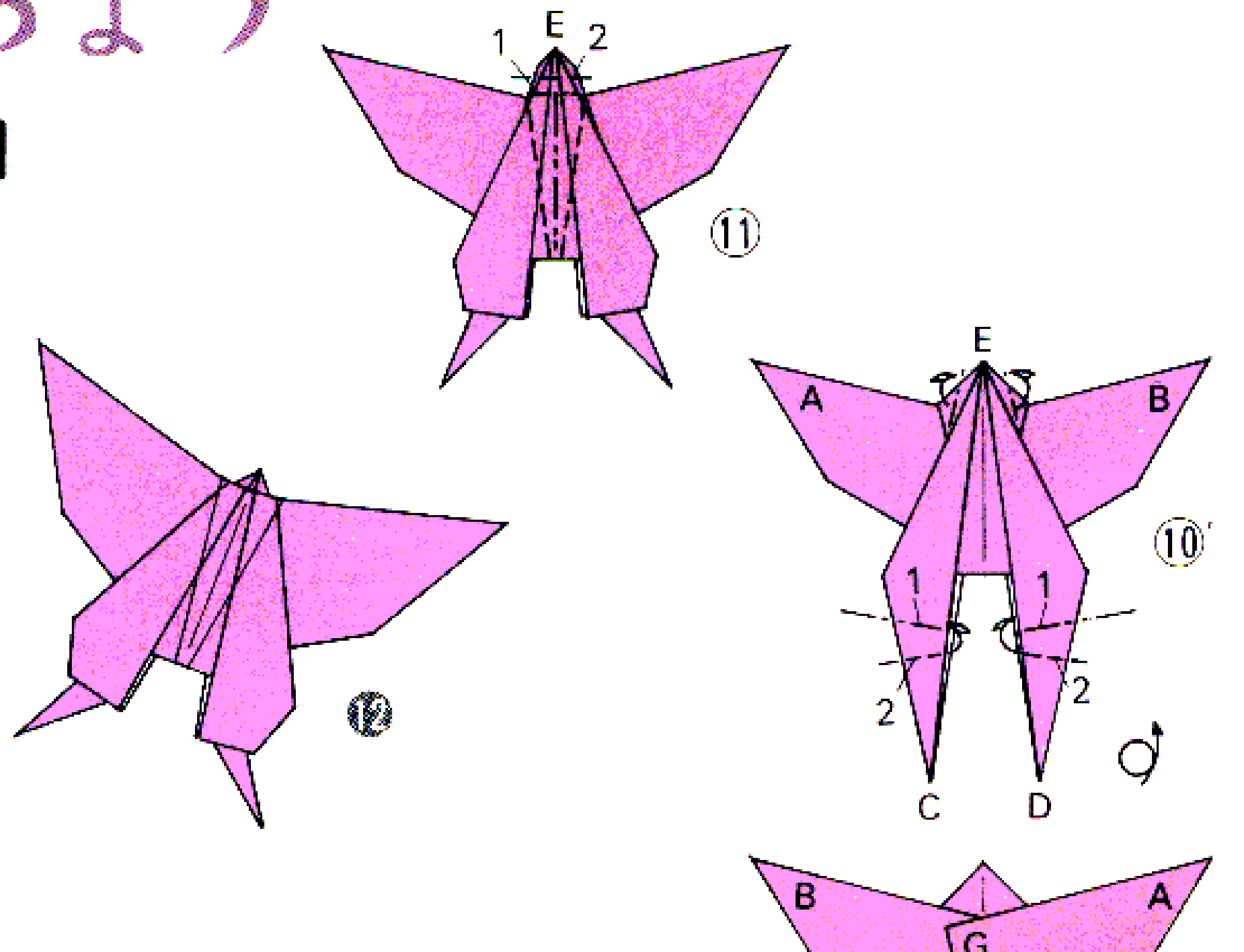
葉は細長い菱形に折って作り、小枝は茶色の雲竜紙などを縦紙に細長く切って、はじめに左よりのこよりで好きな長さにまでしたところで、折り返して逆に巻きつけて、その部分をかたくよって、小枝の先の部分にする。芯になじませてなるべく細く巻きつけ、だんだん太くして小枝らしい形にしてから、巻きじまいを筒状にして、つま楊子などで切口らしい形に内側へ押し込んで作る。

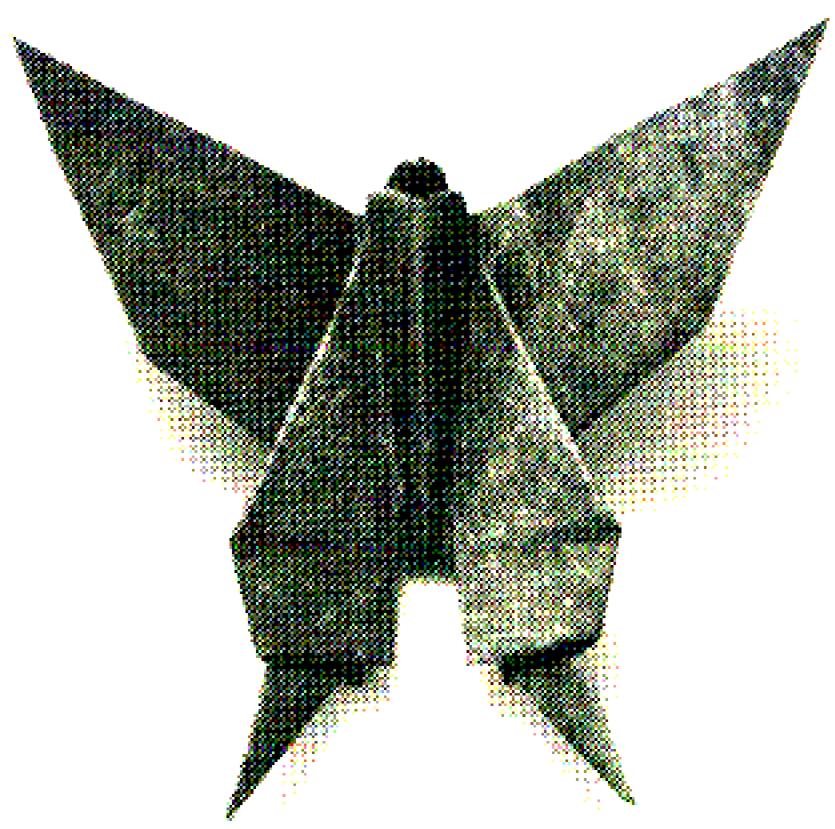
ざくろと葉のつけ方は、こよりの巻き重ね目から目打ちの先を、紙に傷つけないように注意して差し込んで穴を作り、ざくろと葉を組み合わせて形をととのえる。

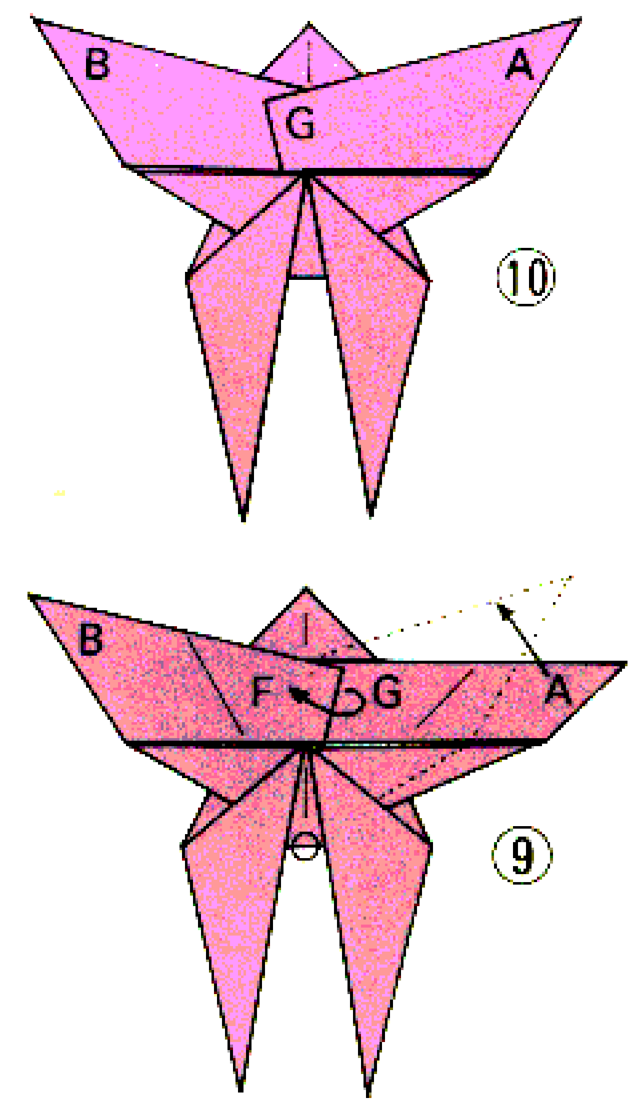
あげはちょう

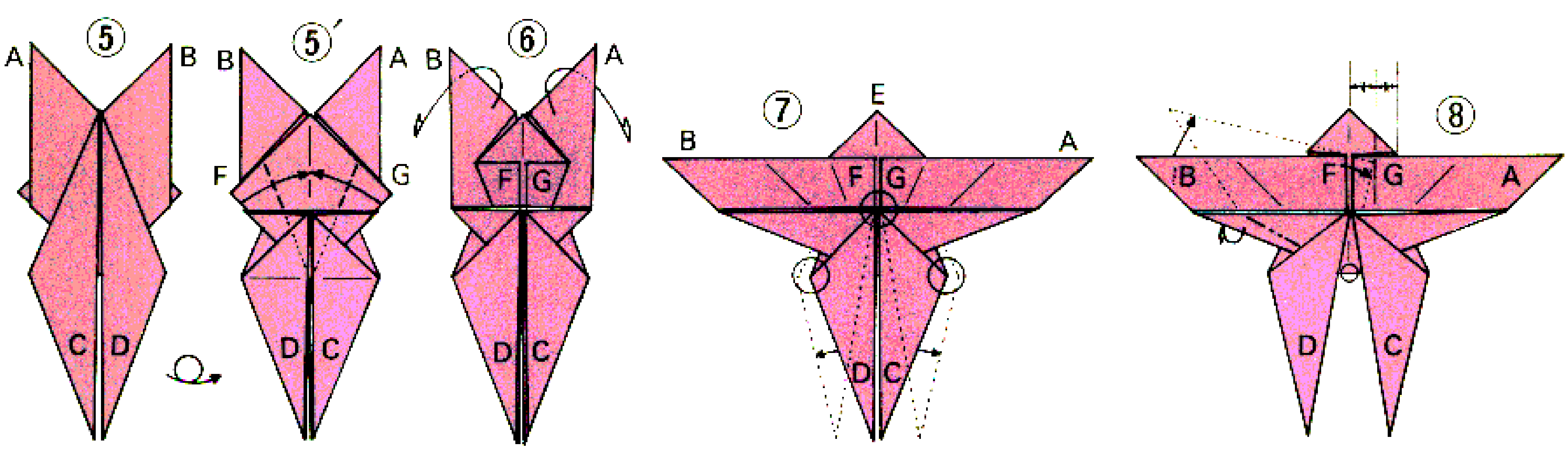
〔A〕





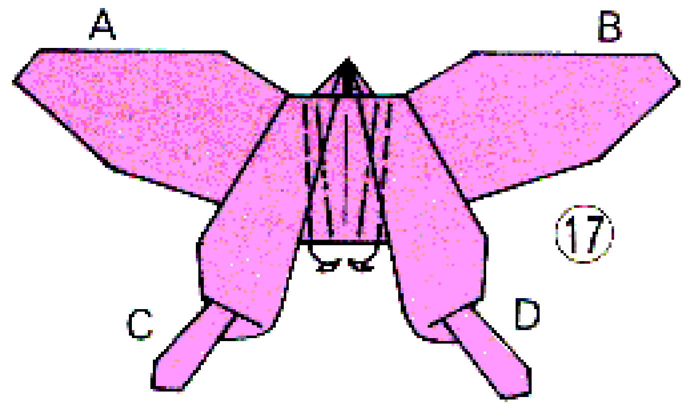


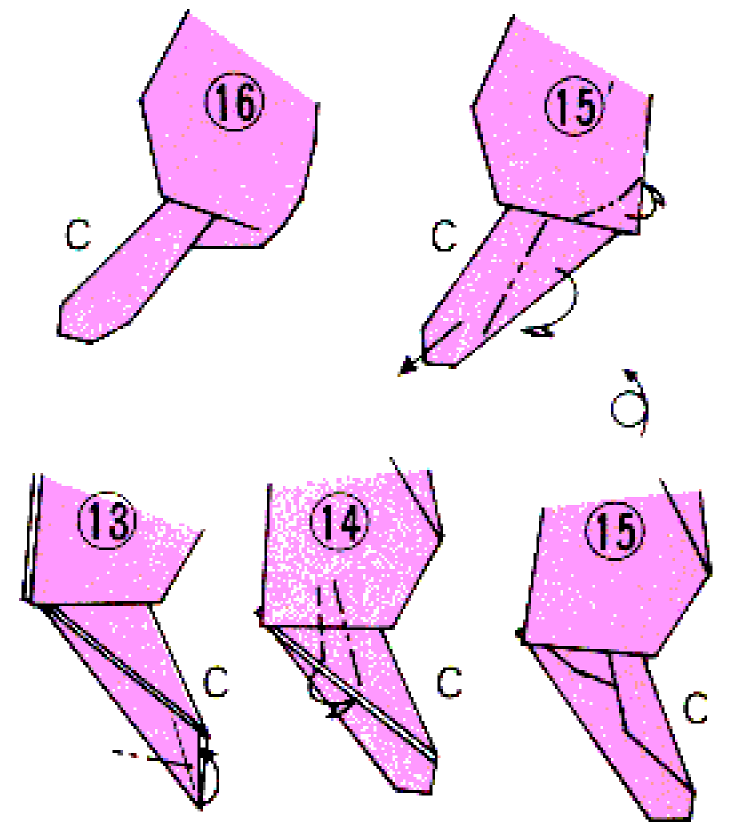


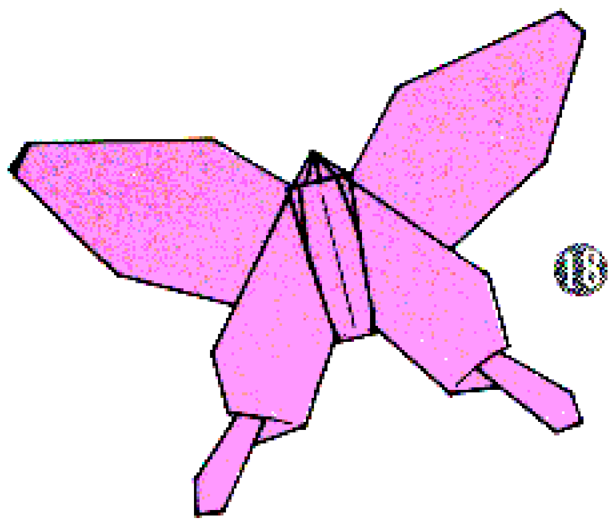


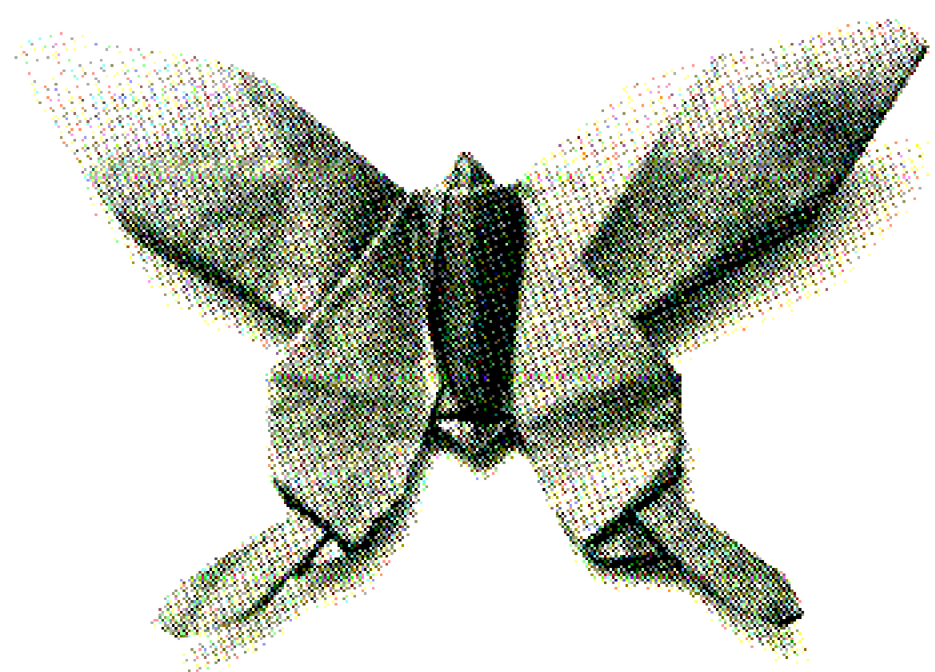
正方形の紙を①②と折る。③ＡＢを裏側へ折り上げる。④ＡＢを矢印に折り上げる。この場合、○印を持ってＡＢを引っぱりながら、谷線を延長した点線は袋の内側で折る。⑤裏返す。⑤′ＦＧを中へ折る。谷線を延長した点線は袋の内側で折る。⑥ＡＢを左右に開く。⑦ＦＧのところの○印を持って、ＣＤの上の左右のカドを指でつまんで点線へ静かに引き出す。この場合、指で軽く押さえながら左右に引き出せば、たやすく出来る。⑧○印の内側を支点として、ＢＦを点線へずらす。⑨Ｇを引き出してＦの上に重ね、○印を支点として、ＡＧを点線へずらす。⑩裏返す。⑩′Ｅの左右のカドを小さく裏へ折り込み、ＣＤを１の山線で中へ折ってから、２の谷線で折り返す。⑪Ｅに段をつけてから、中心の山線で二つに折ってから谷線で左右に折り返して形をととのえる。⑫出来上がり。

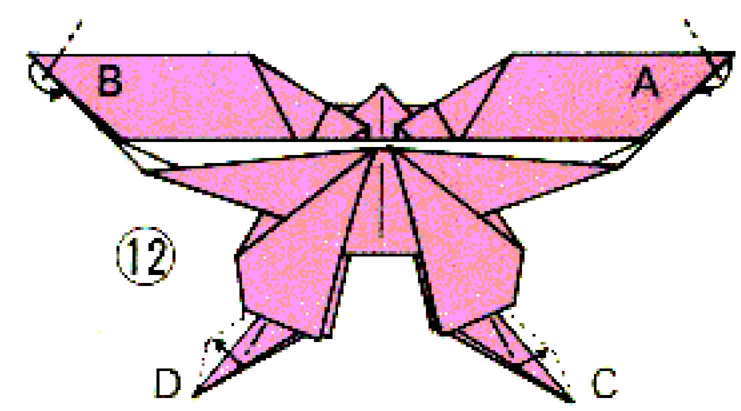
〔B〕

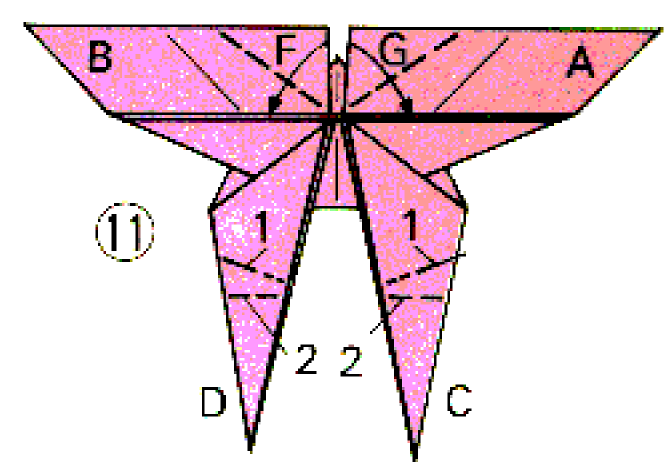


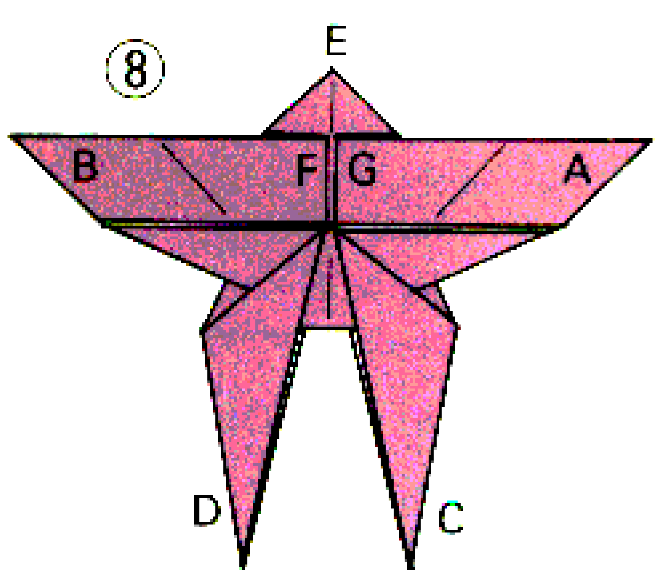


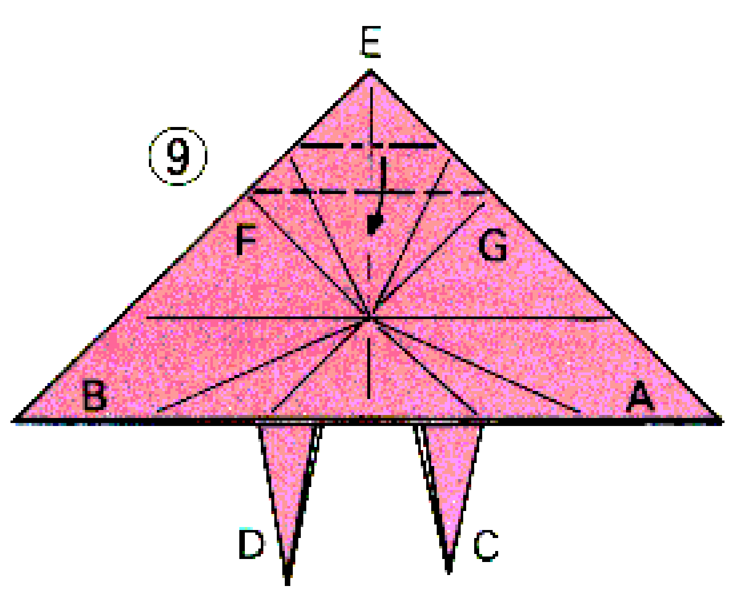


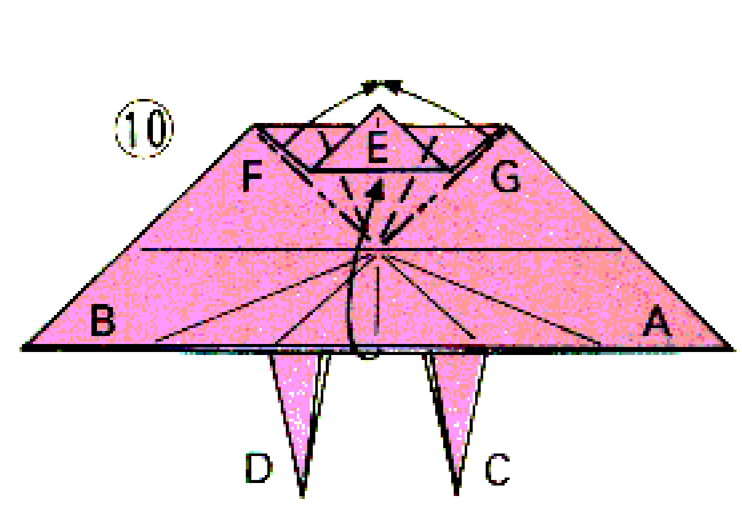








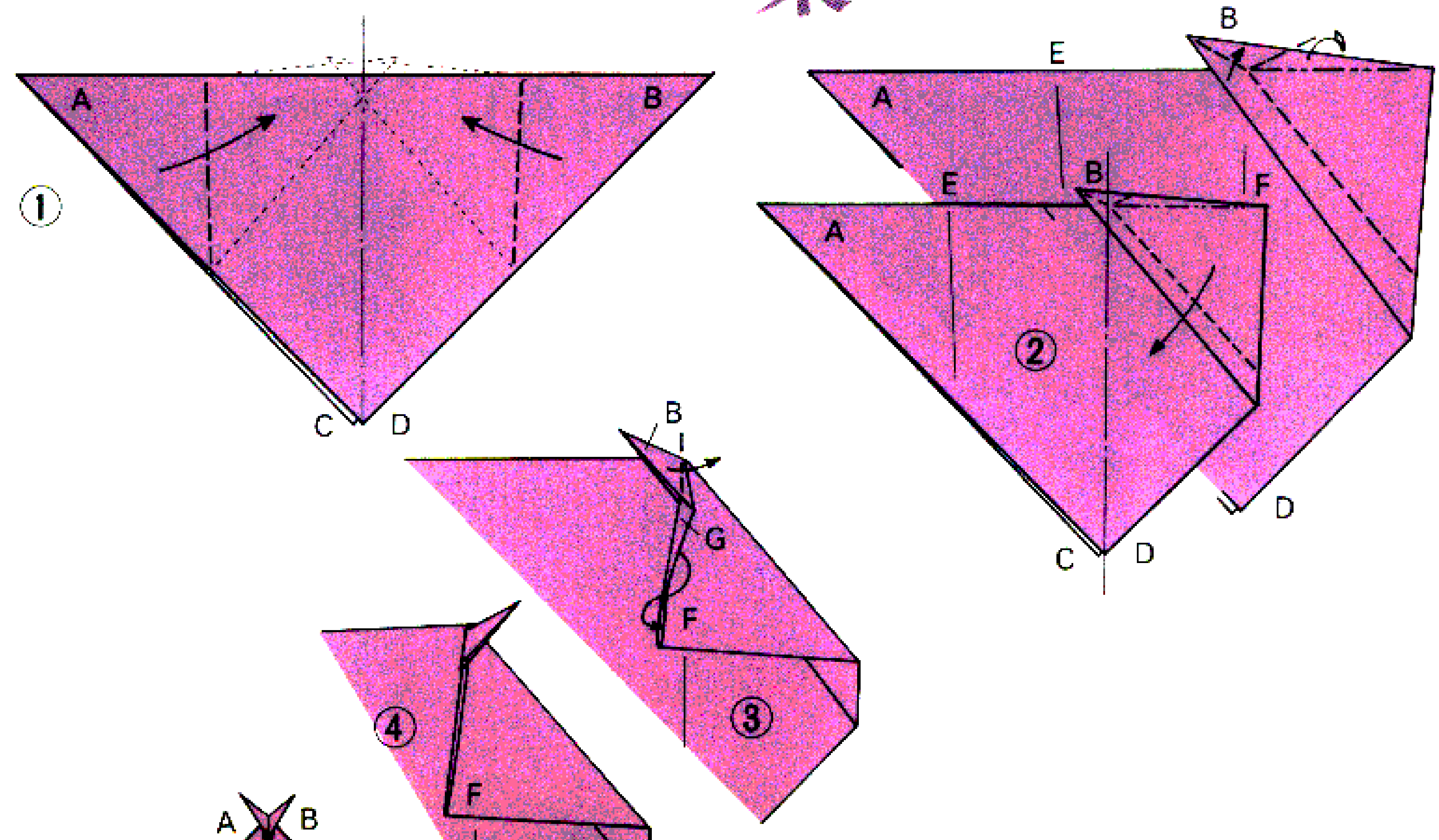


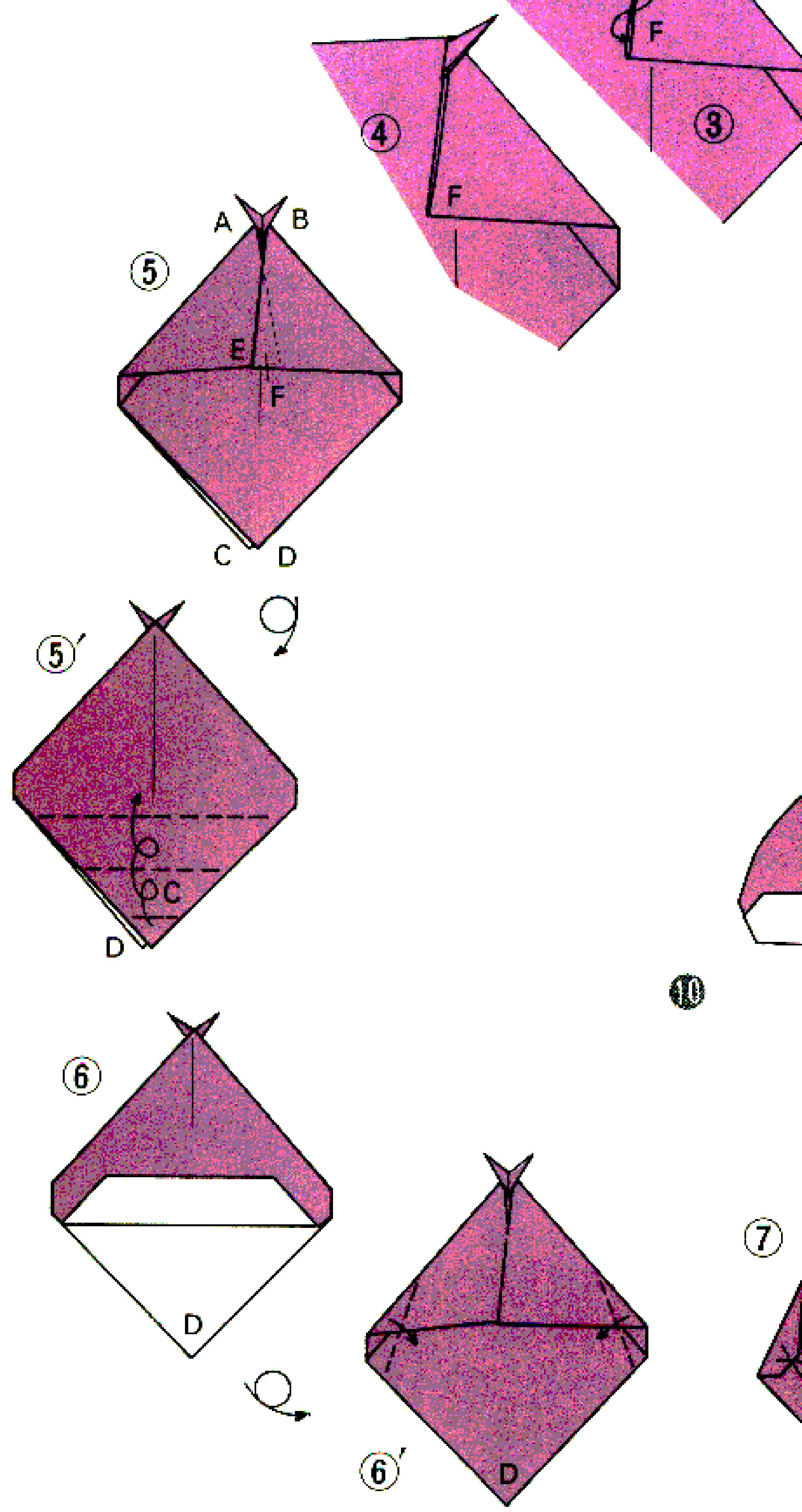


〔A〕の⑧まで同様に折る。⑧を⑨の形に広げる。⑨Eに段をつける。⑩元の折り目で、FGを中心へ折り、ABを折り上げる。⑪FGを折ってカドを袋の中へ差し込み、CDを山線と谷線で内側へ段をつける。⑫ABのカドを折り込み、CDの先を斜めにずらして点線へ折り、⑬のようにする。⑬先を折り込む。⑭上側だけ山線と谷線で中へ折り込む。⑮裏返す。⑮'山線の位置から矢印に裏へ折りながら、先を少し引っぱって⑯のようにする。DもCと同様に折る。⑰山線と谷線に折り目をつけてからだを作り、裏側の袋状になっているところを左右にのばして平らにして、形をととのえる。⑱出来上がり。

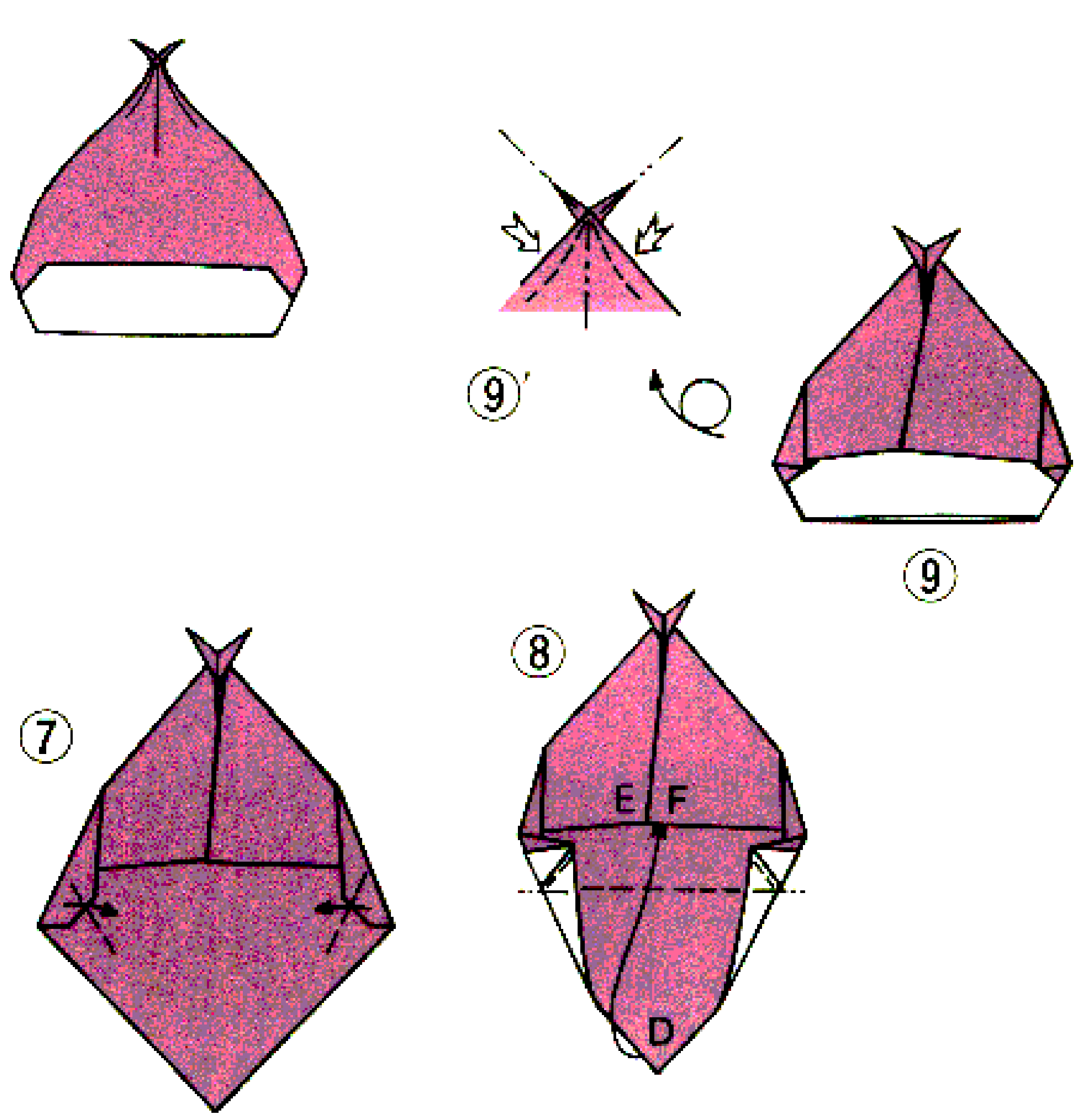
〔A〕はミヤマカラスアゲハのおおらかな感じを出し、〔B〕はオナガアゲハの特徴を出しました。この折り方から、その他いろいろのちょうになります。

栗





栗拾いの風情を折り紙で表現してみましょう。８cmぐらいの裏のあまり白くない栗色の和紙などで作ります。

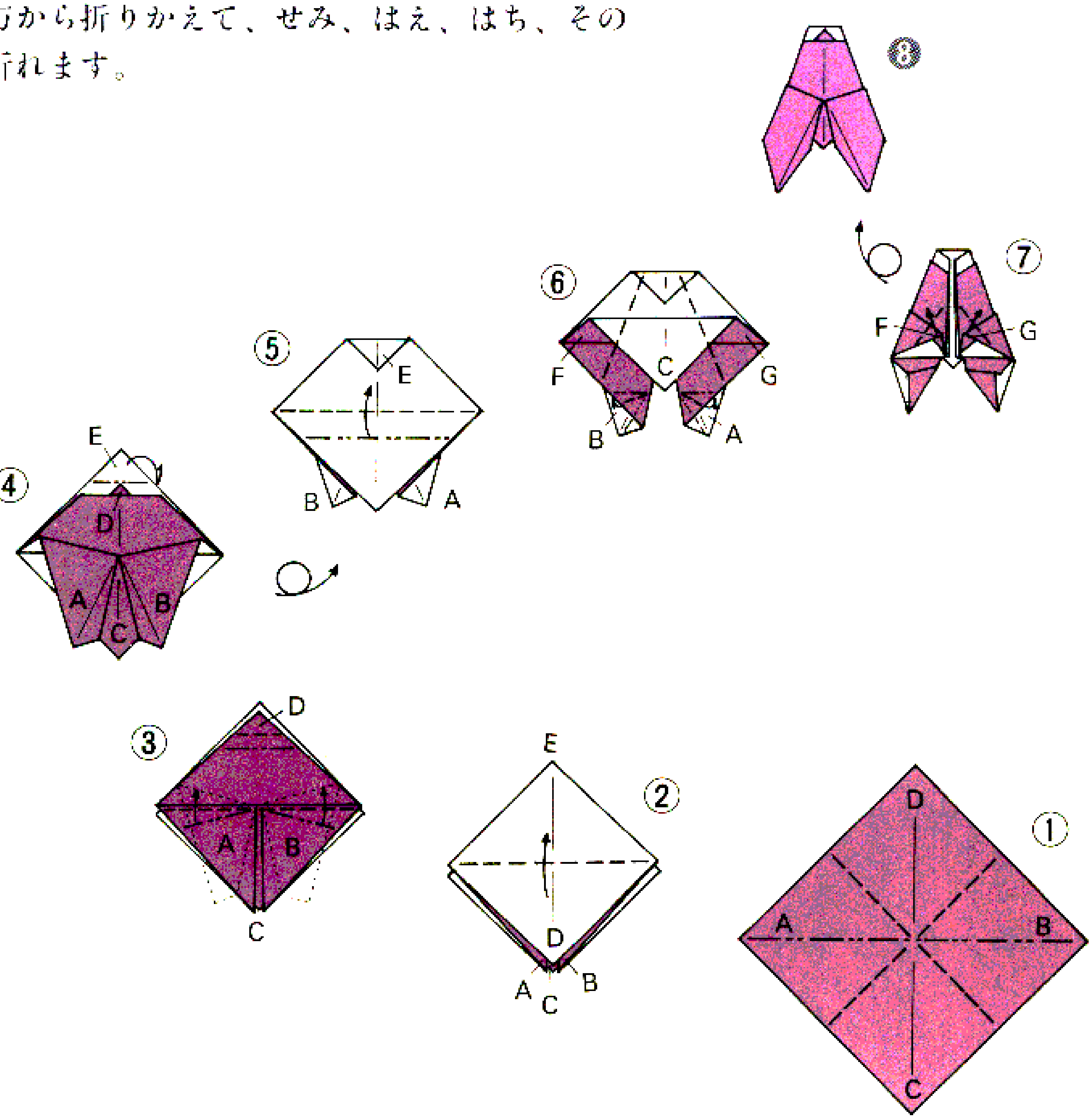


あぶ

裏の白いグレーなどの紙を用い、大きさは5cm四方ぐらいがよい。

③図のDに段をつける場合、山線の位置をもっと下のほうにすれば、背が小さくなってよい形になる。⑦でFGを折り返すとき、体が前へ倒れないように、角度に注意して折る。

この折り方から折りかえて、せみ、はえ、はち、その他いろいろ折れます。



〔栗〕

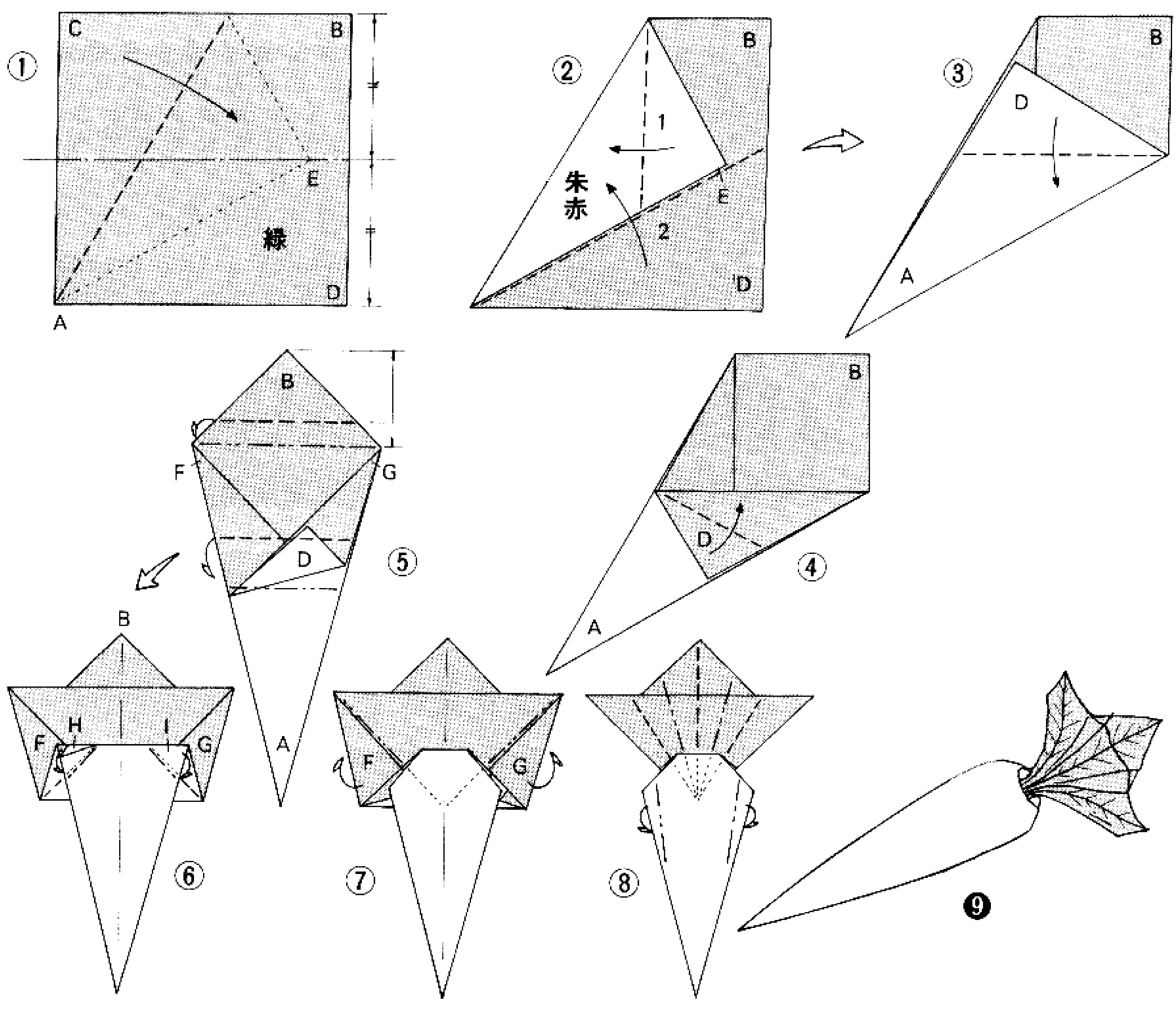
正方形の紙を対角線に折って①。①を二つに折って中心に折り目をつけてから、ABを点線に折り、Aだけのばす。②Bを山線と谷線で拡大図のように折る。③GをFの袋に入れて④のようにする。AもBと同様に折って⑤のようにEのカドをFの袋に差し込む。⑤裏返す。⑤′Cを折る。⑥裏返す。⑥′⑦⑧の順に折って、DをEFの内側へ差し込む。⑨裏返す。⑨′の先をつまんで形をととのえる。⑩出来上がり。中からほどよく押し出してふくらみをもたせ、京花紙などを軽くつめて仕上げる。

〈飾り方〉 同じ大きさのものばかりでなく、少し小さめのものを2、3個まぜて7、8個作り、荒削りの木の板や小さい箕などに何げなく粒栗がころがっているような感じに飾ります。7cmぐらいの紙で、木の葉を色どりよく折って添えるのも風情があります。

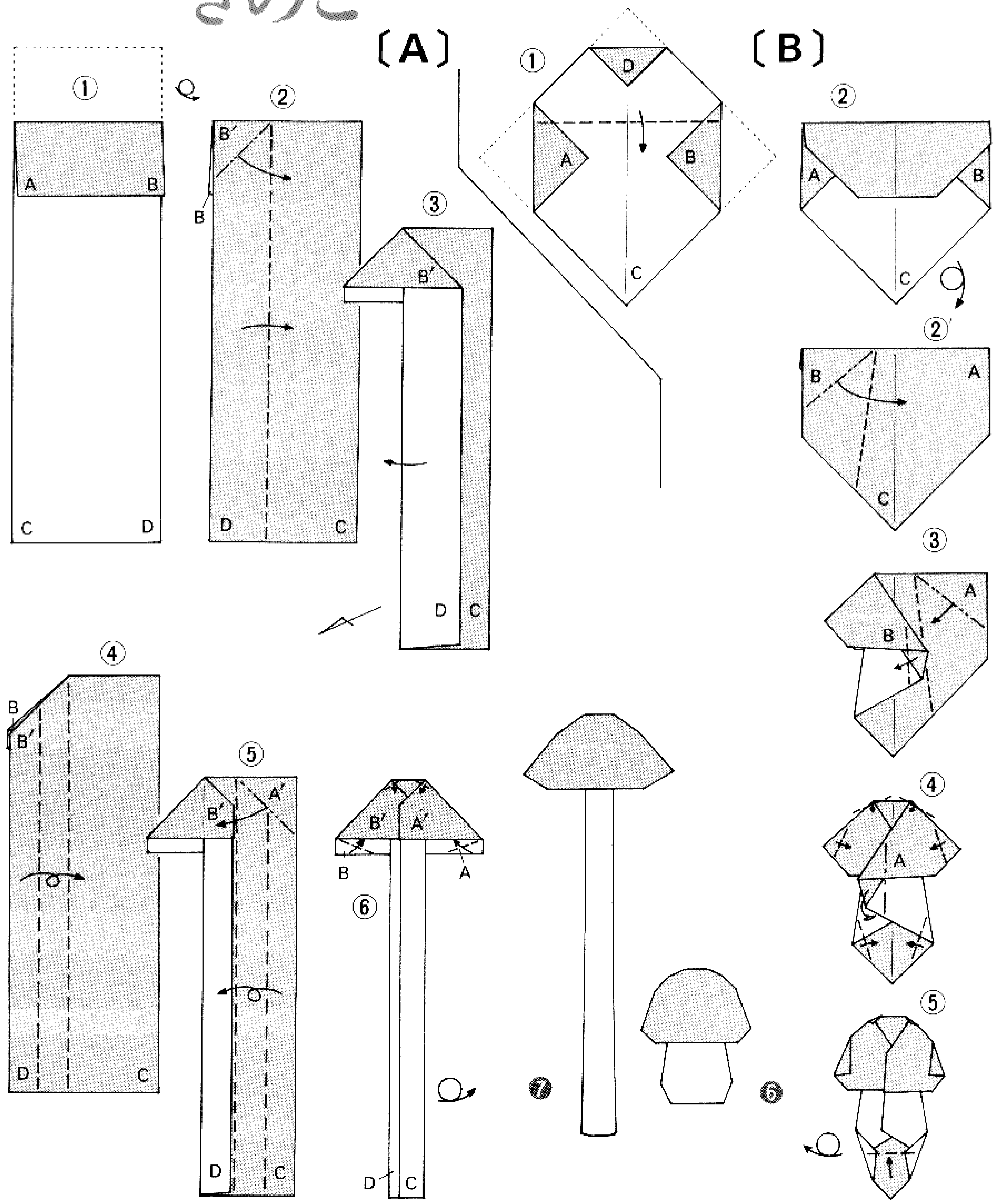
にんじん

朱赤と緑の正方形の紙を重ねて、Aのカドを三等分して根の部分を作り、Bの部分で葉を作る。

①Aのカドを図のようにして三等分する。②1、2の順に折る。③④を折る。⑤山線と谷線でそれぞれ段をつける。⑥HIを間へ折る。⑦FGを裏へ折る。⑧山線と谷線で放射線状に折りたたんでから、あっさりともんで葉の感じを出す。木の葉のように畝折りにしてもよい。❾出来上がり。



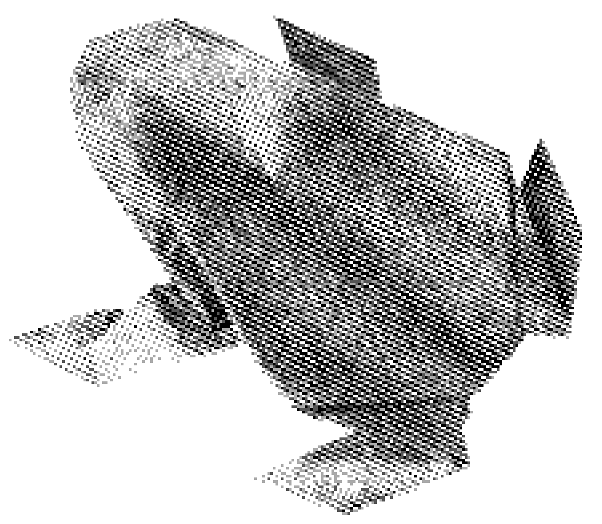
きのこ



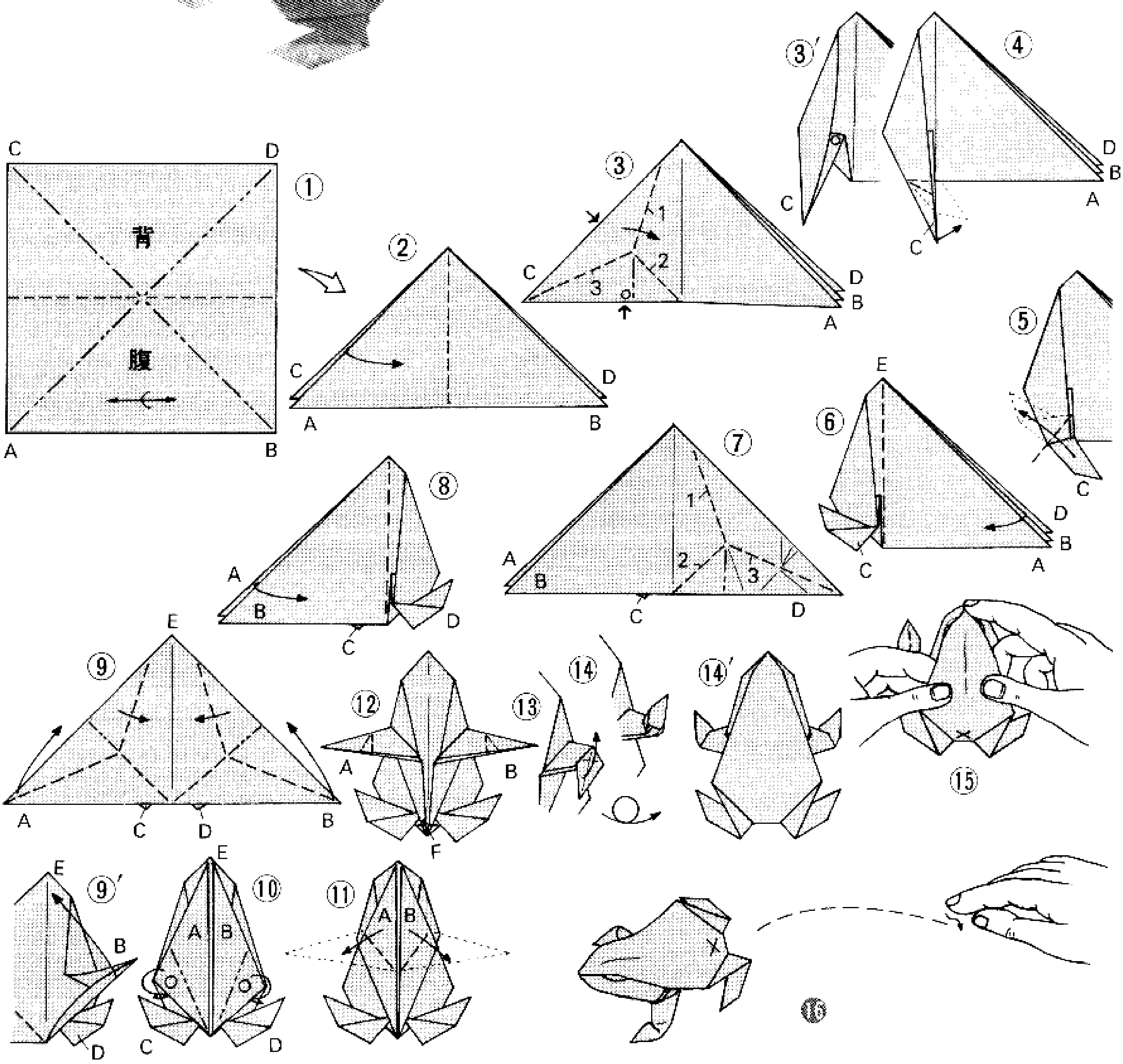
きのこ〔A〕 ①長方形の紙（縦横の割合は自由）の幅の$\frac{1}{2}$くらいを折り返してから、裏返す。②B′の袋を開きながら谷線を折って③のようにする。③Dを矢印に返す。④谷線を二回折る。⑤右側も左側と同様に折る。⑥それぞれ矢印に折ってから、軸の上のほうを押しつぶして、丸やかに形をととのえる。❼出来上がり。

きのこ〔B〕は正方形の紙から〔A〕と対照的に、小さく丸やかに仕上げる。

かえる



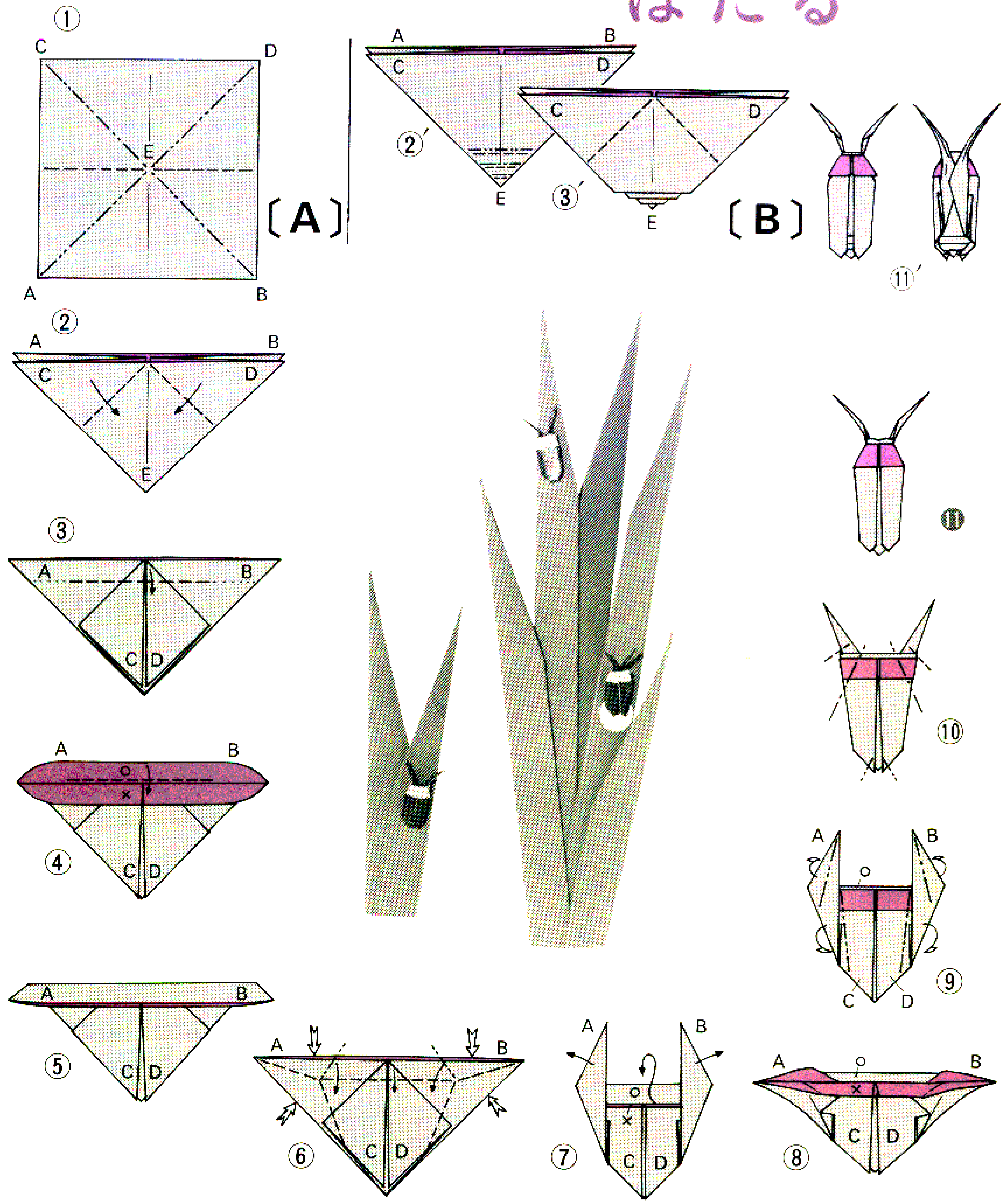
紙には和紙にも洋紙にも、軽く曲げてみて弾力の強いほうと弱いほうがあり、曲げやすいほうを縦紙といいます。①のようにして縦紙を使うと、弾力でよくはねます。紙の大きさと、厚さの割合を工夫して折れば、体の5〜6倍はねます。



〔はねがえる〕

①正方形の紙を山線と谷線の折り目をつけて、②のようにし、Aを返す。③③′かえるの背の形を考えながら1を折り、しりの形を考えながら2を折り、3の谷線を折る。④Cを点線のように折る。⑤Cを点線のように折って、右の後ろ足が出来る。⑥AとBを返す。⑦DをCと同様に折る。⑧Bを返す。⑨Bを⑨′のようにして、カドをEに合わせる。Aも同様に折る。⑩○印を間へ折る。⑪AとBを点線へ折る。⑫Fを折り、AとBを⑬⑭のように折ってから、表へ返す。⑭′を⑮のように持って机の上に押しつけ、体の前半分を上にそらし、頭を人さし指で押さえて少しふくらませる。⑯出来上がり。×印を指で押さえてすべらすと、ぴょんとはねる。

ほたる



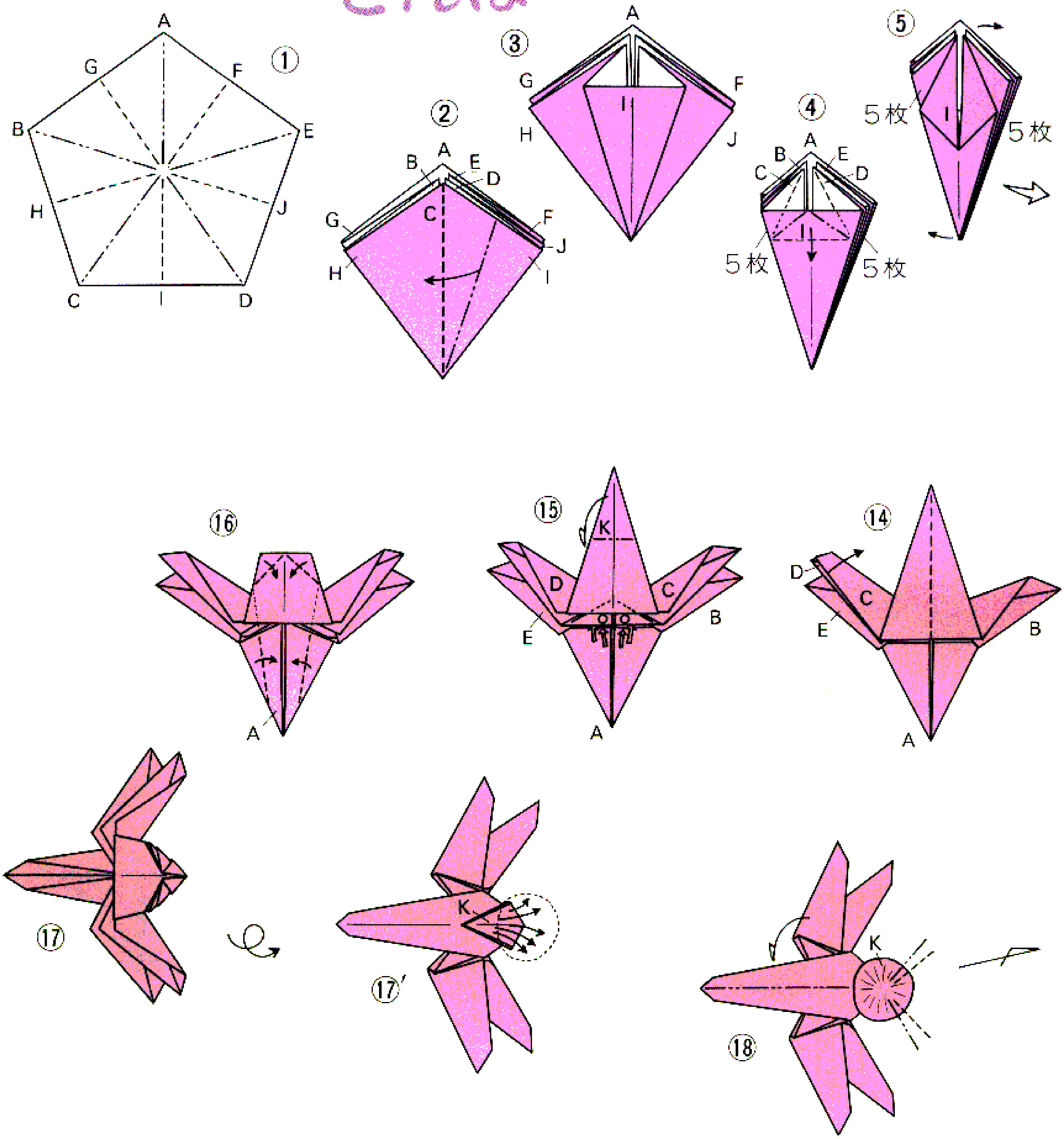
薄手の紙で小さく作る。色は黒い片側染めの裏を赤く染めて用いる。

ほたる〔A〕 ①正方形の紙を山線と谷線で折り目をつけて②のように折りまとめる。②CDを折り下げる。③矢印に折る。④⑤は③で折った折り目の外側を少しあけて折り目をつけ、ABをもどす。⑥ABを谷線と山線で矢印につまんで折り上げ、⑦のようにする。⑦は⑧のように半開きにして、○印のついた一枚だけを×印の下側へ差し込んで、⑨のように折り目をなじませる。⑨⑩それぞれ折り線の角度に注意して折る。⓫出来上がり。○印のずらした部分は出来上がりの目になっている。

飛んでいる姿にするには、羽を左右に広げる。ほたる〔B〕は〔A〕の折り方に従って折り、Eに細く段をつけて腹の感じを出したもの。

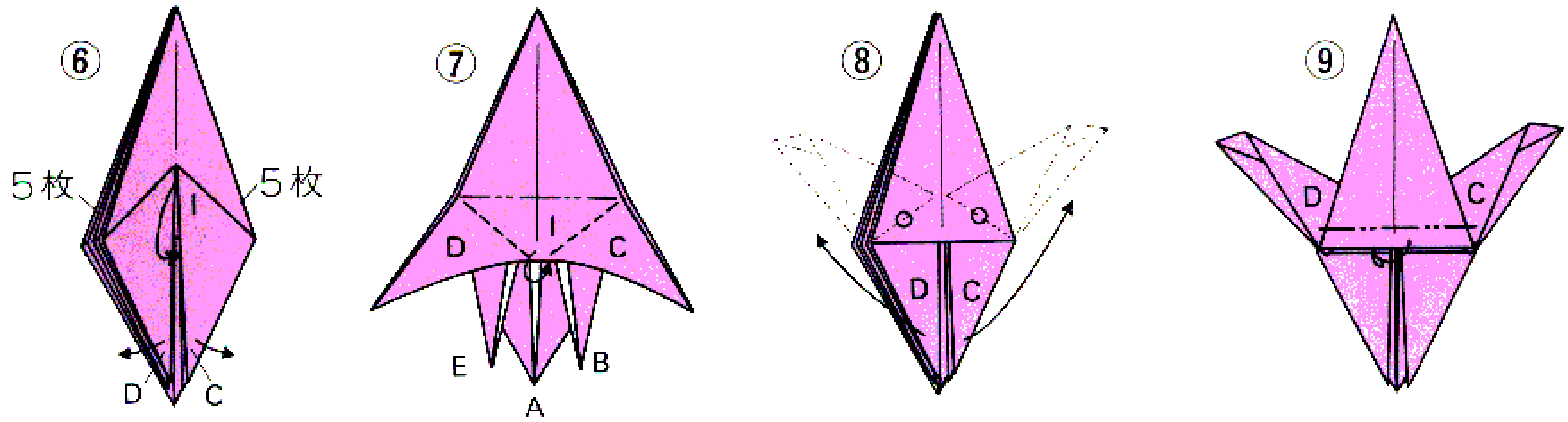
緑の紙で平行葉脈の葉を作って、ほたるを止まらせて飾るとよい。

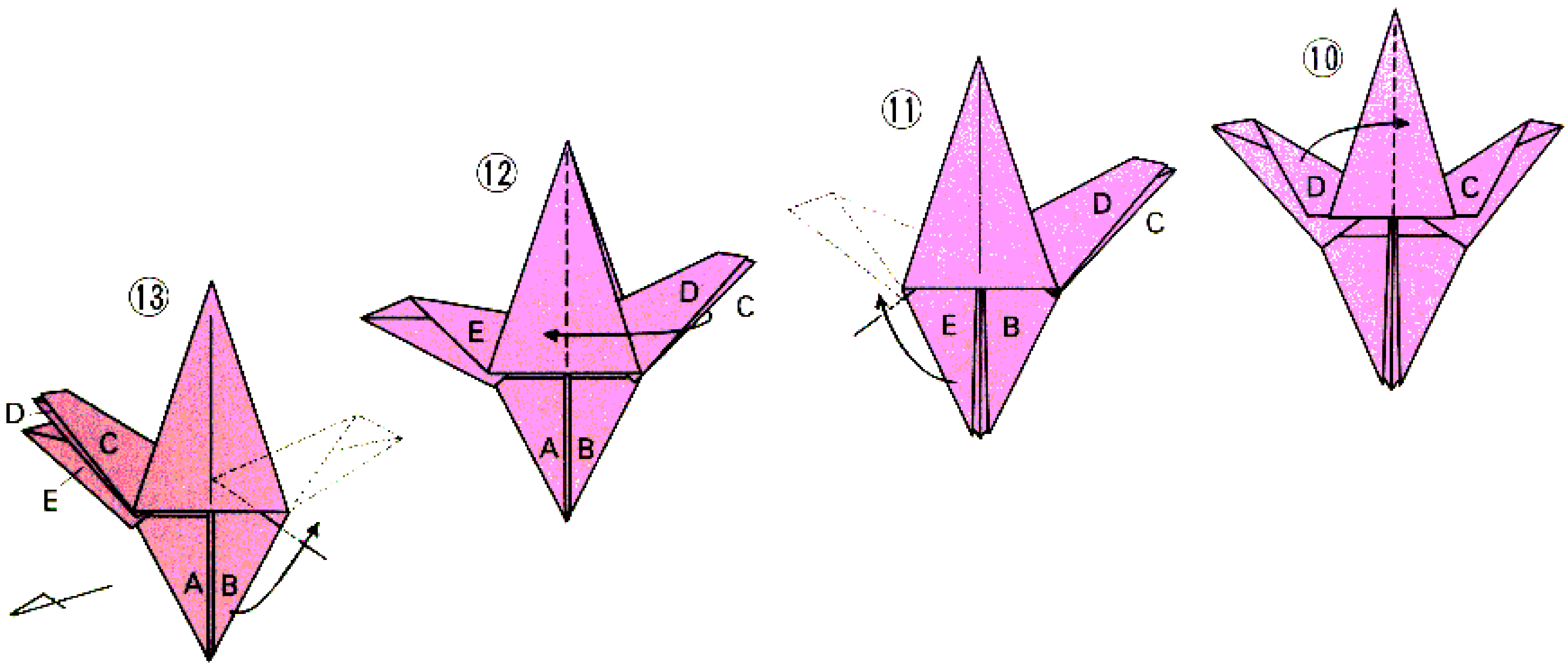
とんぼ

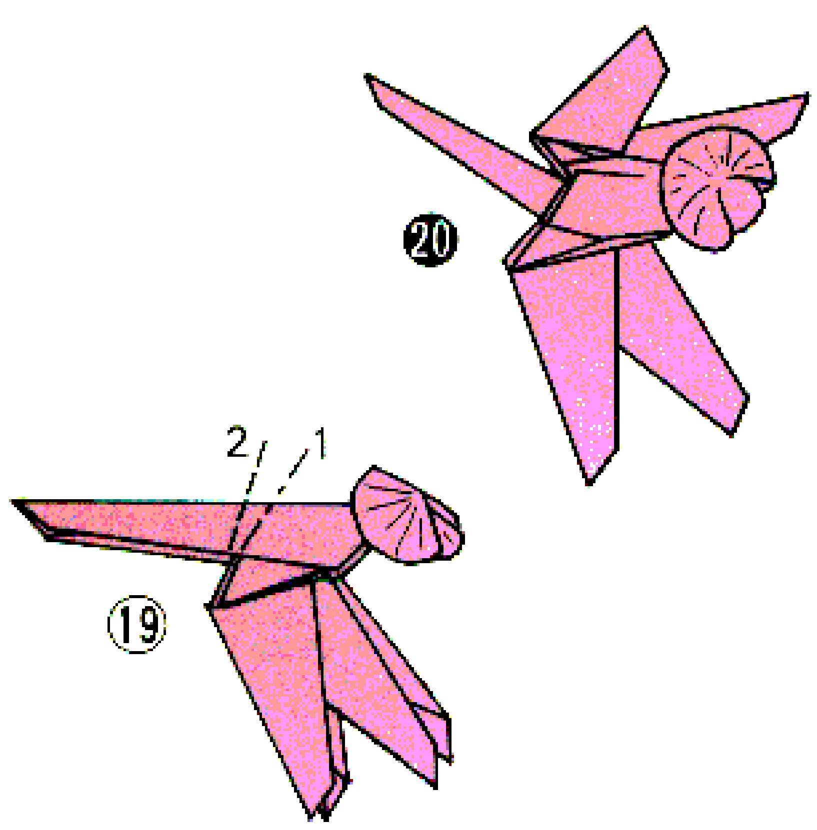


五角形の紙を用いる（用紙の作り方は37ページ参照）。

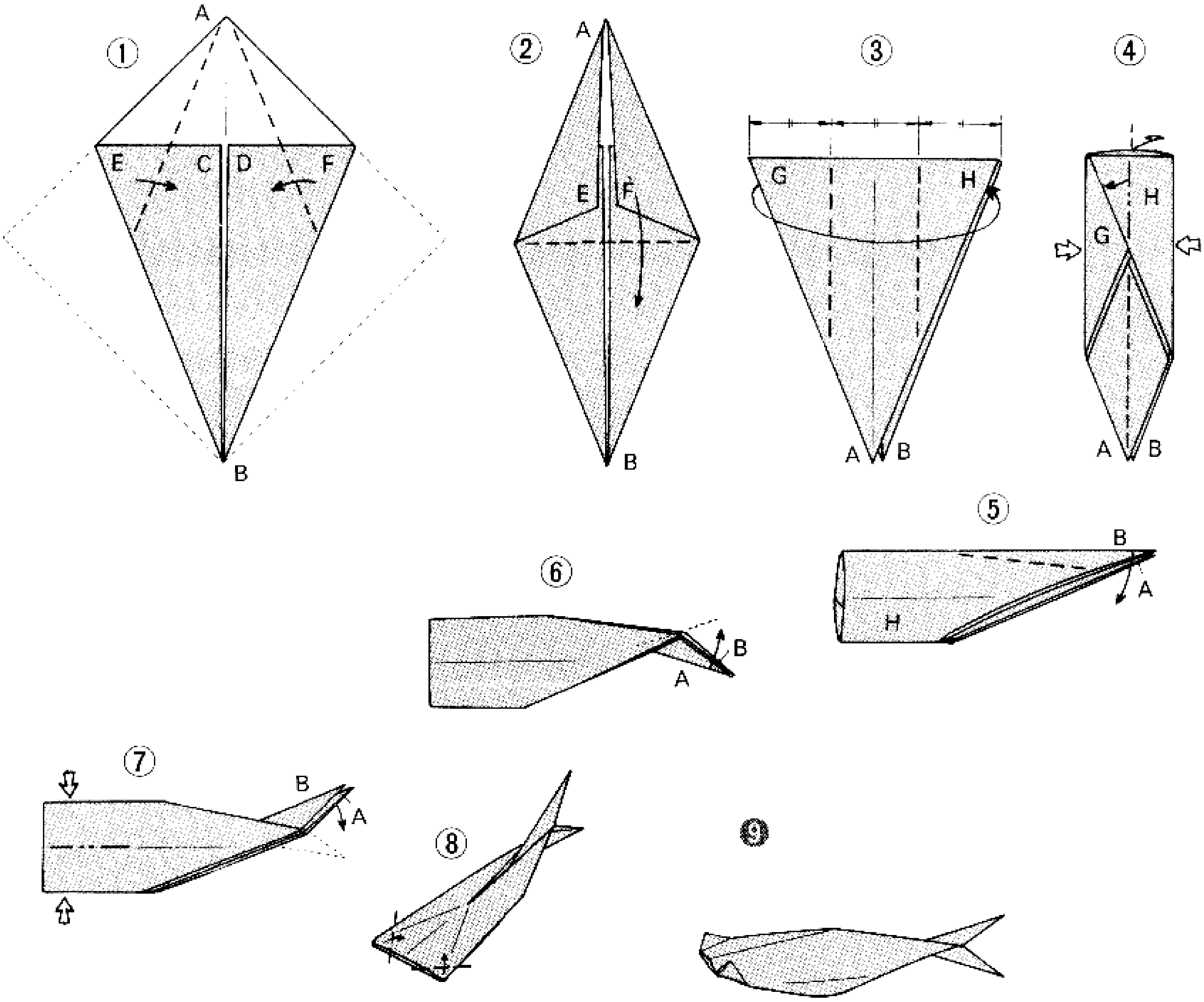
五角形の紙を①のように折り目をつけて②のように折りまとめる。②Ｉの袋を折り広げる。③ＧＨＪＦもＩと同様に折る。④山線と谷線でＩを開き出す。⑤、③で折ったＧＨＪＦをＩと同様に折ってから、上下の向きをかえる。⑥ＣＤを⑦のように引き出し、Ｉを内側へ折り込む。ＧＨＪＦもＩと同様に折る。⑧ＣＤを○印の内側で点線の位置から、それぞれ少しねじって点線へ折る。⑨矢印に折り込む。⑩Ｄを右へ返す。⑪Ｅをねじるようにして点線へ折る。この場合、ＣＤの前羽に対して、Ｅを後羽の位置に折る。⑫ＣＤを左へ返す。⑬ＢをＥと同様に、後羽の位置へ折る。⑭Ｃだけ右へ返す。⑮Ｋを裏へ折り、○印の部分をそれぞれ羽の間へ斜めに折り込む。⑯上の矢印のカドを折り、Ａの谷線の上のほうは点線の裏側で折る。⑰裏返す。⑰′Ｋを点線へ丸やかに開き出す。⑱Ｋの山線と谷線に段をつけて口を作り、縦に二つに折る。⑲Ａを１の山線で折り込み、２の谷線で折り返し、形をととのえる。⑳出来上がり。


⑥
５枚
５枚
D
C
⑦
D
C
E
A
B
⑧
D
C
⑨
D
C


⑩
D
C
⑪
D
C
E
B
⑫
E
D
C
A
B
⑬
D
C
E
A
B


⑳
2
1
⑲



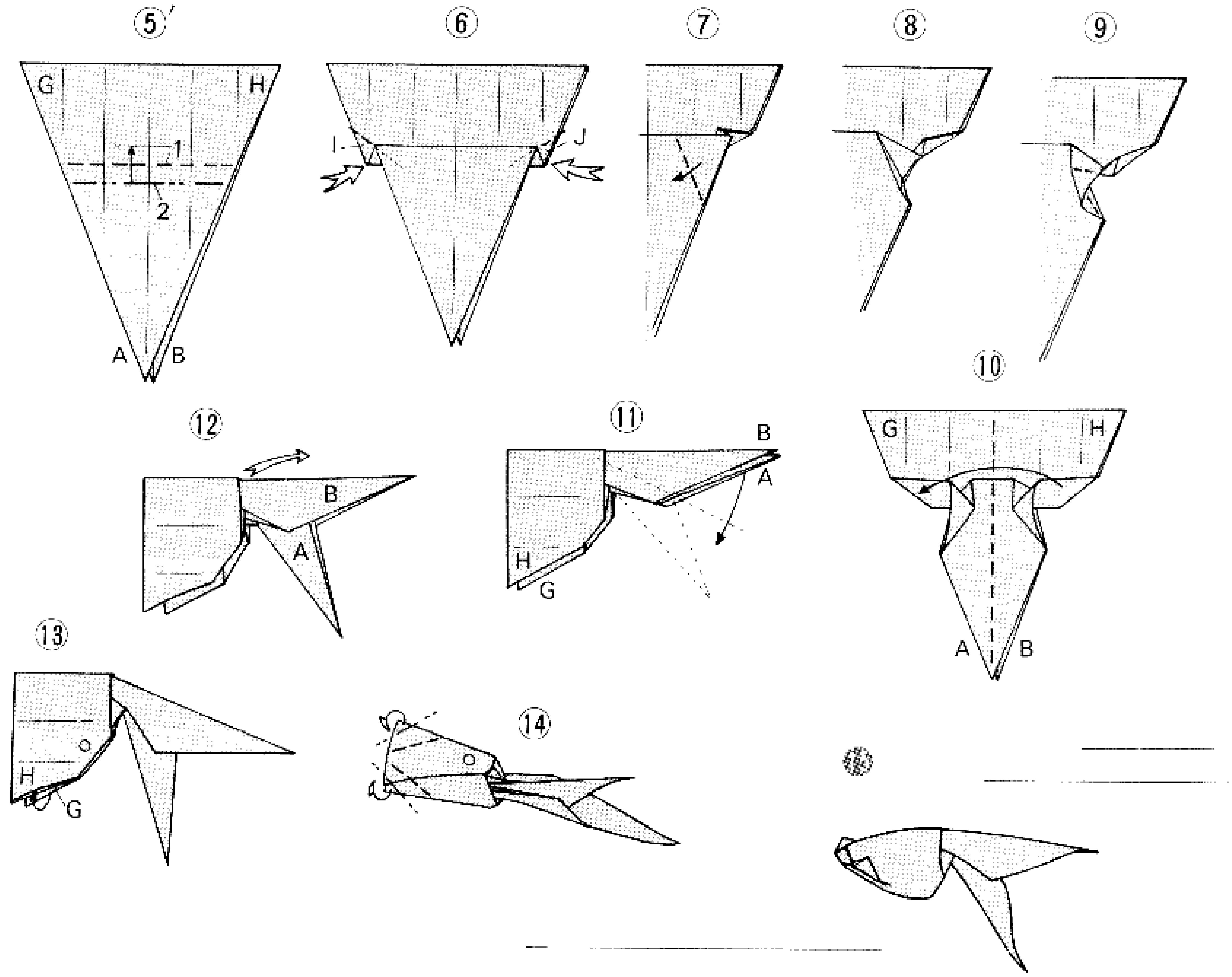


めだか

グレーか薄い朱赤の薄口の和紙を小さく切って、手軽にすっきり仕上げます。

正方形の紙を①②のように折る。③三等分の折り目をつけてから、Hの袋にGを差し込む。④上から指を入れて、HとGがはずれないように持ちながら、左右から押しつぶす。⑤ABを重ねたまま間へ折る。⑥ABを重ねたまま点線の内側で折り返す。⑦Aを点線へ引き出して尾の形にととのえ、中を筒状にして山線を折って、頭と尾を引っぱり、紙に小じわを入れないように注意し、頭のほうだけ平らにする。⑧目の部分を小さく折り上げて形をととのえる。❾出来上がり。

でめきん

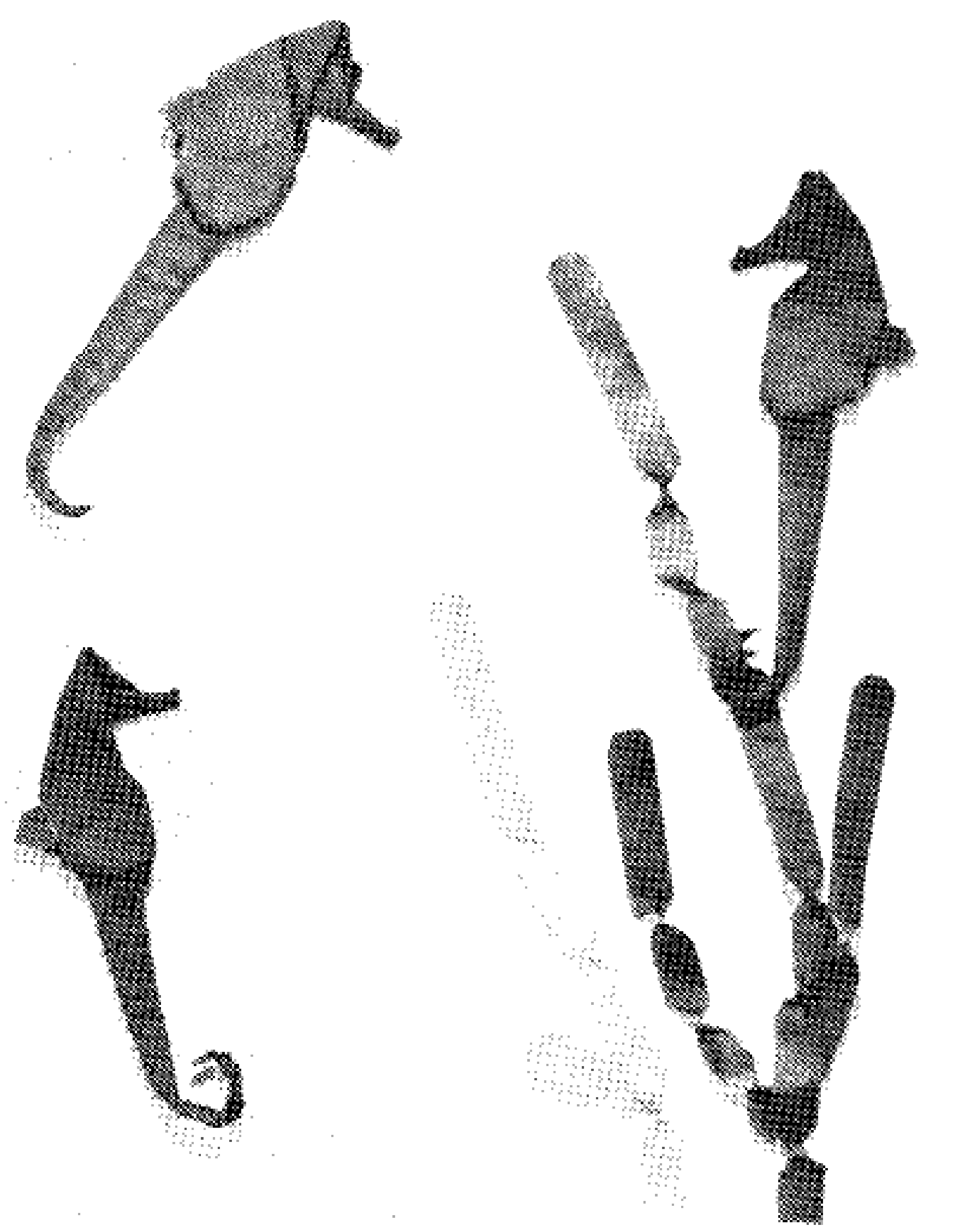


赤または黒の和紙で優しい感じに仕上げます。

めだかの⑤まで折って広げ、⑤′谷線と山線で段をつける。⑥ＩＪのカドを⑦～⑨のようにして折り込む。⑩二つに折る。⑪Ａの一枚をなるべく元のほうから折り出す。⑫尾を静かに引き出してから、付け根と腹の部分を押しつぶす。⑬腹に指を入れてふくらませ、Ｈの袋にＧを差し込む。⑭頭はめだかと同様に折り、胸の谷線に折り目をつけ、尾を指でしごいて、うすく、やわらかい感じを出す。⑮出来上がり。

ＧとＨを組み合わせないで、外側に折り出して胸びれにすることも出来る。

たつのおとしご



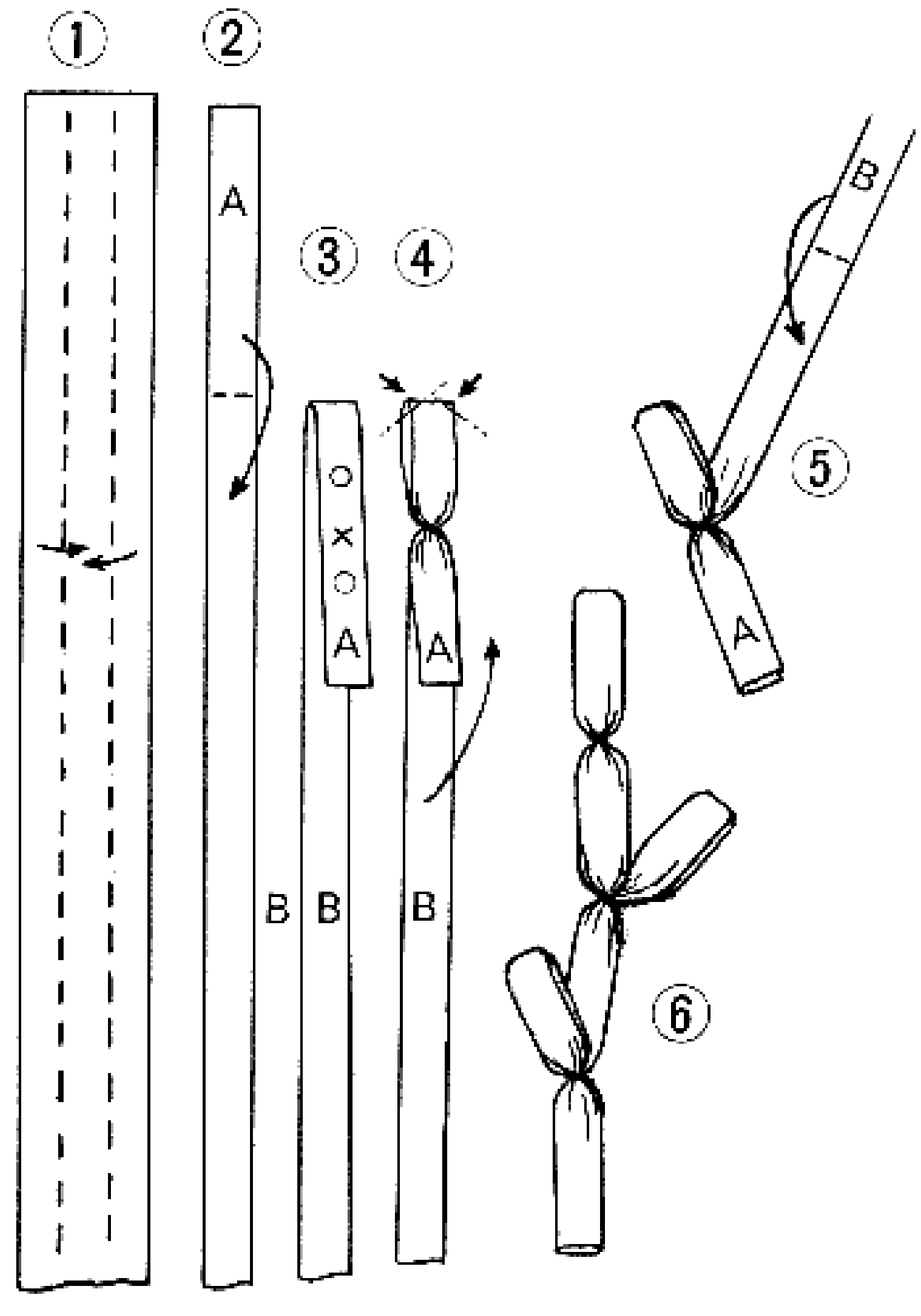
みずくさ の作り方

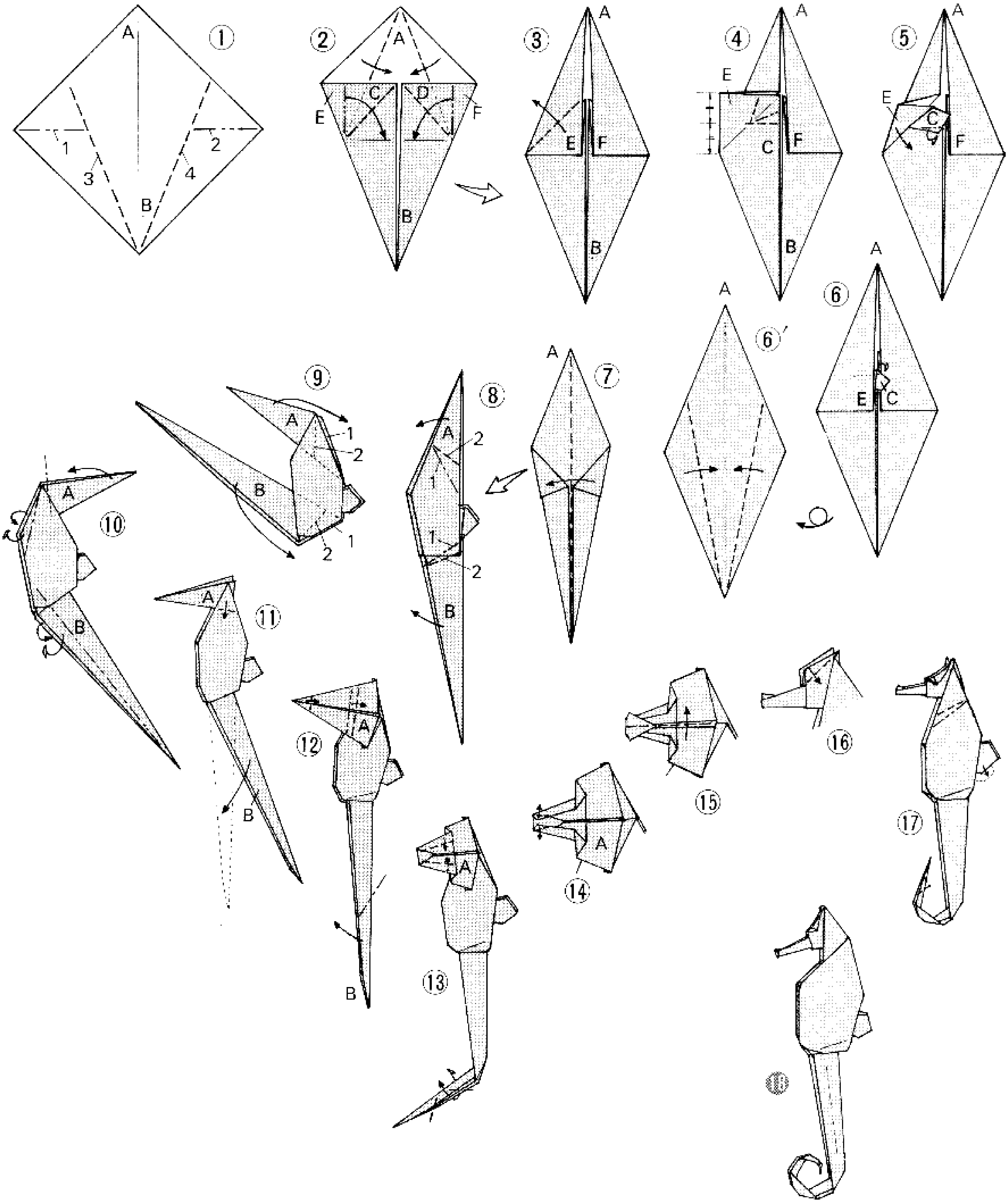
緑系統の薄い紙やセロハン紙を３㎝幅に長く切って、三つ折りにしてから③のように曲げ、○印をつまんで×印のところをねじる。④の上のカドを小さく折り込んでからＢを引き起こし、⑤で、またＢを同じように繰り返して、変化のある形を作る。また、もっとシンプルな形が必要なときは、ところどころねじってアクセントをつけただけでもよい。

長年折り紙で動物を折っていて、つくづく思うことは、命こそ形、形のないところに命は存在しないということです。それにしても生き物の形のまことに不思議で、想像もおよばないような形に出会うことがあります。

それらの生き物を観察すると、その形がもっとも自然な形に見えてくるものです。雄の腹に育児嚢をもっている「たつのおとしご」などは、おもしろいというより不思議な形です。

この折り方は頭、胸と腹、尾の三つの部分に分割することがたやすくできるので、いろいろな姿に折りかえることが出来ます。

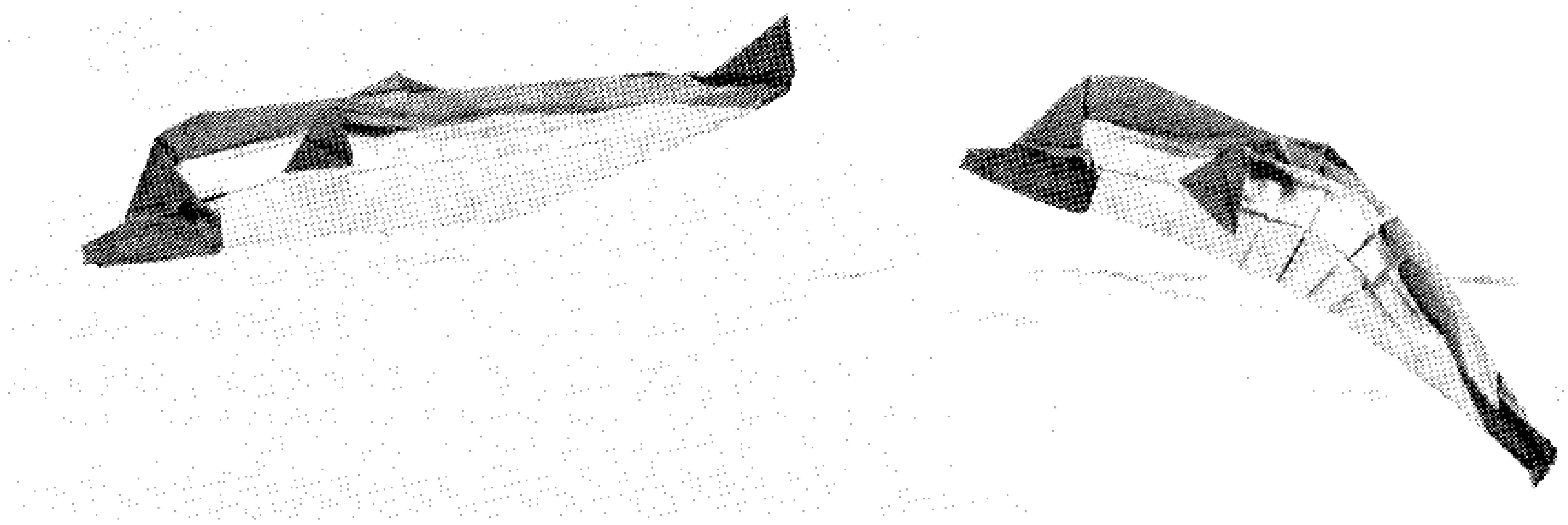


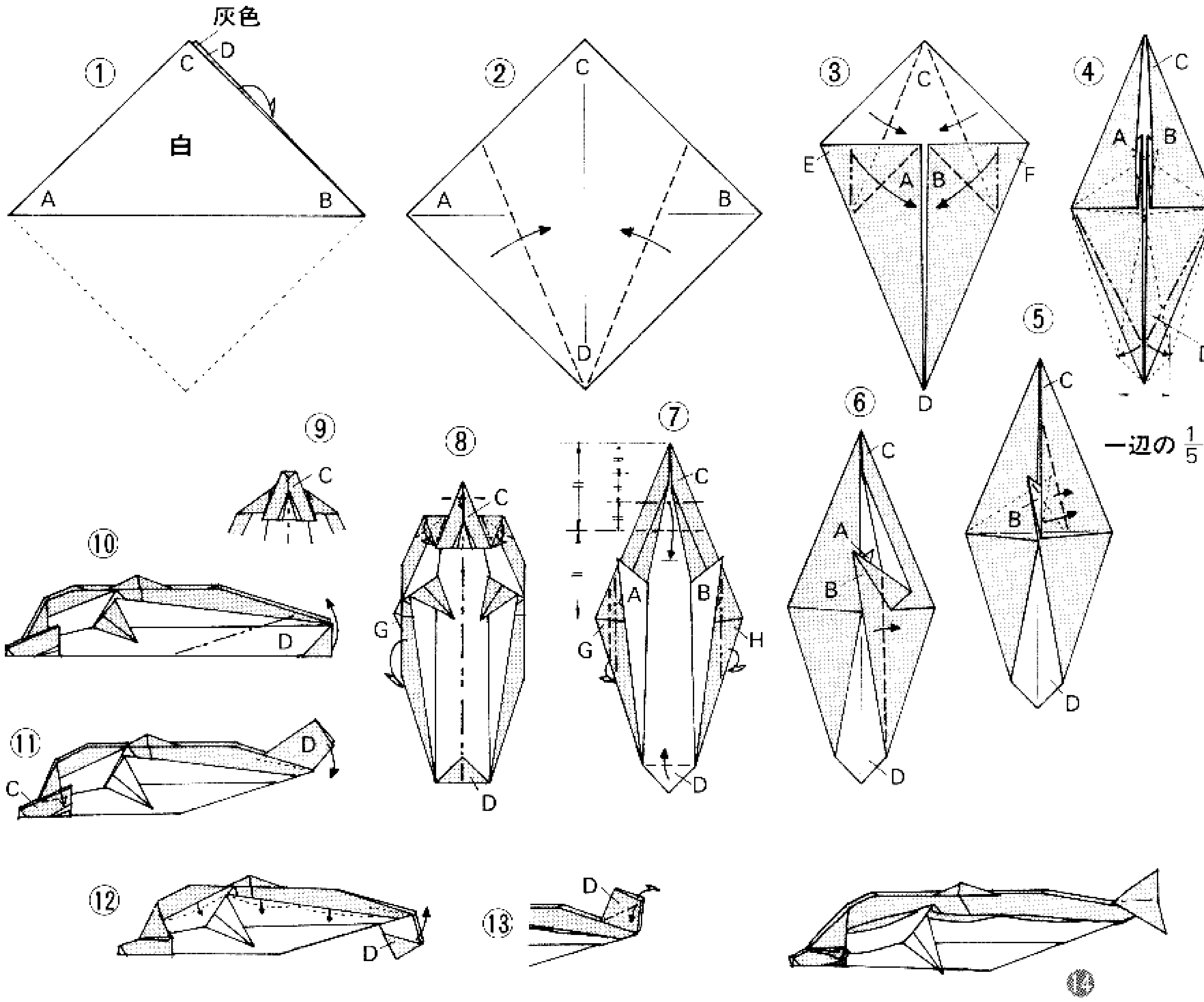


①正方形の紙に１、２の山線に折り目をつけてのばし、３、４の谷線を折る。②それぞれ矢印に折る（ＣＤの谷線は①でつけた折り目の裏）。③Ｅを折り上げる。④⑤⑥Ｃをつまみ出して上と下のカドを小さく折り込み、反対側のＤもＣと同様に折ってから裏返す。⑥′⑦を折る。⑧⑨１の山線の位置からＡＢをそれぞれ折り込み、２の谷線の位置から折り返す。⑩Ａを矢印に折り返してから、その下とＢを折り込む。⑪Ｂを点線へ静かに引き出し、Ａの上側だけ開く。⑫から⑯まで部分図のように折って頭を作り、尾を順に折ってまるめる。⑰首をつまんで中へ押し込み、ひれを引き下げて形をととのえる。⑱出来上がり。

写真のように、みずくさを添えて色紙につければ、涼しそうな室内飾りになります。

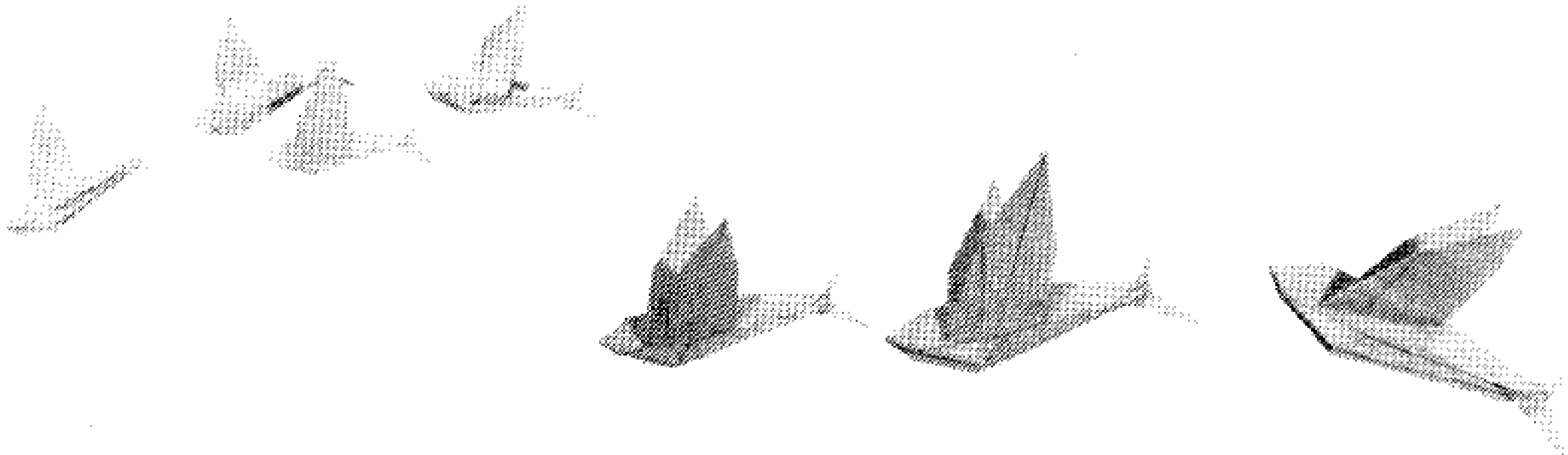
いるか

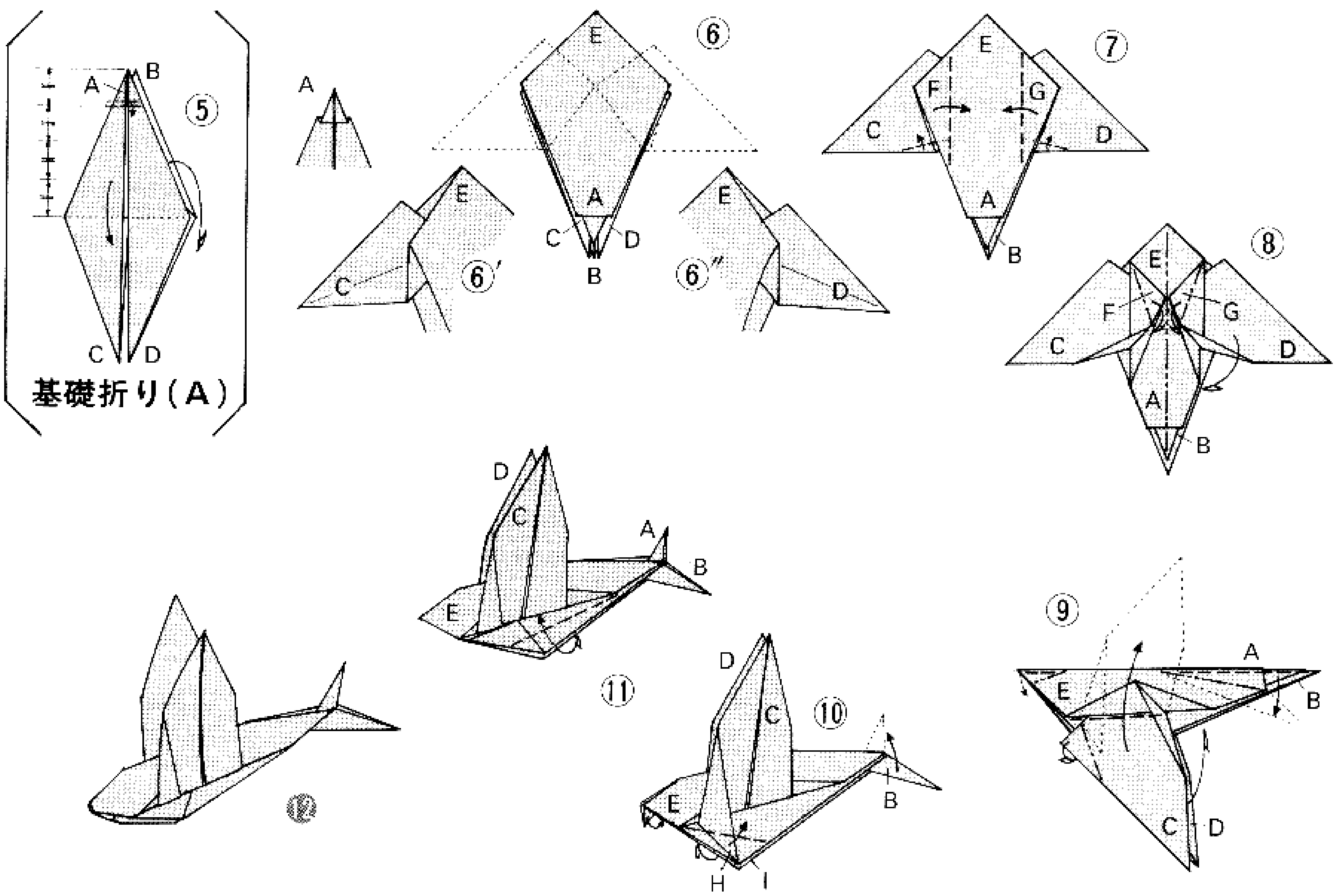




用紙は裏の白い灰色の紙で折る。①正方形の紙を対角線に折り、ABのカドのほうにだけ折り目をつけ、Dを裏へ開く。②矢印に折る。③AとBを①でつけた折り目を折りながら、矢印にそれぞれ折って④のようにする。④AとBをCの袋の中から引き出し、Dを点線へずらして(用紙の一辺の長さの約$\frac{1}{5}$ぐらい)⑤のようにする。⑤矢印に返す。⑥矢印に折り、左側も同様に折る。⑦それぞれ矢印に折る。Gは折り返して背びれにする。⑧Cの先を小さく折り込んで⑨のようにしてから、二つに折る。⑩Dを間へ折り上げる。⑪Cの矢印に折って目を作り、Dを折り下げる。⑫⑬Dを折って尾を作り、⑫の点線の部分に曲線をつける。⑭出来上がり。

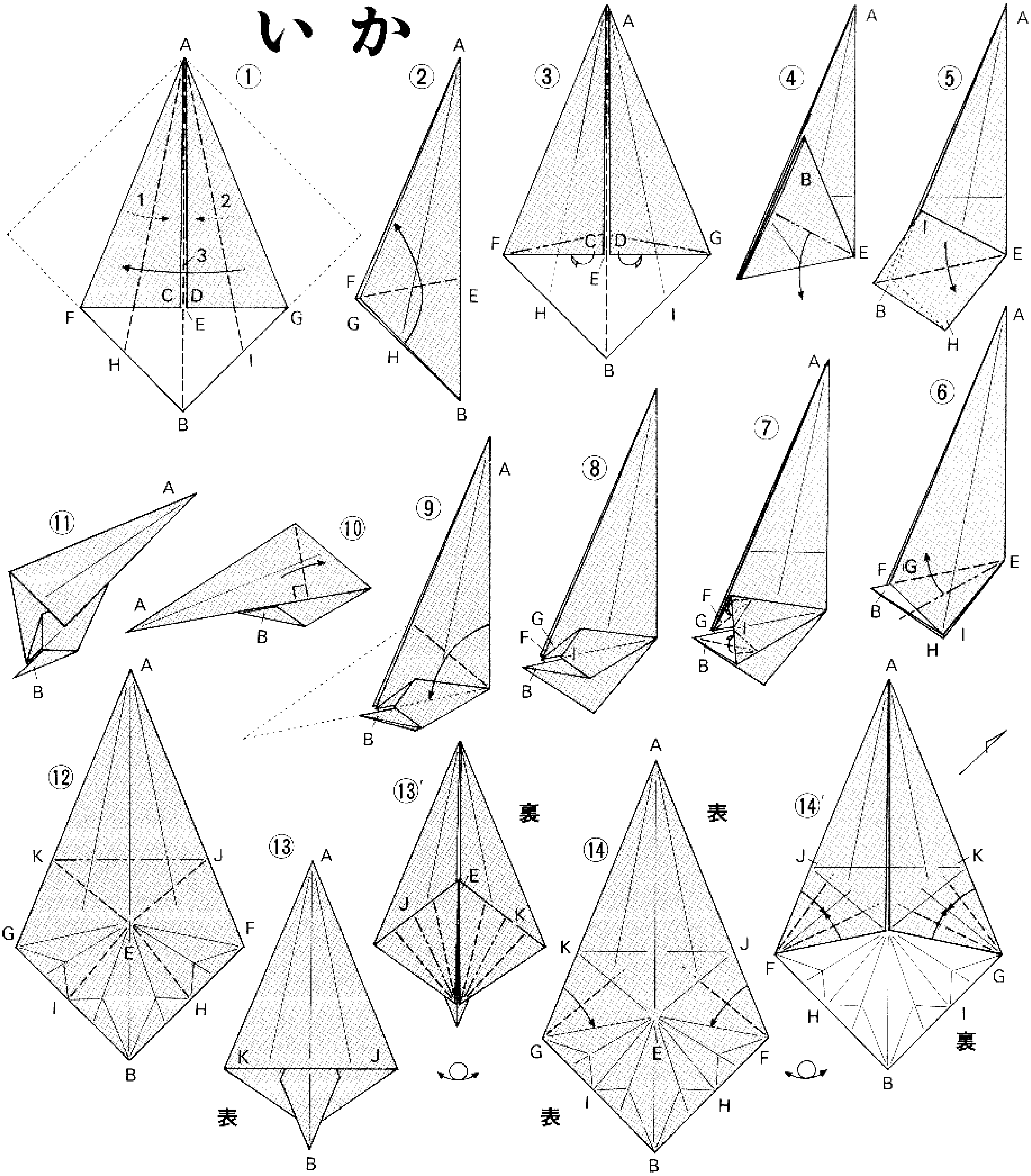
とび魚



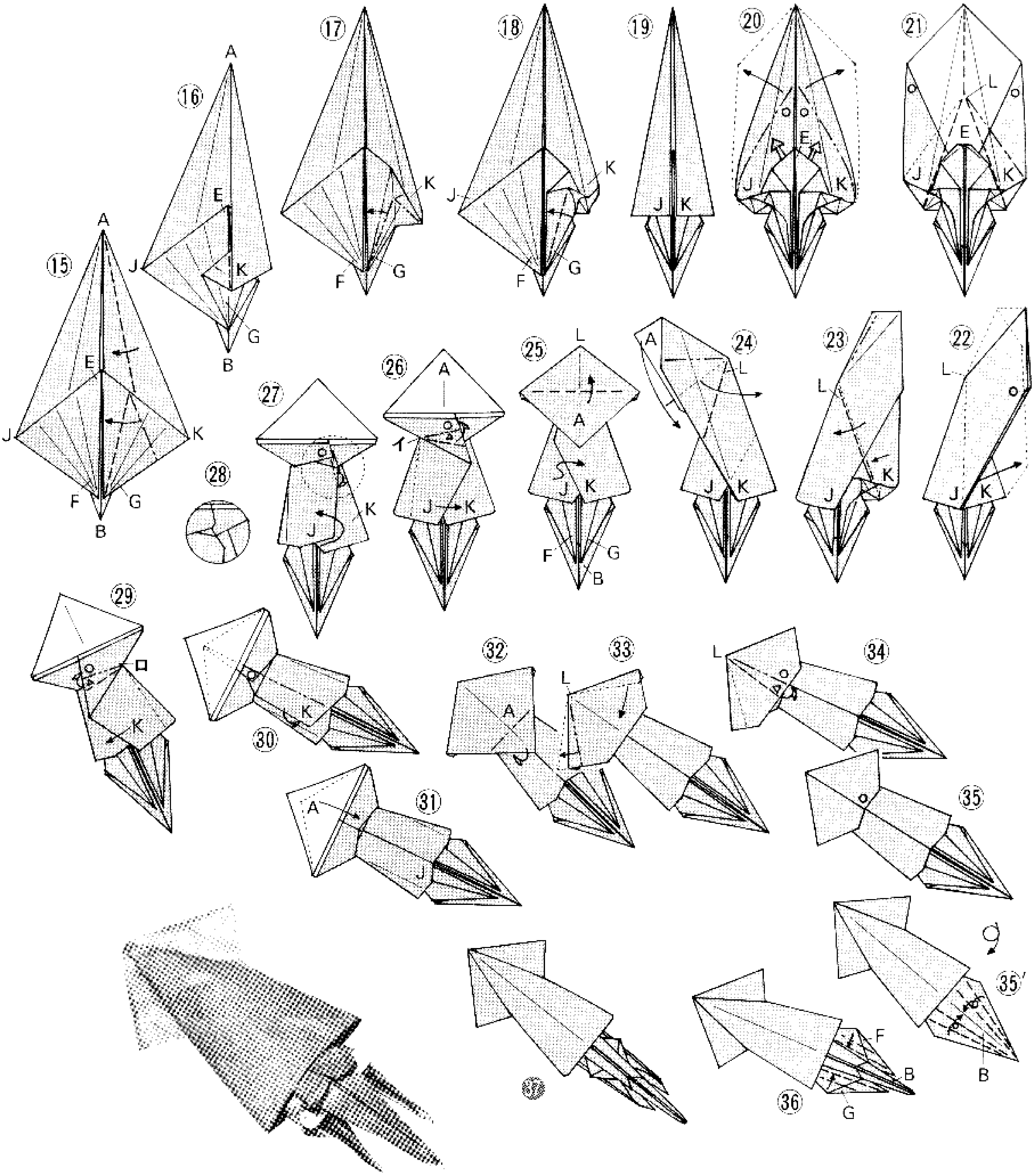


基礎折り（A）から折る。⑤Aの先に図の割合に小さく段をつけてから折り下げる。⑥CDを内側でそれぞれねじるようにして点線へ折る。⑦FGを折る。この場合、左右の小さい矢印の部分がしぜんに折れる。⑧FGを折り込んでから二つに折る。⑨Eを折り込み、ABを重ねたまま点線へ折り込み、CDを折り上げる。⑩⑪Bの内側からAを引き出して尾をつくり、E、HIを矢印にそれぞれ折って形をととのえる。⑫出来上がり。

いか

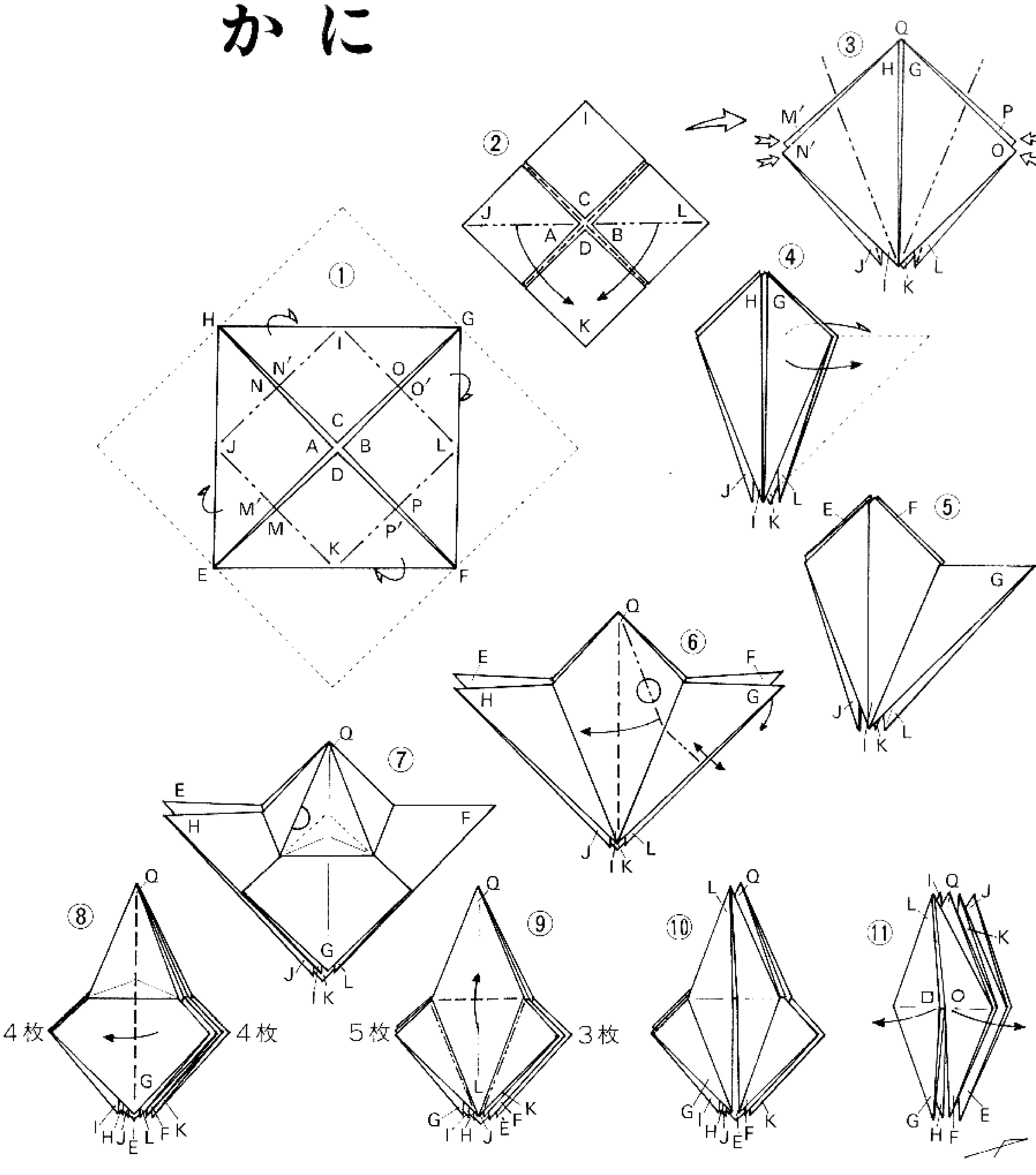


正方形の紙を①のように折ってから、1、2の折り目をつけてのばし、3を折る。②谷線を折り、いったん広げる。③CDを②でつけた折り目で間へ折ってから、④のように折る。④⑤⑥矢印に折る。⑦GとBの上側を折り、カドを1の裏へ折る。⑧裏側も同様に折る。⑨⑩⑪を折って折り目をつけて⑫の形に広げる。⑫の折り目で⑬のように折りまとめる。⑬裏返す。⑬′の折り線を⑭と⑭′のように広げて折り目をつけて折りまとめる（HIはBとFGの間にかくれる）。⑮G側の谷線と山線で、Kを左に返しながら、Aの谷線の下のほうを少しあけて、折りなじませる。⑯KとGを少し開いて⑰⑱のようにして、順に放射線状に畝折りにしてKを重ね、左側も同様に折る。⑲上のほうを半開きにする。⑳Eの裏側から引き出し、山線の位置を折って点線へ開き出す。㉑Eの左右の谷線は、元のほうを



芯にして、三角の頂点Lを求め、山線の位置を折って点線へ開き出す。㉒Kを点線へ引き出して、右側の一部分を㉑のようにする。㉓は㉑でつけた折り目で左へ折って、Kを折りまとめる。㉔谷線と山線でAを㉕のように開く。㉕Jを引き出してKの上にする。㉖イを支点として山線と谷線で矢印にずらして、○印の裏へ△印を重ねる。㉗ひれの下のカドを㉘のように間へ折り、静かに開いてKをJの上に重ねる(ひれの裏側のほうも)。㉙ロを支点として、それぞれ紙をずらして折る。㉚Kを間へ折る。上のほうはひれの裏側で折る。㉛㉜矢印に折る。㉝Lのカドを支点として、紙の上側だけずらす。㉞○印の下へ△印を差し込む。㉟裏返す。㉟′Bを左右から細く二回ずつ折る。㊱FGを山線と谷線でBの下へはさんで固定し、左右のカドを目の感じに仕上げる。㊲出来上がり。

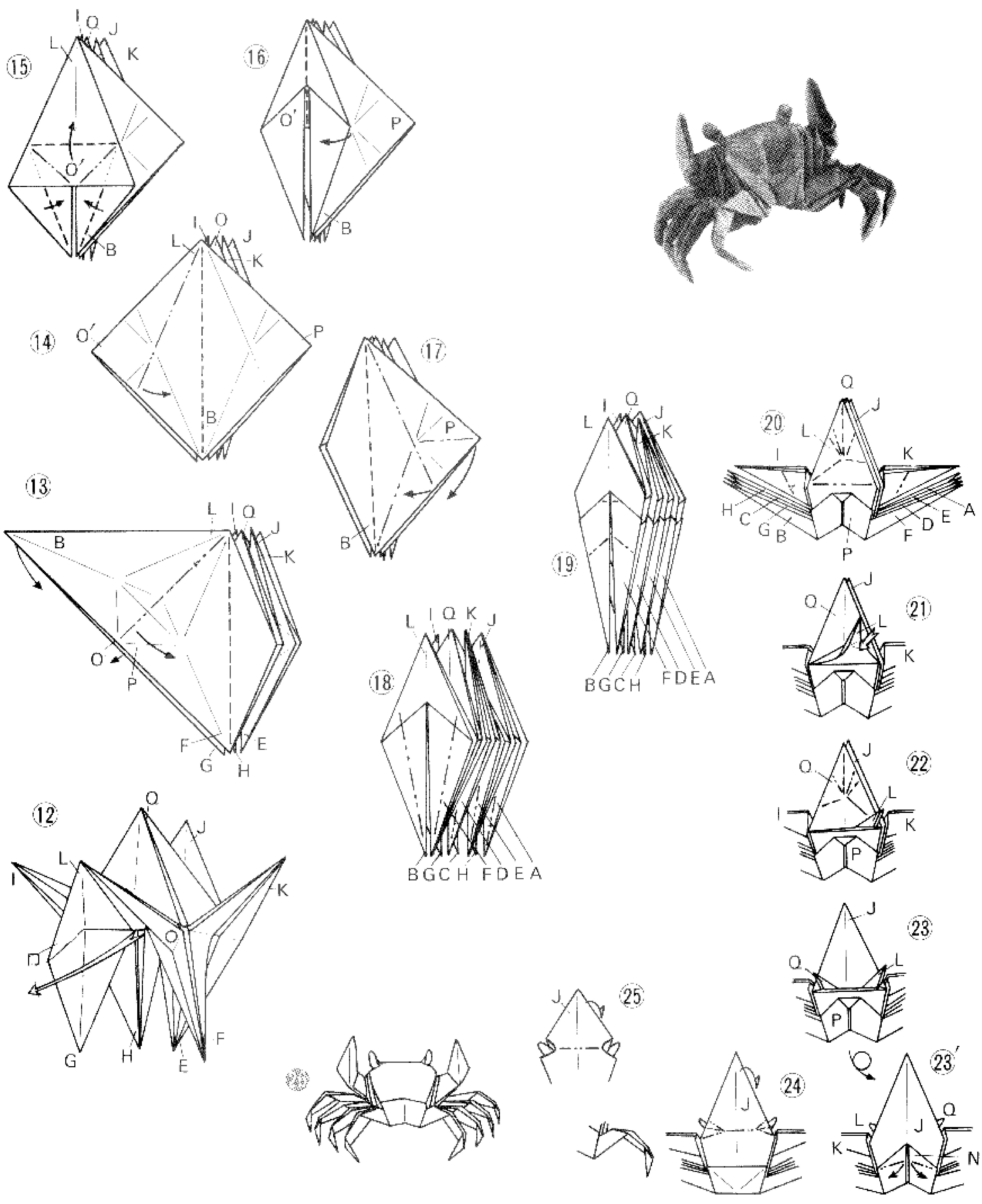
かに



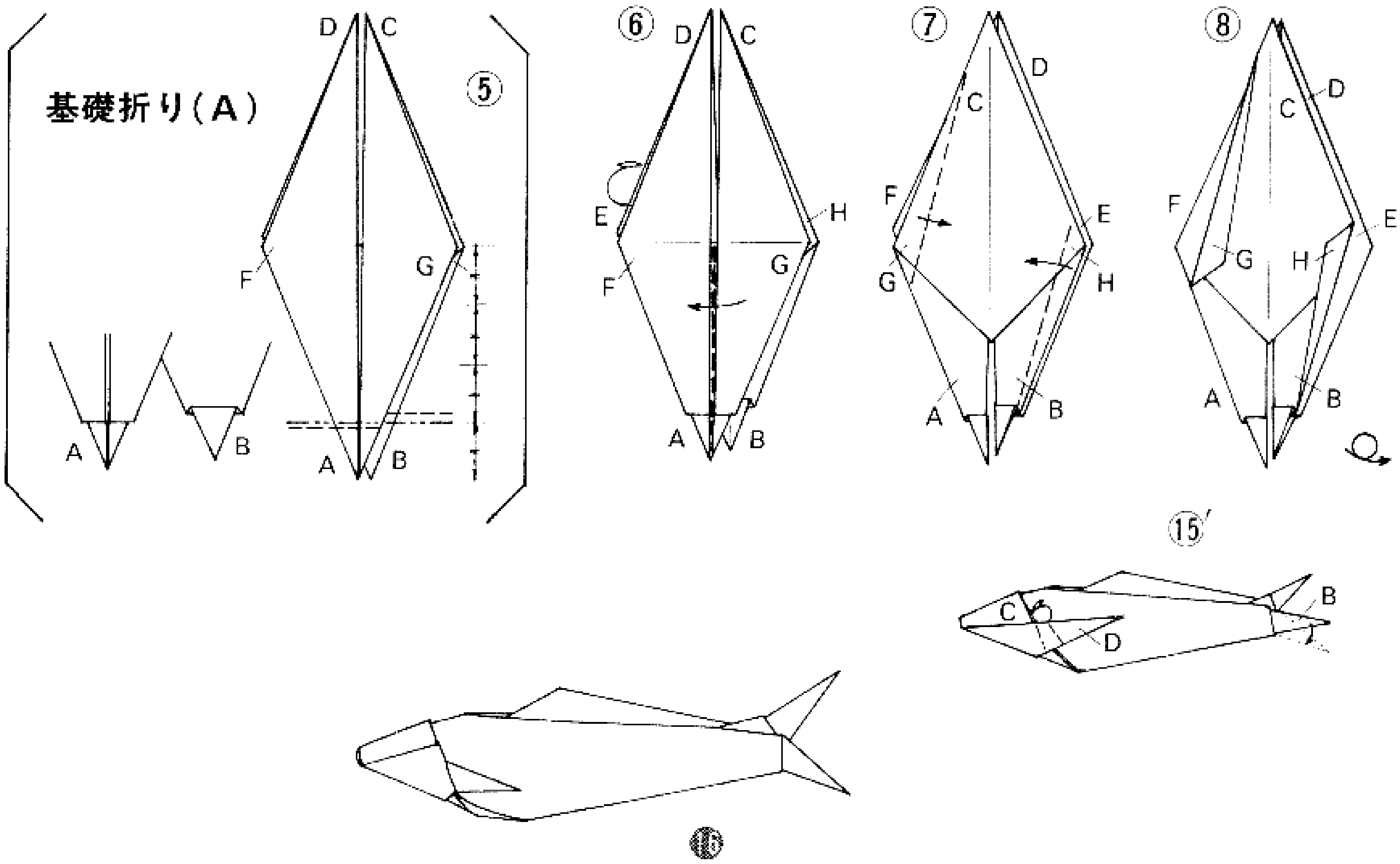
複雑な折り方でも仕上げのやさしいものと、簡単な折り方でも仕上がりが芸術的でむずかしいものとがあります。「かに」の折り方は複雑ですが、手順と製図に工夫がしてありますから、図をよく見て折れば、よい形に仕上げることが出来ます。

折り方を覚えるまでは、薄手の大きめの紙を用い、製図と同じ記号をつけて折ってください。

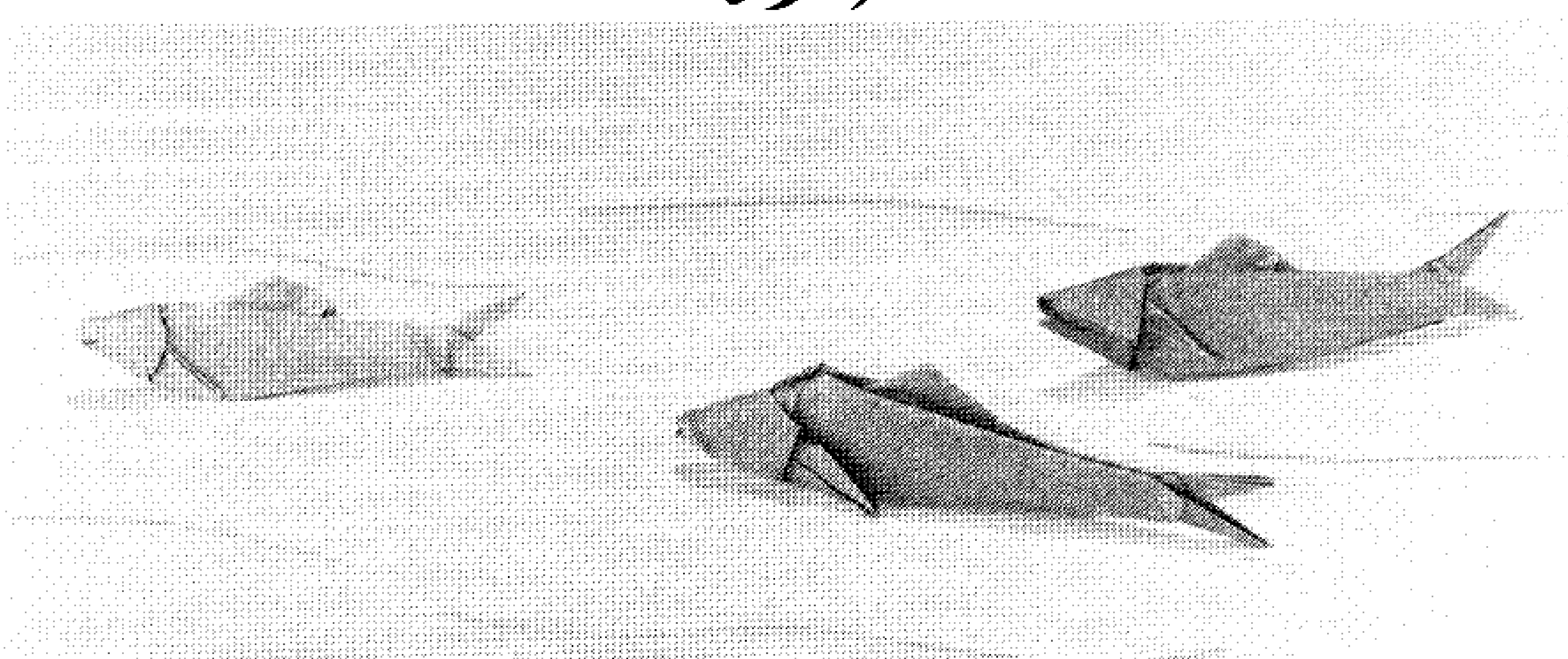
①正方形の紙のカドを中心に折り、それぞれ記号をつけてから、E、F、G、Hを裏へ折る。②山線と谷線に折り目をつけて③のようにする。③山線の位置からM′、N′、O、Pをそれぞれ中へ入れる。④Gを点線へ開き出す。⑤HもGと同様に折り、裏側のE、Fも同様に開き出す。⑥谷線で矢印に引き起こしながら、○印の内側を袋状にして、Gを開いて平らにつぶす。⑦E、F、Hもそれぞれ開きかえて、Gと同様に折る。⑧矢印に一枚だけ返す。⑨山線と谷線でLを折り上げる。⑩I、J、Kも、Lと同様に折る。⑪⑫□印と○印を開いて、中から①で折ったBを静かに引き出す。⑬Bを開く。⑭O′を折り開く。⑮O′を折り上げる。



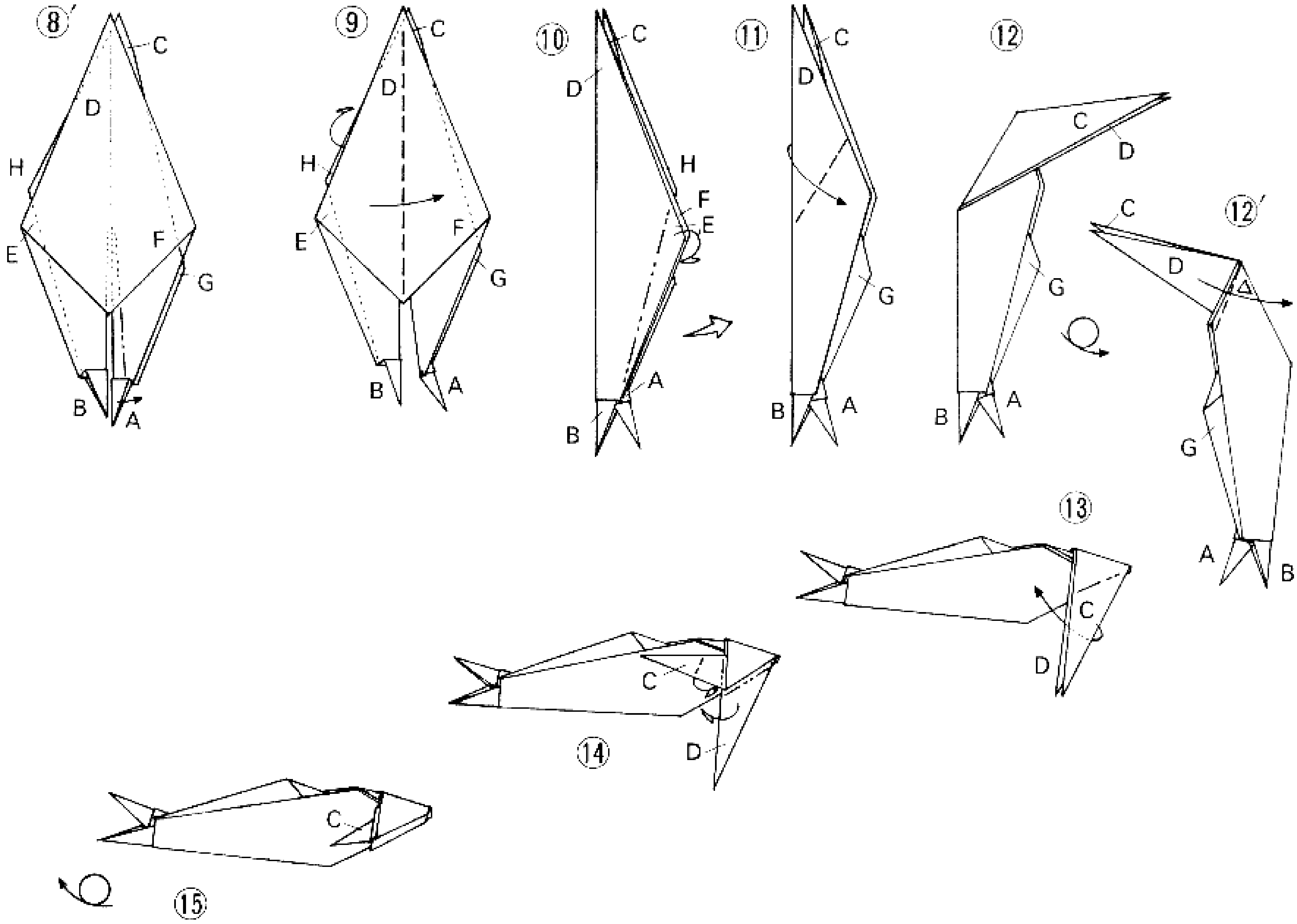
⑯矢印に返す。⑰ＰをＯ′と同様に折り、Ａ、Ｃ、ＤもＢと同様に引き出して、それぞれ⑬から⑰の折り方で折り、とがったカドを全部で13作る。⑱紙の重なりの多いＦとＥを、山線の位置から二枚ずつ細く間へ折り込み、紙の重なりの少ないＤとＡを一枚ずつ細く間へ折り、反対側のＢ、Ｇ、Ｃ、Ｈも同様に折る。⑲ＬとＱで目を作り、ＩとＫをはさみにし、Ｊを甲羅にする。Ｆ、Ｄ、Ｅ、Ａを山線の位置からそれぞれ間へ折り、反対角のＢ、Ｇ、Ｃ、Ｈも同様に折り、ＩとＫを元のほうで間へねじって左右に折り下げる。⑳ＩとＫの先を斜めに折って開き、Ｌを山線と谷線でつまみ、㉑㉒のようにして間へ折り込む。㉒ＱをＬと同様の折り方で間へ入れる。㉓裏返す。㉓′矢印に開いて、背中の下半分を作る。㉔㉕目がはっきり出るように、山線と谷線で三角に小さく折り込み、Ｊの先を㉓のＰの間へ差し込んで甲羅の形を整え、足をそれぞれ折る。㉖出来上がり。

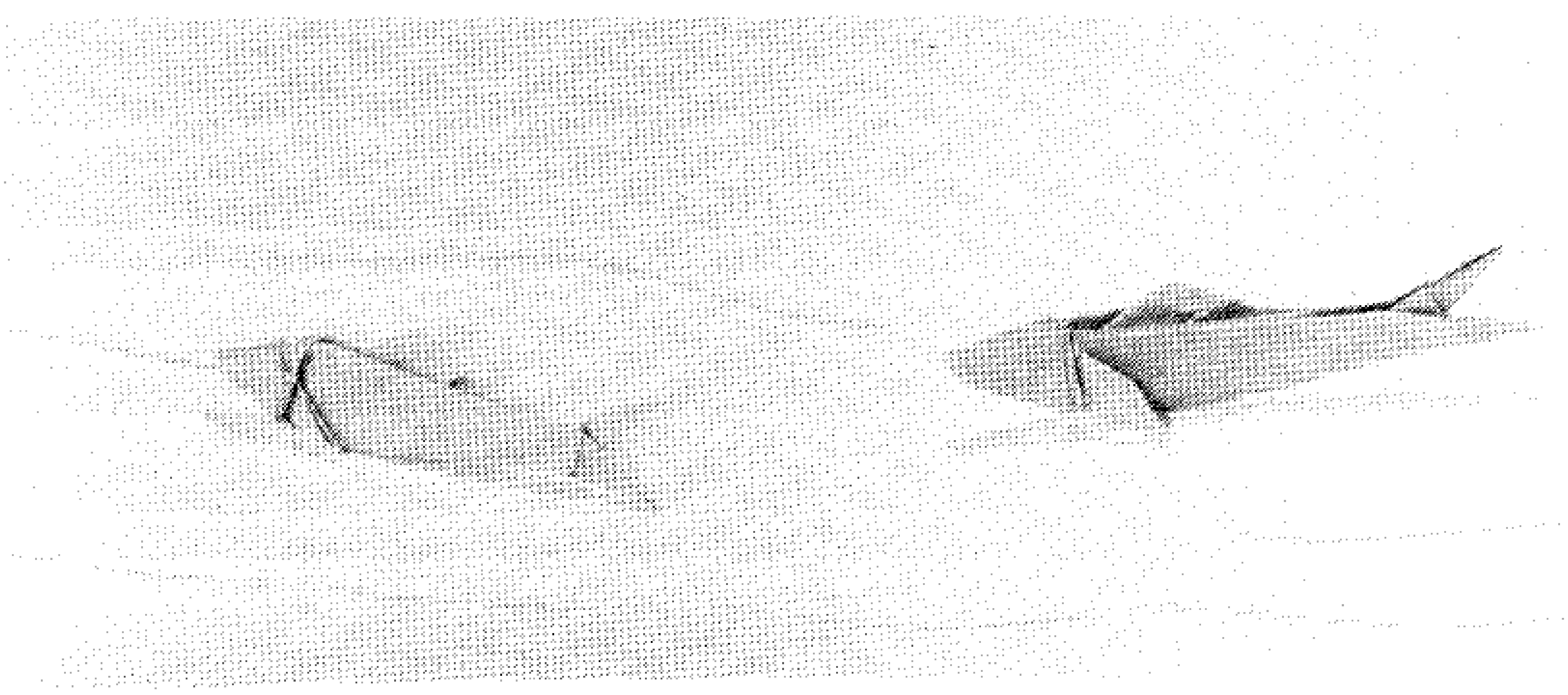


あゆ



基礎折り(Ａ)から折る。⑤ＡとＢに小さく段をつける。⑥ＥとＧを折り返す。⑦ＧとＨを折る。⑧裏返す。⑧′Ａの山線から細長い三角にＦＧの間へ折り返す。⑨Ｅを前に、Ｈを裏へ折る。⑩ＥＦを重ねたまま間へ折る。⑪ＣＤを重ねたまま矢印に折る。⑫裏返す。⑫′ＣＤを重ねたまま折る。⑬Ｃの一枚だけ間へ

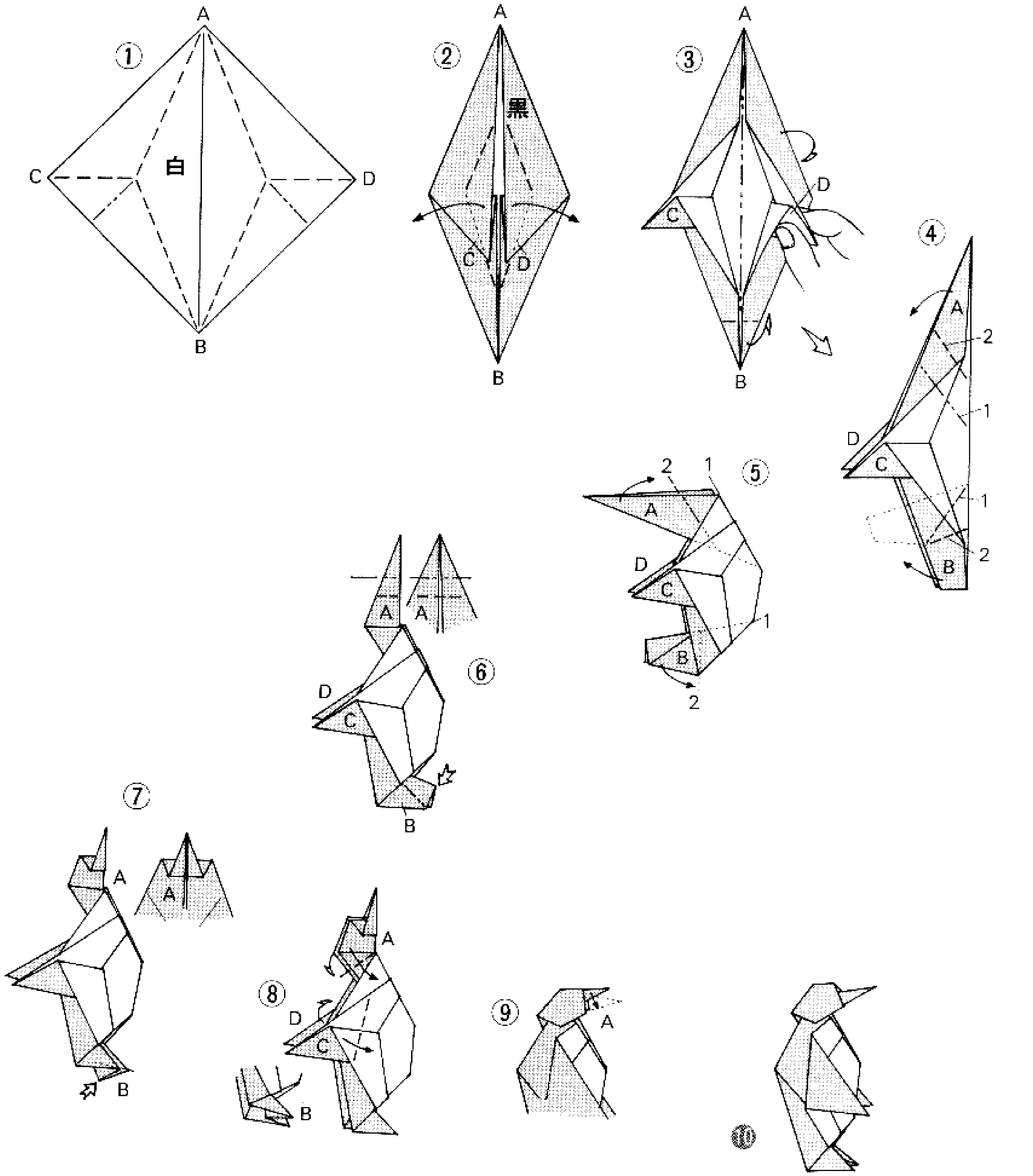




折る。⑭Cを谷線と山線でDの下（⑫′の△印とDの間）へ折り込んでから、Dを裏へ折る。⑮裏返す。⑮′Dを山線と谷線でCの間へ折り込み、Bを引き出す。からだにふくらみをもたせて、生き生きした形にととのえる。⓰出来上がり。

小石などを敷いて飾る。

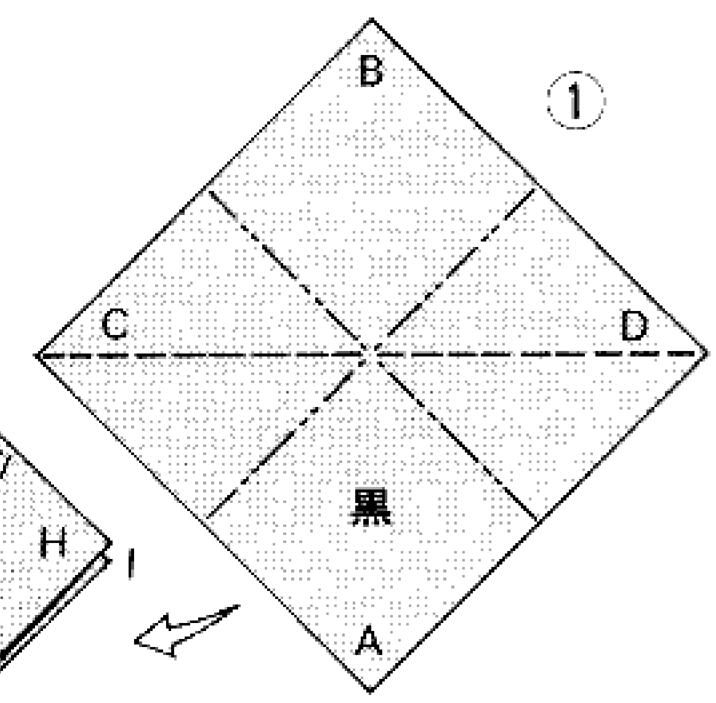
ペンギン

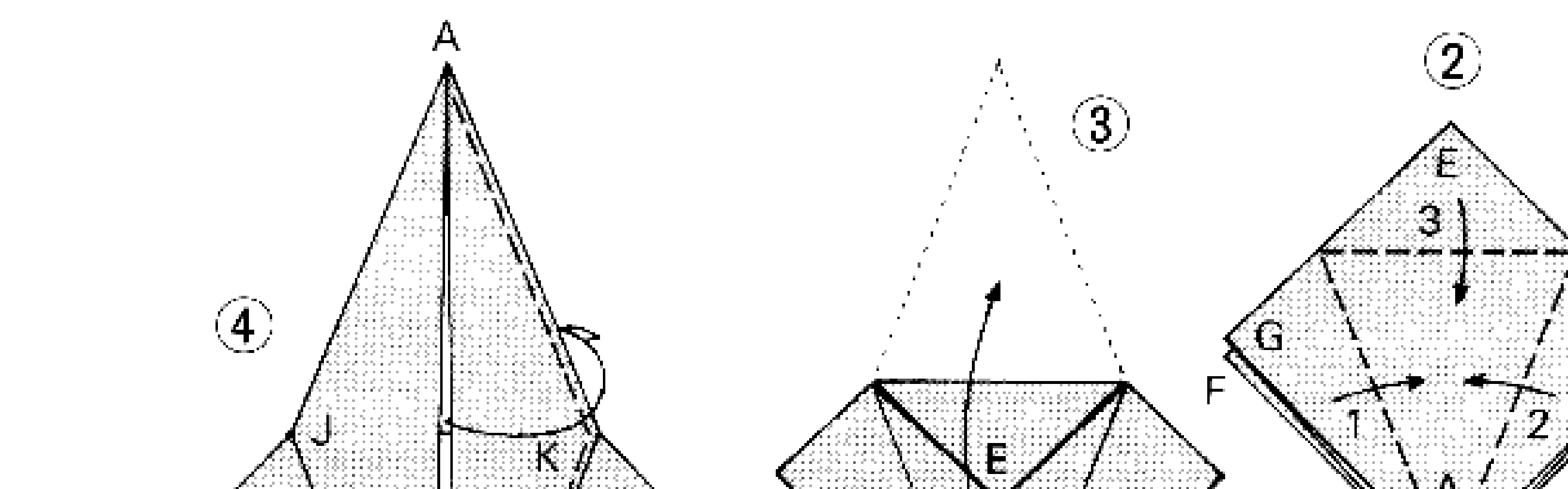


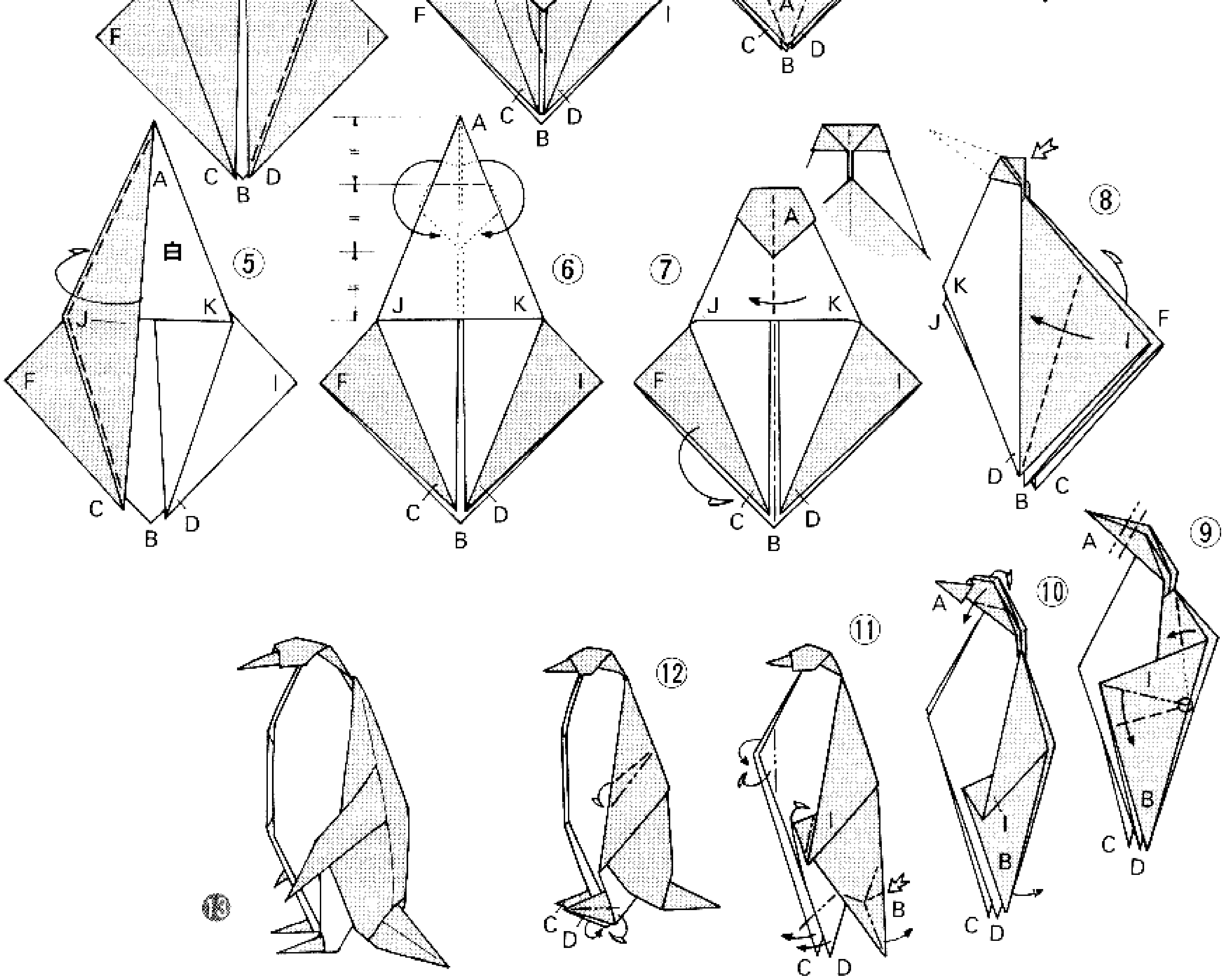
表が黒で裏の白い片側染めの紙を生かして、ペンギンの特徴を表現したもので、黒と白の紙を重ねてもよい。

①正方形の紙の対角線ＡＢに折り目をつけ、その対角線にそれぞれの辺を合わせて折り、ＣとＤをつまんで②のようにする。②ＣとＤをつまんで、③のＤのようにして矢印に開き出す。③Ｂを裏へ折ってから二つに折る。④⑤１の山線の位置からＡとＢを折り込み、２の折り線から折り返す。⑥Ａを少し広げ、段をつけてくちばしを作り、Ｂのカドを斜めに折り込む。⑦Ｂの下のカドを間へ折り込む。⑧Ａを開いて谷線の位置から折りかぶして、頭を作り、ＣとＤを折る。⑨Ａを引き下げ、くちばしの位置を決めて、全体の形をととのえる。⑩出来上がり。

コウテイペンギン



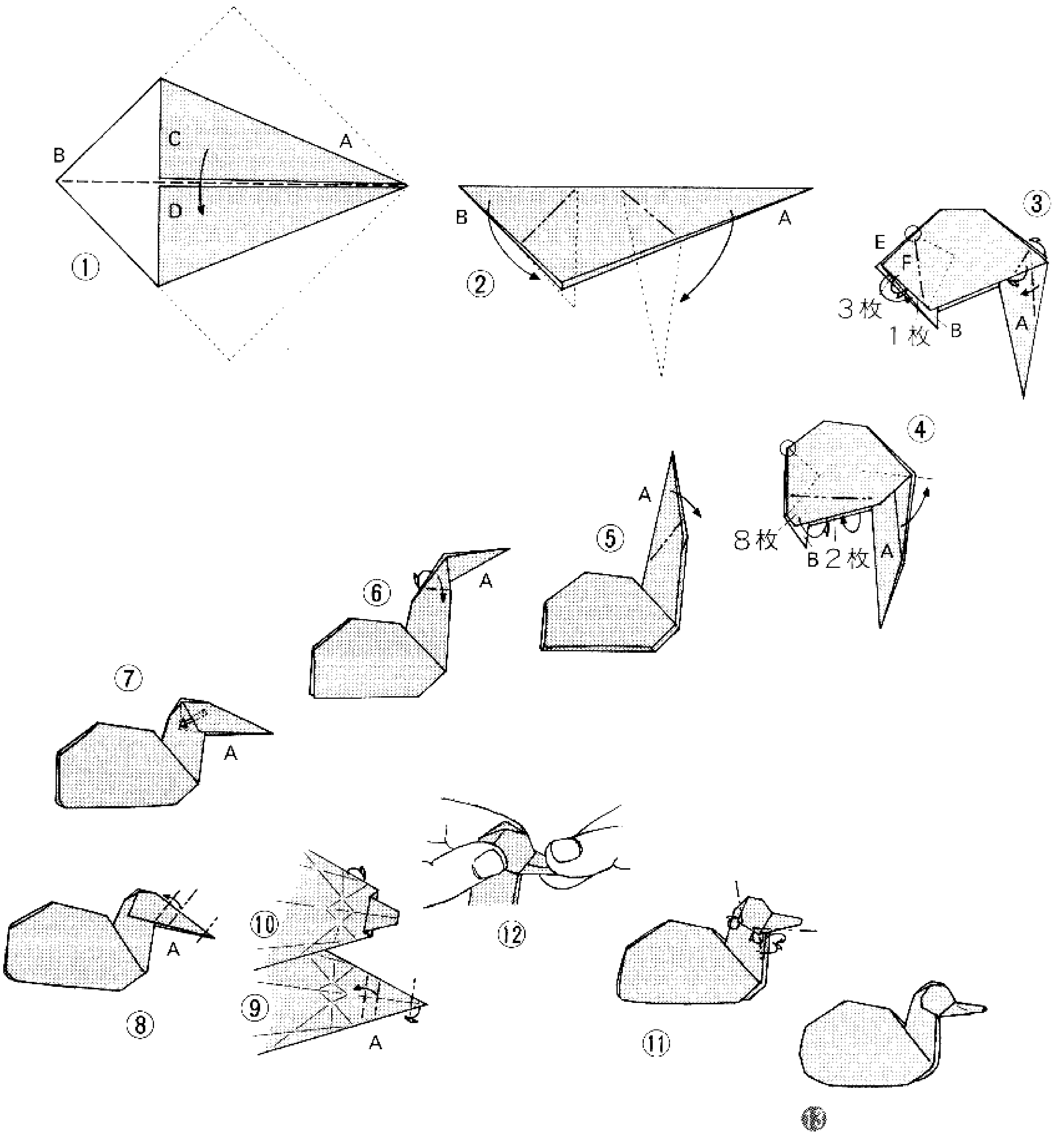




①正方形の紙を②のように折りまとめる。②③1、2、3の順に折り目をつけて、中からAを点線へ開き出す。④⑤矢印に返して裏の白を出す。⑥Aを谷線に折り目をつけ、裏側を開き出す。⑦FとKだけ矢印に返す。⑧Aを中から引き出して、カドを折り込んで⑨のようにし、FIを折る。⑨○印を支点として、矢印にずらして折り、裏側も同様に折ってから、Aを平らにして段をつける。⑩CDの上のほうをBの内側でつまんで、⑪のようにBを矢印に引き出し、Aを矢印に折りかぶせる。⑪羽の先と胸を間へ折り、Bを表と裏からつまみ折りにして、中を袋状にしてから矢印に折って、尾を作り、CDを折る。⑫CDをそれぞれ間へ折り、羽に斜めに段をつけ、くちばしを少し引き出しながら、頭を丸やかにして、からだ全体にふくらみを出して形をととのえる。⑬出来上がり。

白鳥

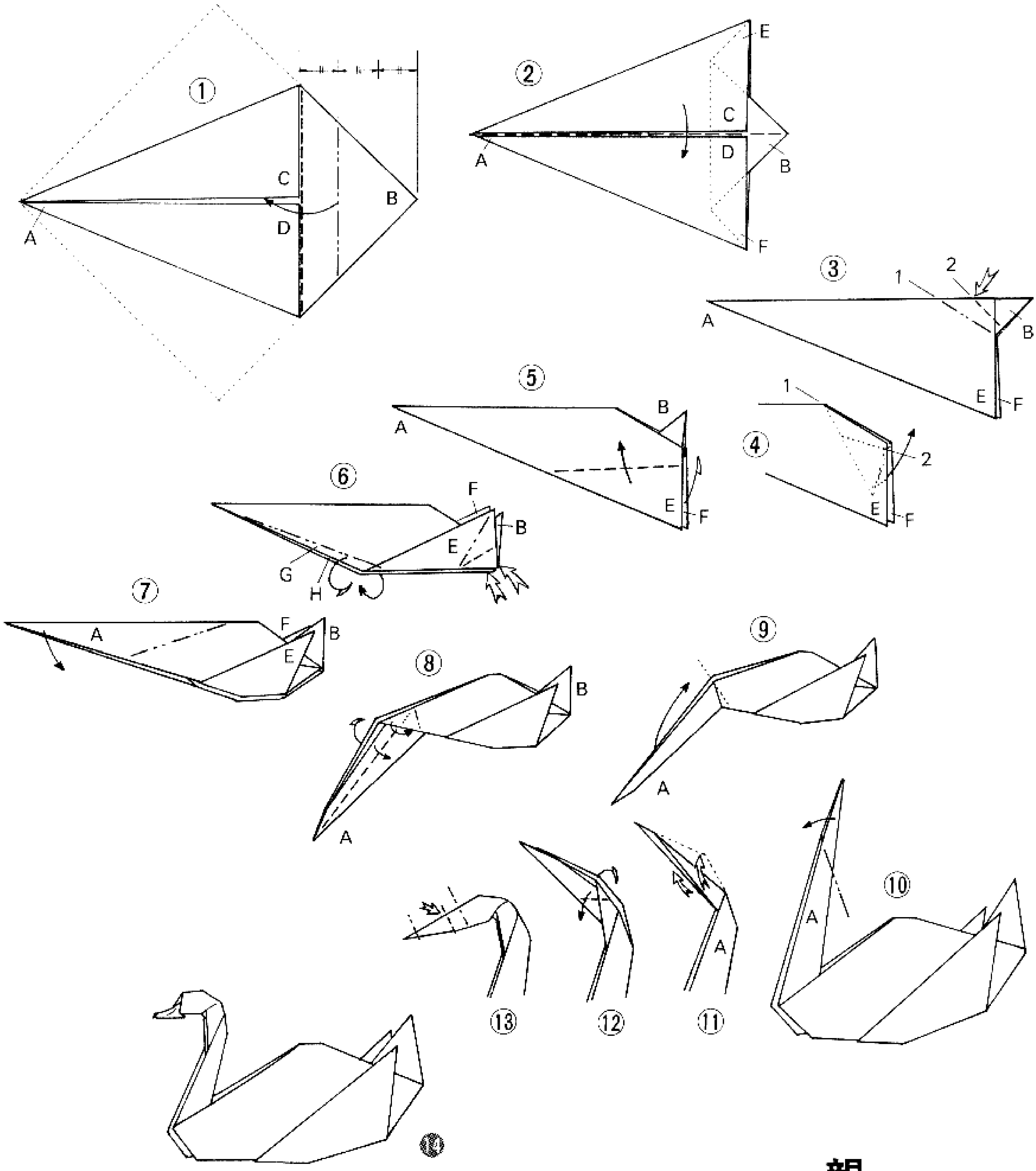
ひな



正方形の紙を①のように折り、さらに二つに折る。②山線からAとBを間へ折る。③Aつまり、首の付け根のところを間へ折り、E側を三枚、F側を一枚にして折れば、○印のところが開かないようになる。④表側のほうを八枚、裏側のほうを二枚にして、中に指を入れ、はずれないように持って、山線の位置から中へ折り、Aを折り上げて首をつくる。

⑤⑥Aを矢印に折る。⑦矢印に中から引き出し、裏側も同様に折る。⑧Aを部分図のように平らにのばし、⑨⑩と折って、前の折り目でもとにもどして⑪のようにする。⑪ほおの後ろ側とくちばしの下を折り込んでから、⑫のように頭をもって、くちばしを平らにつまみ、形をととのえる。⑬出来上がり。

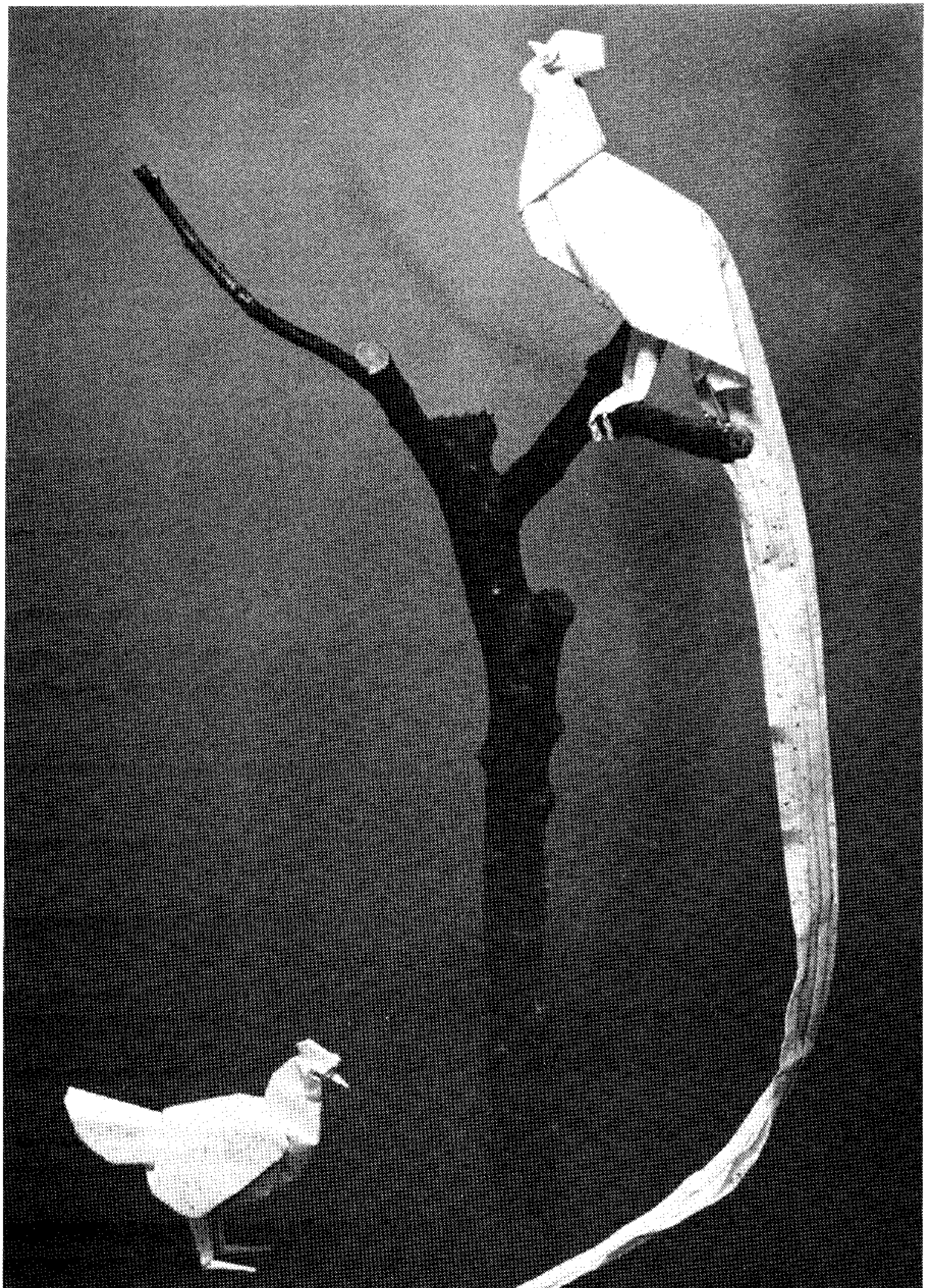
ひなは灰色の紙で小さく作る。



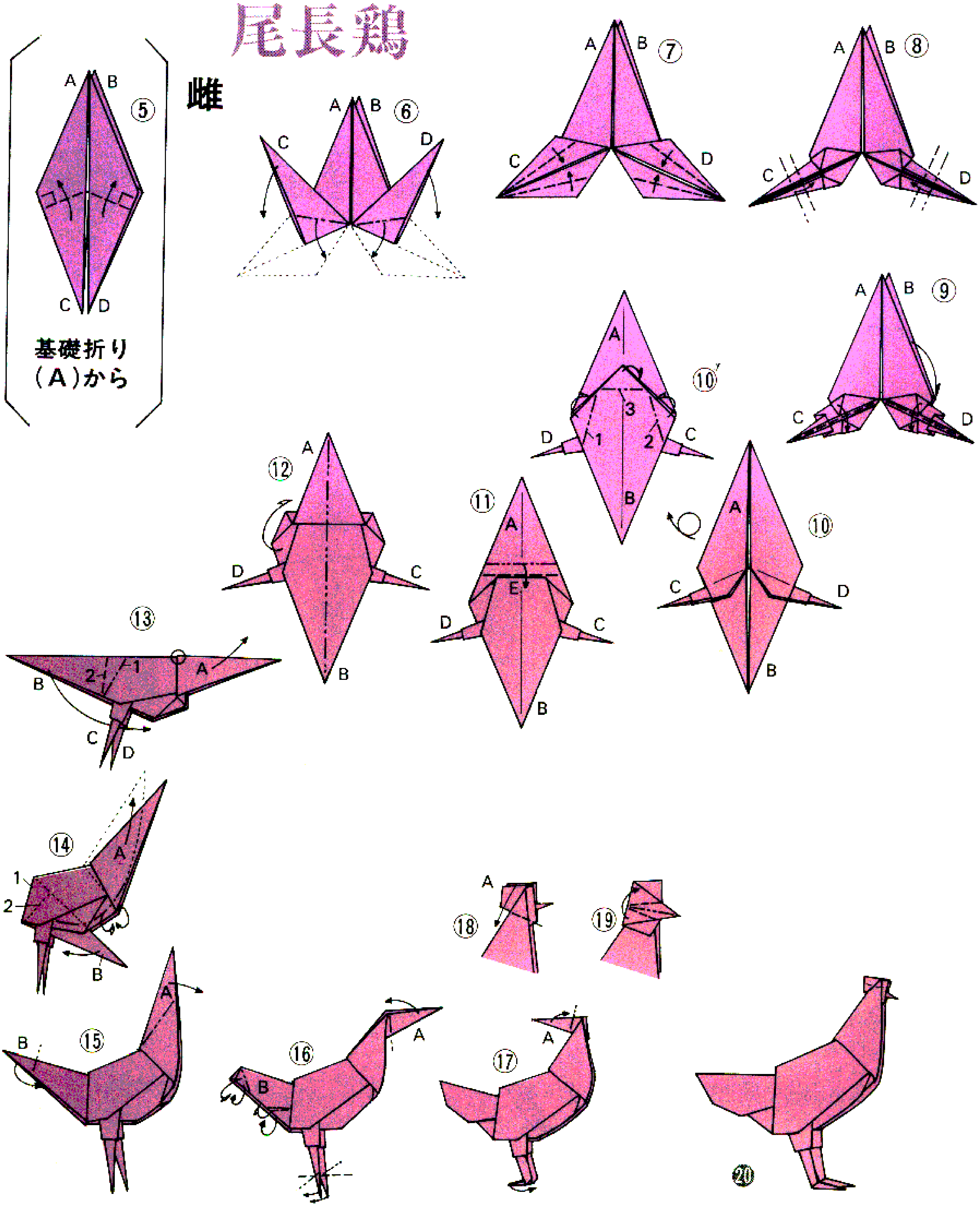
親

正方形の紙を①のように折ってから、Bを谷線と山線でCDの間へ折る。②二つに折る。③④1の山線で、一度中へ折ってから、2の谷線で折り返す。⑤EFを折り上げる。⑥GHを中へ折り、FEの下のカドを折り込む。⑦出来上がりの形をみながら、山線の位置を決めてAを間へ折る。⑧Aを細く外側に折り、付け根のところを中に折り込む。⑨Aを点線の位置から折り返す。⑩Aを部分図の番号の順に折って頭を作り、中に指を入れてからだを丸やかにととのえる。⑭出来上がり。

首をわずかにねじって頭を斜めに向けたり、ひなをいたわる姿にするには、頭をずっと下に向けたりして表情をつける。



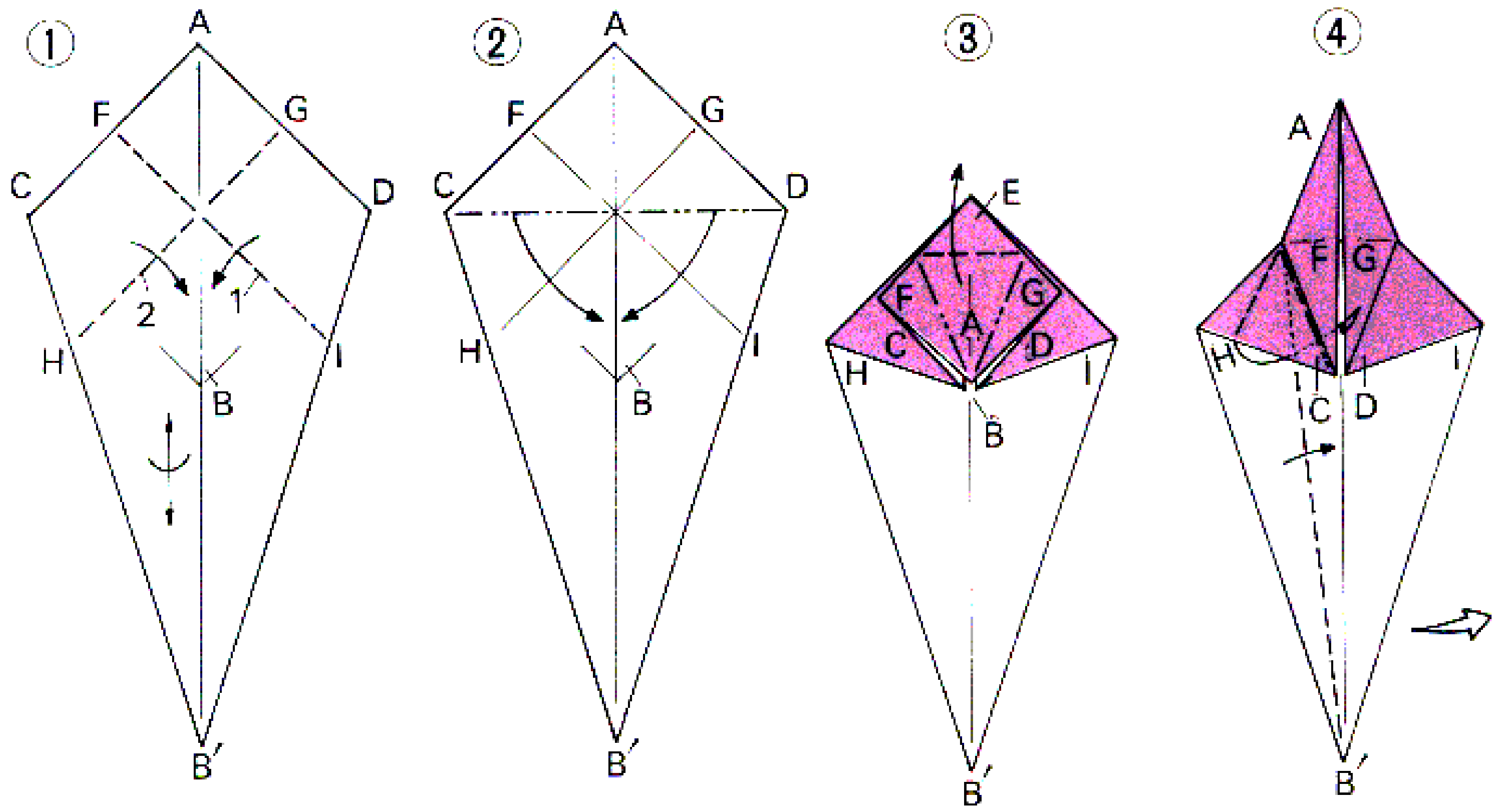
尾長鶏（おながどり）



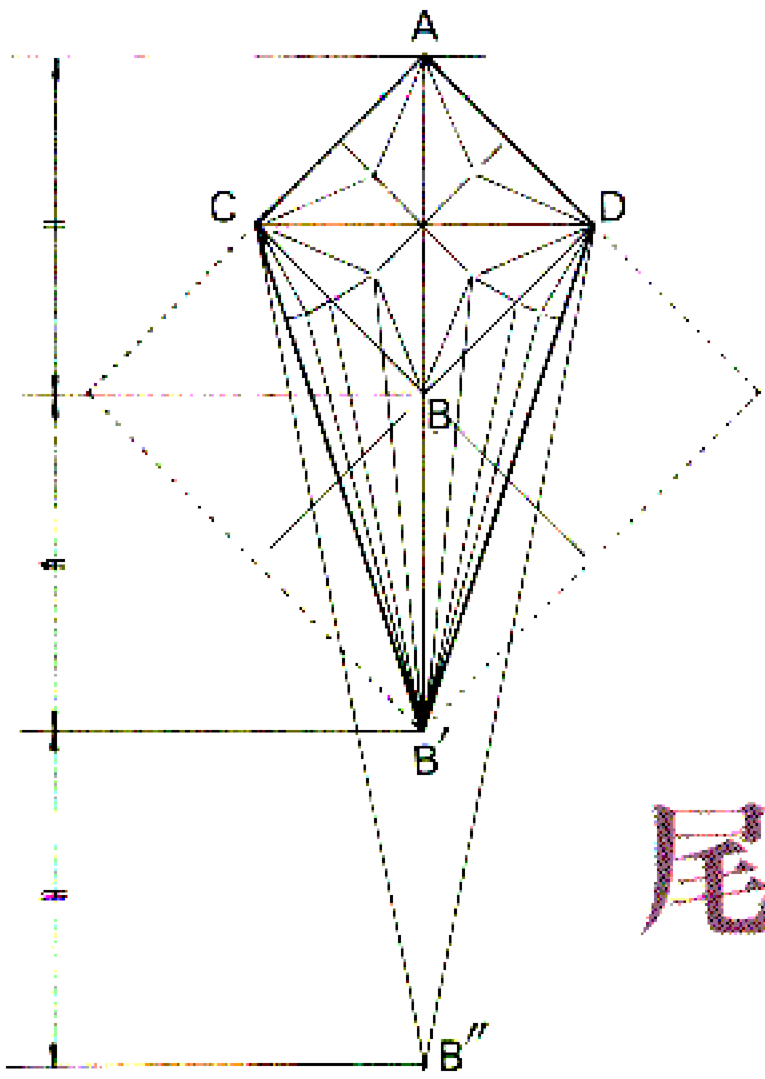
基礎折り（A）から折る。

⑤CDを折り上げる。⑥⑦CDを広げて細く折る。⑧段をつけて足の長さを調節する。⑨それぞれ矢印に折る。⑩裏返す。⑩'間へ折り込む。⑪段をつけてEにかぶせる。⑫二つに折る。⑬⑭Aを○印を支点として矢印にずらしてから、さらに点線へ引き出し、Bを1の山線で折り込み、2の谷線から折り返す。⑮AとBを折り込む。⑯Aを折り返し、⑰⑱⑲のように折って頭を作る。Bの先を折り込み、尾の付け根を細長い三角の段をつけてBの内側へ少し折り込む。足を作って形をととのえる。⑳出来上がり。

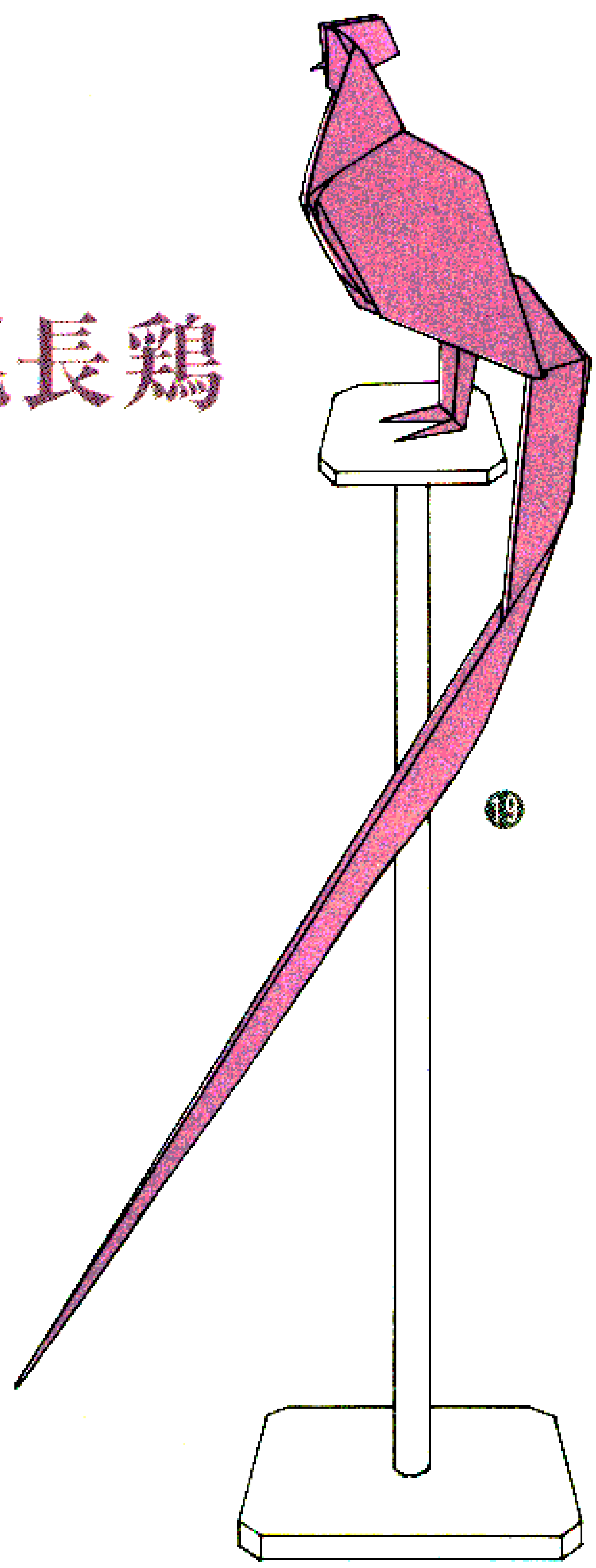
雄

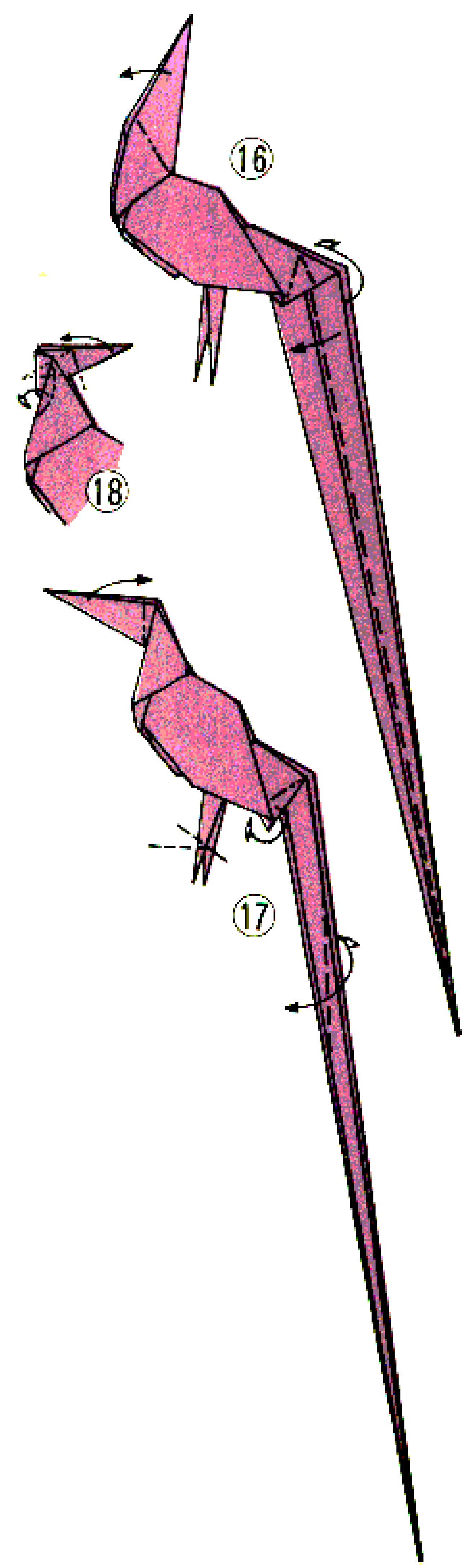


用紙の原形



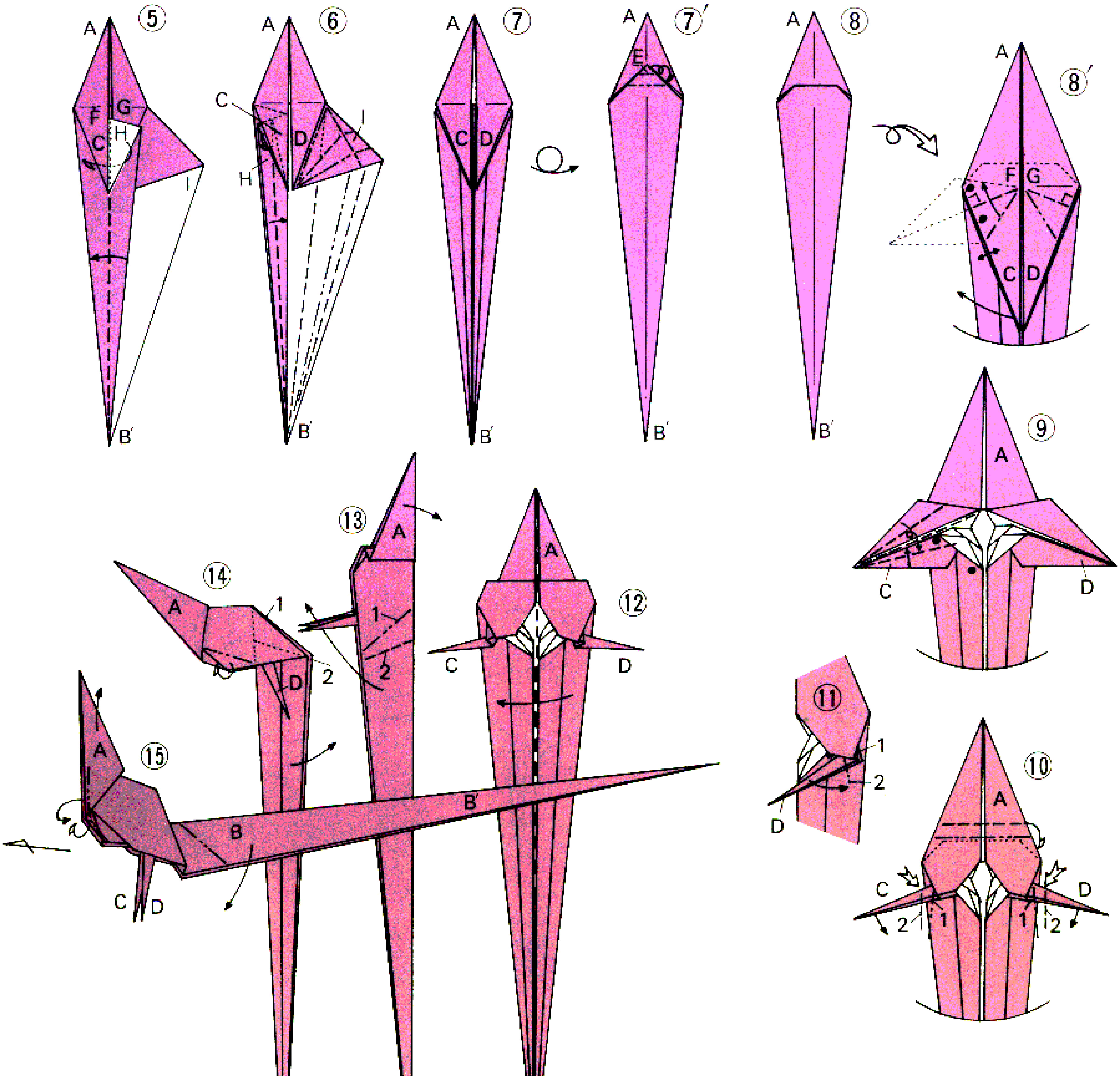
尾長鶏





▩尾長鶏の用紙の原形の作り方

正方形ＡＣＢＤの対角線ＡＢを二倍に延長してB′を求め、ＡＣB′Ｄを結び四角形を作る。B″はＡＢの三倍。尾の長さをもっと長くすることも自由であるが、三倍ぐらいまでが適当である。

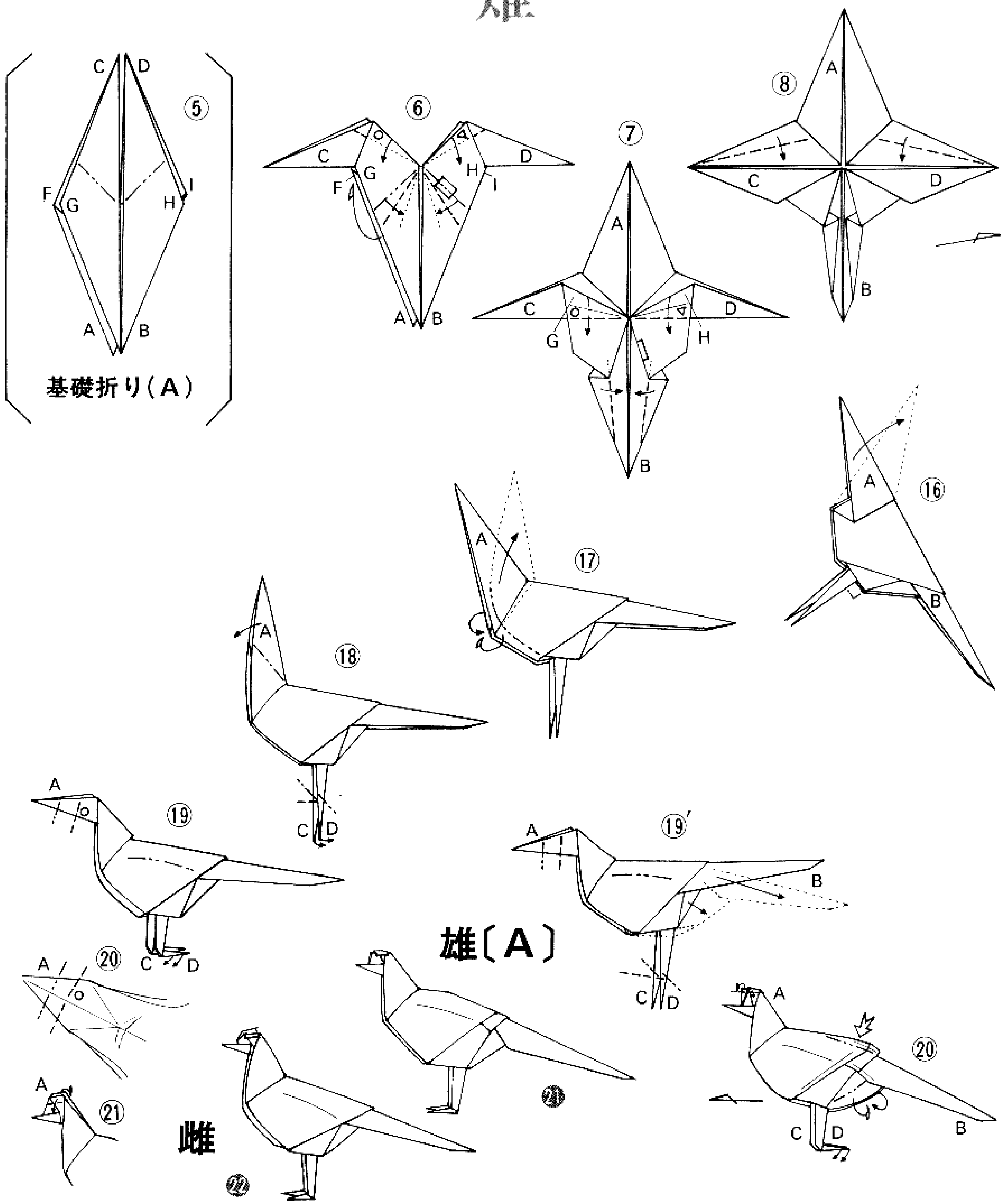




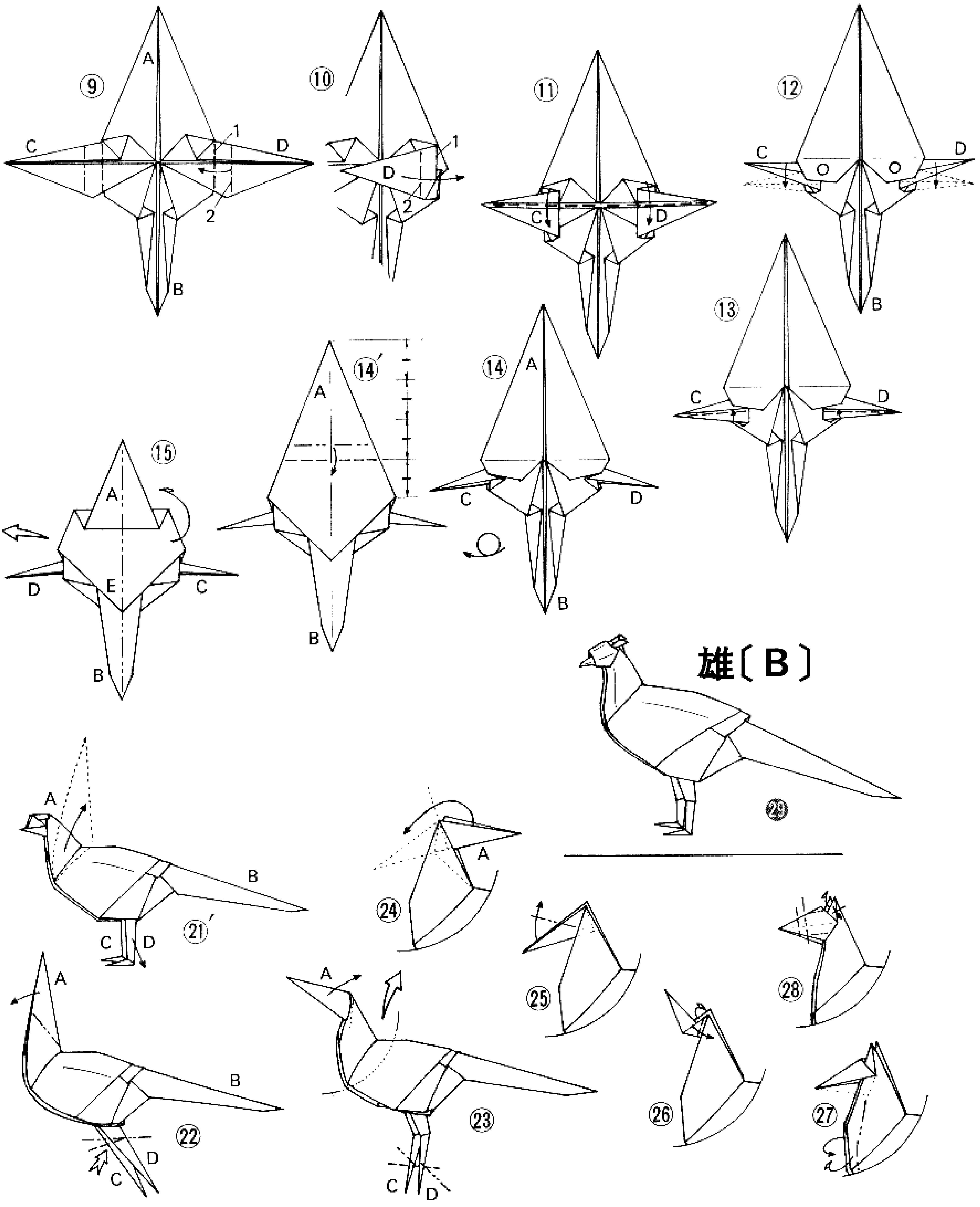
図の割合の用紙を作る。

①AのカドをCのカドに合わせて、谷線1に折り目をつけてのばし、AのカドをDのカドに合わせて谷線2をつけてのばす。②Aを山線から裏へ折って折り目をつけてのばし、①でつけた折り目で折りまとめる。③山線と谷線でAを折り上げる。④⑤HをCの間へ折り、中心から折り返す。⑥Hを細く中心へ折り、右側のIもHと同様に折る。⑦表に返す。⑦′Eのカドを間へ折る。⑧裏に返す。⑧′谷線と山線でCを折り広げる。この場合●印を合わせて谷線がへりに直角になるようにする。右側のDも同様に折る。⑨●印のところを持って左右に引っぱれば、口のない三角の袋が二つ出来るから、それを静かに押しつぶして、形をととのえ、Cの下側で一回折り上げ、上から二回折ってかぶせる。Dも同様に折る。⑩Aに段をつけて裏側のEにかぶせ、部分図⑪のようにして、CとDを角度に注意して短くする。⑫二つに折る。⑬⑭山線1で尾を間へ折り、2の谷線から折り返し、胸のところを間へ折る。⑮胸から首にかけて外側からつまみ折りにして、中を筒状にして矢印に引き出して、胸を丸やかにする。尾を間へ折り返す。⑯⑰⑱頭と尾、足を矢印に折って形をととのえる。⑲出来上がり。図のように台にのせれば、体と尾のバランスで立つ。

雉

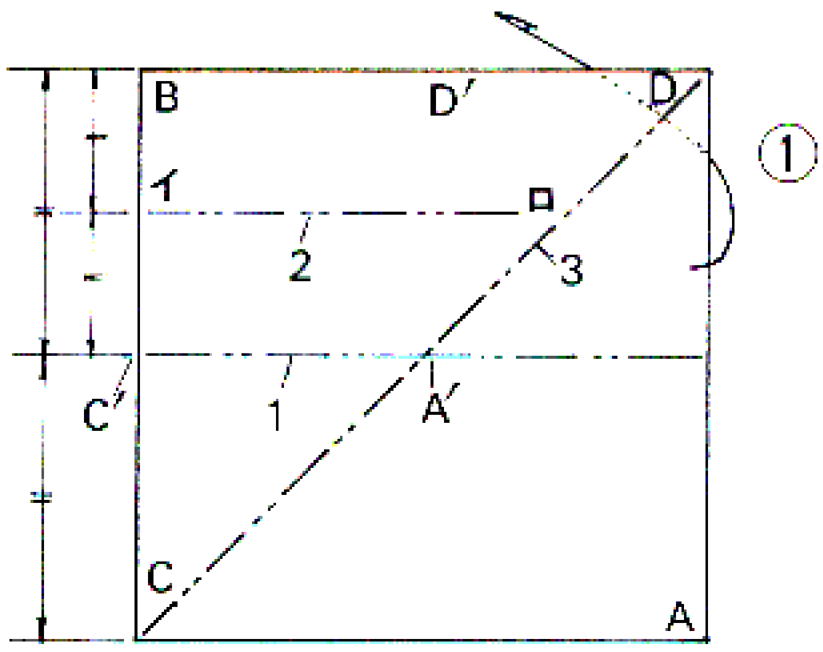


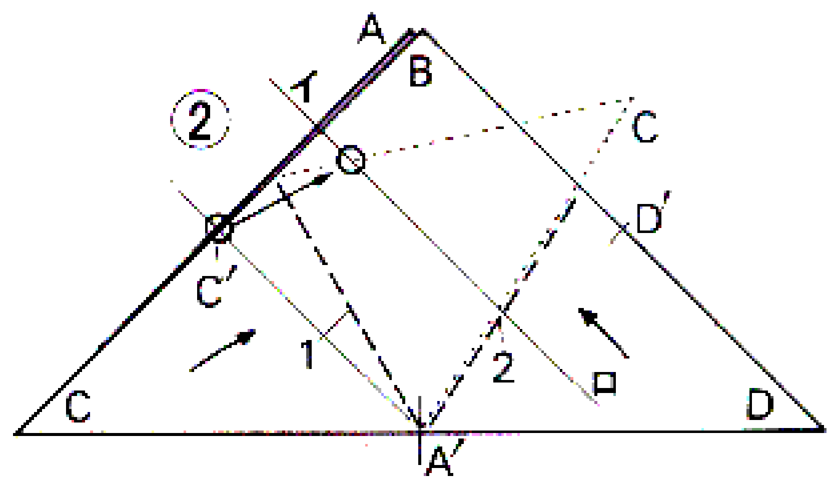
〈雌〉基礎折り〔A〕から折る。⑤CをFGの間へ、DをHIの間へ折る。⑥Aを裏側へ折り上げ、GとHを谷線と山線で矢印にずらして⑦のようにする。⑦Bを細く折り、GHを矢印に折る。⑧矢印に折る。⑨⑩CDに山線と谷線で段をつける。⑪矢印に折り下げて細くしてから、⑫○印を軽く持って点線へ引き出す。⑬CDを細く間へ折る。⑭裏返す。⑭′谷線と山線で段をつける。⑮二つに折る。⑯Aを点線へ引き出す。⑰Aを点線へ静かに引き出して胸を丸やかにする。⑱Aを矢印に折り込み、⑲⑳㉑のように折って頭を作り、足を⑱⑲のように折る。㉒出来上がり。



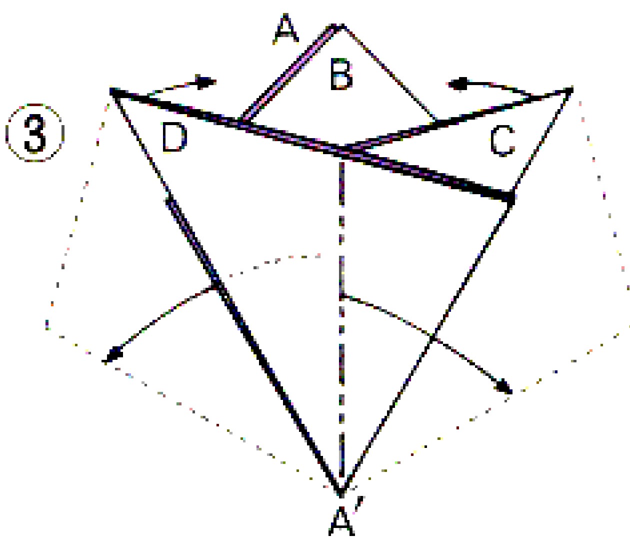
雄〔A〕雌の⑲まで同様に折り、⑲′からだを持って尾を点線へ思いきって引き出す。⑳頭を折りかぶせ、背中と尾の付け根をそれぞれ矢印に折り込む。㉑′出来上がり。

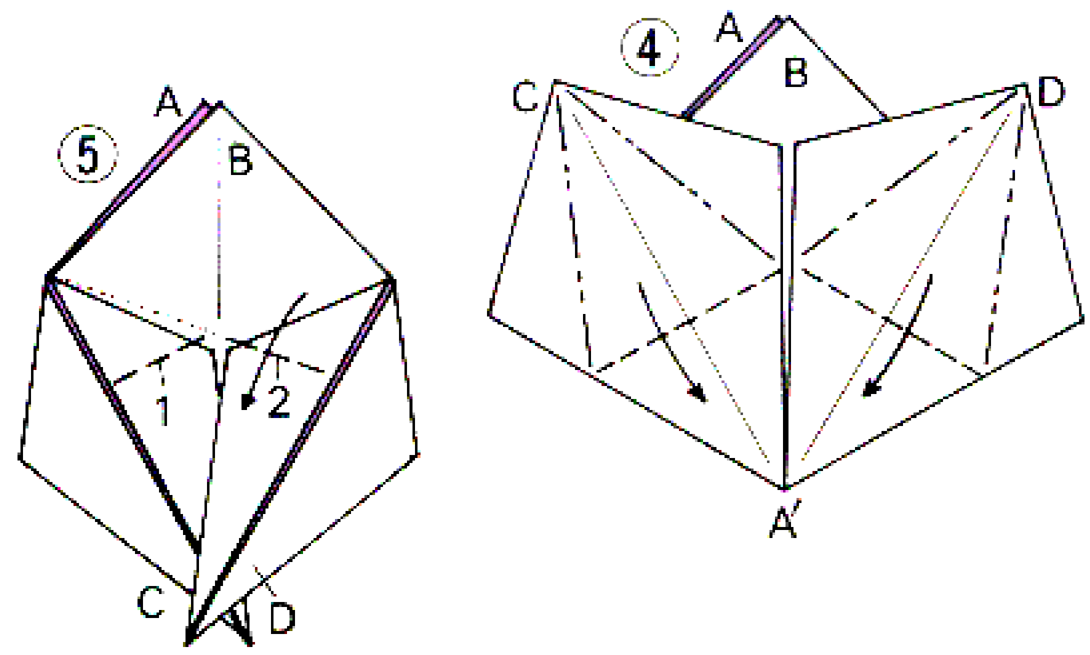
雄〔B〕雄〔A〕の出来上がりの㉑′のAをいったん開いて点線まで引き起こし、CDも㉒のように引き出す。㉒㉓CDを山線と谷線で関節を作ってから足を作り、Aを番号の順に折って頭を仕上げる。㉙出来上がり。

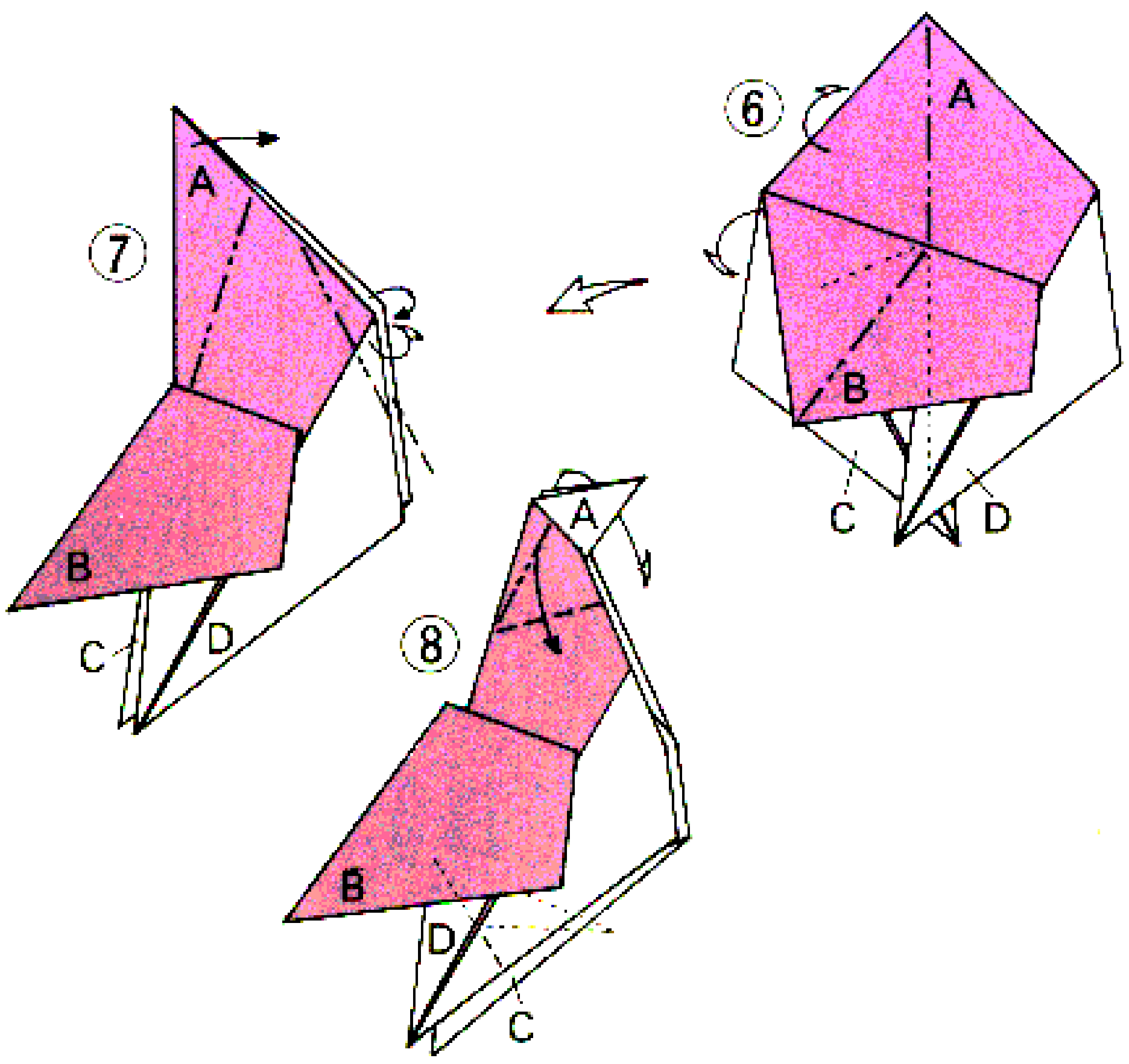




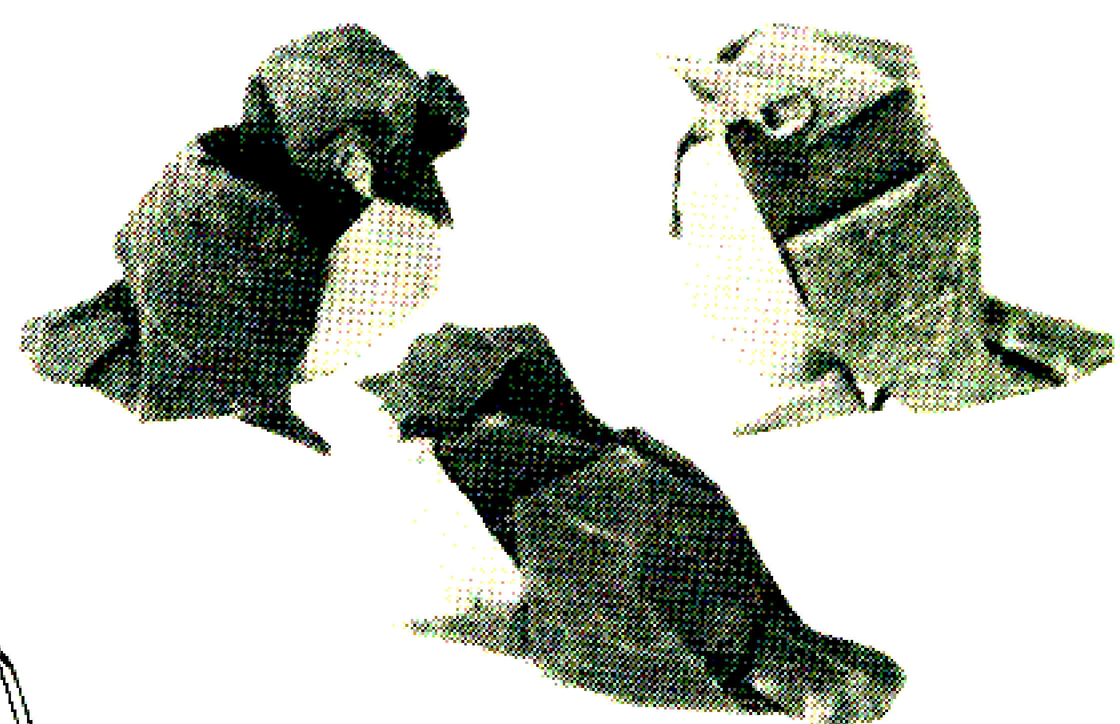
180°を三等分する方法



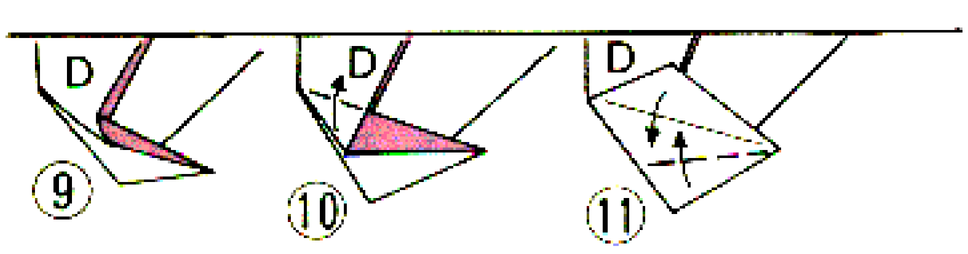


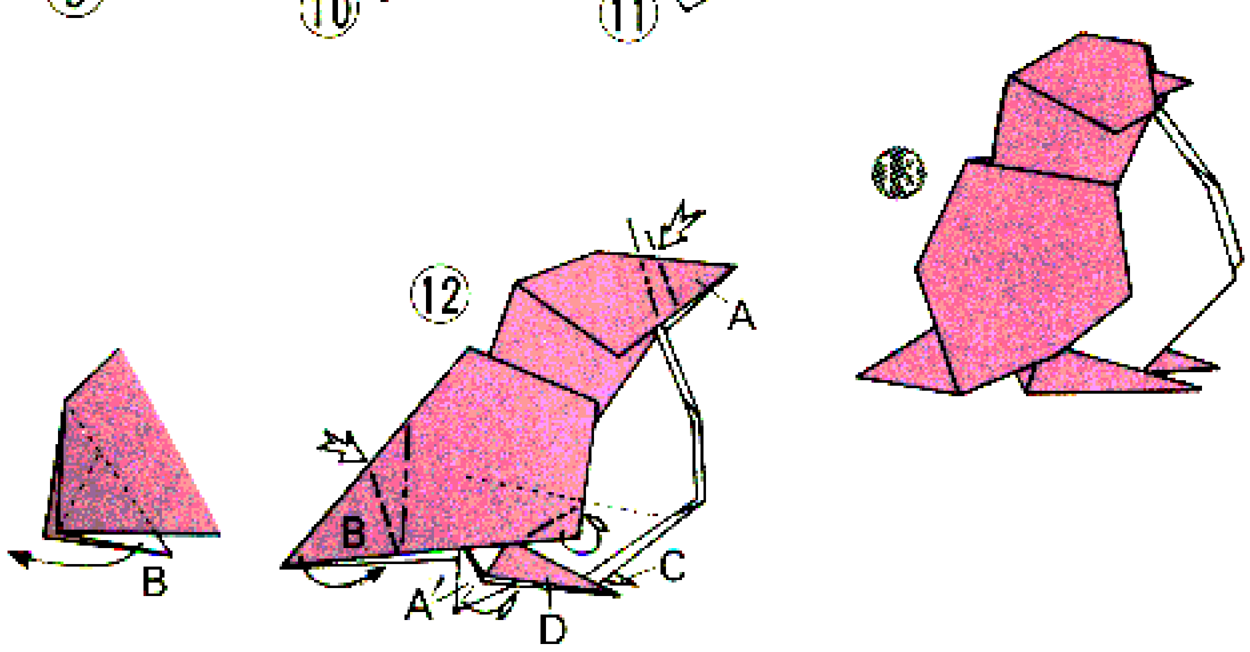


子雀



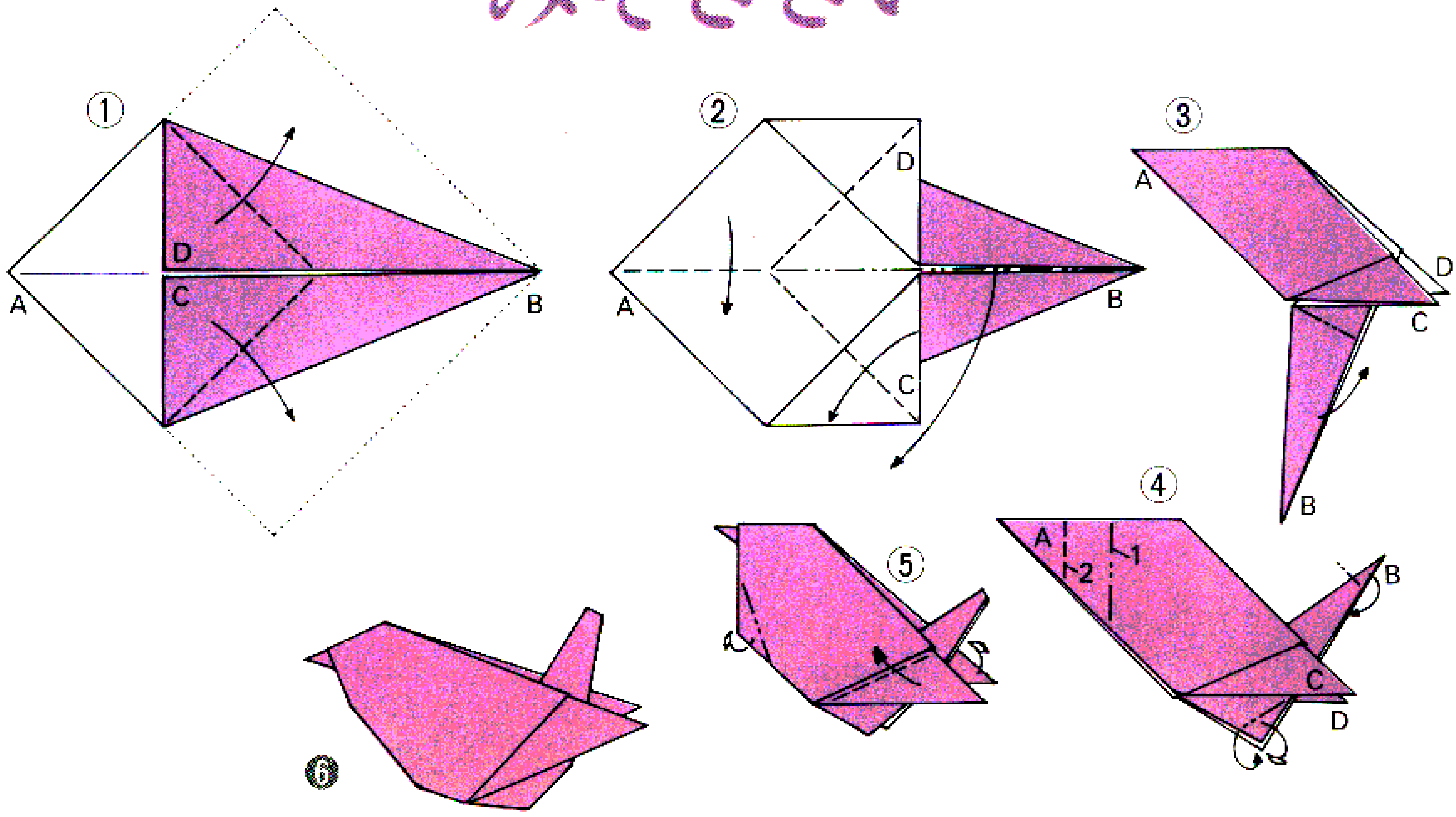
足の折り方

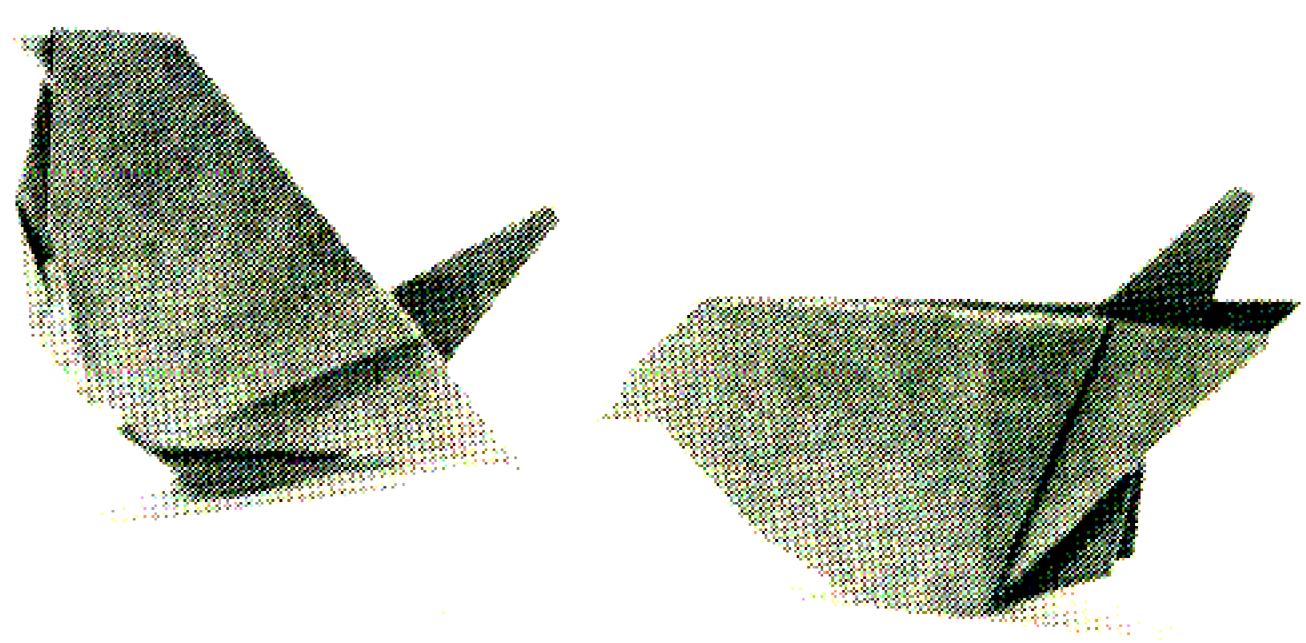




裏の白い正方形の茶色か黄土色の紙で折る。①正方形の紙に1、2の折り目をつけてから、対角線3を折る。②A′を支点としてC′をイロの線上に合わせて1の谷線を折り、Cを折って出来た紙のへりに合わせて2の谷線を折る。③CとDの袋を広げて④のように折る。④谷線と山線でCDを矢印に折る。⑤谷線1に折り目をつけてから、2を折る。⑥ABの山線を折って⑦のようにする（Cの向きがDと同じになる)。⑦矢印にそれぞれ折る。⑧Aを広げて谷線の位置から折りかぶせ、CDを⑨⑩⑪のようにして足にする。⑫Aを山線で折り込み、谷線で折り返してくちばしを作り、A′を点線の内側で折る。翼のカドを間へ折り、Bを山線から折り込み、谷線で折り返して尾を作り、全体の形をととのえる。⑬出来上がり。

みそさざい

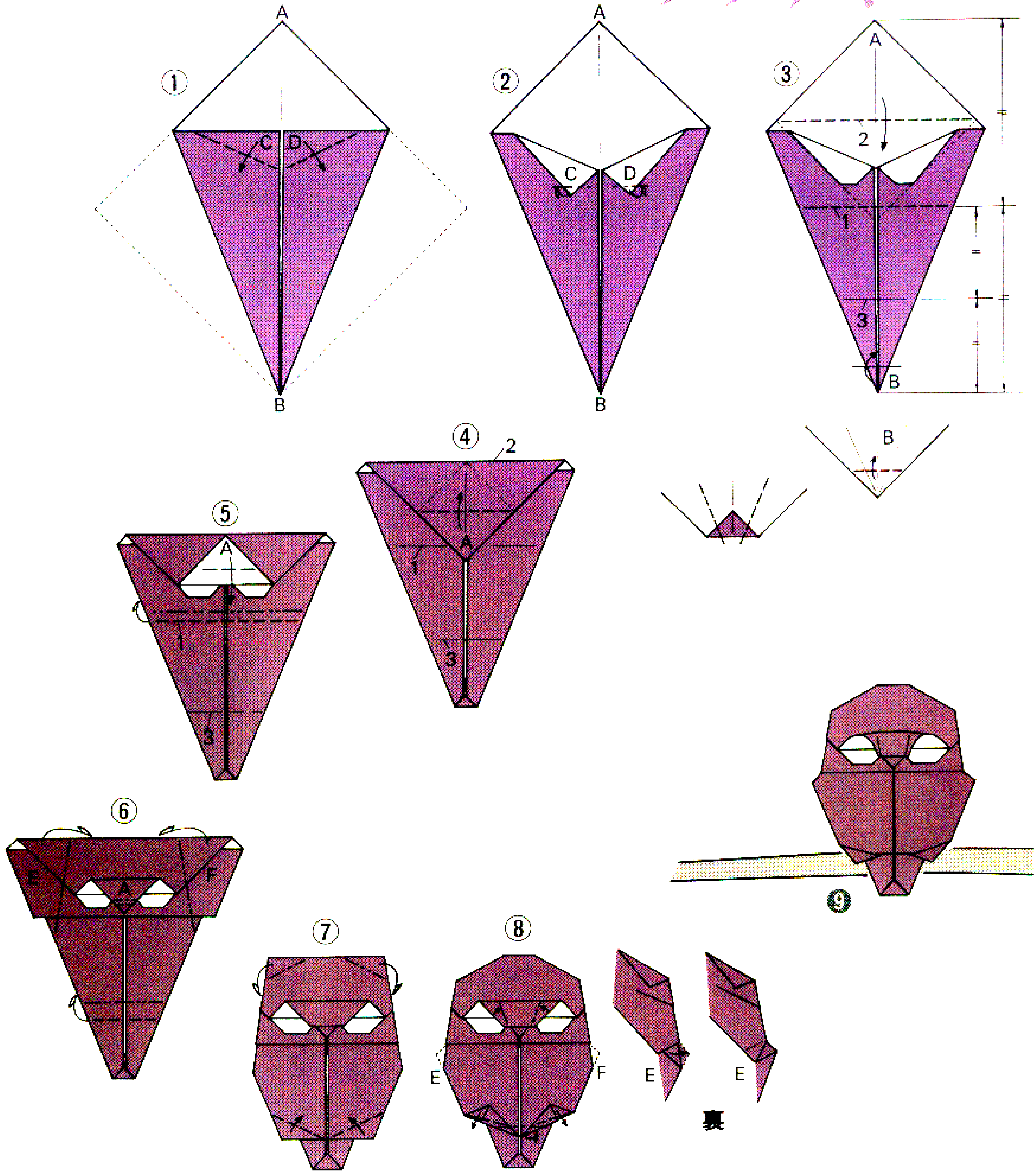




鷦鷯はこげ茶色の黒みがかった横縞のある、雀よりずっと小さい鳥です。山の崖や渓流に添って、ジィッジィッと小さな声で鳴いて、地面すれすれに低く飛んで、えさをあさっているのをよく見かけます。この鳥のすずなきの春のさえずりは、小鳥の声では鶯や黄鶲と並んで、昔から知られています。

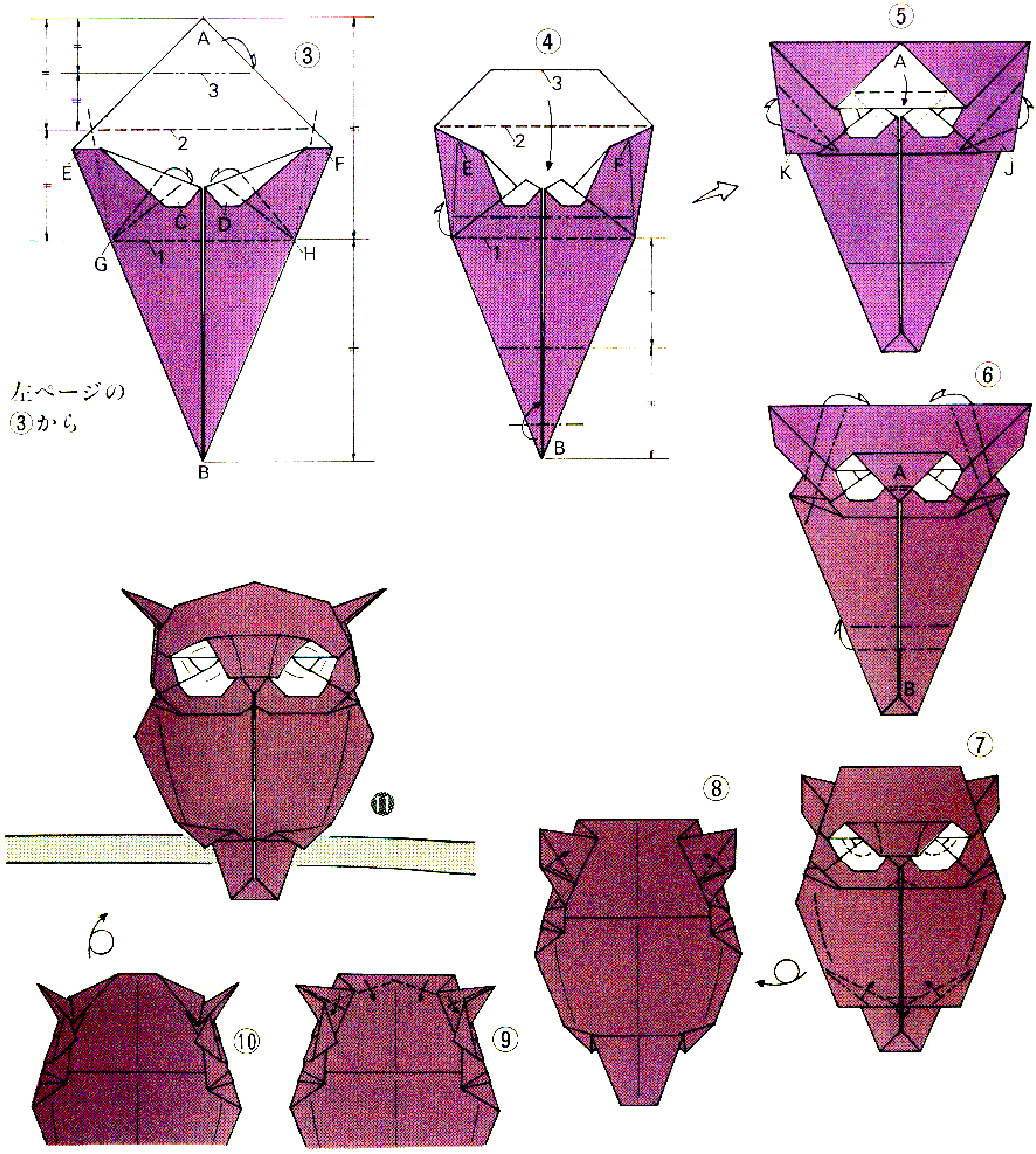
地味な色合いの、かわいい姿を折り紙で表現してみました。簡素な折り線構造の折り方は、俳句にたとえられる感覚そのものです。

みみずく



子ども

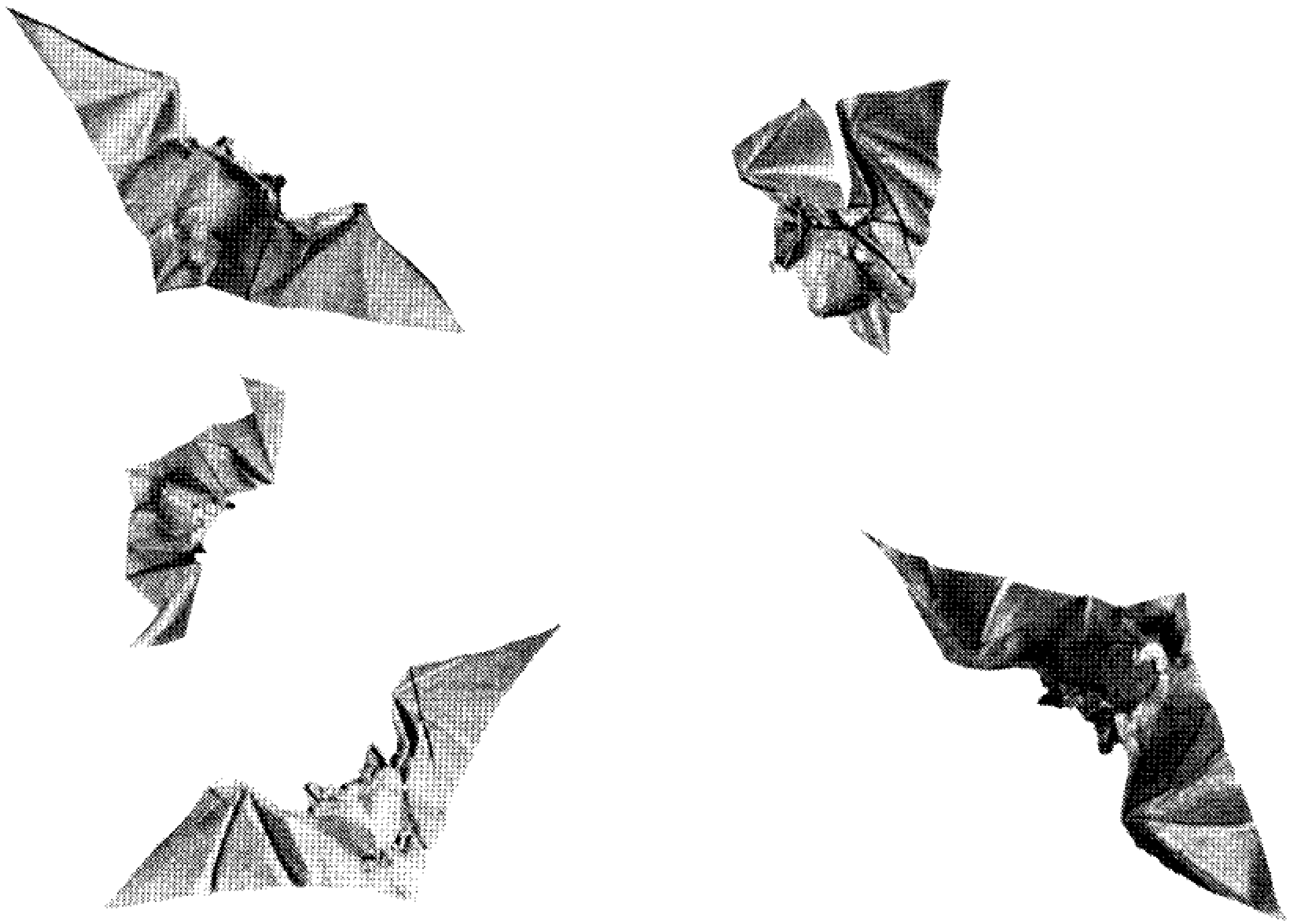
正方形の紙①②と折る。③図の割合に折り目をつけて、Bを部分図のようにして折り込み、Aを折り下げる。④Aを折り上げる。⑤は③でつけた折り目の位置を基準にして谷線の位置を決めて段をつけ、Aを折り下げる。⑥⑦⑧矢印に折る。⑧目のところを引き起こして丸みをつけ、EFのカドを裏側の部分図のようにして引き出し、矢印に折って足を作る。❾出来上がり。



親

〔A〕の③まで同じに折る。③Gを支点としてCの山線をつまみ折りしながら、左カドのEを2の谷線までずらして折り、右側も同じようにして折る。④Bのカドを折り込み、1の谷線を基準にして山線で段をつける。⑤山線と谷線でKJのカドを裏へずらして折り込み、Aを折り下げる。⑥それぞれ山線と谷線で段をつける。⑦目を塗りばしの先などで、丸やかに広げ、足を作り、それぞれの折り線で形をととのえてから、裏返す。⑧⑨⑩耳を作り、表に返す。⑪出来上がり。

こうもり

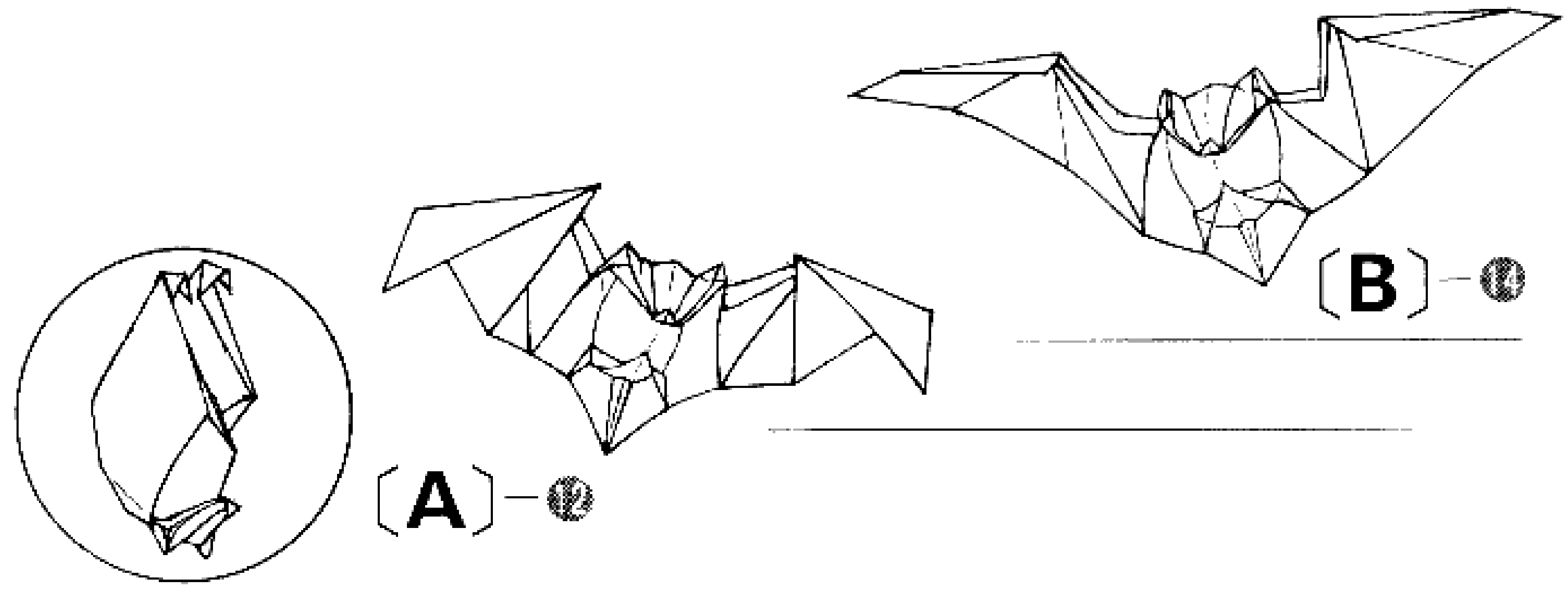


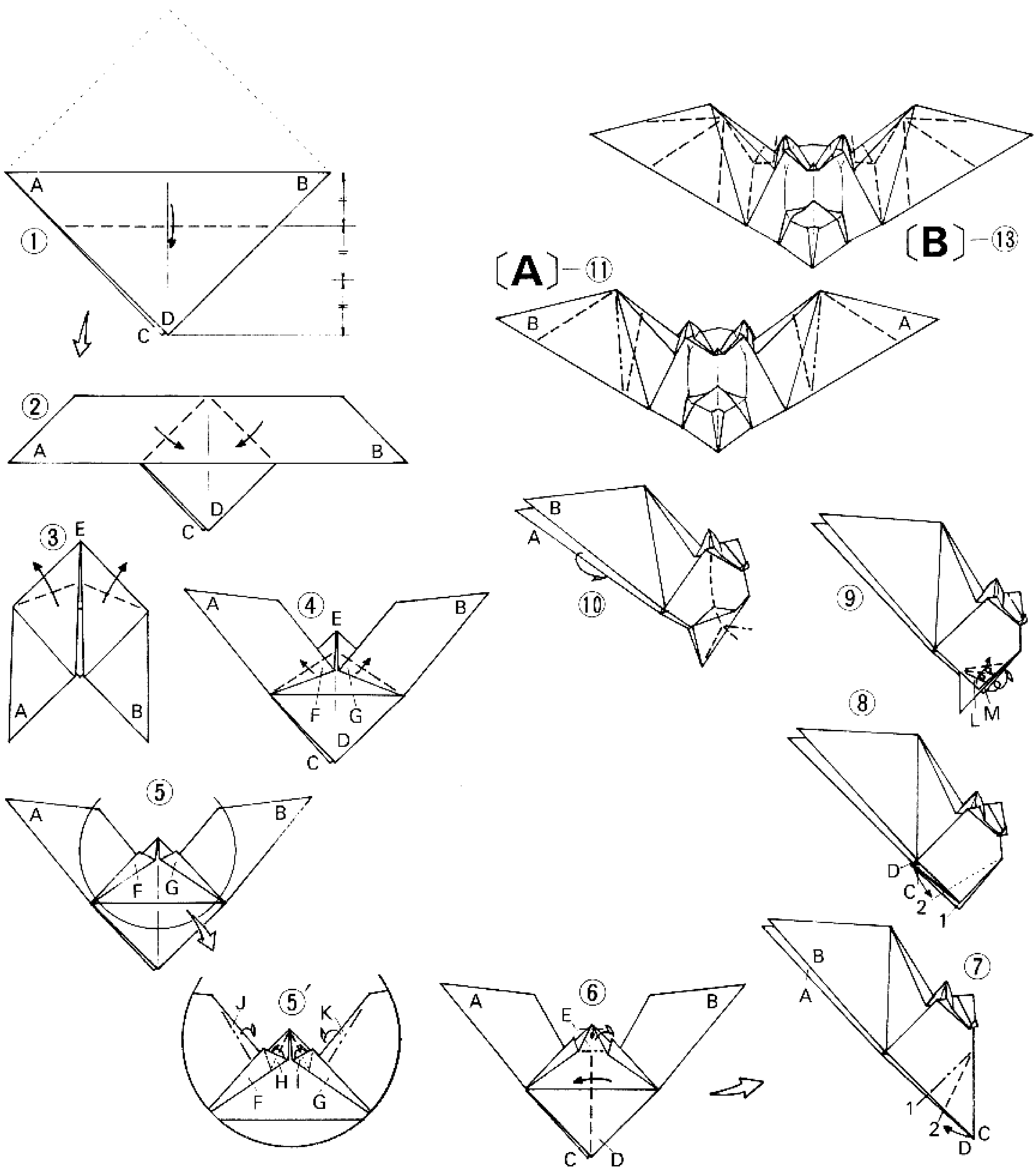
夕陽に舞うこうもりの姿を折りましょう。

①正方形の紙を対角線に折り、約$\frac{1}{3}$のところから折り下げる。②③矢印に折る。④紙がずれないように注意してFとGを折る。⑤製図拡大。⑤′FとGの下へHとIのカドを折り込み、JとKを向こう側へ折る。⑥Eのカドを小さく手前に折り、そのEを向こう側へ折ってから、二つに折る。⑦⑧CとDを重ねたまま、1の山線の位置から折り込み、2の線から折り返す。⑨LとMのカドをそれぞれ三回ずつ巻き折りにする。⑩谷線の位置に折り目をつけながら、⑪のように胴、足、尾をととのえる。

〔A〕−⑪の折り線で羽を仕上げ、〔A〕−⓬出来上がり。

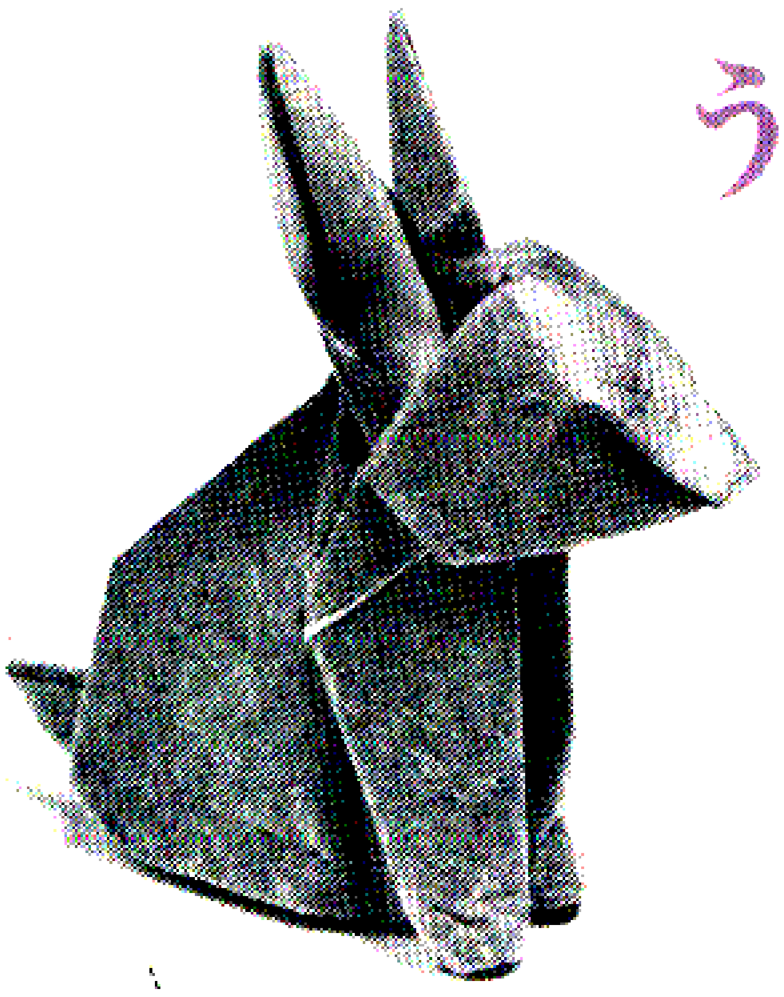
〔B〕−⑬の折り線で羽を仕上げ、〔B〕−⓮出来上がり。

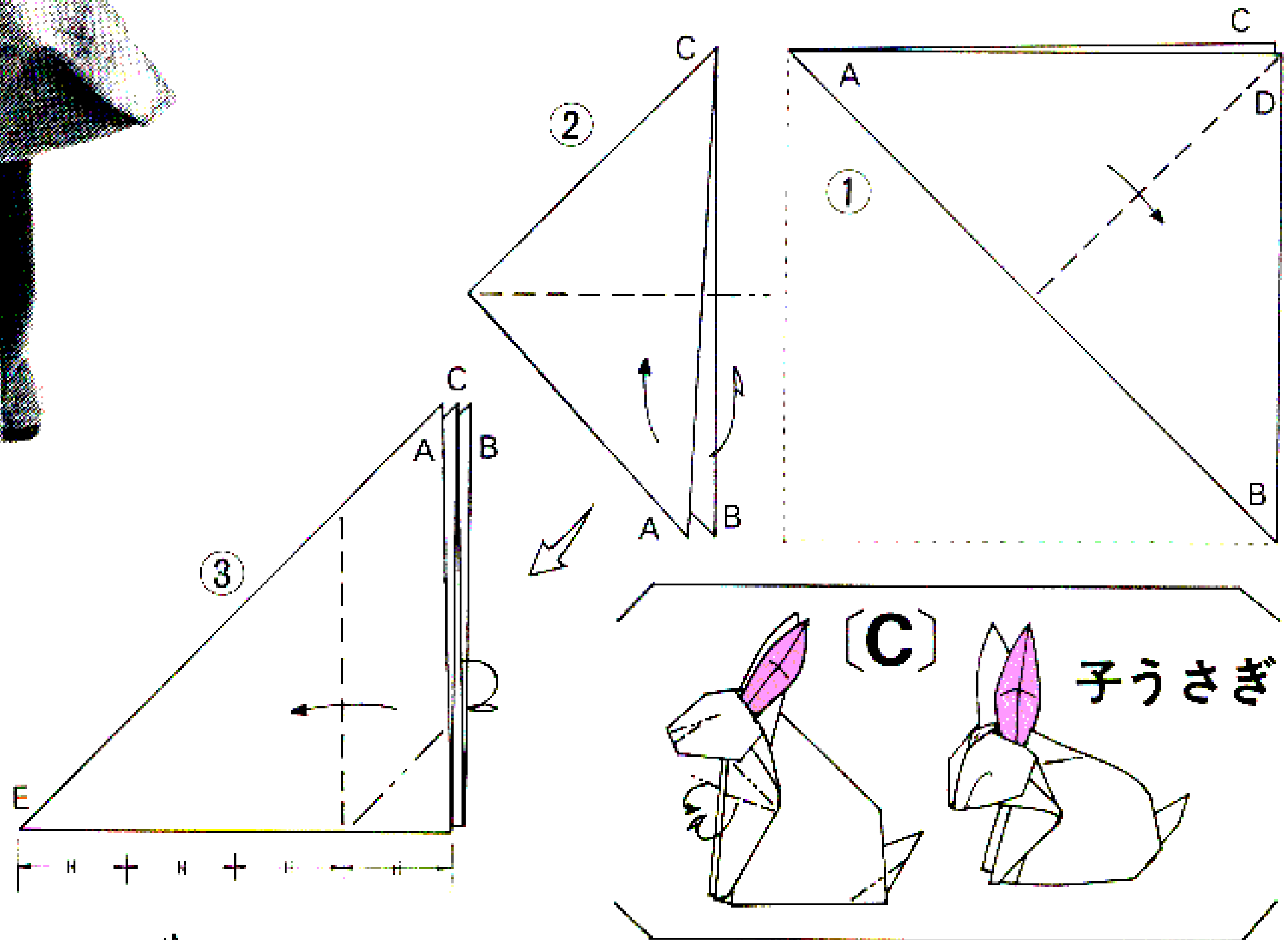

(B)-⑫
(A)-⑫

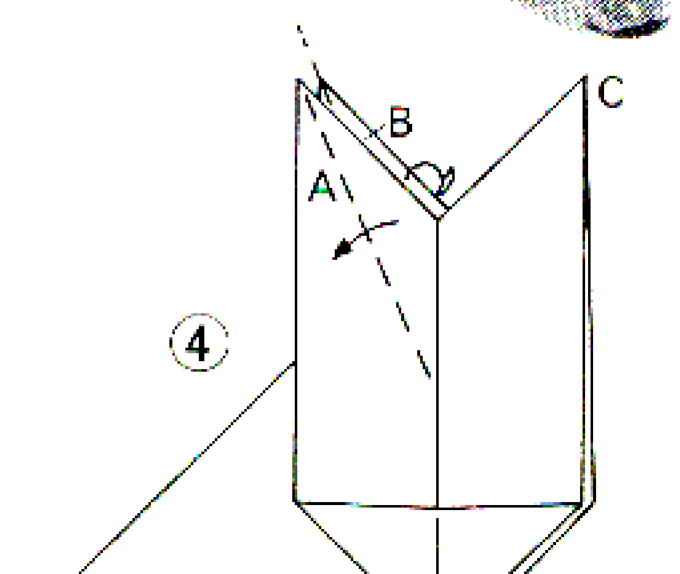

(B)-⑬
(A)-⑪
① A B C D
② A B C D
③ E A B
④ A B E F G C D
⑤ A B F G
⑤′ J K H F G
⑥ A B E C D
⑦ A B 1 2 C D
⑧ D C 2 1
⑨ L M
⑩ A B

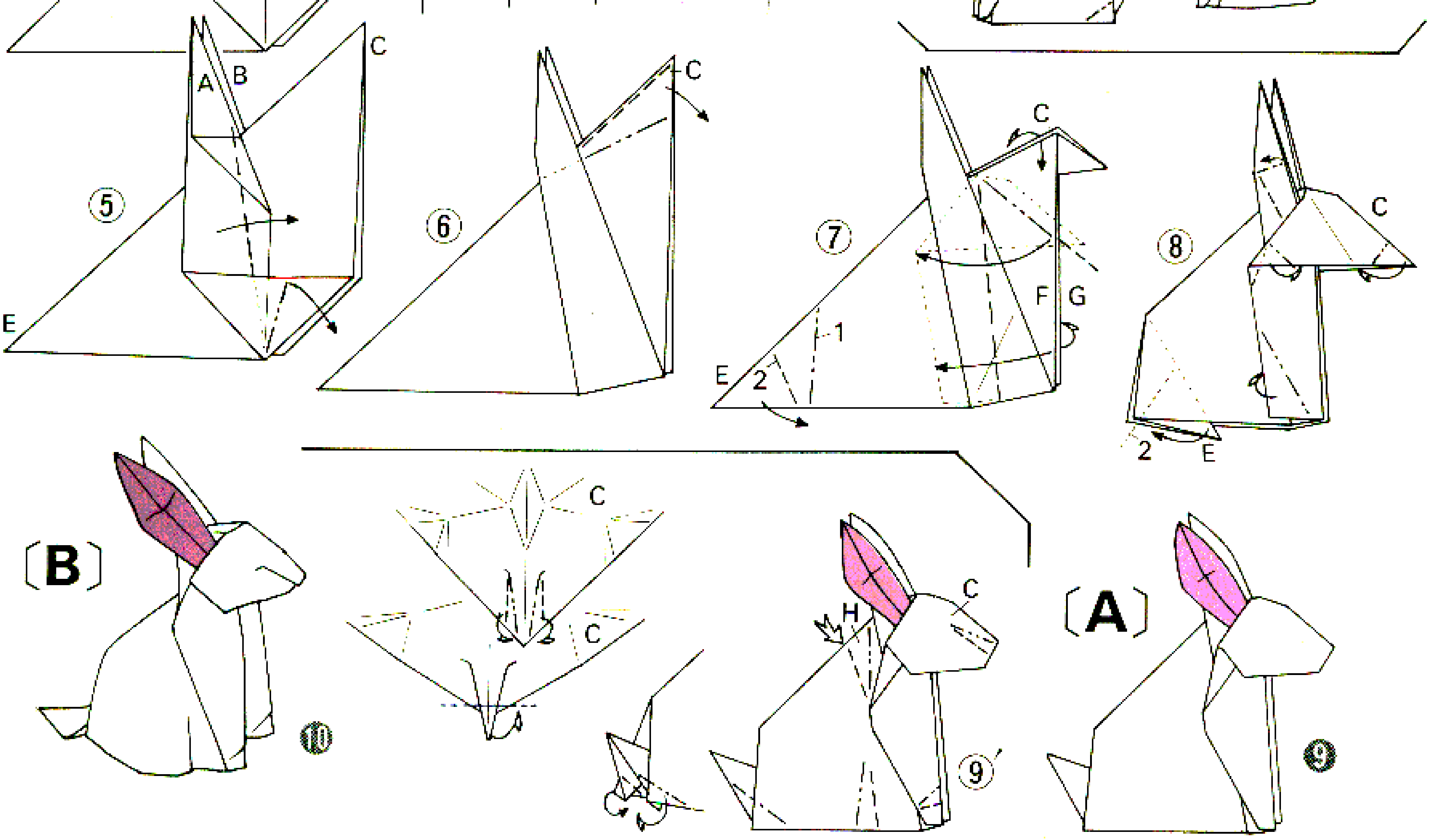
うさぎ

用紙はなるべくうさぎの毛色に合わせ、和紙の風合いを生かして、やわらかい感じに仕上げます。









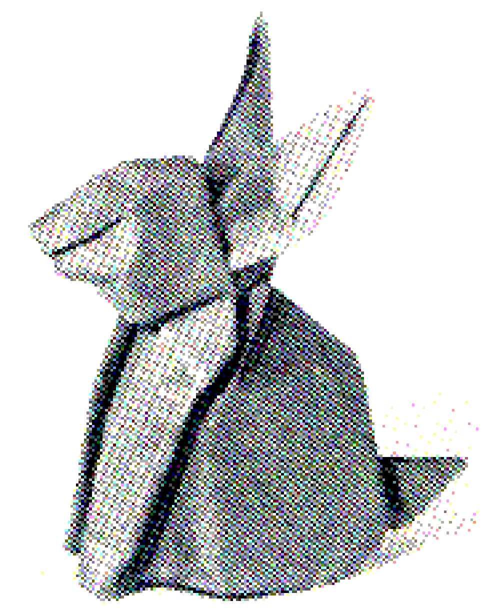
〔A〕正方形の紙を①②③と折る。③約$\frac{1}{4}$のところに縦に折り目をつけて、ABを外へ折り返す。④ABを外へ折る。⑤Aの下のほうを矢印に返し、裏側も同様に折る。⑥Cを間へ折る。⑦FGを谷線と山線でそれぞれ左右に折り広げて、Cを折りかぶせ、Eを1の山線から折り込む。⑧2の点線の位置からEを折り返して尾を作り、鼻、あご、前足を矢印にそれぞれ折り、耳を広げて形をととのえる。

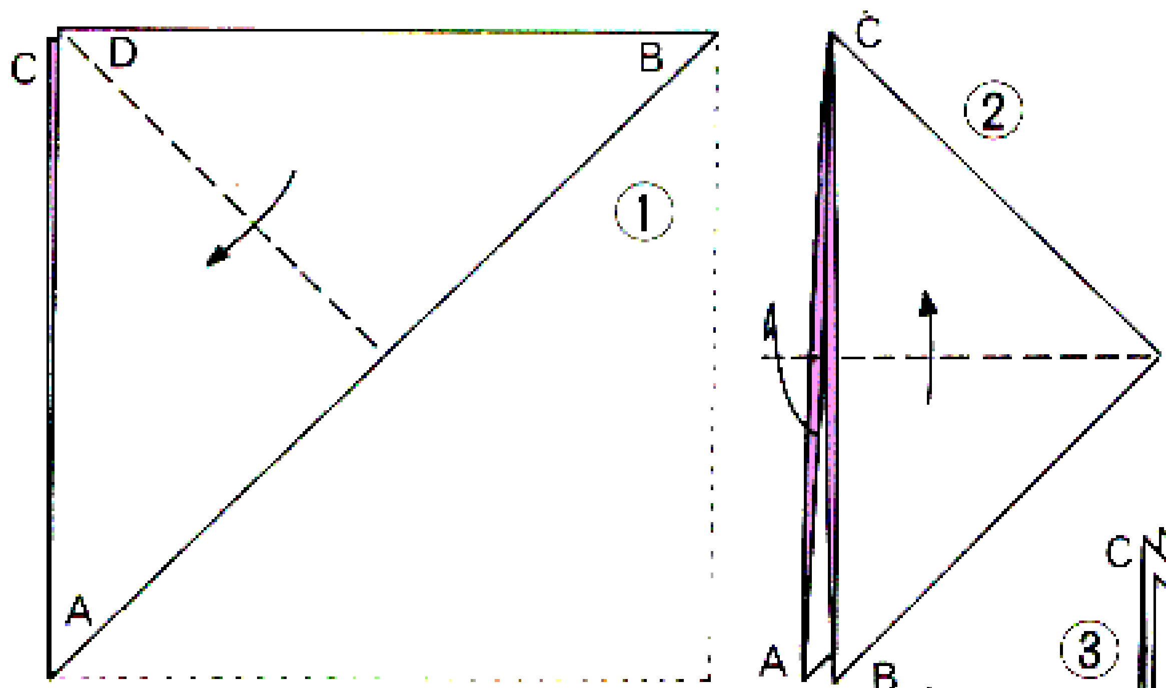
❾出来上がり。

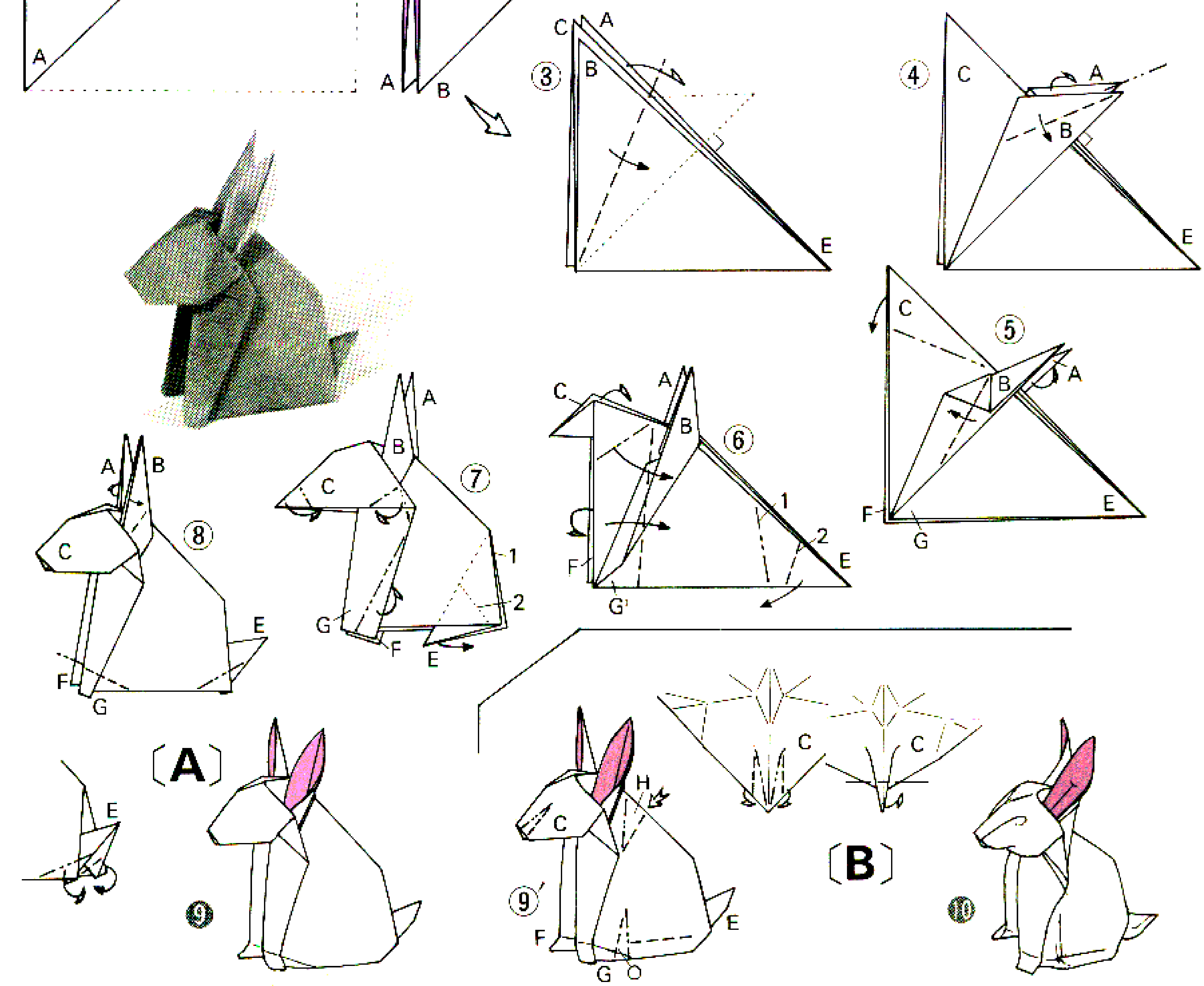
〔B〕は〔A〕の⑨まで同じに折り、Cをいったん広げて部分図のようにして鼻づらを作り、尾の下を折り込んでから、つまんで下に引き下げ、Hの部分を押し込んで形をととのえる。

〔C〕子うさぎ 〔A〕の⑨まで同じに折り、鼻づらと尾を作ってから、胸のところを大きく折り込んで形をととのえる。

白うさぎは裏の白いうす赤の紙や、もも色と白い紙を重ね、白を表にして折り、耳の内側に色を出すと、かわいいうさぎになります。



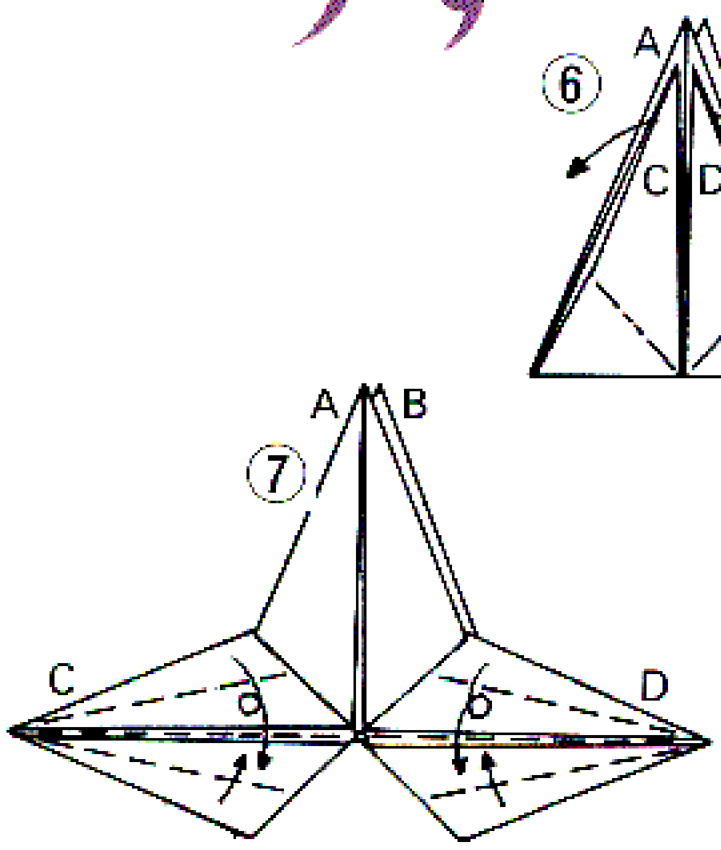




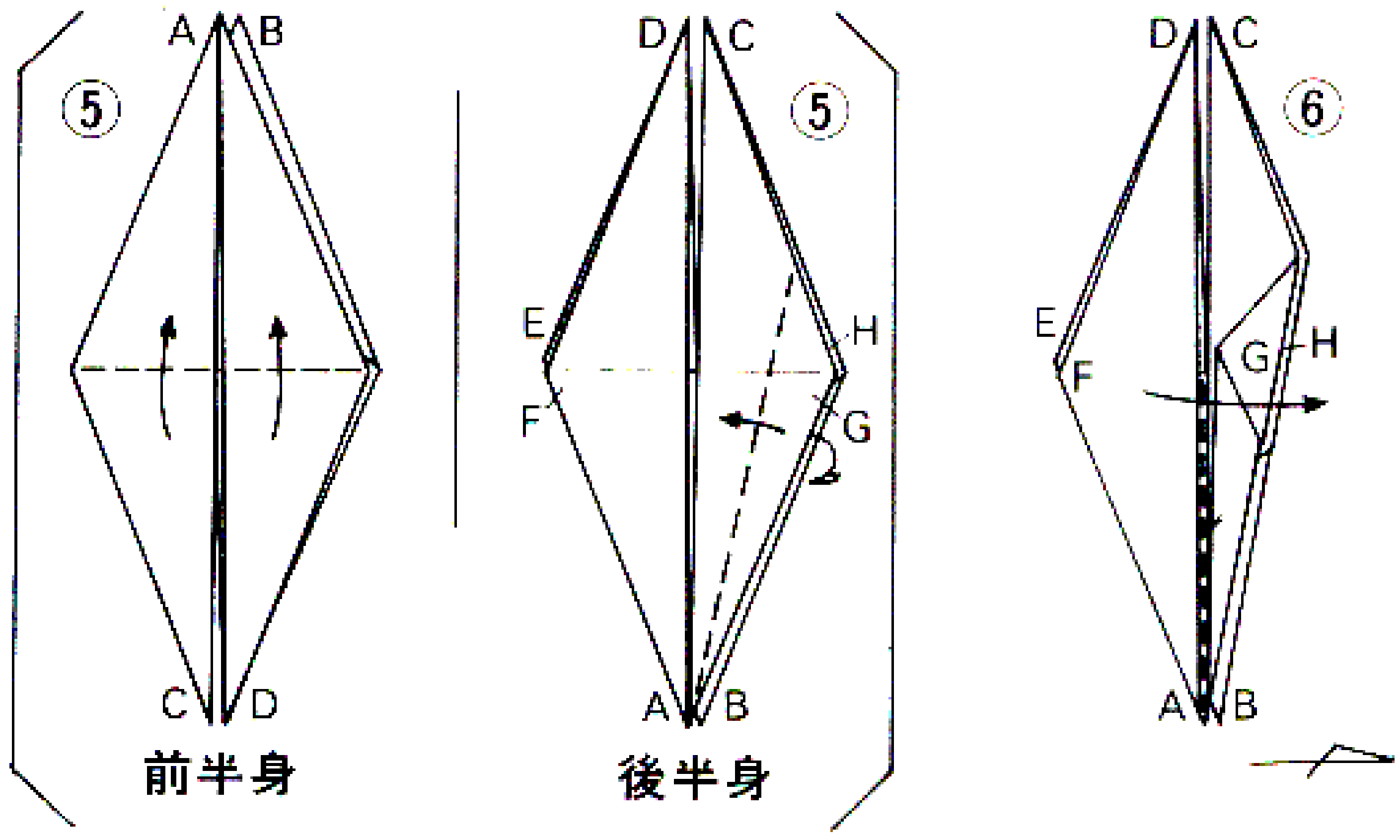
〔A〕正方形の紙を①②③④の順に折る。⑤AとBを谷線の位置から折り、Cを間へ折る。⑥F、Gを山線と谷線で表と裏に折り返して、Cを折りかぶせ、Eを1の山線から折り込む。⑦Cの先を折り込み、耳の下を間へずらして折り、F、Gを細く折り、Eを2の点線から折り返す。⑧A、Bを開いて耳を作り、Eの下を折って尾を細くし、F、Gを外へ折り、内側に指を入れて胴体にふくらみをもたせる。❾出来上がり。

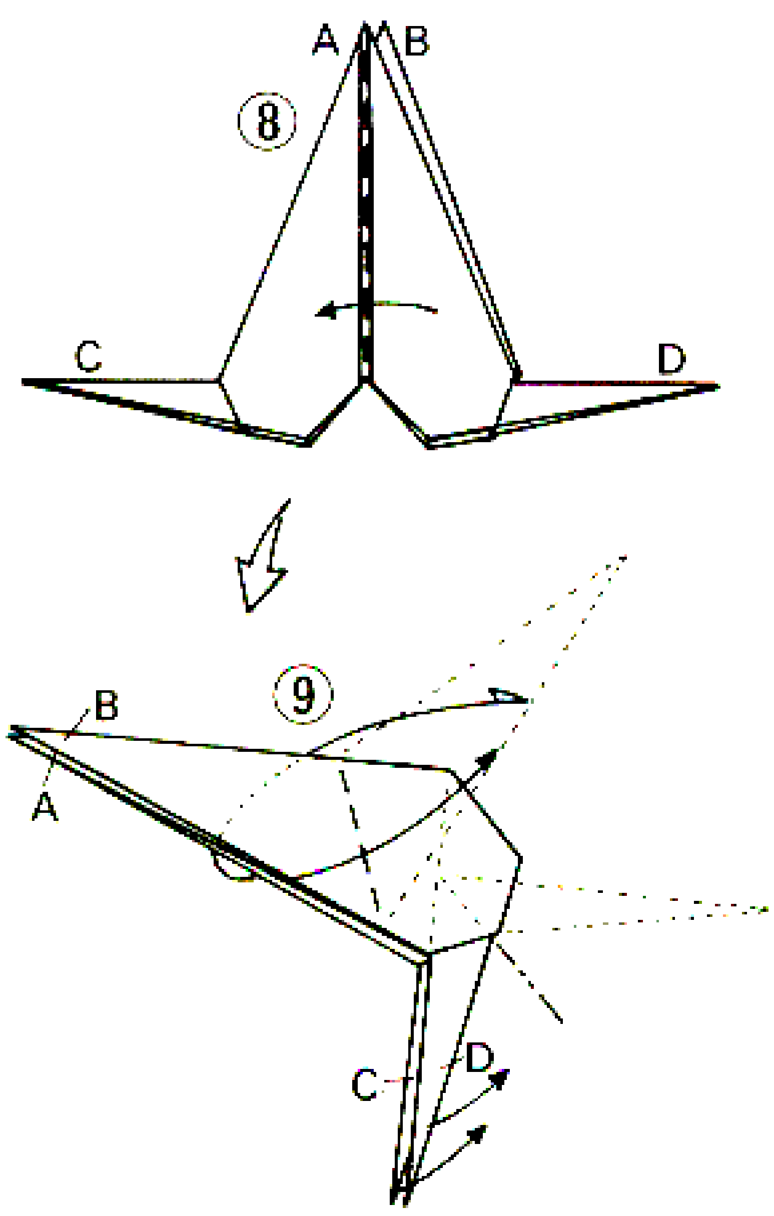
〔B〕は〔A〕の⑨まで同じに折る。⑨′Cをいったん開いて部分図のようにして鼻づらを作り、Hの部分を押し込み、○印の部分をそれぞれ外側からつまみ折りにして段をつけ、横の谷線で後足を作り、尾を引き下げて、全体の形をととのえる。❿出来上がり。

りす

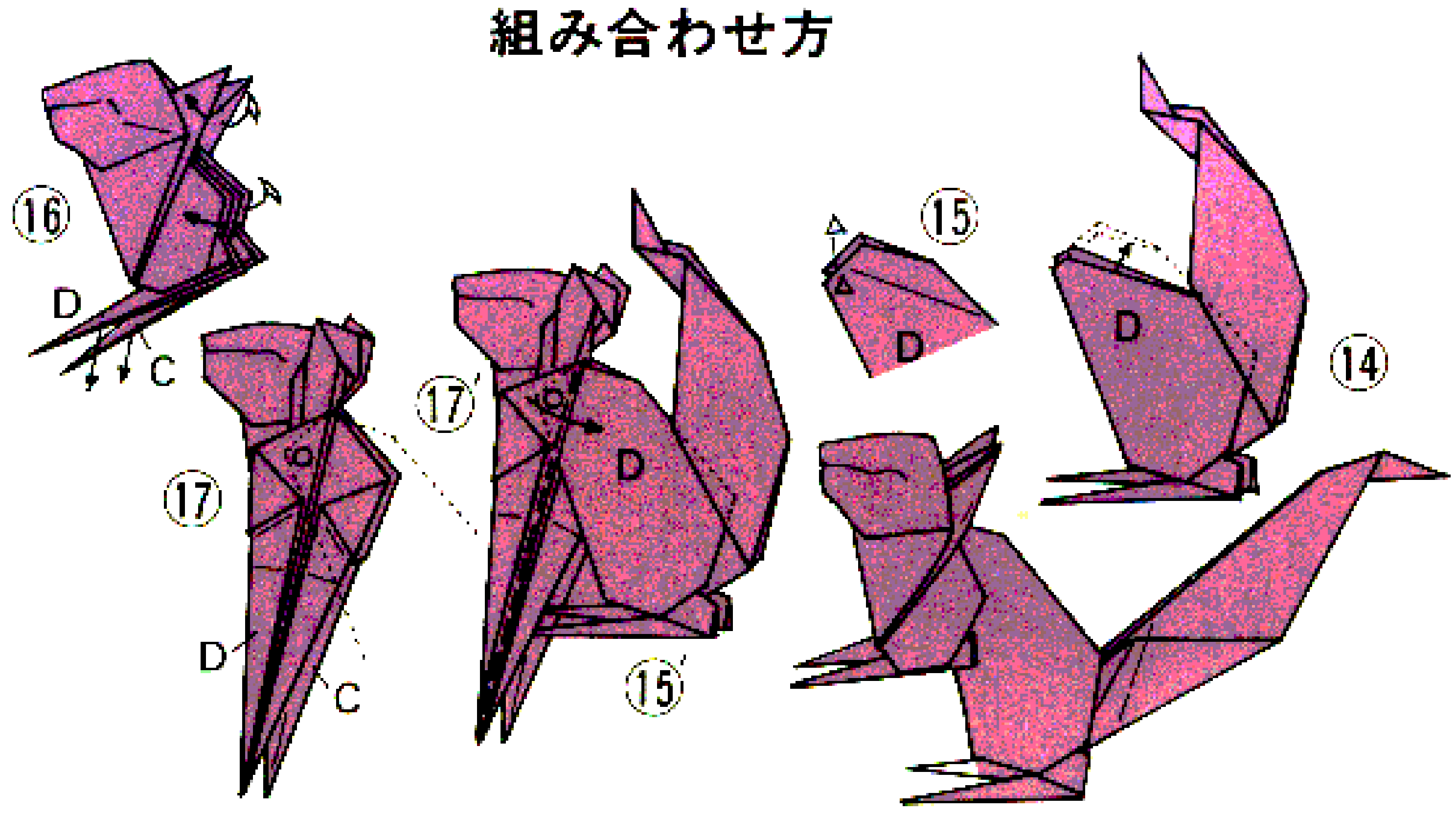


基礎折り(A)

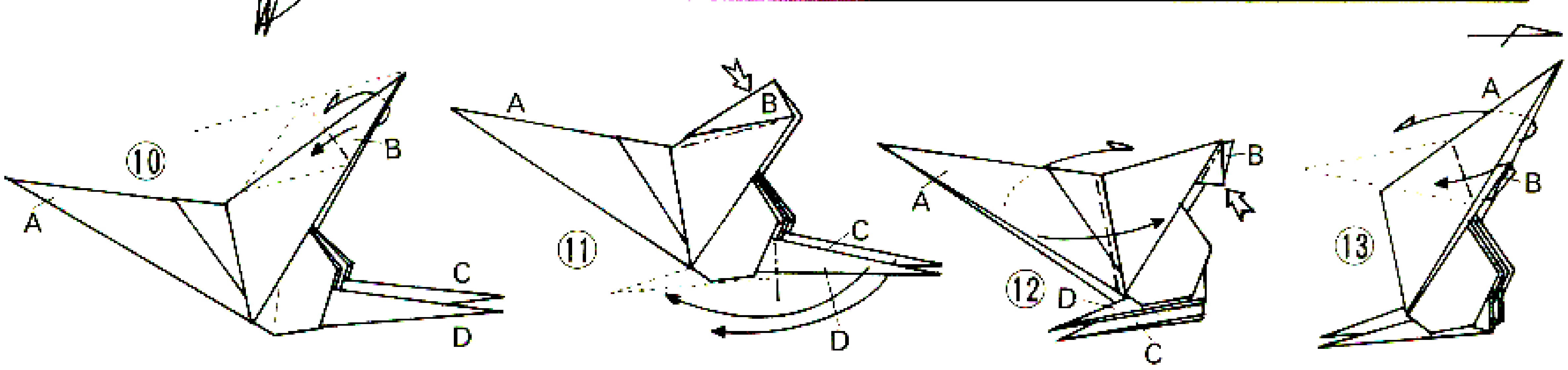




組み合わせ方



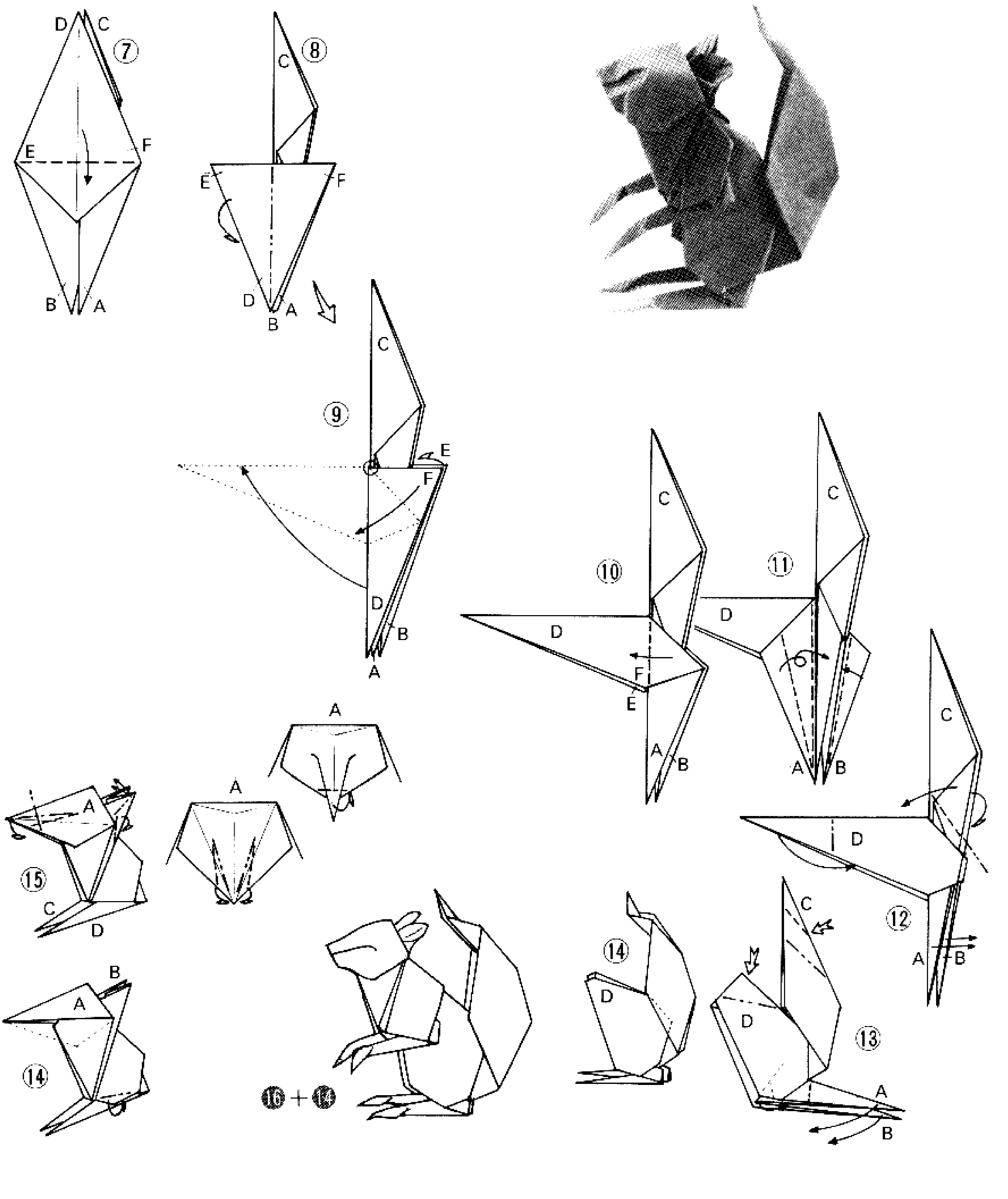
前半身⑯のCDを⑰のように広げて、後半身⑭のDを点線まで引き出して幅を広げ、前半身⑰⑰′の点線のようにかぶせ、後半身⑮の△印を、前半身の○印の中へ差し込み、⑰′の谷線を折ってはずれないようにして形をととのえる。



正方形の紙二枚で基礎折り(A)から、前半身と後半身を折って作る。

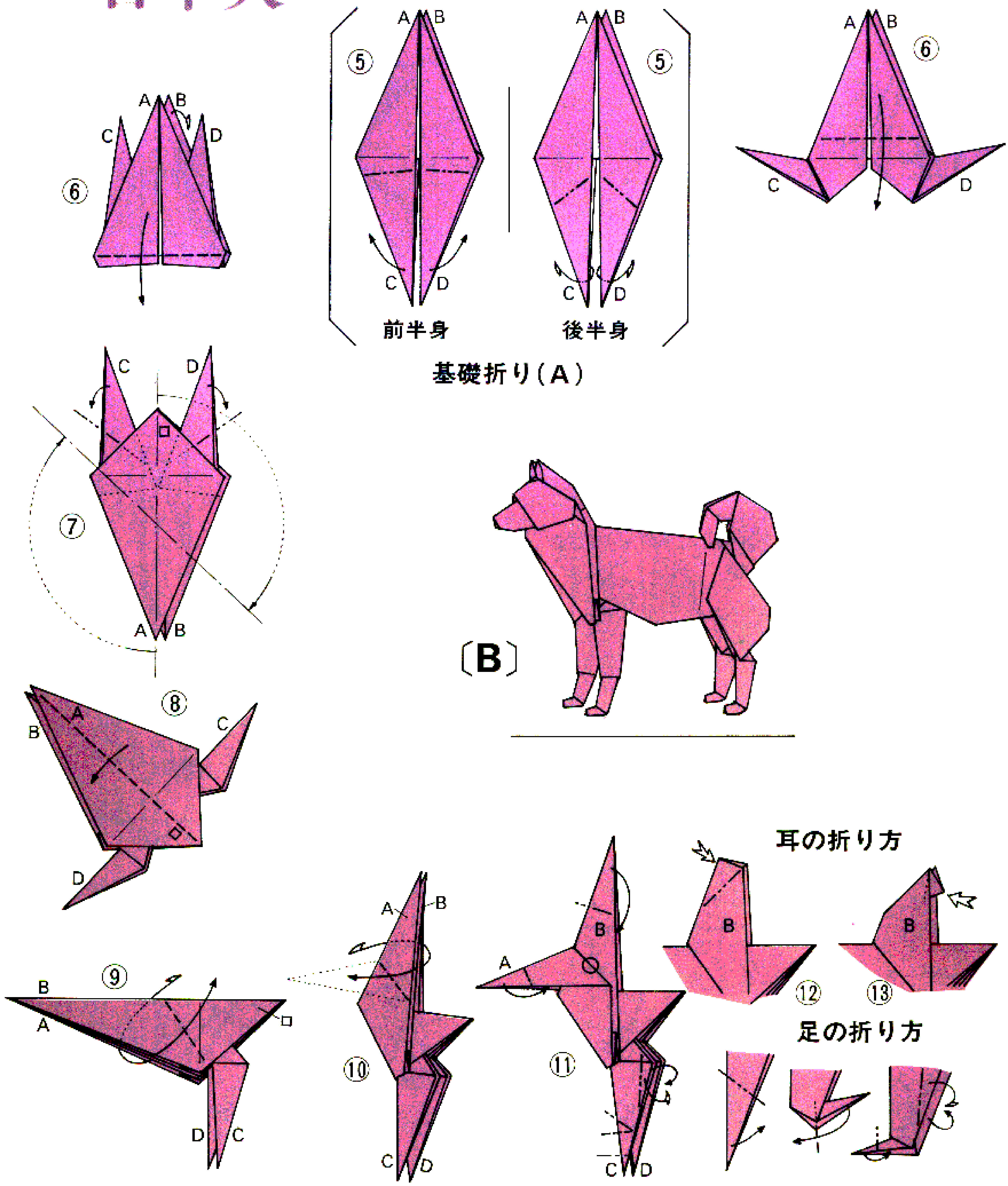
〈前半身〉⑤CとDを折り上げる。⑥CとDの袋をそれぞれ開いて折る。⑦CとDを細く折る。⑧二つに折る。⑨AとBを少し広げて谷線の位置からBだけ点線へ折り返し、CとDを点線へ折る。⑩Bの先だけ平らにして矢印に折る。⑪Bを矢印に押し込み、CとDを折り返す。⑫Bのカドを山線から折り込み、Aを⑨のときと同じようにして折りかぶせる。⑬Aを谷線の位置から折り返す。⑭Aの袋の中から点線へ開き出し、手の付け根のところを間へ折り込む。⑮耳の付け根を頭の内側へ押しつけてから、耳の中の重なっているところを引き出して丸やかに開き、Aを部分図のようにして顔を作る⑯。

〈後半身〉⑤GとHをそれぞれ矢印に折る。⑥Fを矢印に返す。⑦Dを折り下げる。⑧E



を裏へ折る。⑨○印を支点としてＥＦをずらし、Ｄを点線へ引き出す。⑩矢印に上側だけ返す。⑪ＡとＢをそれぞれ細く折る。⑫Ｄの先を間へ折り、Ｃを開いて折り返し、ＡとＢを矢印に折る。⑬それぞれ矢印に折って、⑭Ｄの部分を前半身の⑮の間に入れてのりでつけ、手と足の先を平らに広げて、形をととのえる。⓰＋⓮出来上がり。

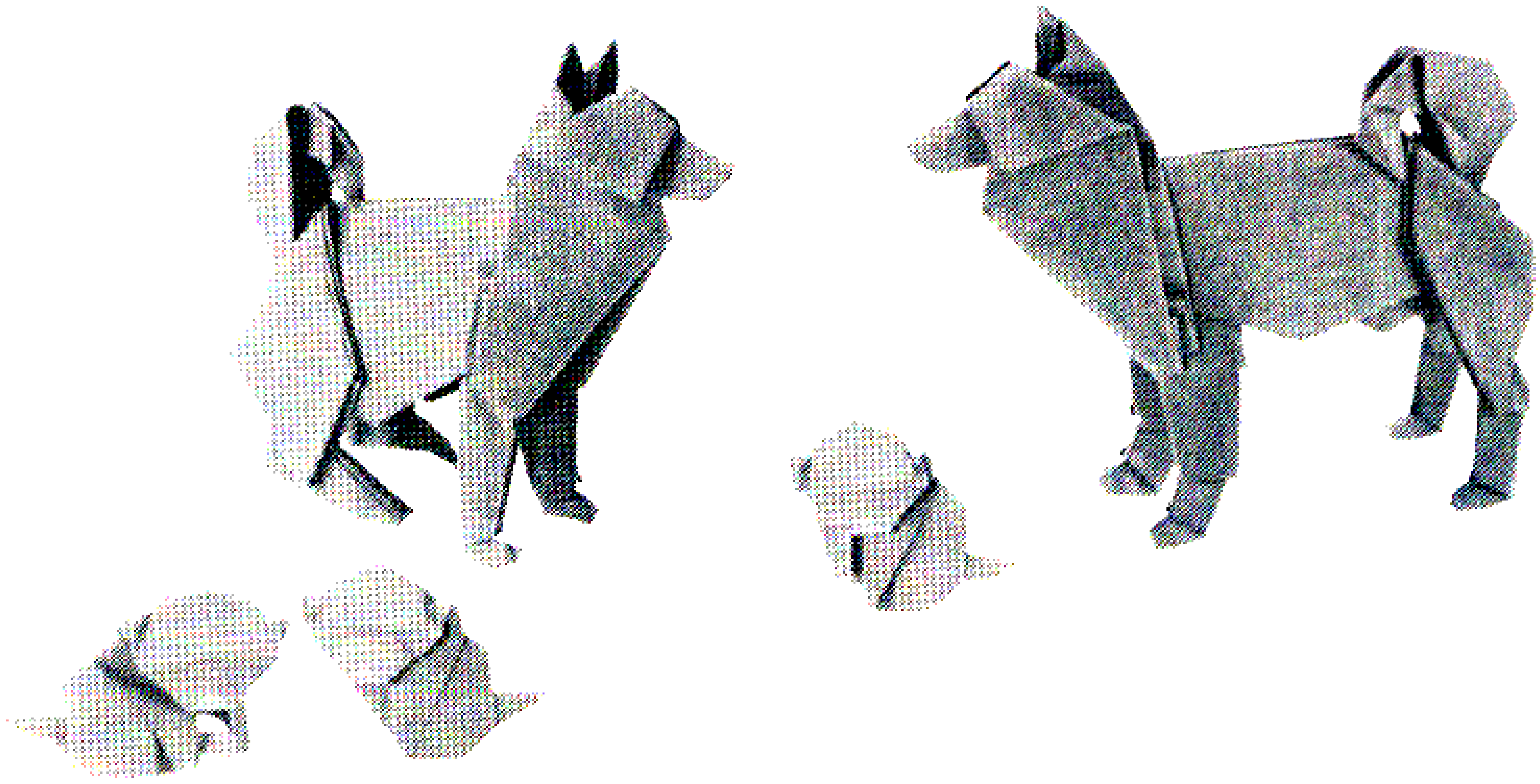
日本犬

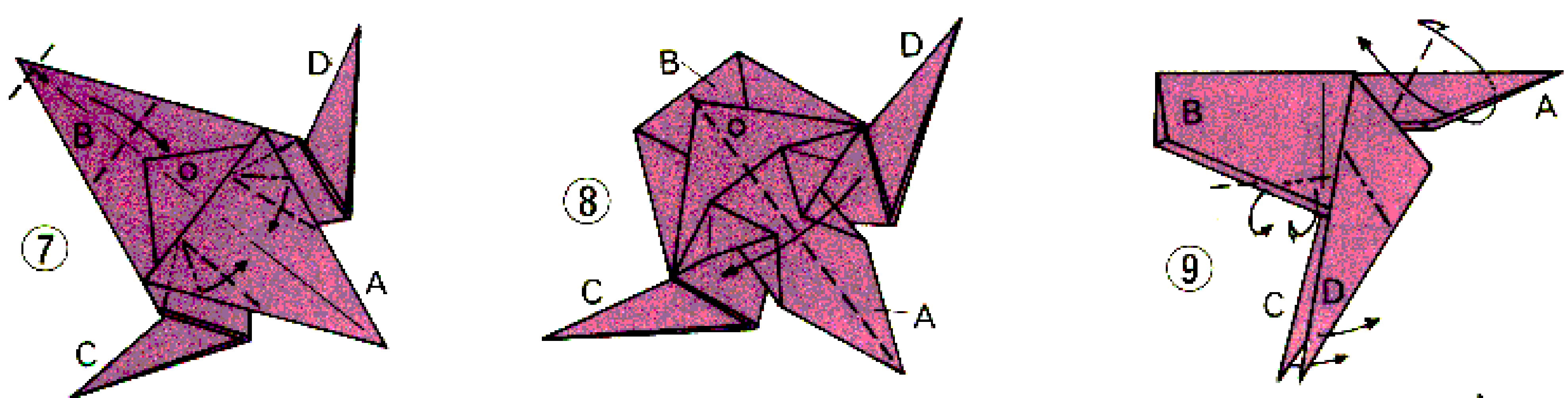


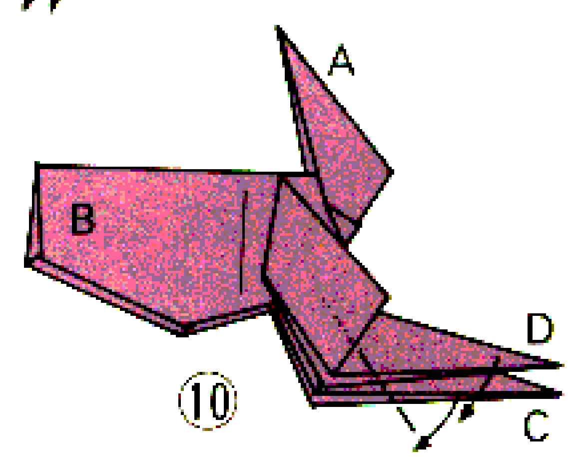
正方形の紙二枚で基礎折り（Ａ）から、前半身と後半身を折って作る。

〈前半身〉⑤ＣとＤをＡＢの間へ折る。⑥ＡＢを折り下げる。⑦ＣＤを横に折る。⑧二つに折る。⑨ＡＢを重ねたまま折り返す。⑩Ａだけ折り返す。⑪Ａの先を折って○印を⑮のようにのばし、Ｂを⑫⑬⑭と折って耳の形にしてから、ＣＤを折って足を作る。⑮Ａを折りかぶせる⑯。

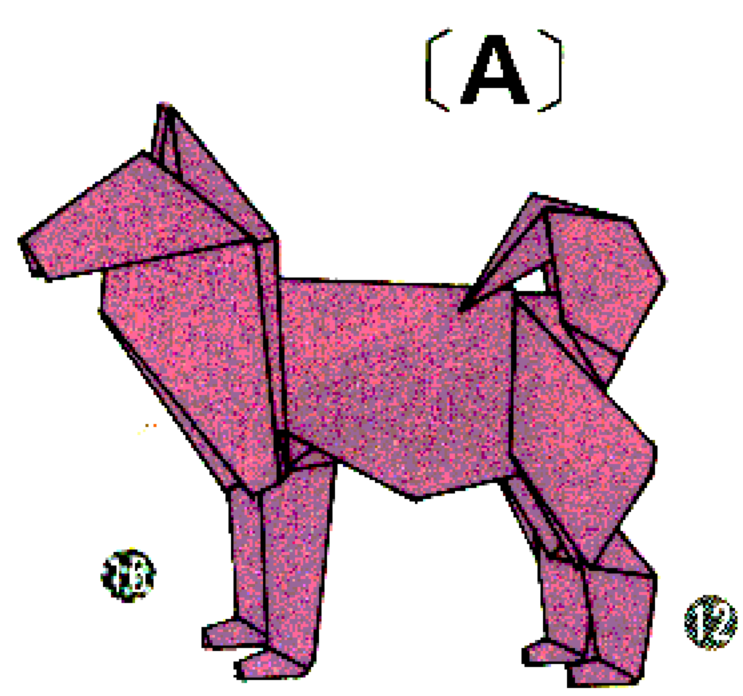
〈後半身〉⑤ＣＤを山線から裏へ折る。⑥Ａを折り下げる。⑦⑧Ｂを○印の裏へ折り、Ａを細く折ってから二つに折る。⑨⑩Ａの先を広げて折り返し、腹の下を折ってから、ＣＤを折る。⑪Ａを折り、ＣＤを「足の折り方」で折る⑫。

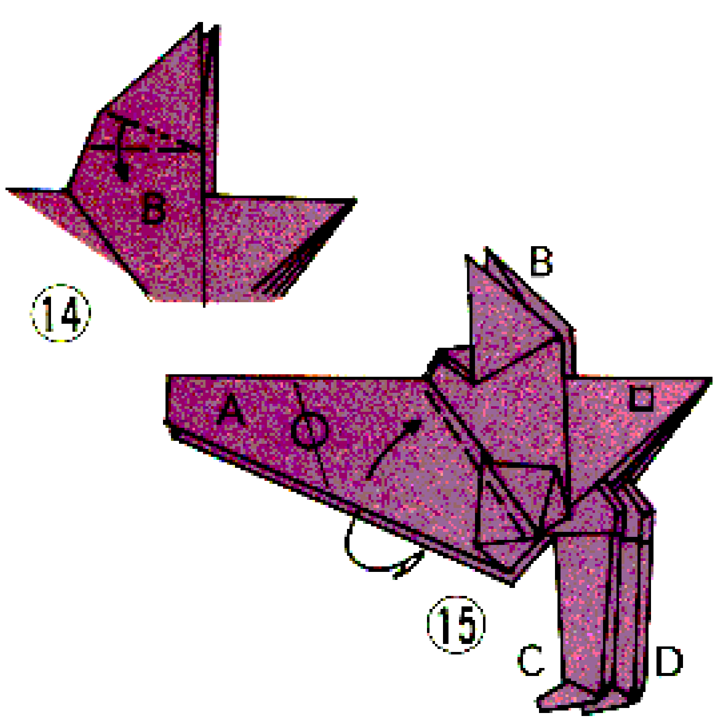


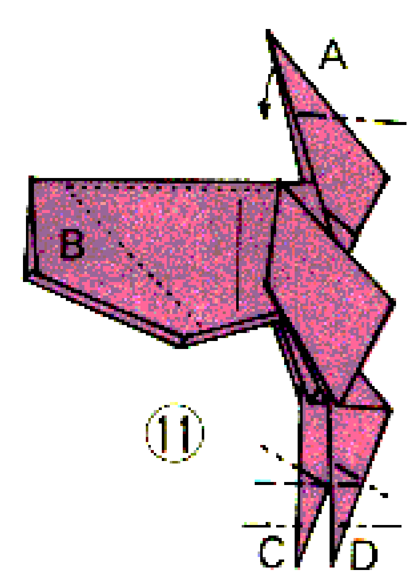




〔A〕







組み合わせ方

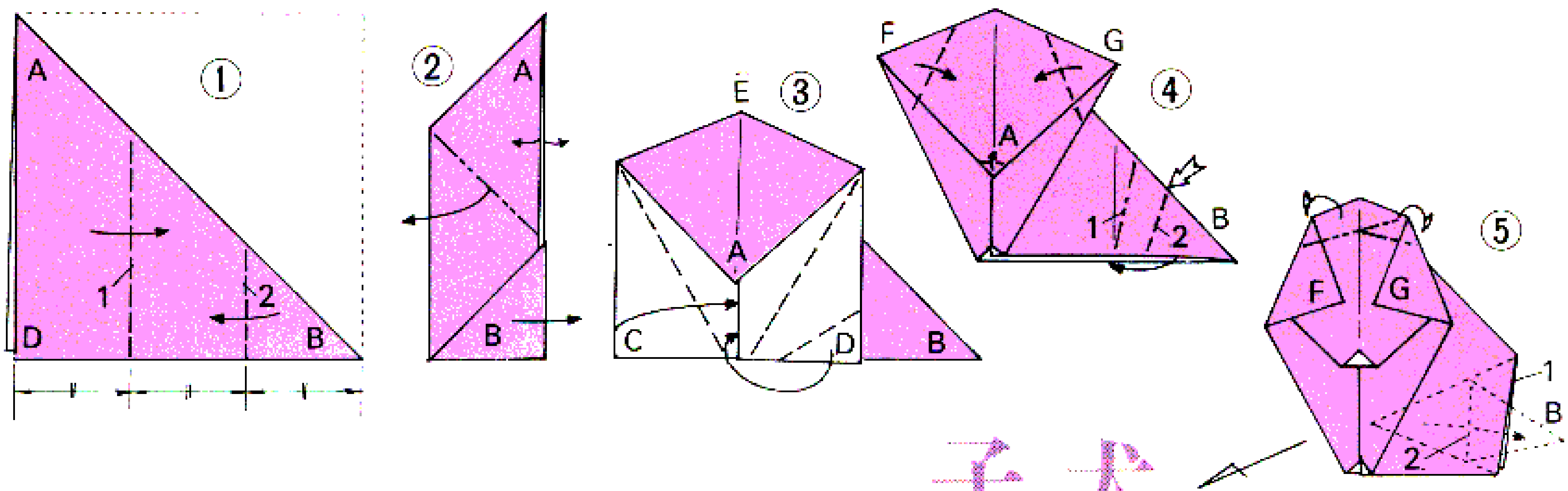
後半身の⑫を⑧のように平らにして、前半身を□印の部分だけ⑧のようにやや平らにして、後半身の⑧の○印とＢの間へ深く差し込んでから、もとの折り目で形をととのえる。

〔A〕⓰ー⓬出来上がり。

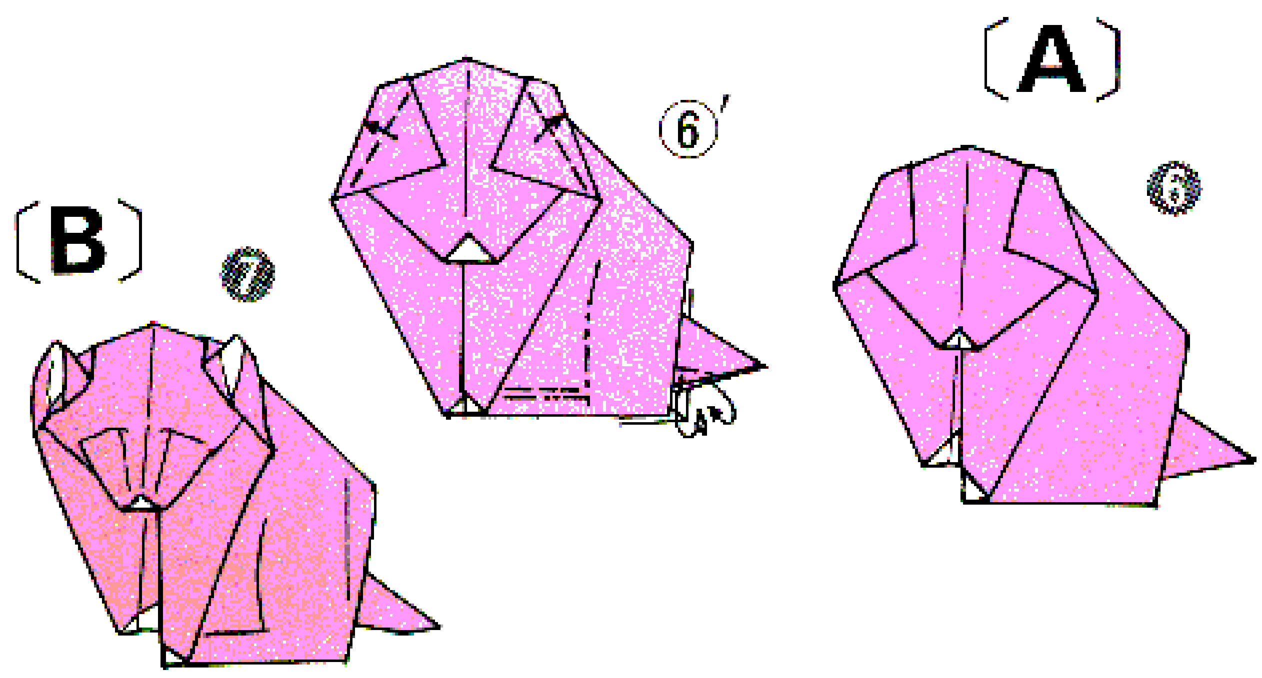
〔B〕は〔A〕に額の段をつけ、尾の先を広げて太くし、前足を写実的にしたもの。

座り姿は後足を折りかえて作る。

形を少しずつかえて工夫すると、テリアやシェパードにもなる。



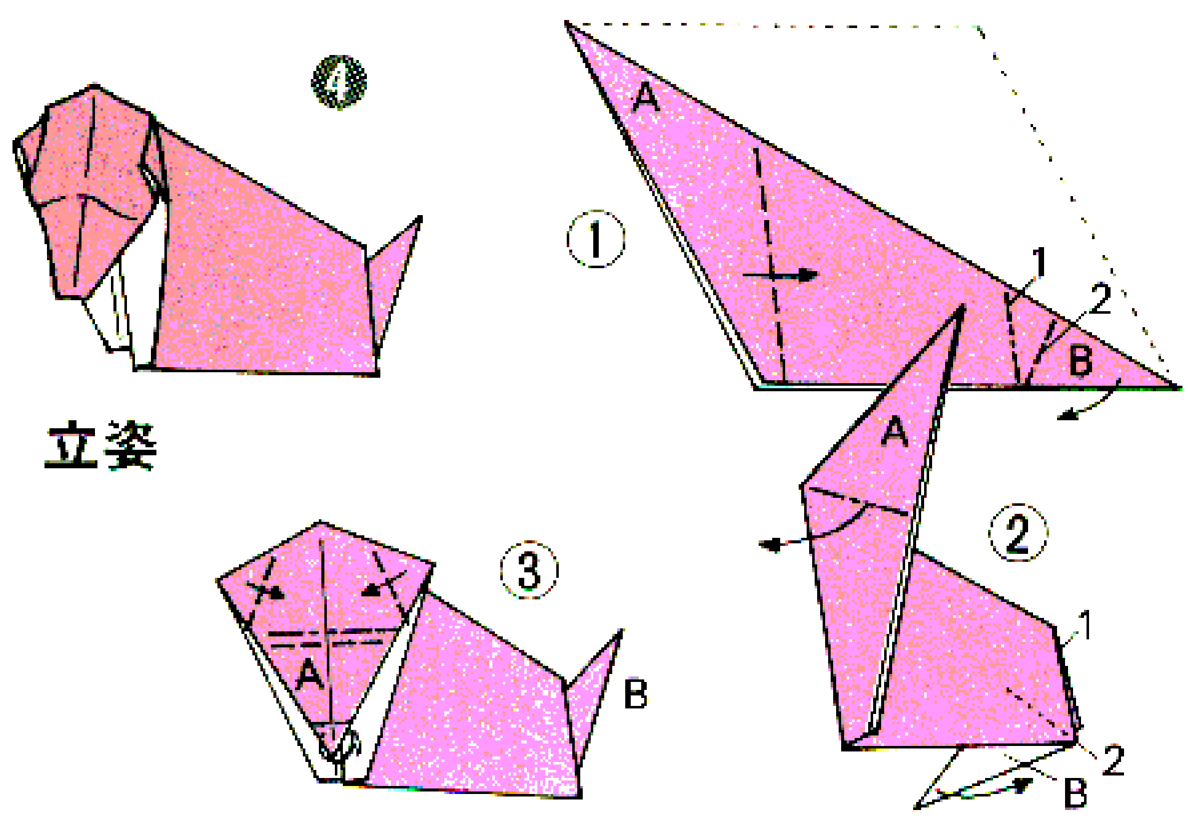
子犬



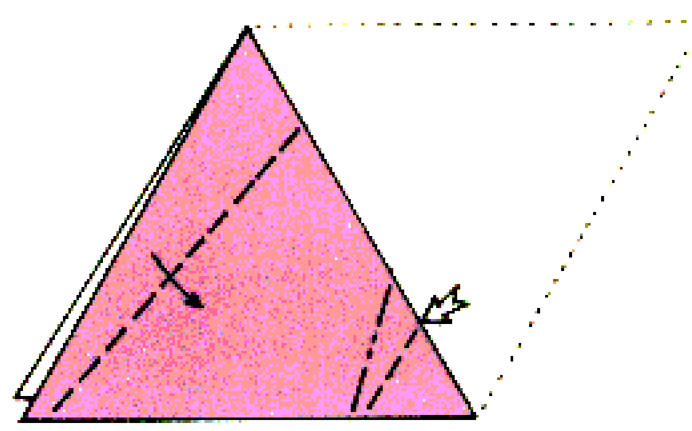
①正方形の紙を対角線に折り、さらに図の割合に折る。②Bをのばし、Aの袋を広げる。③矢印にそれぞれ折る。④⑤鼻と耳を作り、Bを山線で折り込み、谷線で折り返して尾を作る。❻〔A〕出来上がり。

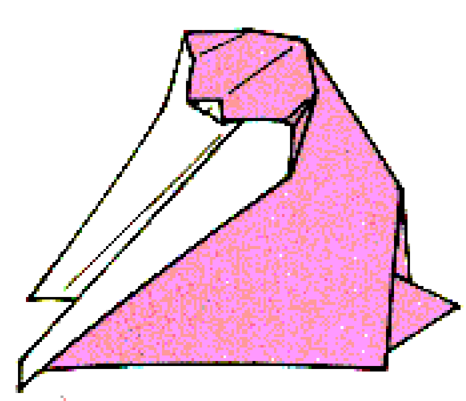
〔B〕は耳を引き起こし、後足の形に折り目をつけ、尾を細くしたもの。

菱形からの犬

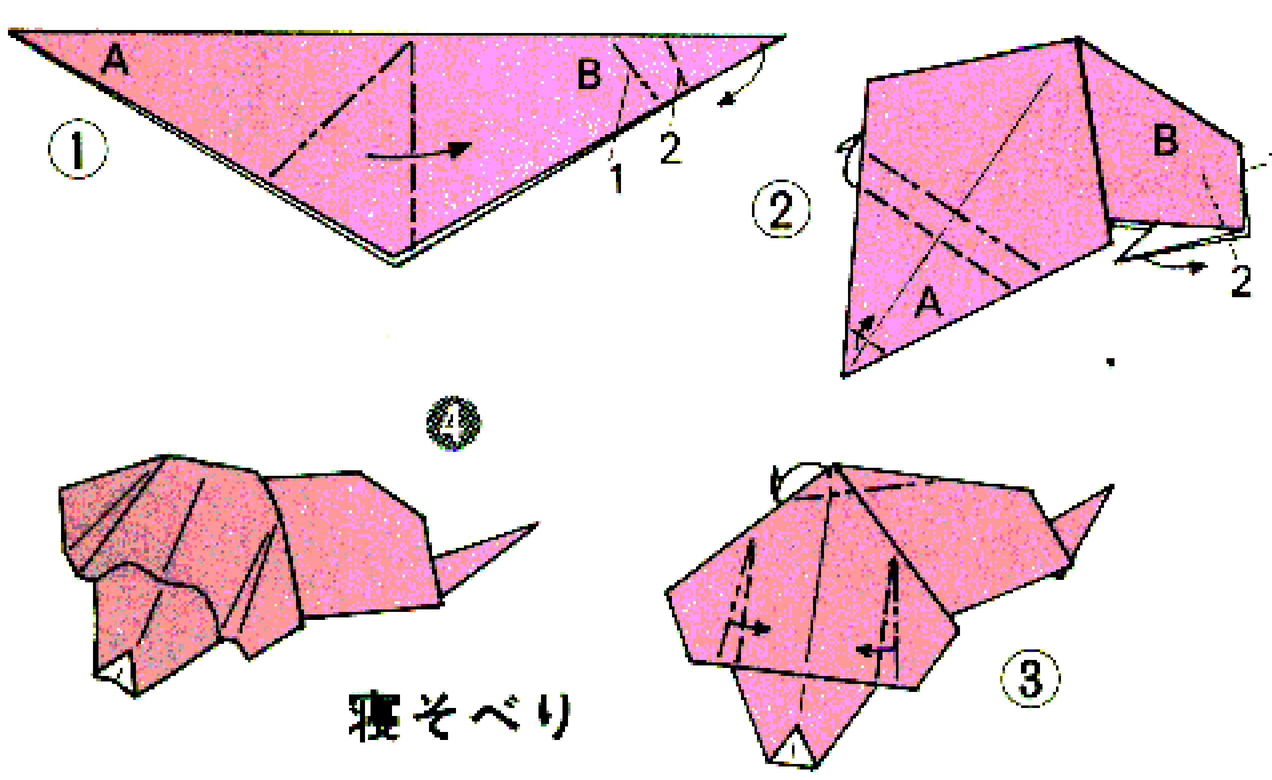


立姿





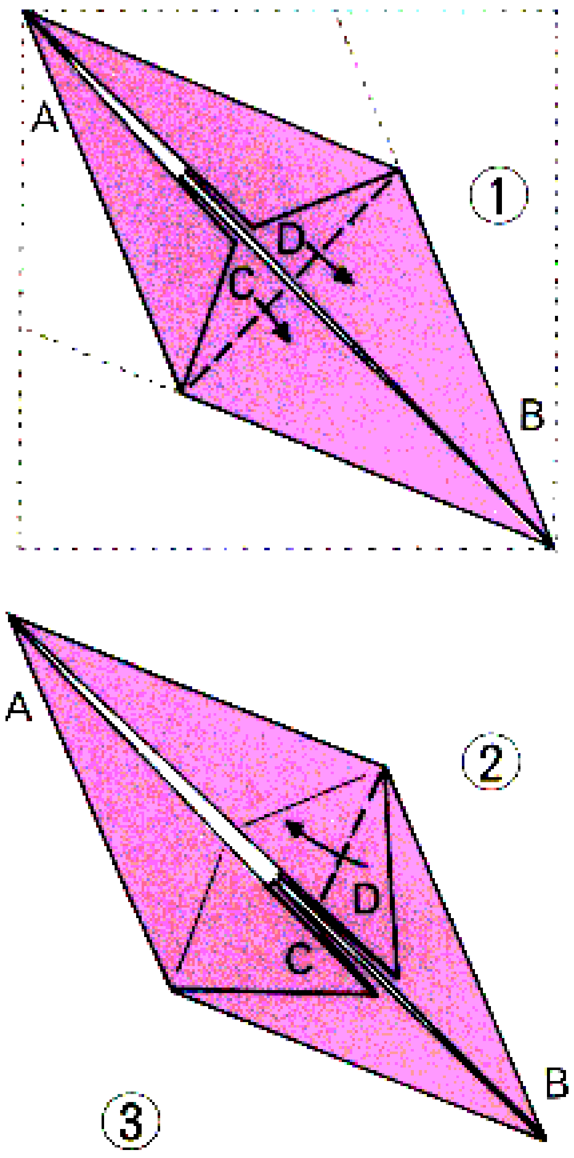
のびをしている姿

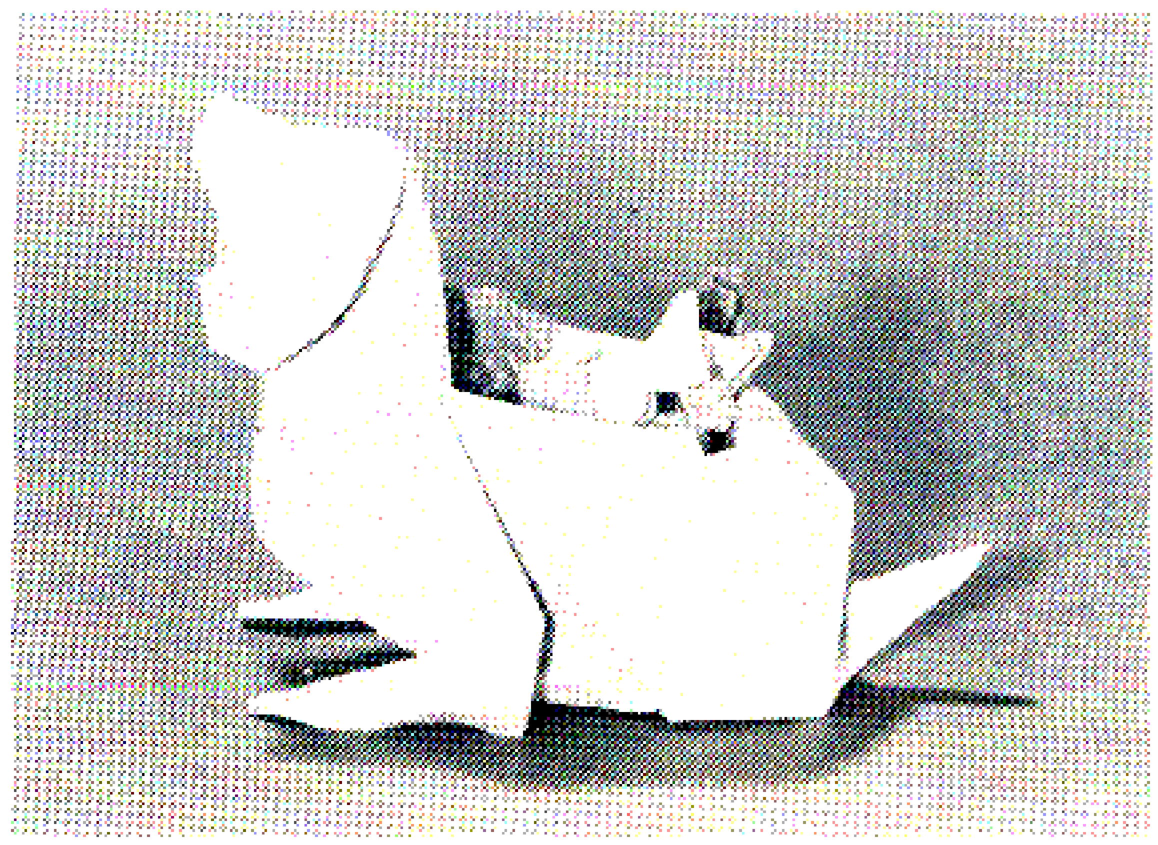


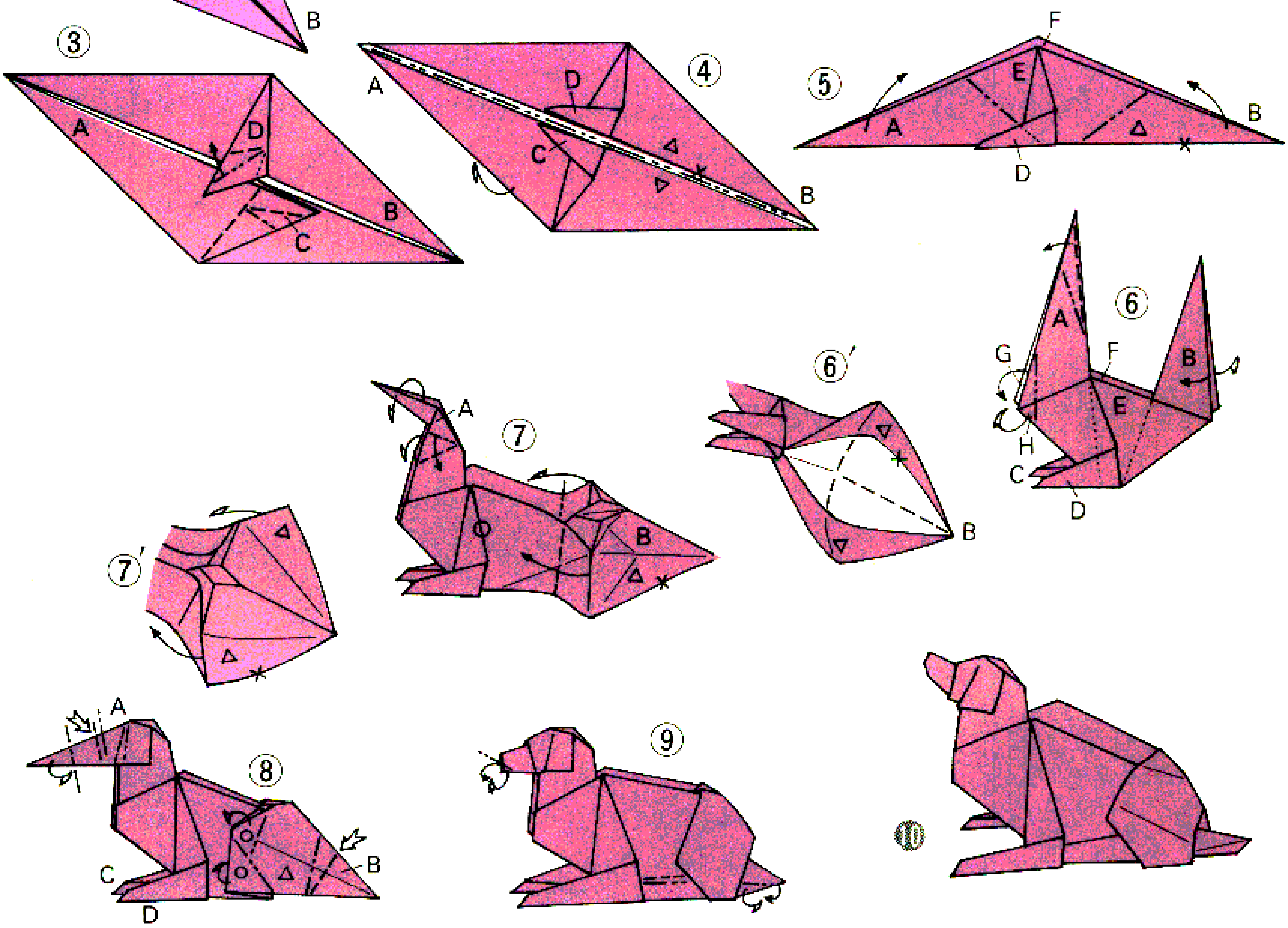
寝そべり

動物の折り紙はふつう正方形や菱形の紙を対角線に折って、その折り目を背骨にみたてます。犬のいろいろな姿の特徴を、菱形の紙を使って簡単な折り線で表現してみました。

犬の小物入れ







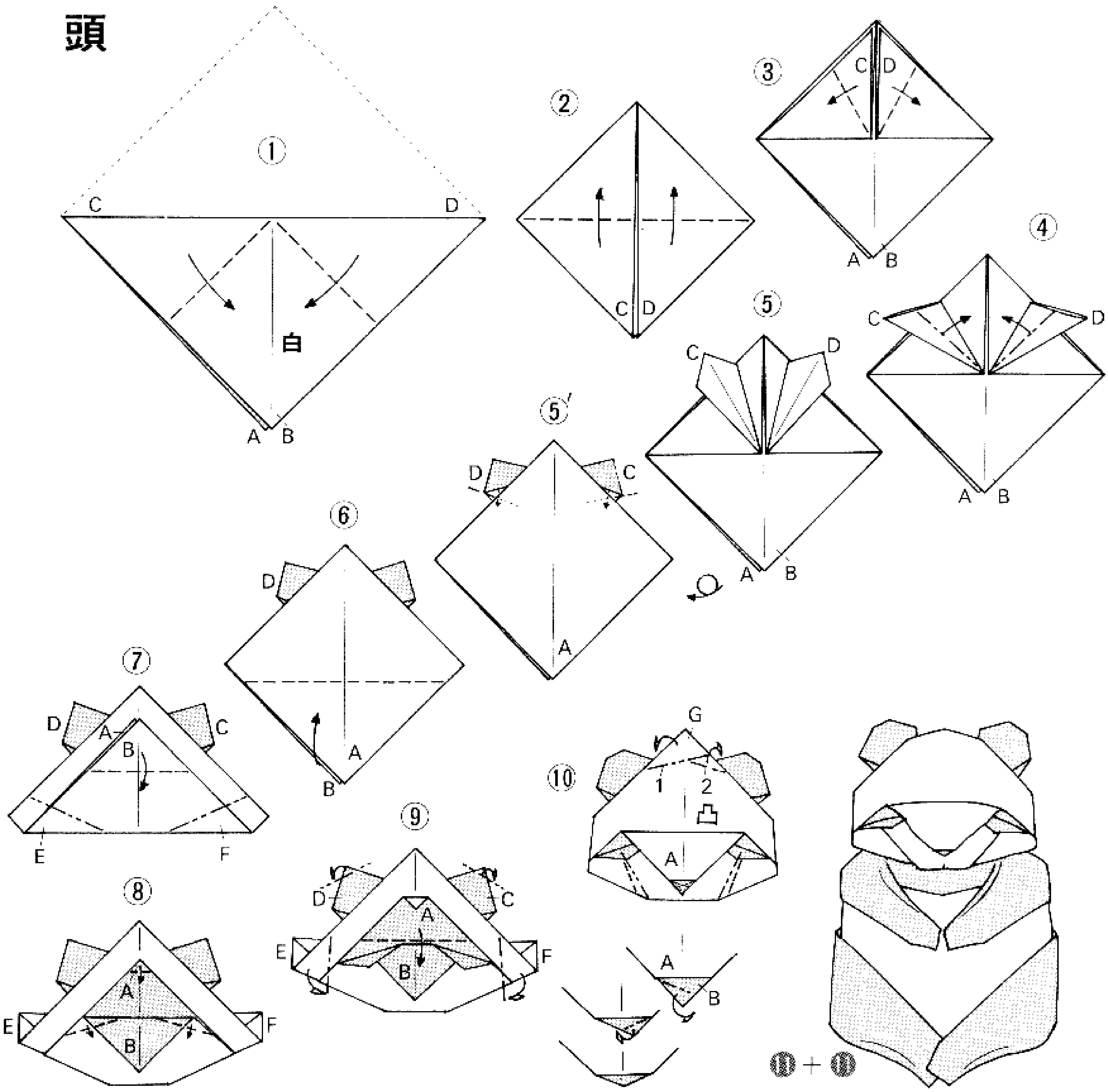
正方形の紙を①のように折り、ＣＤを引き出す。②③と折ってＣＤを細くする。④二つに折る。⑤ＡＢを山線の位置からＥＦの間へ折る。⑥ＧＨを折り、Ａを山線から折り、Ｂを開いて中から④⑤の△印の部分を⑥′のように引き出す。⑦Ａを折りかぶせ、○印をもって⑦′のようにして、谷線から矢印に折って平らにする。⑧Ａの耳と額の位置に段をつけて先を折り、頭の形にととのえ、Ｂで尾を作り、○印を間へ折る。⑨あごの先を小さく折り、後足の形に折り目をつけ、腹の部分を静かに広げて箱状に形をととのえる。⑩出来上がり。

写真は頭を半開きにして、内側から紙を引き出して耳を大きくしたもの。

パンダ

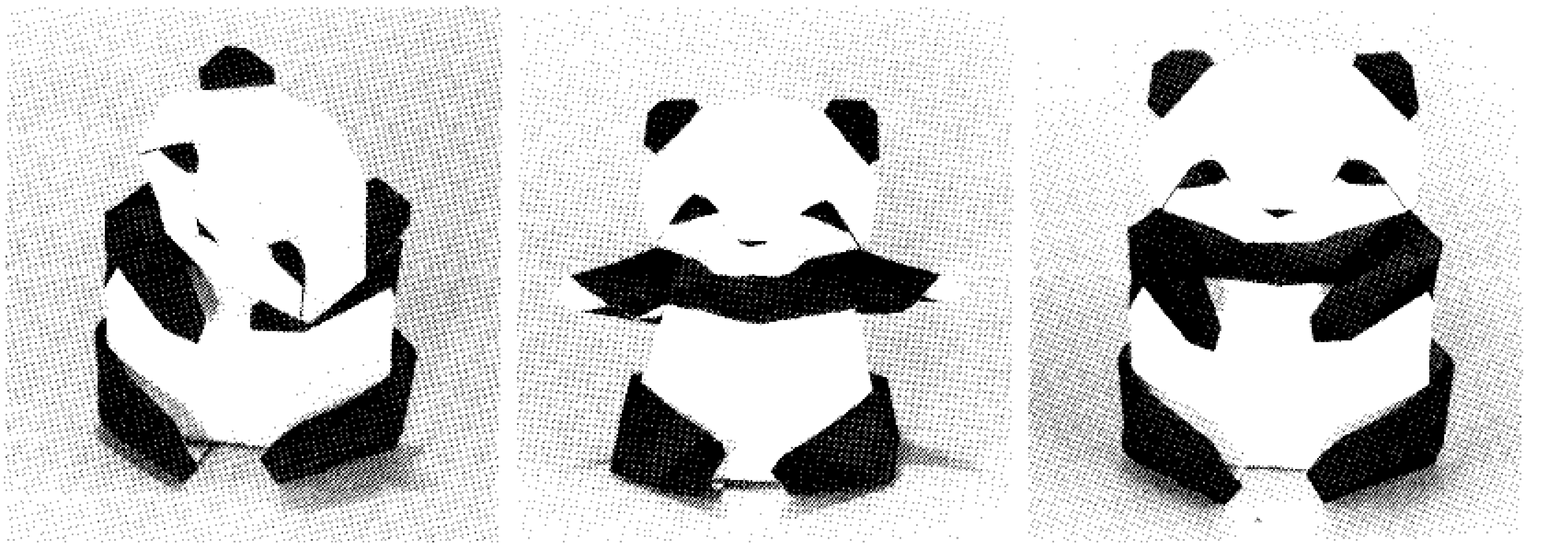
パンダのように丸みのある動物は、輪郭や折り目が直角や平行線にならないようにして、特徴を出します。ふくらみややわらかさは、紙をそらして部分的に曲面をつけます。

頭

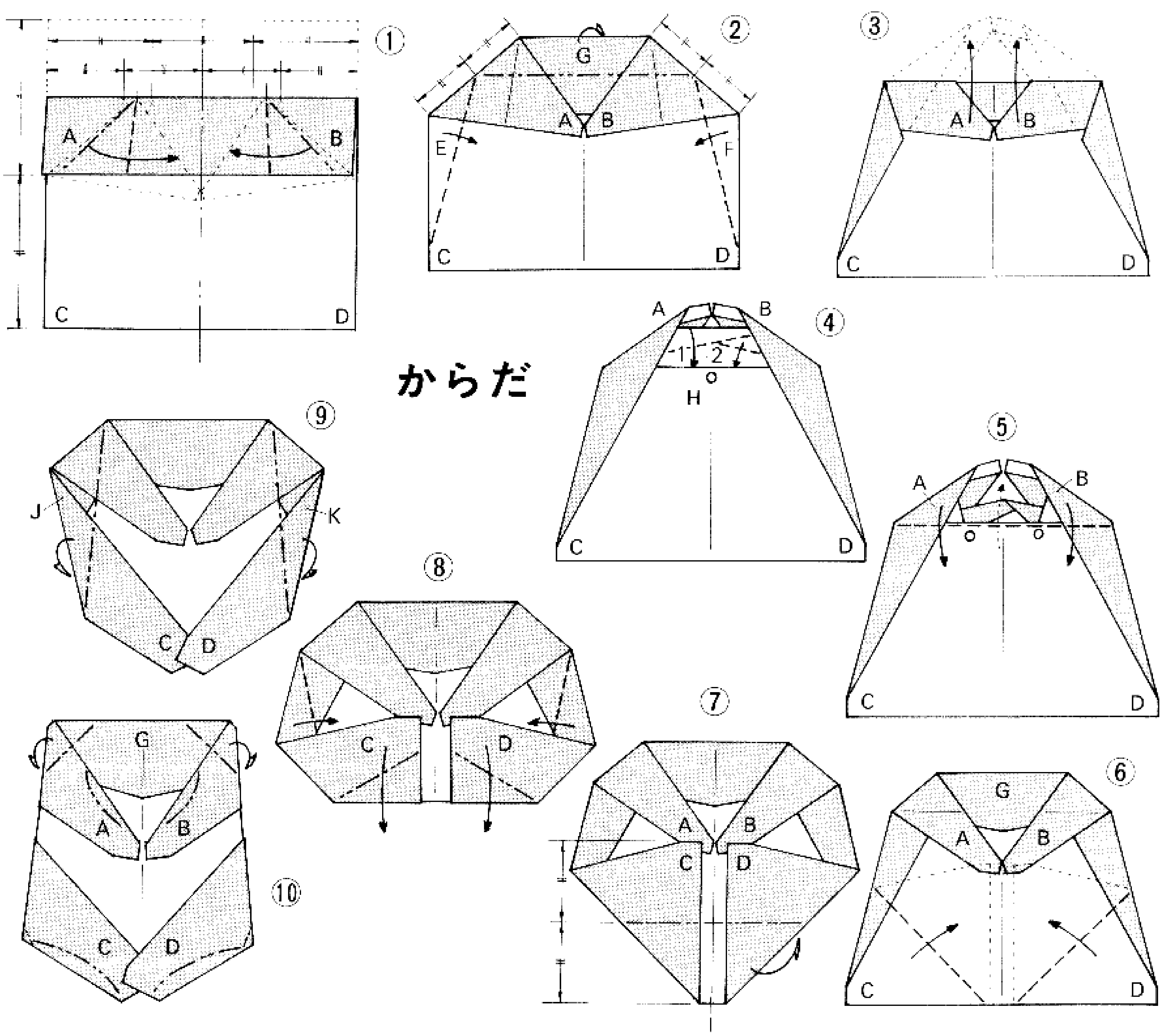


裏の白い黒の紙二枚で、頭とからだをそれぞれ作り、組み合わせる。

〈頭〉①正方形の紙を白を外に出して三角に折る。②③矢印に折る。④CとDを開いて平らにつぶす。⑤裏返す。⑤′CとDの白く見える部分を間へ折り込む。⑥AとBを重ねたまま折り上げる。⑦出来上がりの顔の輪郭と目の位置を考えながら、Bを折り下げ、EとFを裏へ折る。⑧目の形を考えてBの左右のカドを折り、Aの先を鼻の大きさに折り返す。⑨AをBの上に重ねて目を作り、CとD、EとFを山線から裏へ折る。⑩Gを1、2の順に折り、鼻の先の黒いところを折って小さくし、目の下からあごにかけて斜めに山線と谷線で段をつけてから、顔を皿状にそらして形をととのえ、目の上のふちを少し引き起こして曲線にする。⑪出来上がり。

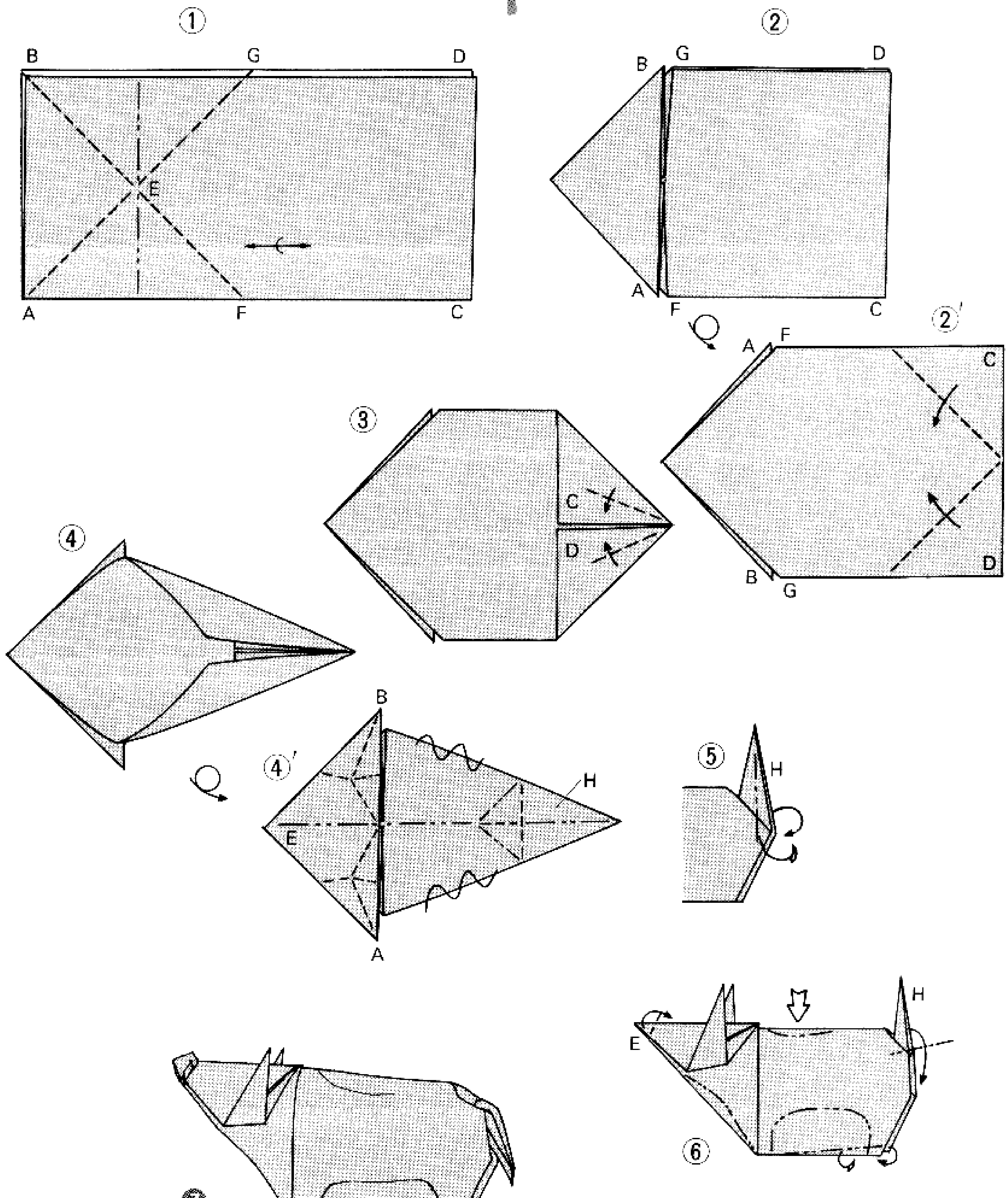


からだ



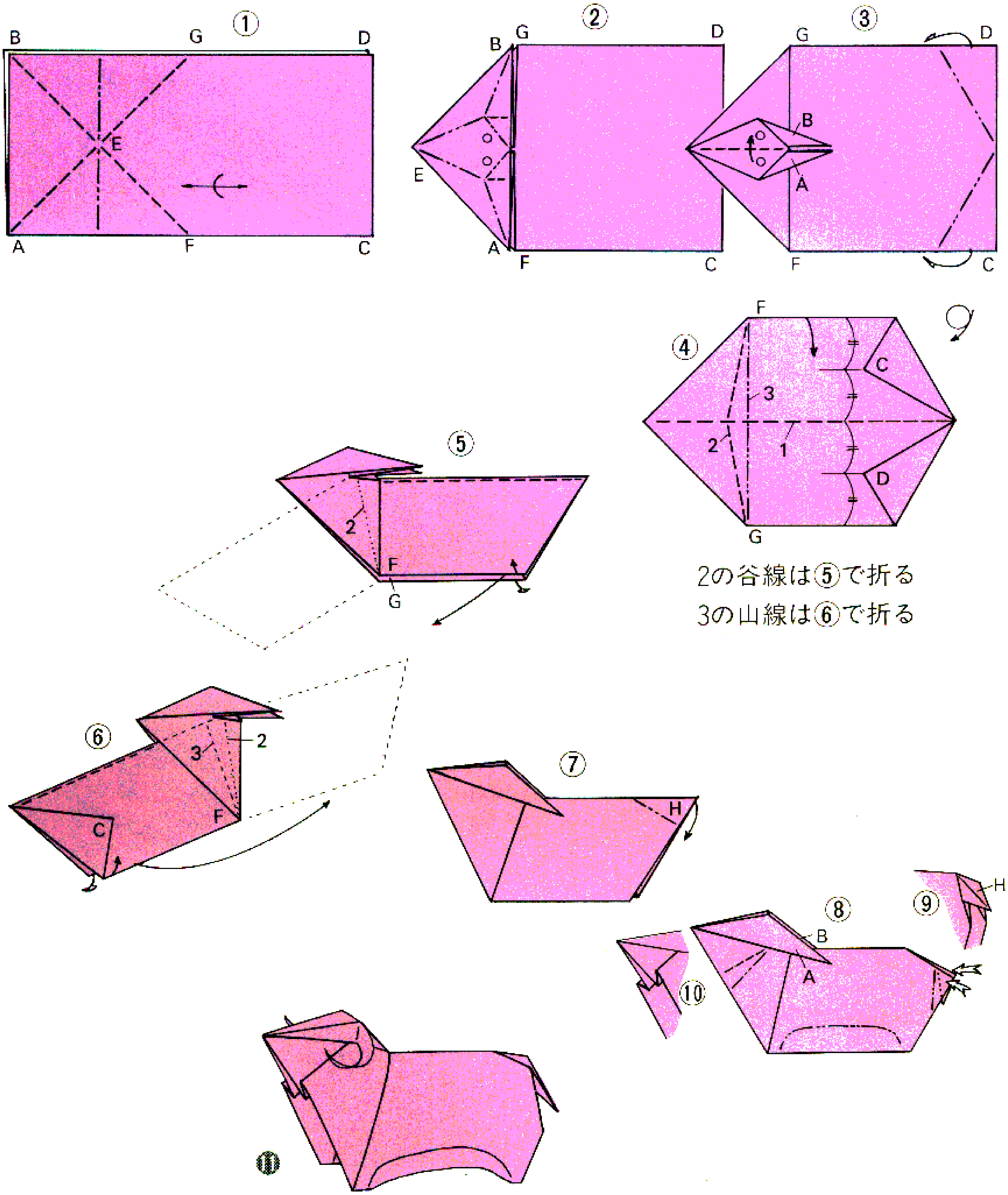
〈からだ〉正方形の紙を①のように折り、$\frac{1}{3}$と$\frac{1}{4}$の間のところに印をつけ、AとBを山線谷線で矢印にずらして折る。②左右の斜めの線の半分のところに印をつけ、山線と谷線の位置を求めてEとFを前に、Gを裏へ折る。③AとBを点線へ開き出す。④Hを○印の裏側へ入れる。⑤AとBを折り下げ、裏側のGを引き起こす。⑥CとDを点線へ折る。⑦Iを裏へ折る。⑧山線と谷線でCとDを引き下げる。⑨JとKを裏へ折る。⑩上のカドを裏へ折ってから、AとB、CとDを山線につまみ折りにして手と足の形をととのえ、頭の出来上がり⑪をGの上にかぶせる。⑪出来上がり。裏のおしりの部分をつまんで、すこし引っぱり、おしつけて立たせる。

牛



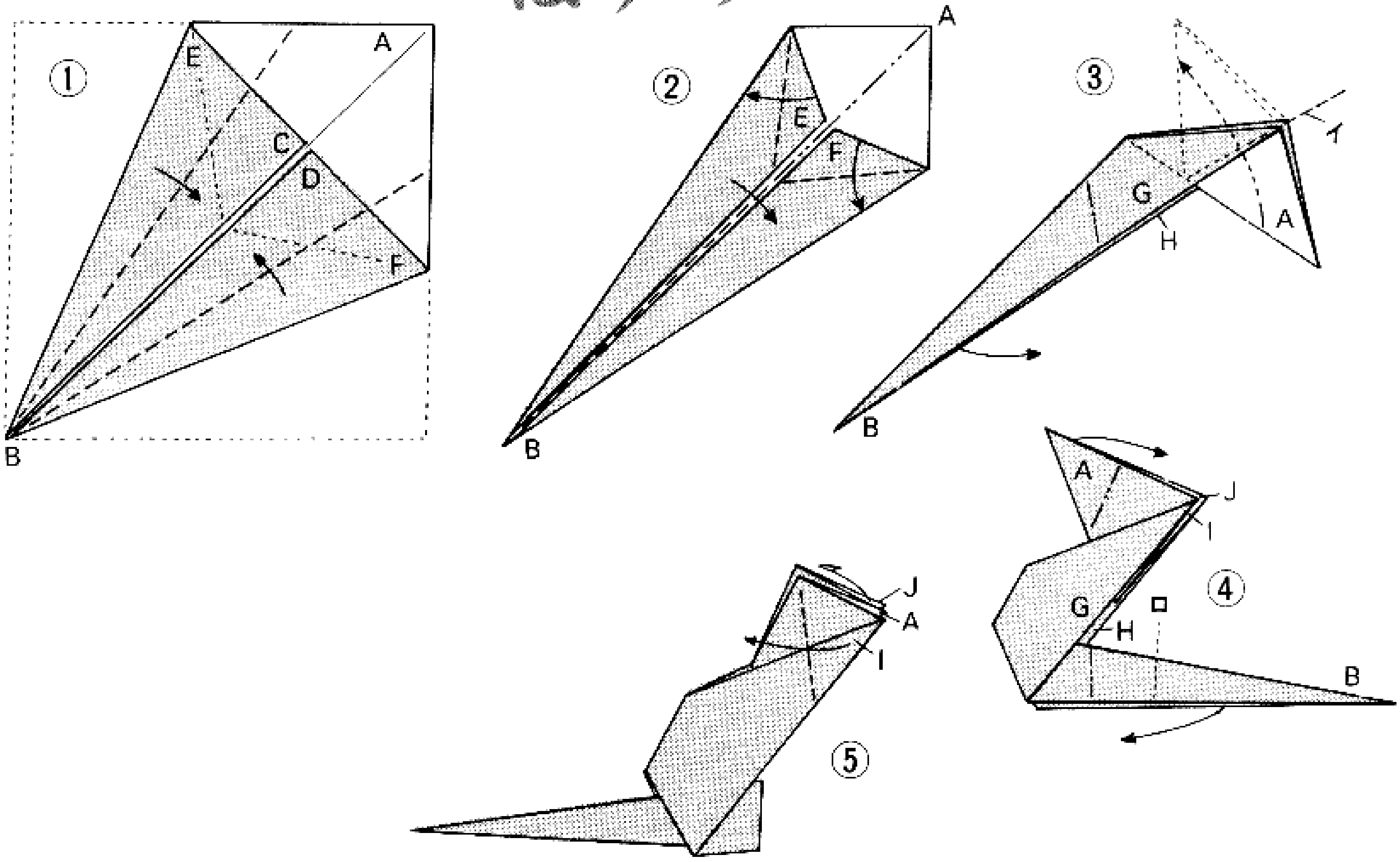
①正方形の紙を縦紙に二つに折ってから、山線と谷線に折り目をつけて②のように折りまとめる。②裏返す。②′CDを折る。③先のほうだけ折る。④裏返す。④′ABを折って角（つの）を作り、横に半分に軽く折り曲げ、Hをつまんで⑤のように引き上げる。⑤Hを細く折る。⑥Eの先を少し広げて矢印に折り返して鼻を作る。矢印にそれぞれ折り、胸と腹の部分はつまみ折りにし、首のところを持って背中を軽く押し込んで、形をととのえる。❼出来上がり。

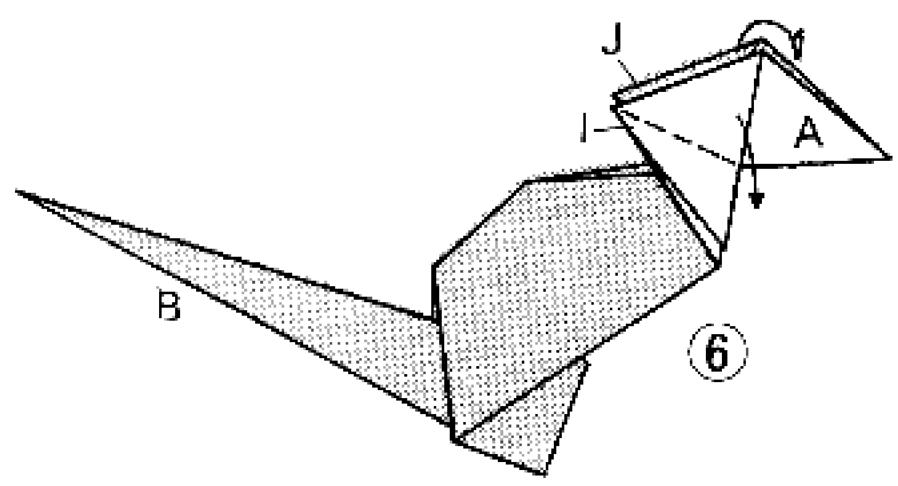
羊



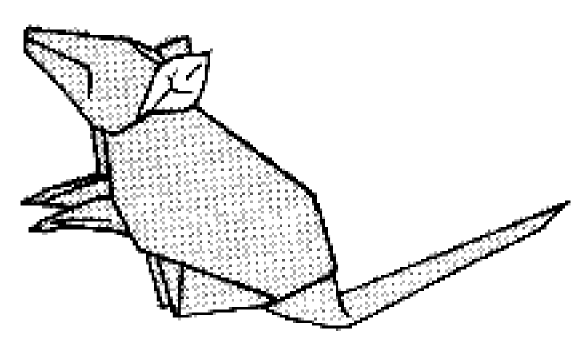
①正方形の紙を縦紙に二つに折ってから、山線と谷線に折り目をつけて②のように折りまとめる。②ＡＢの先のほうを山線でつまみ折りにして、元のほうを○印の内側に折る。③④Ａを折り上げ、ＣＤを④の割合で折り、二つに軽く折る。⑤２の点線の内側で折り返す。⑥３の点線のところから折り返す。⑦Ｈを折り込む。⑧尾の左右を折り込みながらしりの形を作り⑨、首のところに段をつけ⑩、ＡＢを角の形に丸みをつける。胴は外からつまみ折りにして形をととのえる。⓫出来上がり。

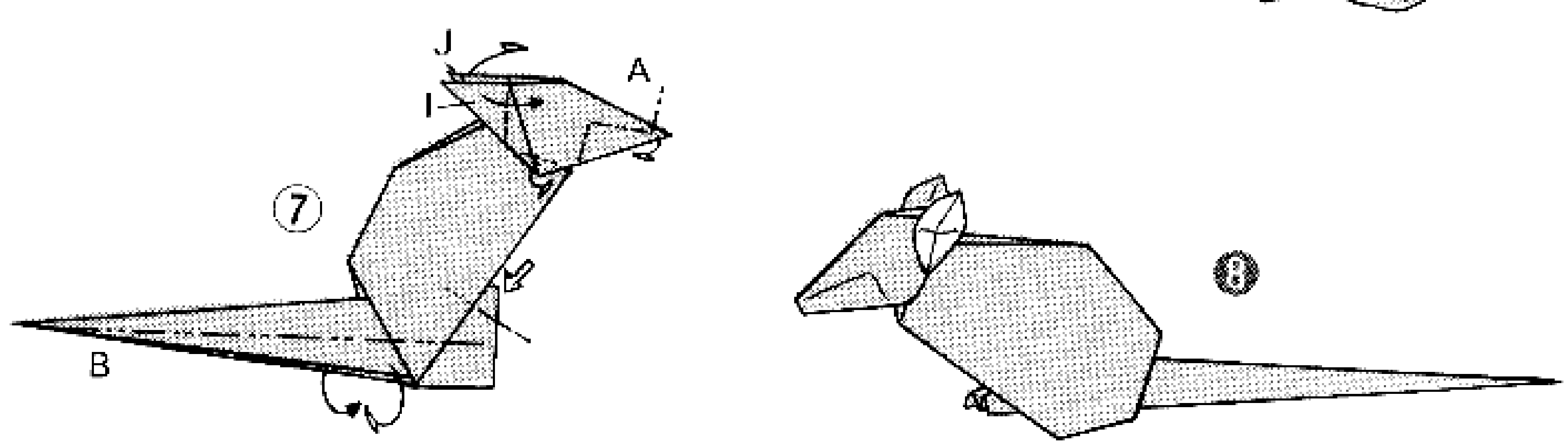
ねずみ





参考図

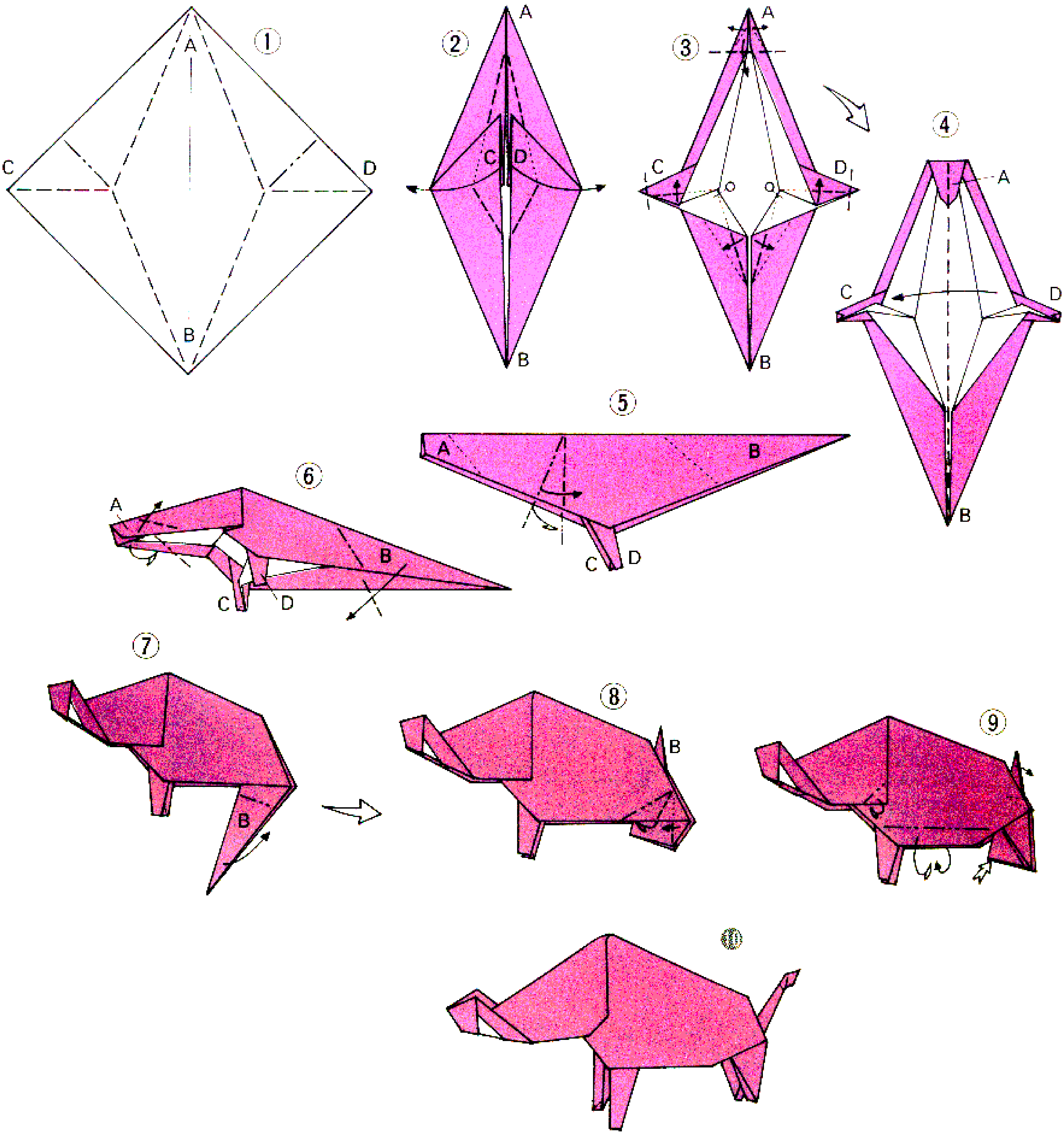




正方形の紙の対角線ＡＢに折り目をつけてから①のように折り、さらに細く折る。②ＥＦを矢印に折りながら、対角線の山線と谷線を折って③のようにする。③イの折り線の内側でＡを点線へ折り返し、ＢをＧＨの間へ折る。④ＡとＢを折り返す。⑤Ｉを手前に、Ｊを向こう側へ折る。⑥Ａを矢印に開いて折りかぶせて頭を作る。鼻づらを小さく折り込み、鼻すじとほおのところを外側からつまんで顔の形をととのえ、あごのところを間へ折り、ＩＪをいったん矢印に折ってから丸みを持たせるようにして広げ、耳を作る。尾を細く折り込み、腹のところを矢印に押し込んでから、尾を引き下げながら足を腹の中へ押し込んで形をととのえる。⑧出来上がり。

このねずみは首を細く、尾を長くして家ねずみの特徴を出したが、④図でＢを折り返すところを点線ロの位置で折り返せば、参考図のように前足を作ることが出来る。①図の谷線を折らないで、点線のところから折って同様に仕上げれば、胴が太くなって子ねずみになる。

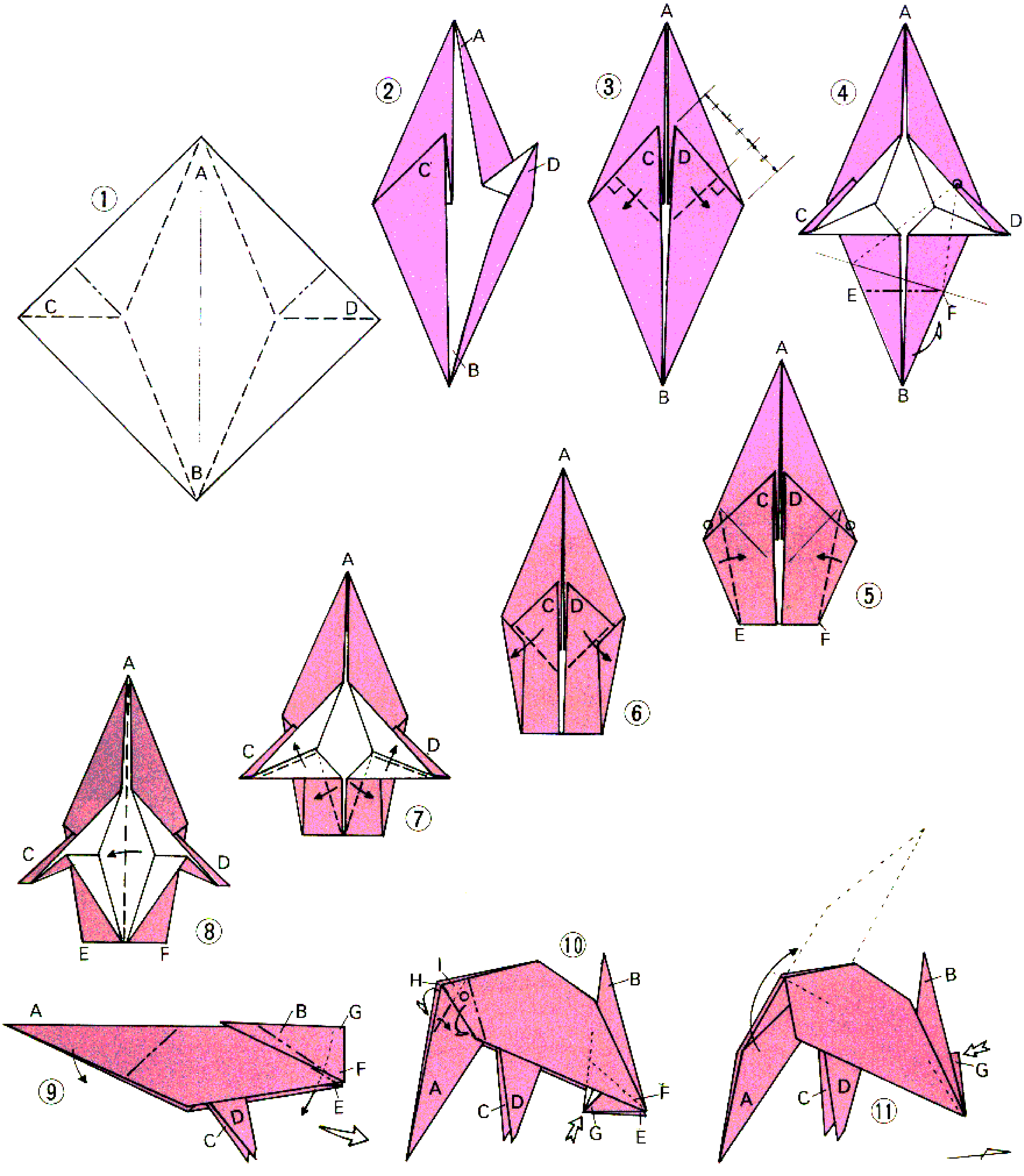
いのしし

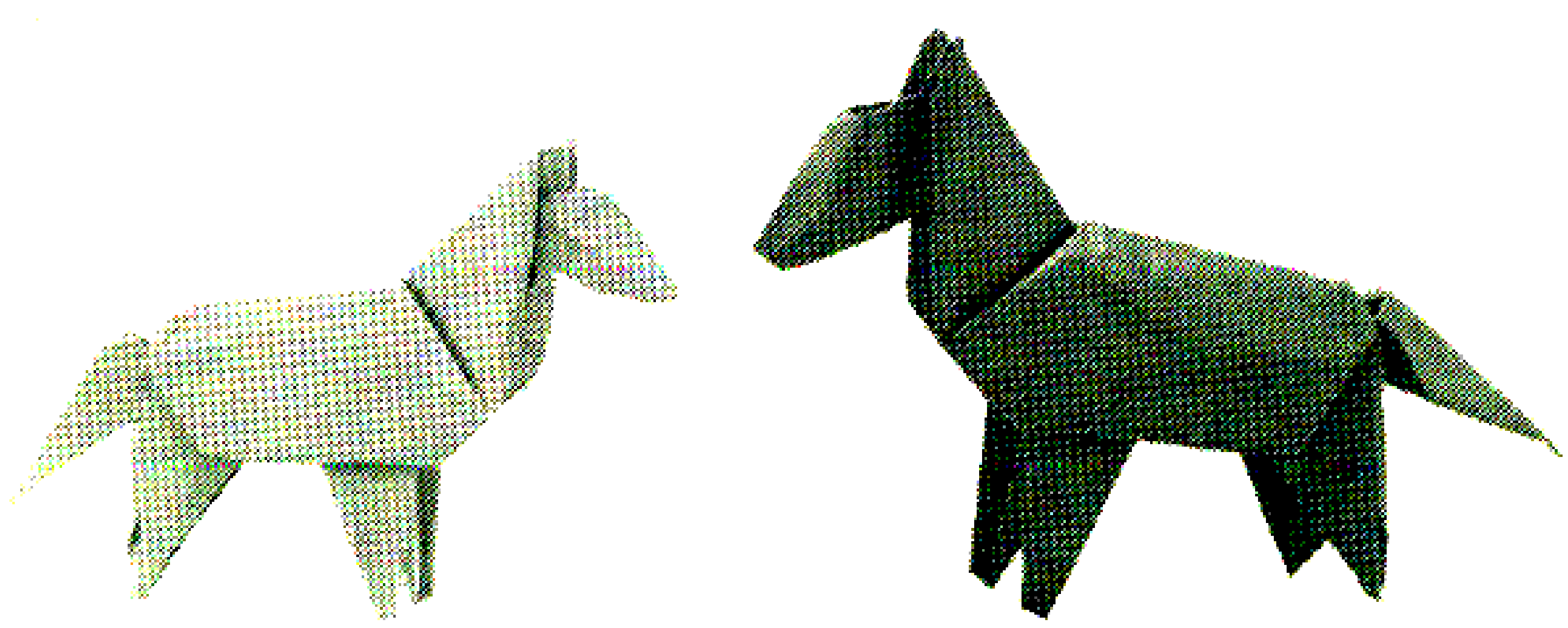


裏の白いこげ茶色の紙で作り、牙を白く出す。

①正方形の紙のＡＢの対角線に軽く折り目をつけてから、切り口をそれぞれ半分ずつに合わせて谷線を折り、ＣとＤをつまみ上げる。②ＣとＤをねじるようにして左右に折る。③Ａを谷線から折って、小さい山線で先を少し広げ、ＣＤを○印を支点として矢印に折ってずらし細くする。④二つに折る。⑤谷線と山線を二、三回折って折り目をやわらかくしてから、⑥のように、折りかぶせる。⑥Ａを左右に折り返して鼻を作り、Ｂを間へ折る。⑦Ｂを折る。⑧山線と谷線で腹の下へずらして折り、裏側も同様に折る。⑨矢印にそれぞれ折って形をととのえる。⑩出来上がり。

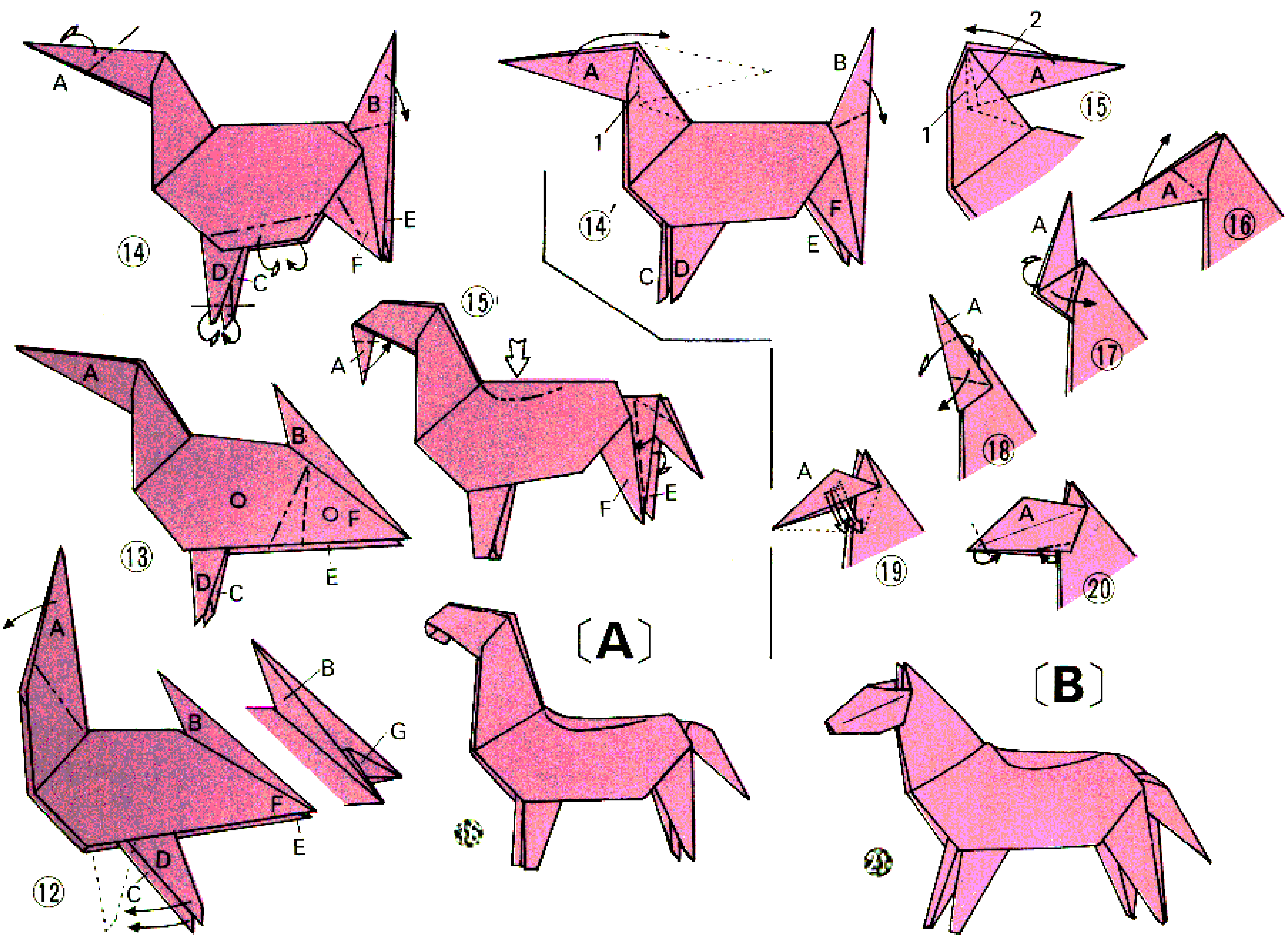
子馬





口絵の作品(16ページ)は技術的に高度のものですが、これは素朴な味わいのあるやさしい折り方です。従来の折り紙とは違って、この折り方のように美術造形としての折り紙では、折り線は絵の場合のデッサンと同じですから、たいへん個性的な表現が出来ます。

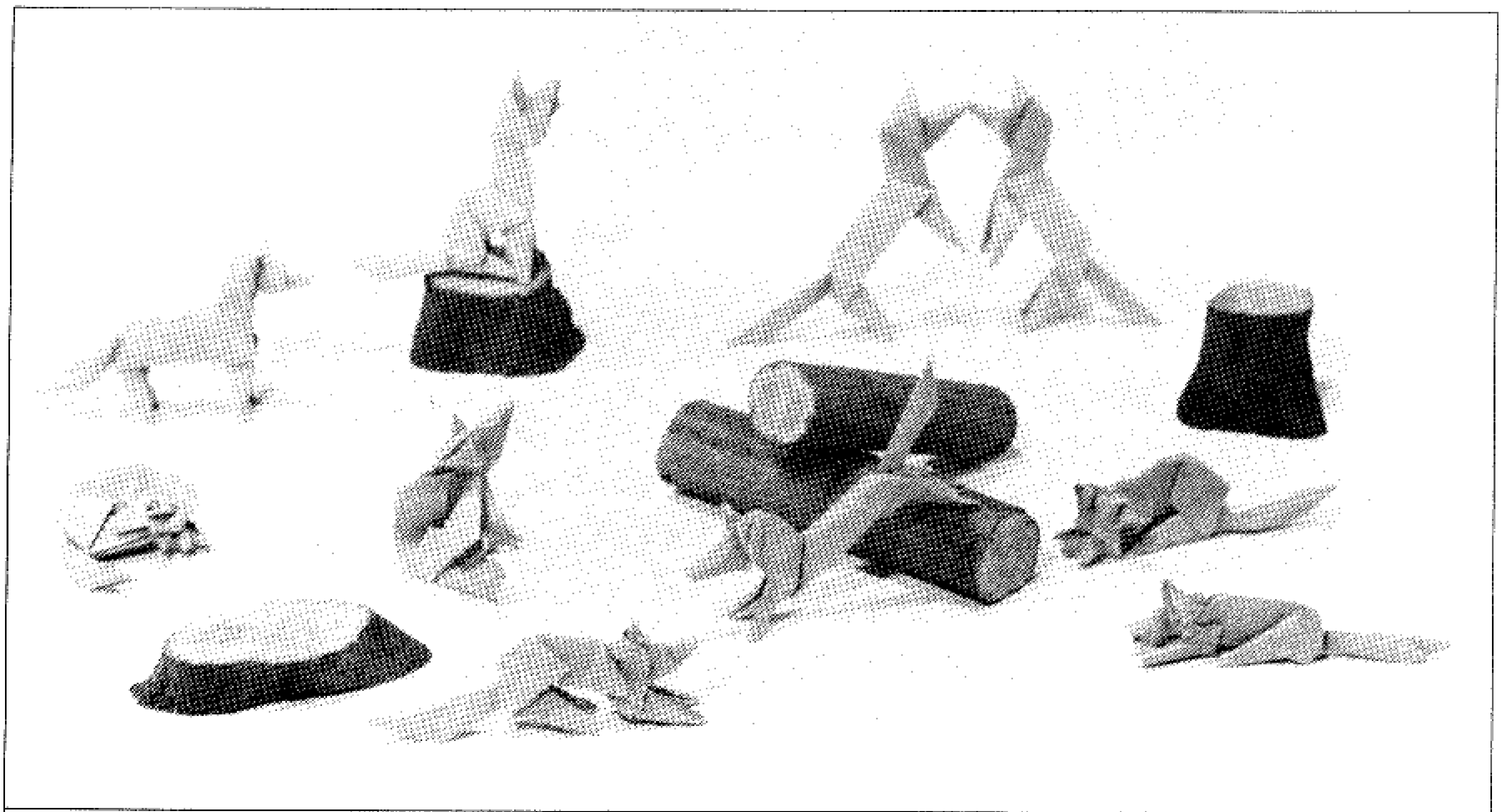
〔A〕①②正方形の紙の対角線ABに折り目をつけてから、それぞれの切り口を対角線に合わせて③のように折る。③左右のカドから$\frac{1}{3}$のところを折りながら、CとDの内側を開いて④のように折る。④Bのカドを○印に合わせてF点を求め、山線の位置を決めてBを裏へ折り、CとDをひとまず上へのばす。⑤CとDの折り目に○印のヘリを合わせて谷線を折る。⑥CとDを前の折り目で開く。⑦矢印に折ってCとDを細くする。⑧二つに折る。⑨山線の位置からAとGを間へ折り、Bのカドを出す。⑩Gを点線から間へ折り込み、HとIを谷線から外へ折って○印の部分を中へ入れる。⑪点線の内側でAを折り返し、Gを中へ折る。⑫CとDを点線へ静かにずらして折り、Aを山線から間へ折る。⑬左手で胸のほうから○印の内側へ人さし指を入れ、裏側に中指を、



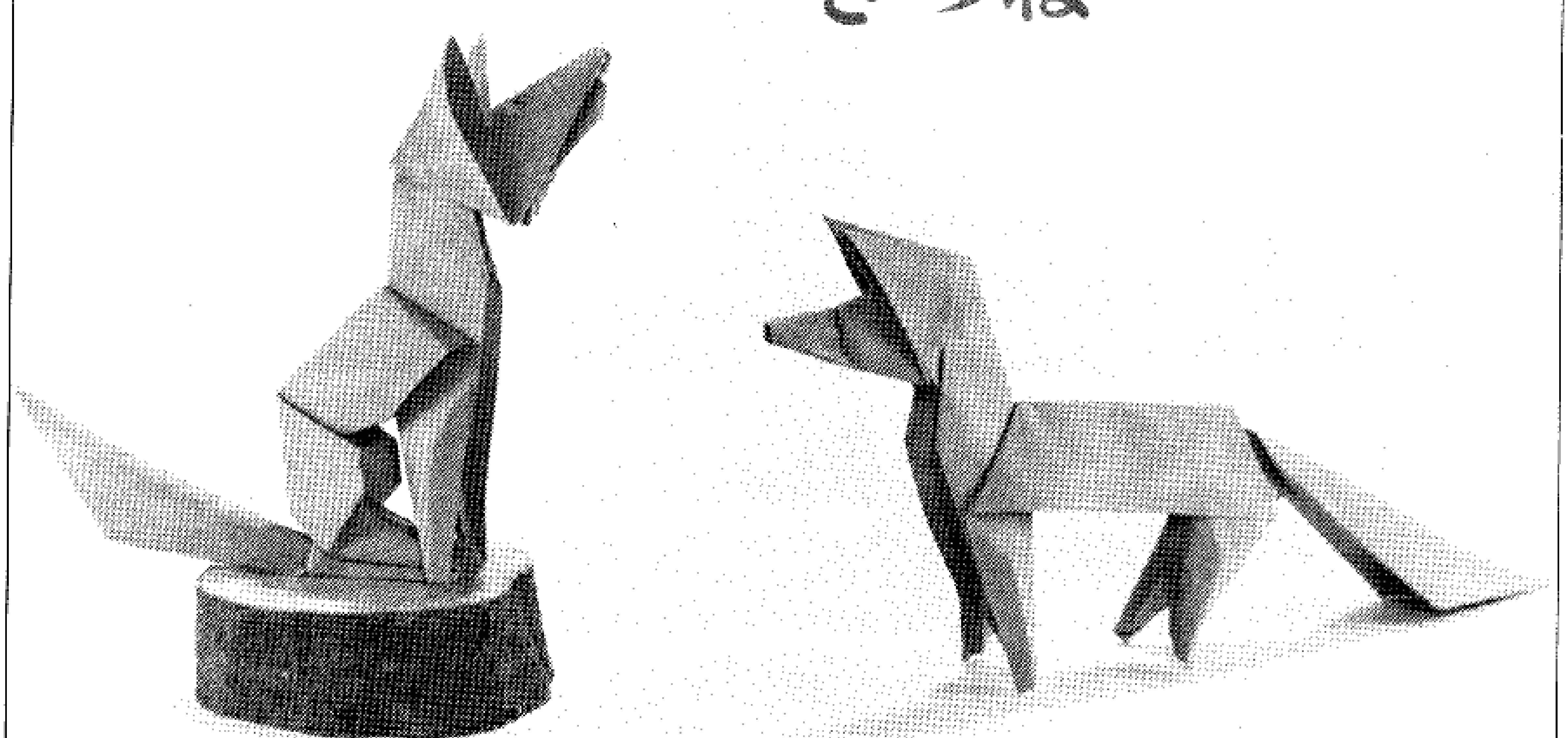
表側に親指を当てて持ち、右手でEとFをそろえて押し込む。⑭それぞれ矢印に折る。⑮Aの先を矢印に差し込み、EとFを間へ折り込んで足と尾を細く折り、背の部分を矢印に押し込んで形をととのえる。⑯出来上がり。

〔B〕〔A〕の⑭まで同じに折り、頭の折り方を部分図のように折って仕上げる。

大腿部をこの折り方では腹の下に折り込んであるが、口絵の写真のように外側に出し、飛節を作るとさらによい形になる。



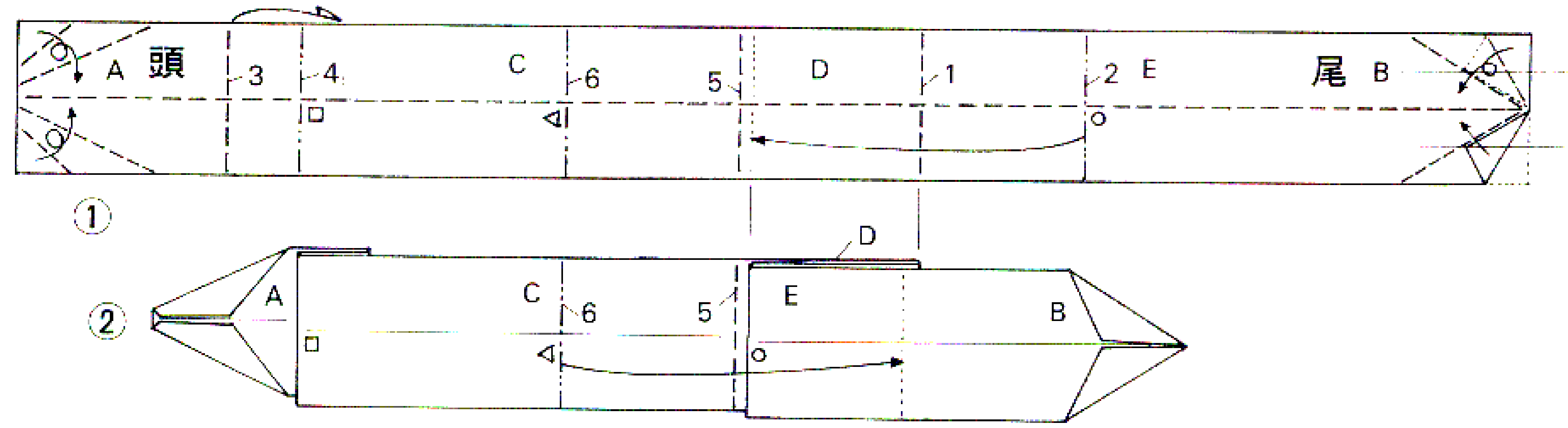
きつね



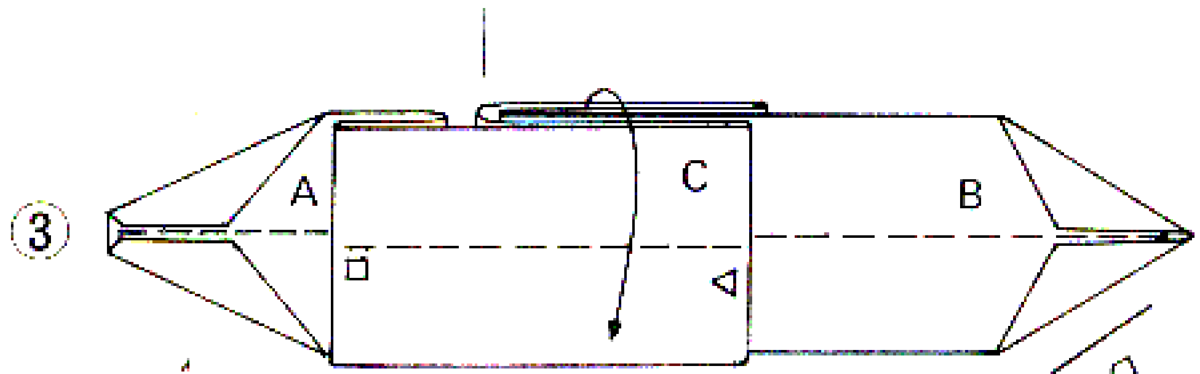
用紙は幅1、長さ10の割合の長方形の紙を用いる。裏表が同じ色の紙がよい。

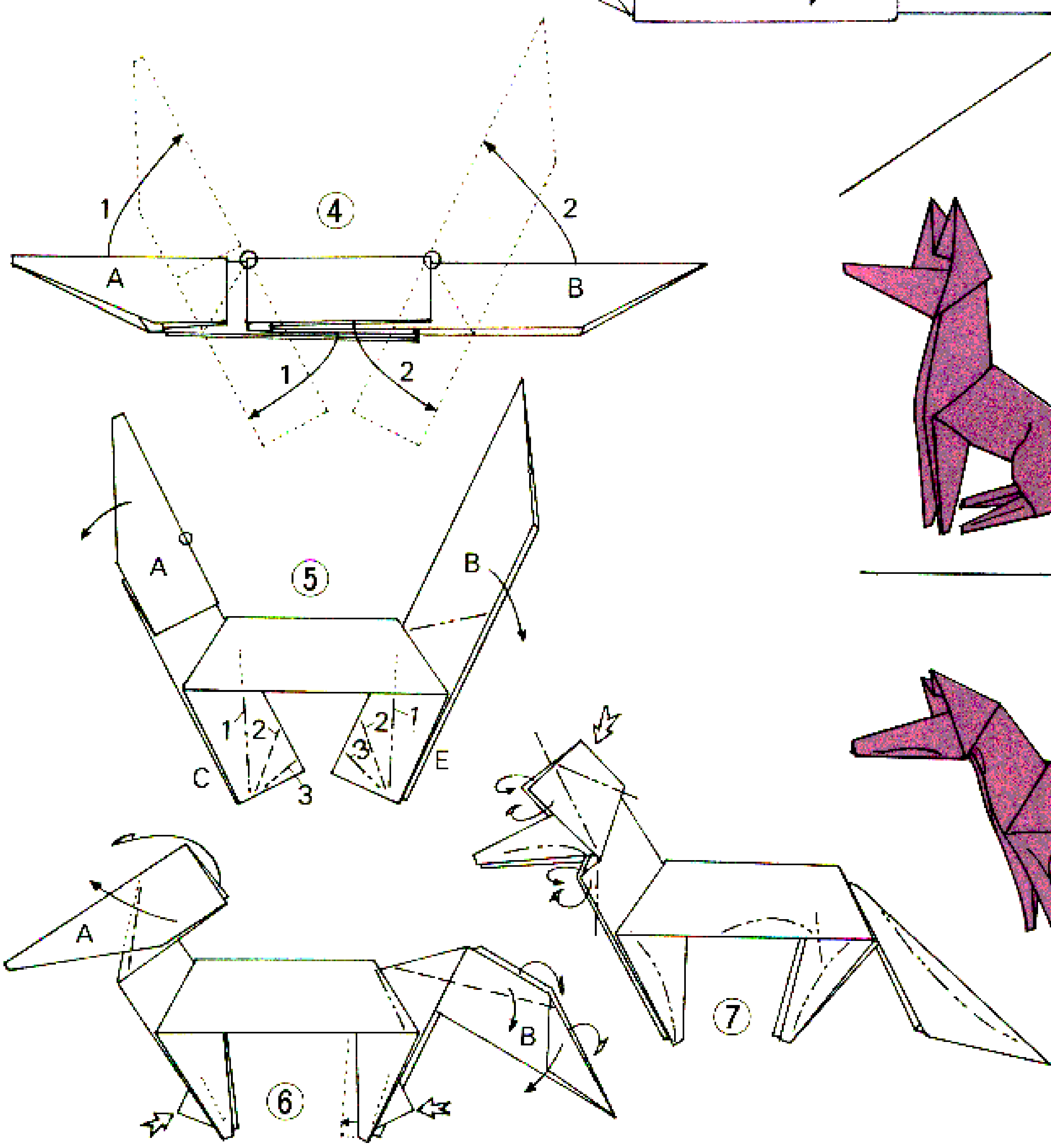
①AとBのカドを図のように折ってから、後足と尾の長さとの割合を決めて、1の谷線と2の山線でBをDの上に重ねる。Aは頭と耳を考えて、3の谷線と4の山線で裏側へ重ねる。②5と6を折ってCをEに重ねる。③二つに折る。④○印を支点として、AとBを矢印1、2の順に点線へ引き出す。⑤CとEの内側のカドを側面から見えないように足の間へ折りたたみ、Aを○印を支点として矢印にずらす。Bを山線の位置から間へ折り下げる。⑥それぞれ矢印に折る。⑦耳と首のところを折り込み、顔、腹、足、尾の山線をそれぞれ外側からつまみ折りして形をととのえる。❽出来上がり。

座り姿は⑤までの折り方から、後足の長さを短くして、尾の付け根に段をつけ、⑤′としてから形をととのえたもの。❻出来上がり。

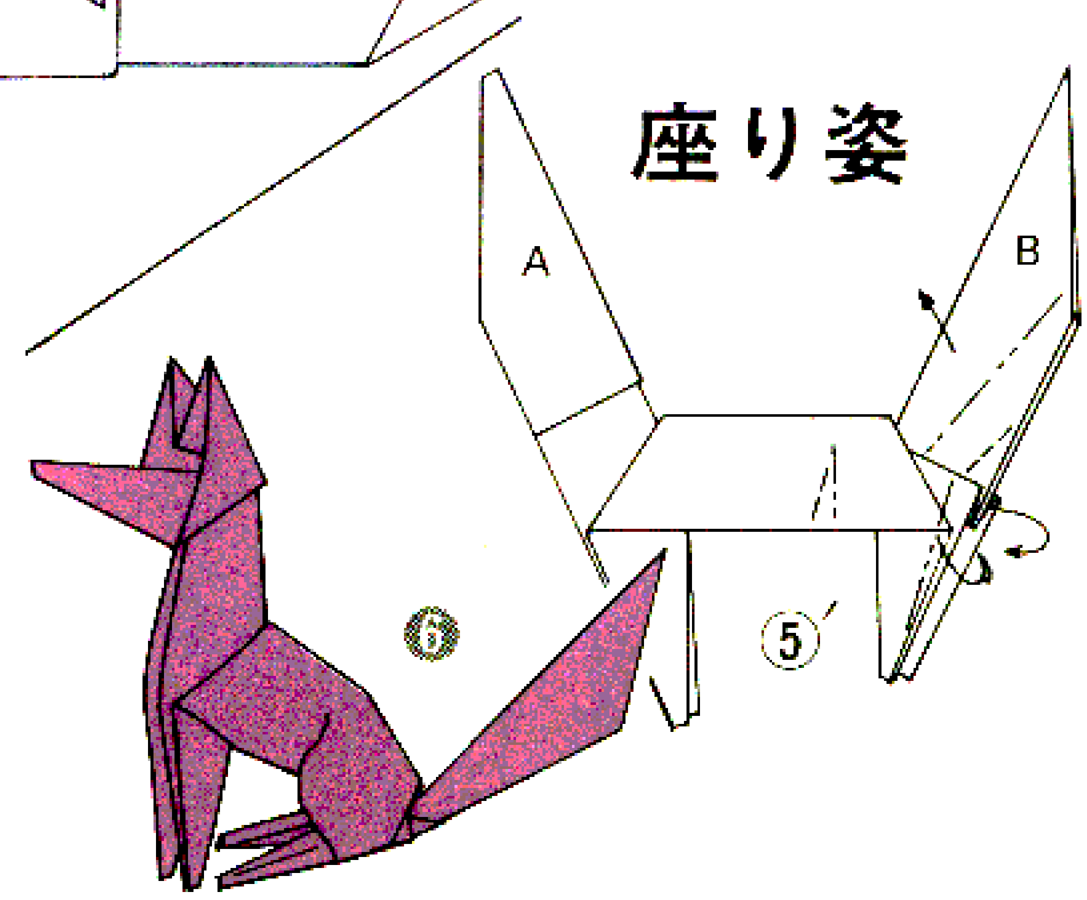


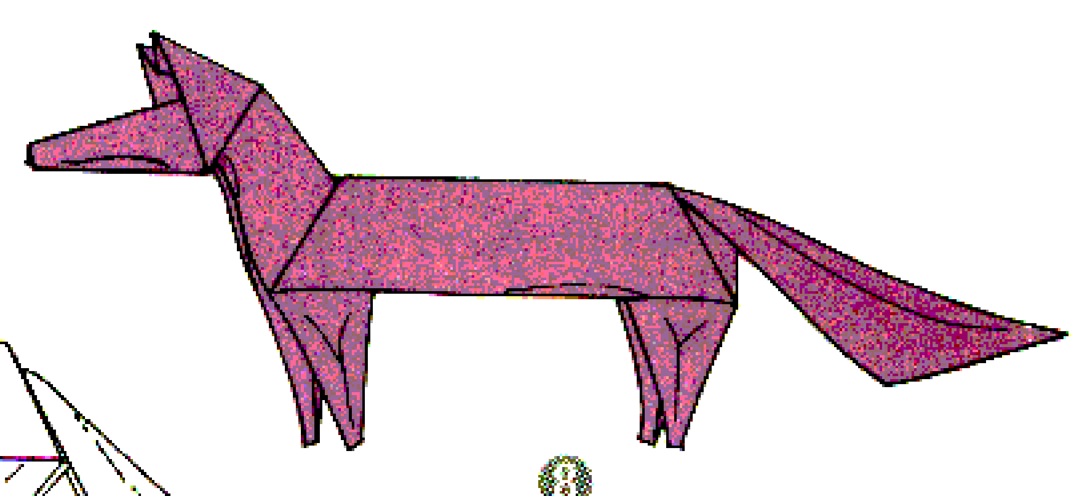
立姿

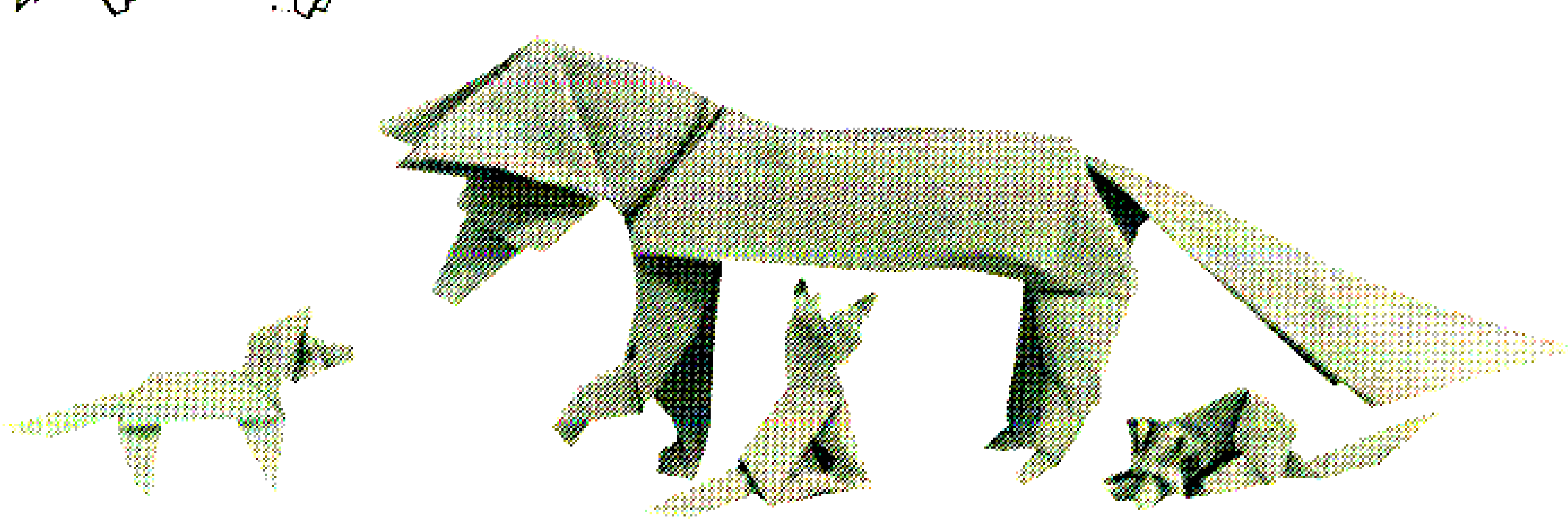




座り姿

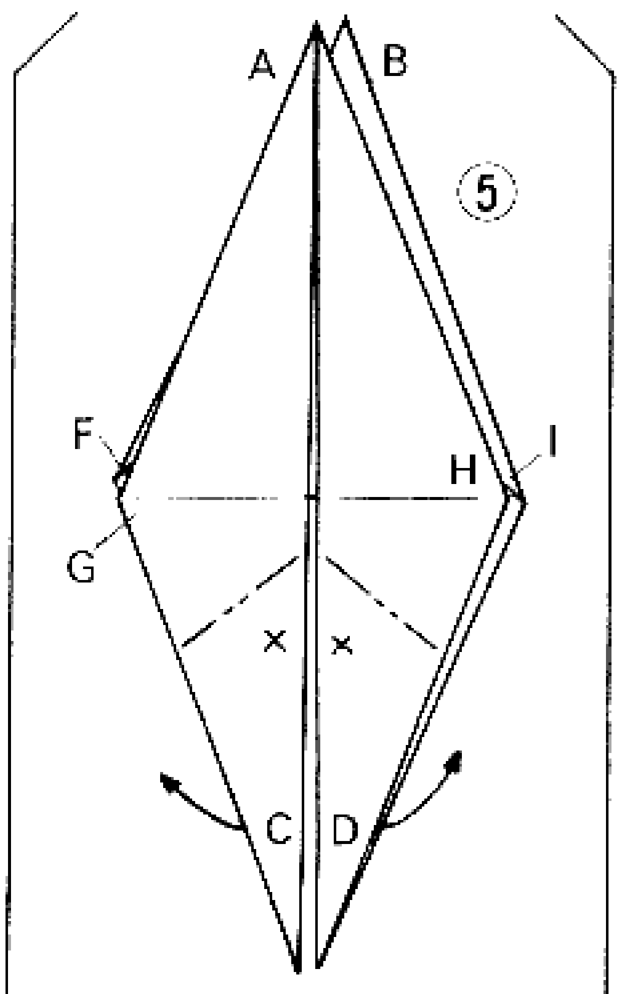




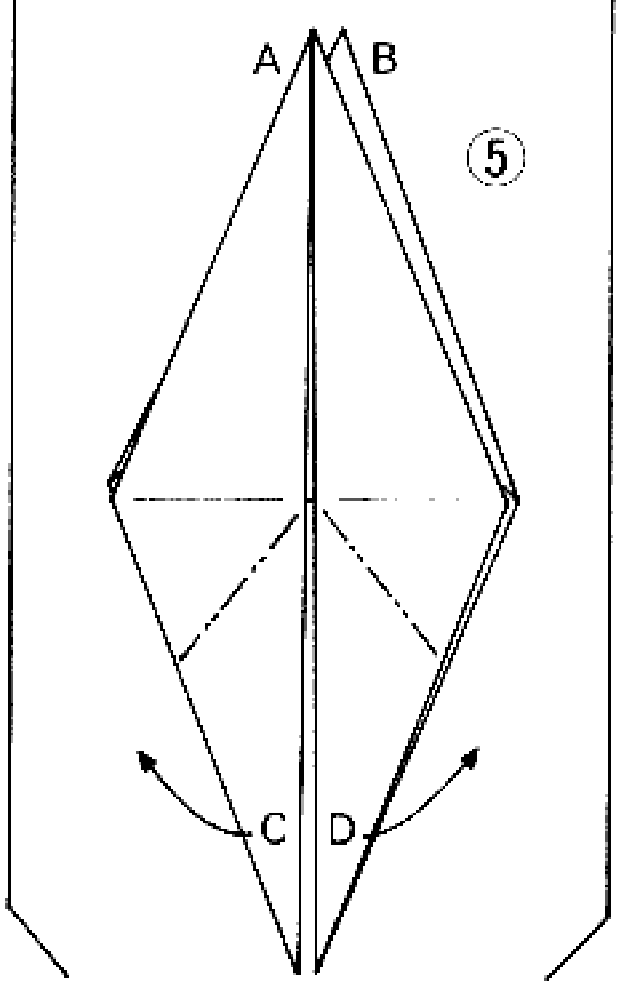


らくだ

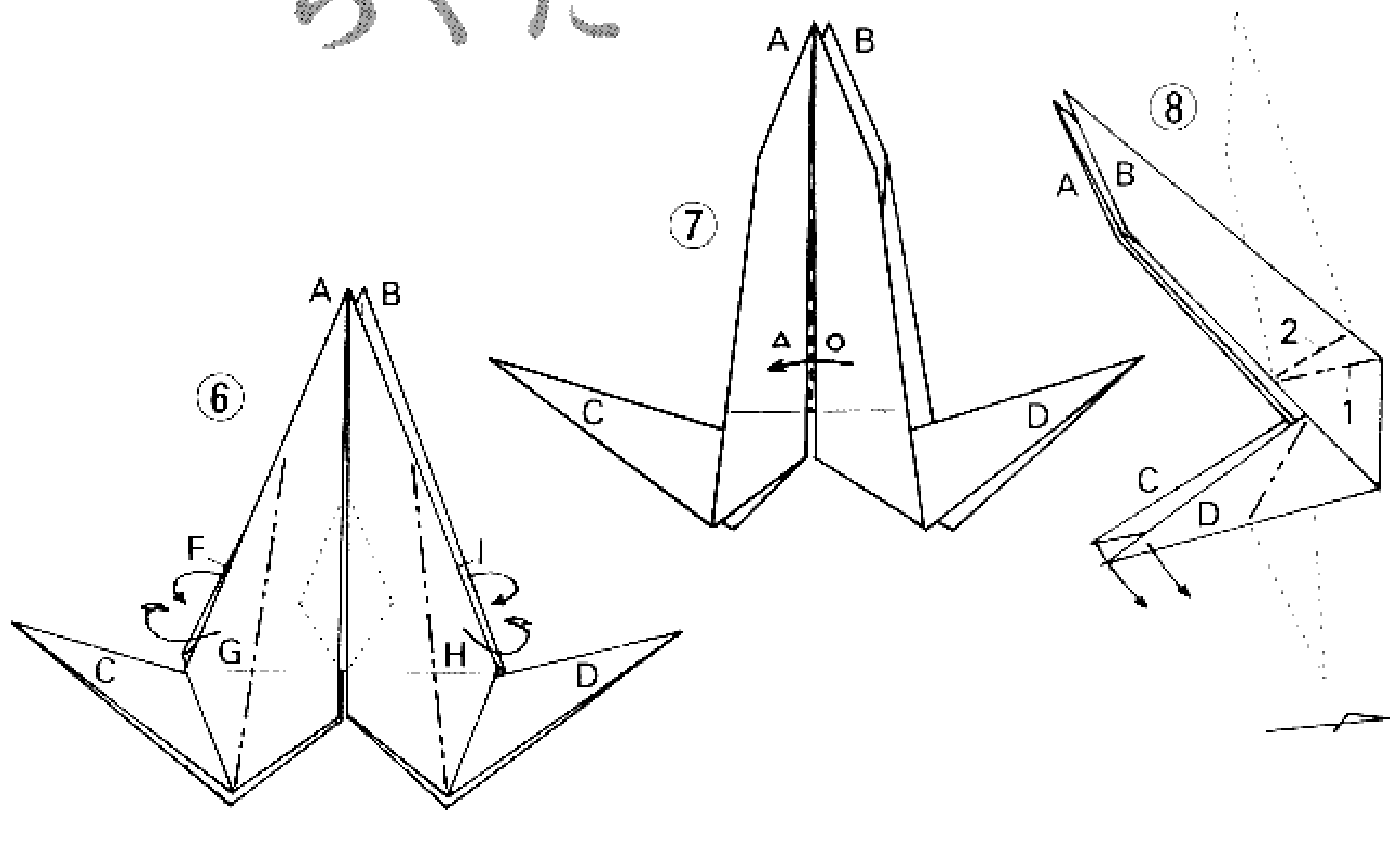
基礎折り(A)



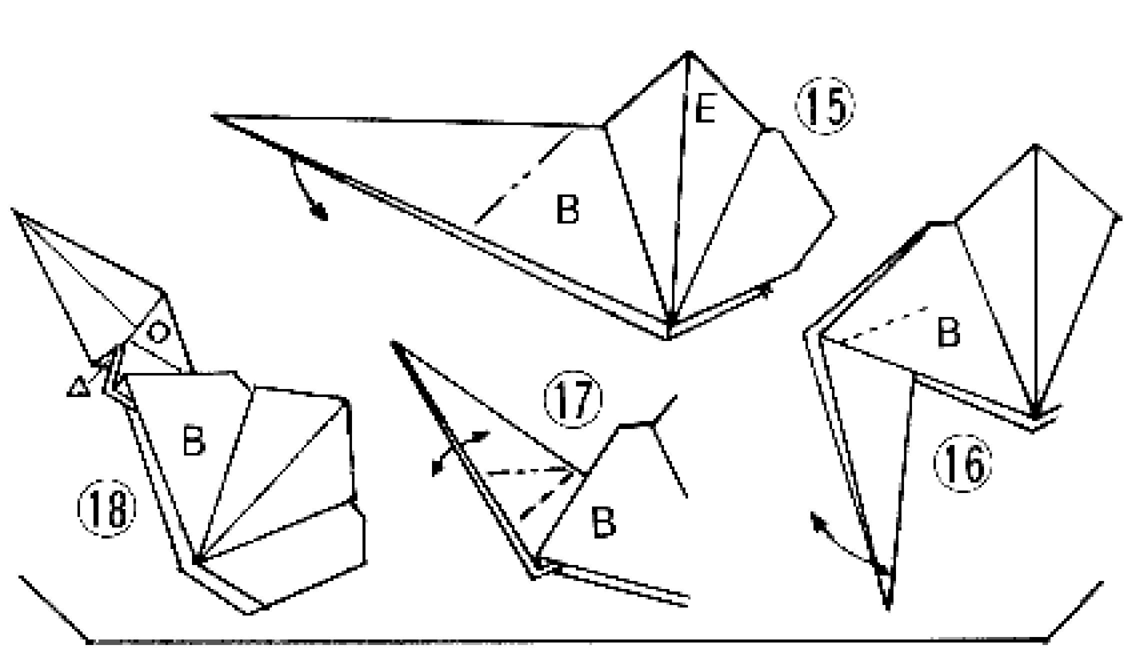
前半身

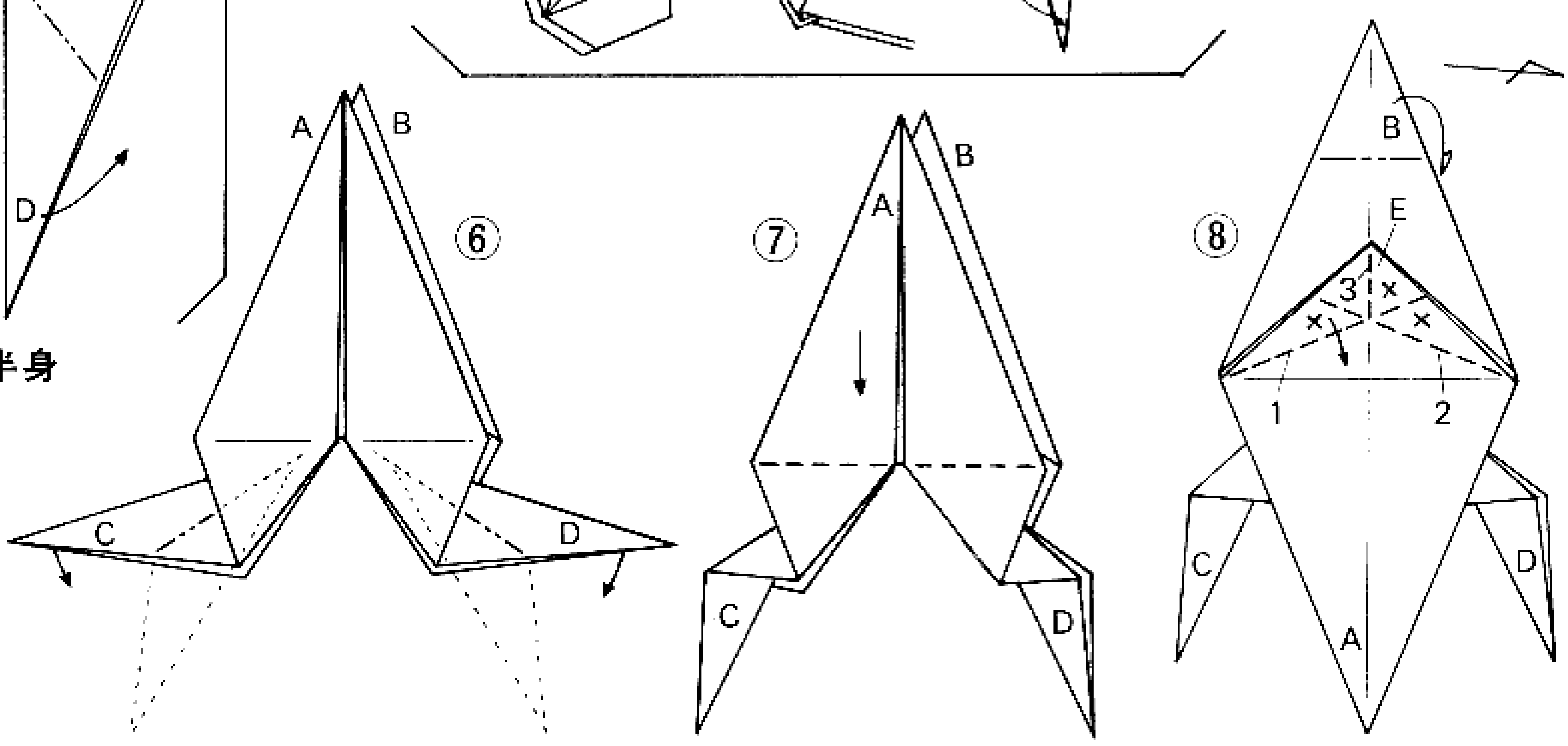


後半身



組み合わせ方

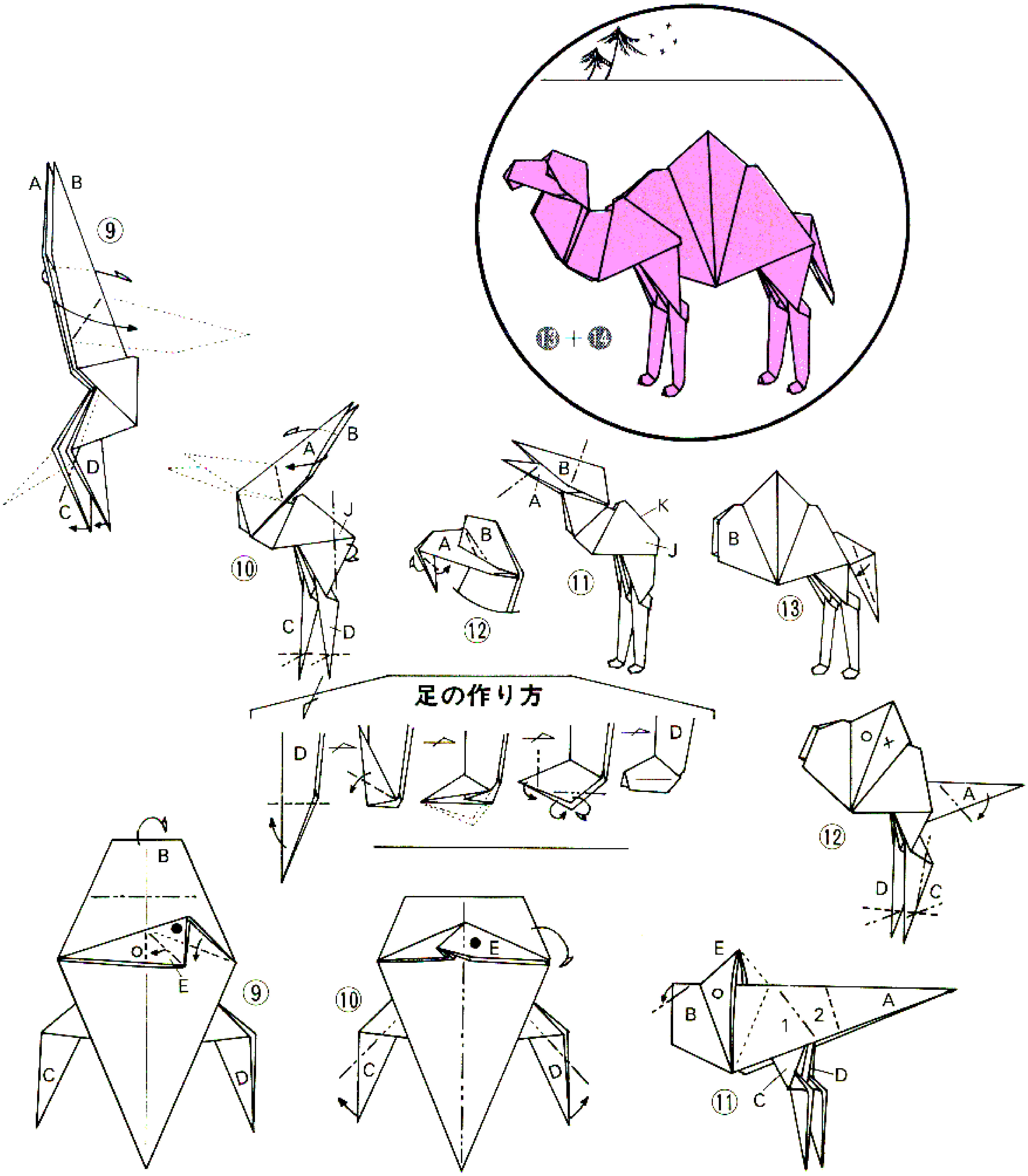




正方形の紙二枚で基礎折り(A)から前半身と後半身を折って作る。

〈前半身〉⑤CをFGの間へ、DをHIの間へ斜めに折り上げる。⑥山線でFGとHIをABの間へ折る。⑦二つに折る。⑧ABを重ねたまま1の山線で折り込み、斜めに2の谷線で折り返し、CDを折り返す。⑨ABを重ねたまま、広げて折りかぶせ、CDをそれぞれの間へ少し残して折り返す。⑩ABを重ねたまま折り返し、Jを間へ折り、裏側も同様に折る。CDを部分図のように折って足を作る。⑪Bの先を深く折り込み、Aを折り返し、顔を⑫のようにして作る。⑬前半身出来上がり。

〈後半身〉⑤CDを角度に注意して⑥のように折る。⑥CDを点線へ折る。⑦Aを折り下げる。⑧Bを裏へ折り、Eを１２３の順に折り目をつける。⑨Bを裏へ折り、Eのカドをつまみ上げる。⑩二つに折り、CDを折り返す。⑪半開きにしてEの



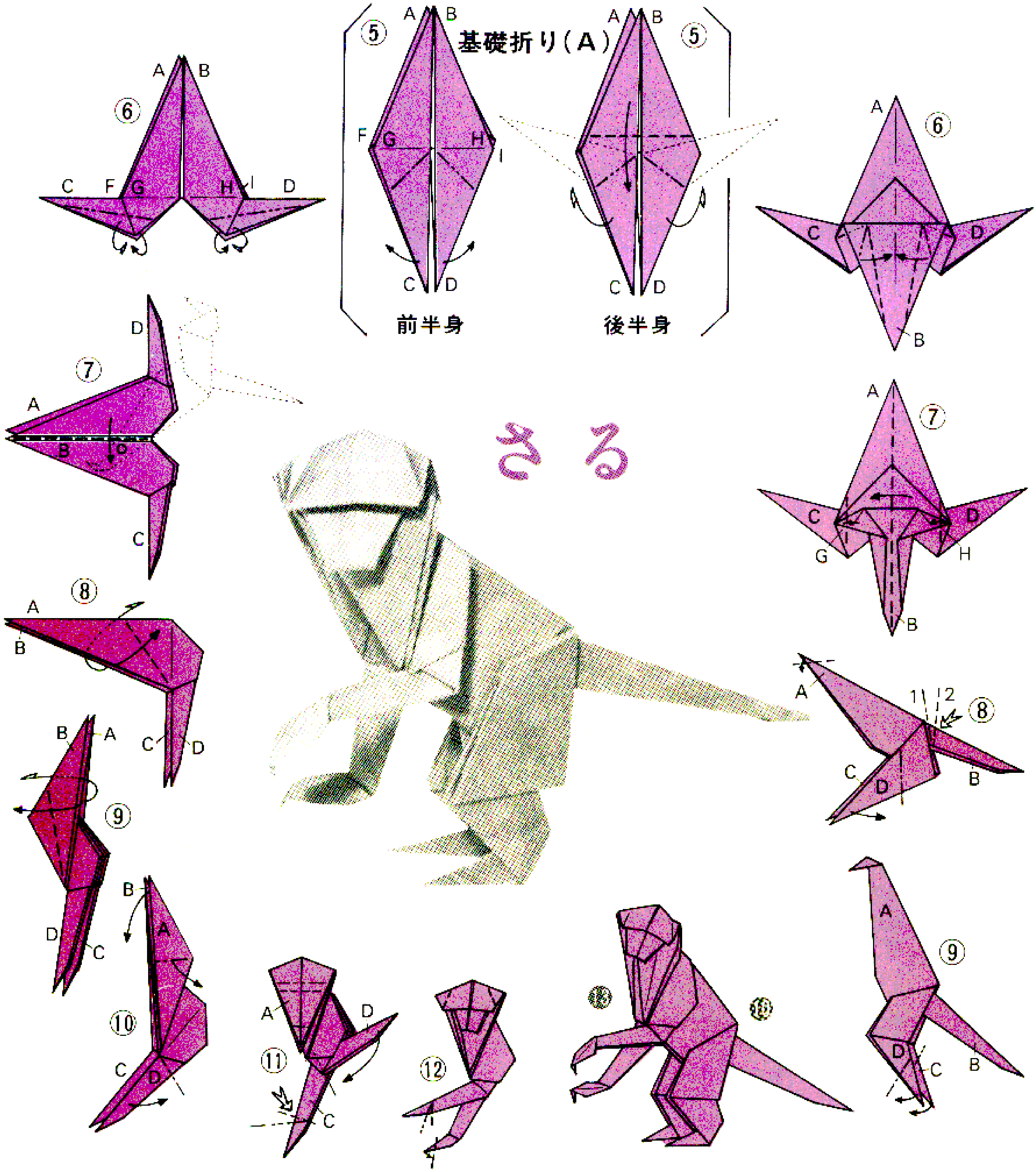
内側から、⑧の×印の部分を点線へ引き出して、Ｂのカドを折り込む。Ａを１の山線でＣＤの間へ折り、２の谷線で折り返す。⑫Ａを折り下げ、ＣＤを細く折って、足を部分図のように折る。⑬尾を細く折って後半身出来上がり⑭。

前半身⑬のＫＪの間へ後半身のＢを差し込んでのりではり合わせる。⓭＋⓮出来上がり。

〈組み合わせて仕上げる方法〉 折り線をよく理解してから組み合わせる。後半身⑬のＢの中から⑧⑨で折ったＢの先を引き出して左ページの⑮のようにする。⑯⑰⑱と折って、Ｂの○印と△印を前半身の首の部分を少し平らにして、前半身⑦の○印と△印の間へ差し込んで固定してから、もと通りの形にととのえる。

らくだの姿によっては、後半身⑬のＢを左下のほうへ、中から引き出して、それぞれのカドを前半身⑪のＪＫを広げて、⑤のＣＤの×印の間へ差し込んで固定することも出来る。

さる

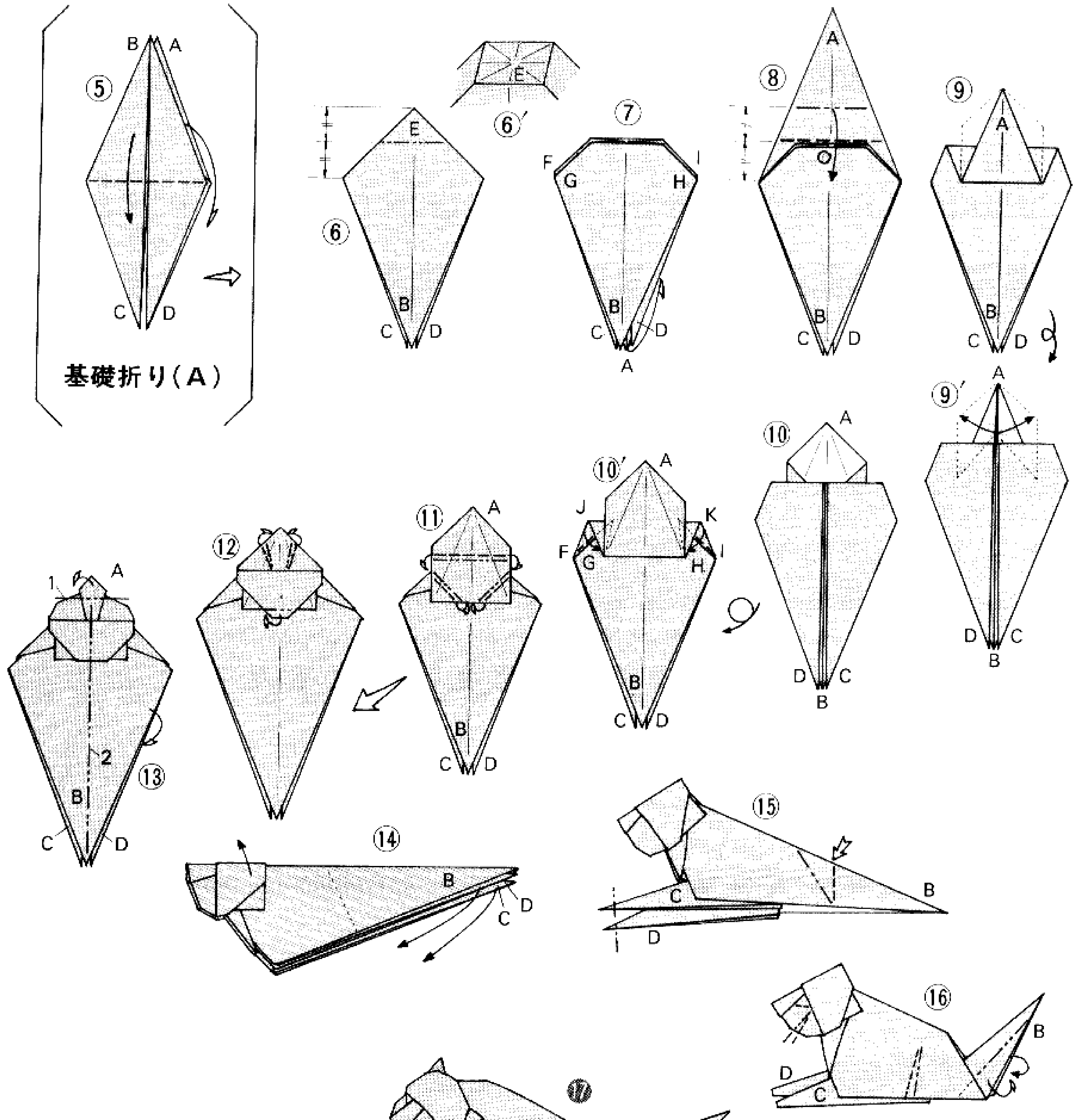


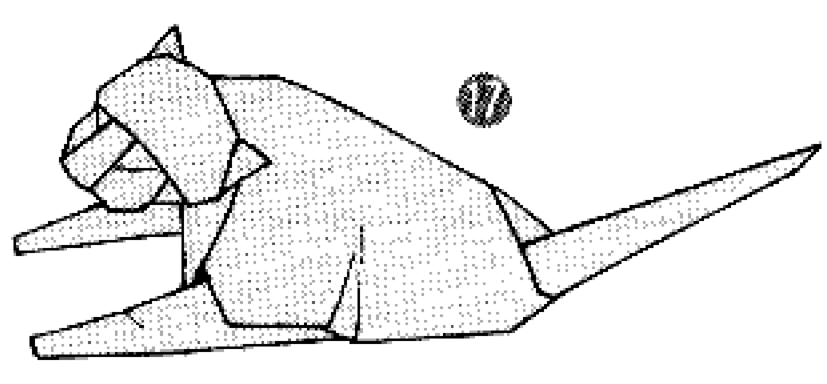
正方形の紙二枚で基礎折り(A)から、前半身と後半身を折って作る。

〈前半身〉 ⑤CをFGの間へ、DをHIの間へ折り上げる。⑥CとDを細く折る。⑦二つに折る。⑦の点線は後半身のつけ方。⑧ABを重ねたまま谷線の位置から広げて折りかぶせる。⑨は⑧と同じ折り方で折る。⑩ABを重ねたまま⑪のようにする。⑪⑫それぞれの折り線で頭と前足を折りととのえる。

〈後半身〉 ⑤山線の位置からCとDをそのまま裏へ折り、Bを中心より少し上から折り下げる。⑥Bを細く折る。⑦GHを中へ折ってから二つに折る。⑧⑨Bを1の山線で中へ折り、2の谷線で折り返して尾を作る。Aの先を小さく折り、CDを矢印にそれぞれ折って足を作る。

〈組み合わせ方〉 前半身の肩と胸の部分を⑦のように広げ、後半身の⑨を○印の内側へ差し込み、元の折り目で折りととのえて、⑬—⑭出来上がり。

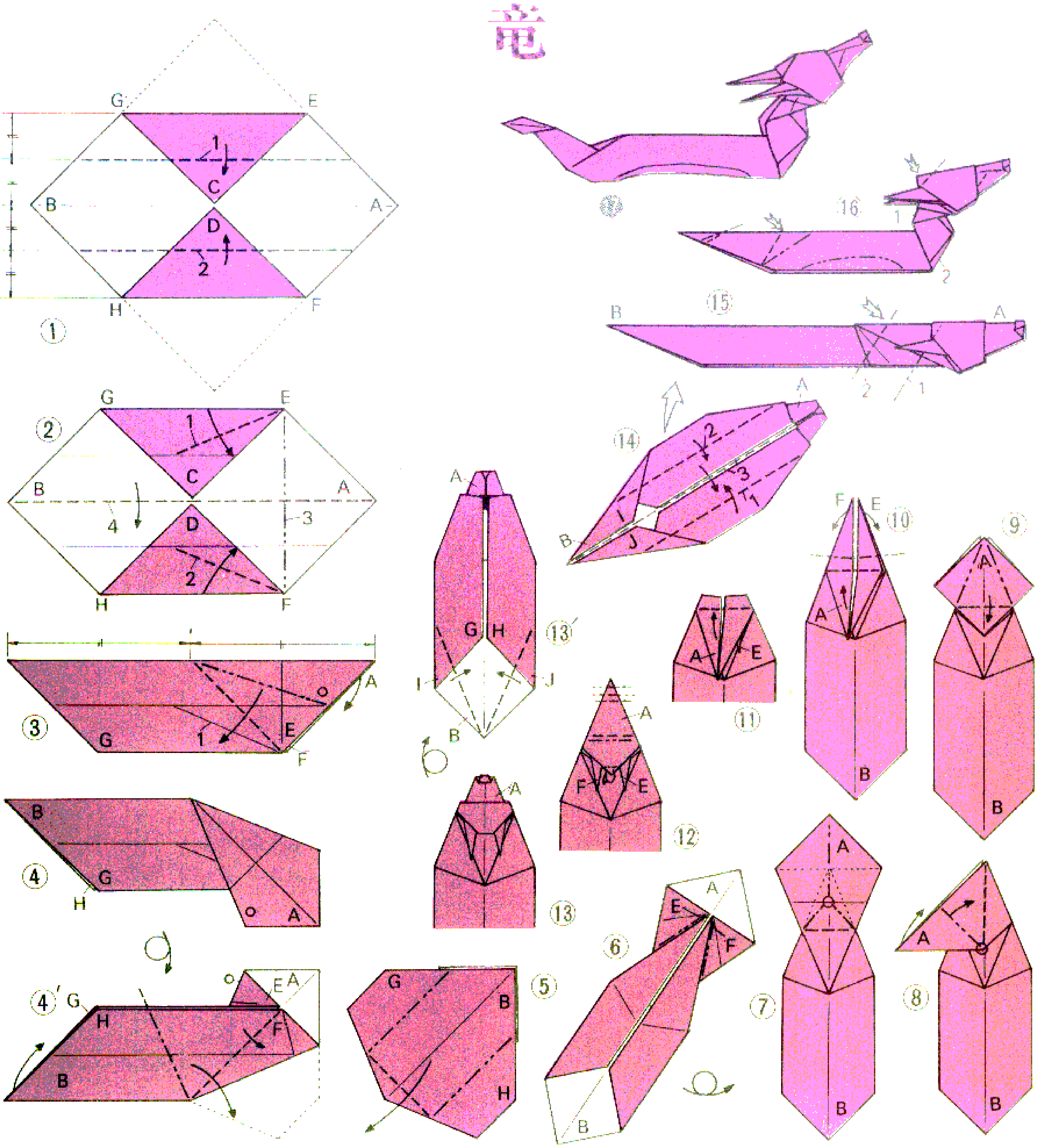




とら

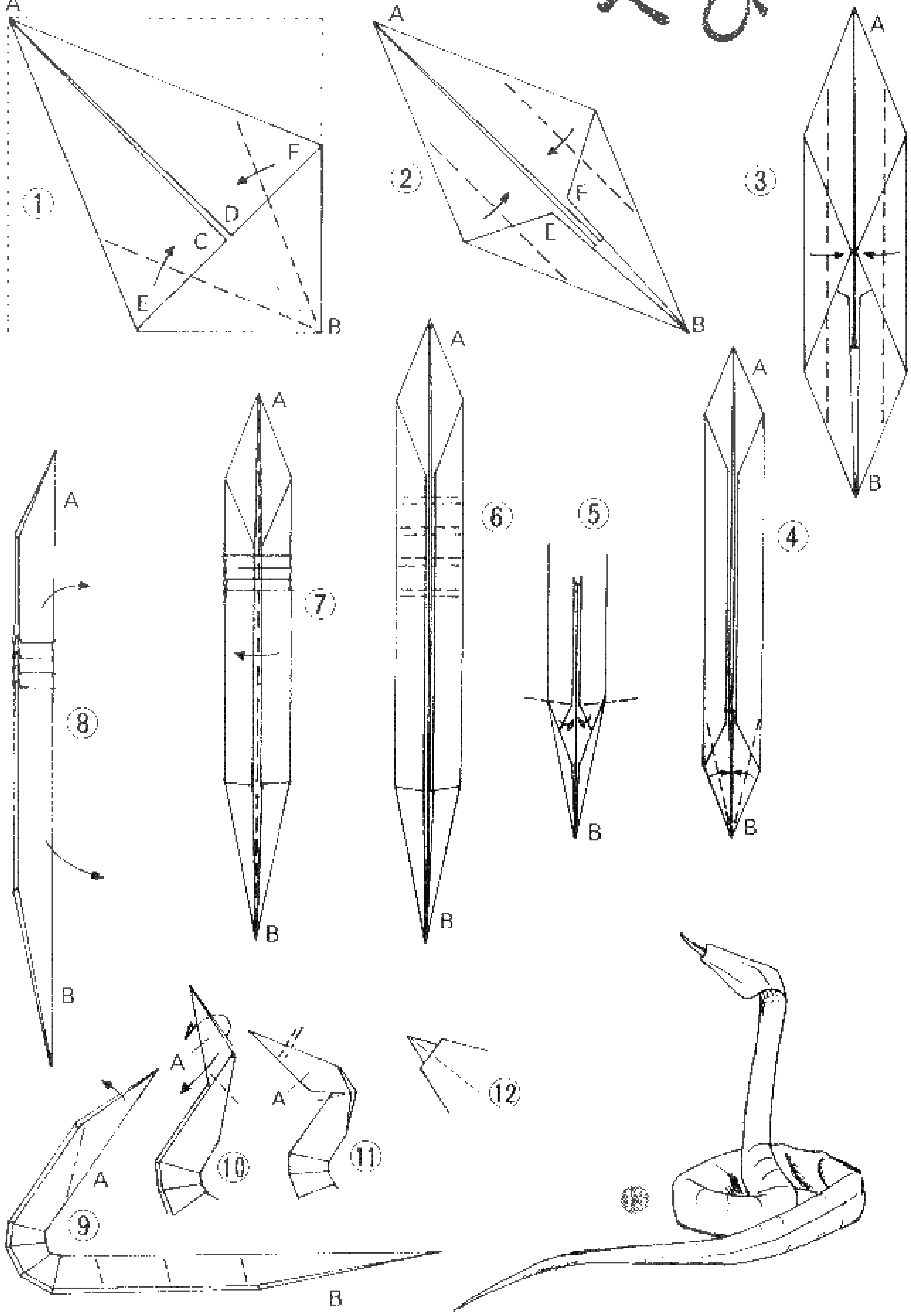
基礎折り（A）から折る。⑤ＡＢを折り下げる。⑥山線を二、三回折って折り目をやわらかくしてから、⑥′のようにしてカドを折り込む。⑦裏側のＡを折り上げる。⑧谷線と山線で○印に折りかぶせる。⑨⑨′Ａを点線へ開き出す。⑩裏返す。⑩′ＪＫを間へ折る。⑪それぞれに段をつける。⑫鼻の大きさを考えて斜めに段をつけ、頭のところを裏へ折る。⑬Ａの先を折ってから二つに折る。⑭頭を矢印に引き出し、Ｂの点線の内側でＣＤを折る。⑮⑯を折って形をととのえる。⑰出来上がり。

竜



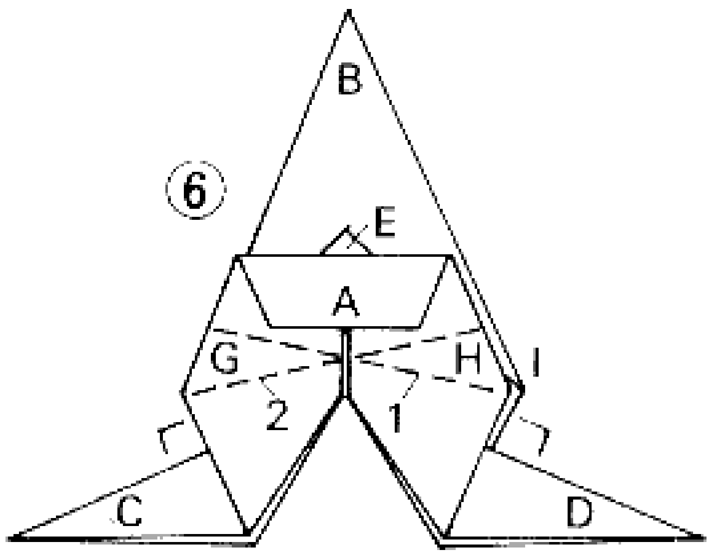
正方形の紙の対角線ＡＢに折り目をつけてから、ＡＢの中心に印をつけ、ＣＤを中心に合わせてから、谷線１、２に折り目をつける。②１と２の谷線の部分にだけ折り目をつけてから、３の山線でＡを一度裏へ折って、折り目をつけてのばし、４を折る。③Ａを谷線から一度折ってから、山線を折って、中を袋状に広げてつぶす。④裏返す。④′ＧＨを開いて点線へ折る。⑤山線と谷線でＢを矢印に返せば、①②でつけた折り目で⑥のように出来る。⑥ＥＦの山線をそれぞれ一枚だけつまみ折りにして、折り目をつけてから裏返す。⑦Ａの山線をつまんで、○印をカドにして、⑧のように折る。⑧Ａの袋を開いて、平らにする。⑨Ａを山線と谷線で矢印に返す。⑩ＥＦを山線の位置から折り返して、それぞれ間へ折る（この場合、上側の間へ折る）。⑪Ｅを折り返す。⑫それぞれ山線と谷線で折って⑬のようにする。⑬裏返す。⑬′ＩＪを折る。⑭１、２の谷線で中心に合わせて折ってから、二つに折る。⑮１の山線で首のところを頭の下へ折ってから、２の谷線で折り返す。⑯折り線記号にとらわれないで、生き生きした形になるように全体をととのえる。⑰出来上がり。

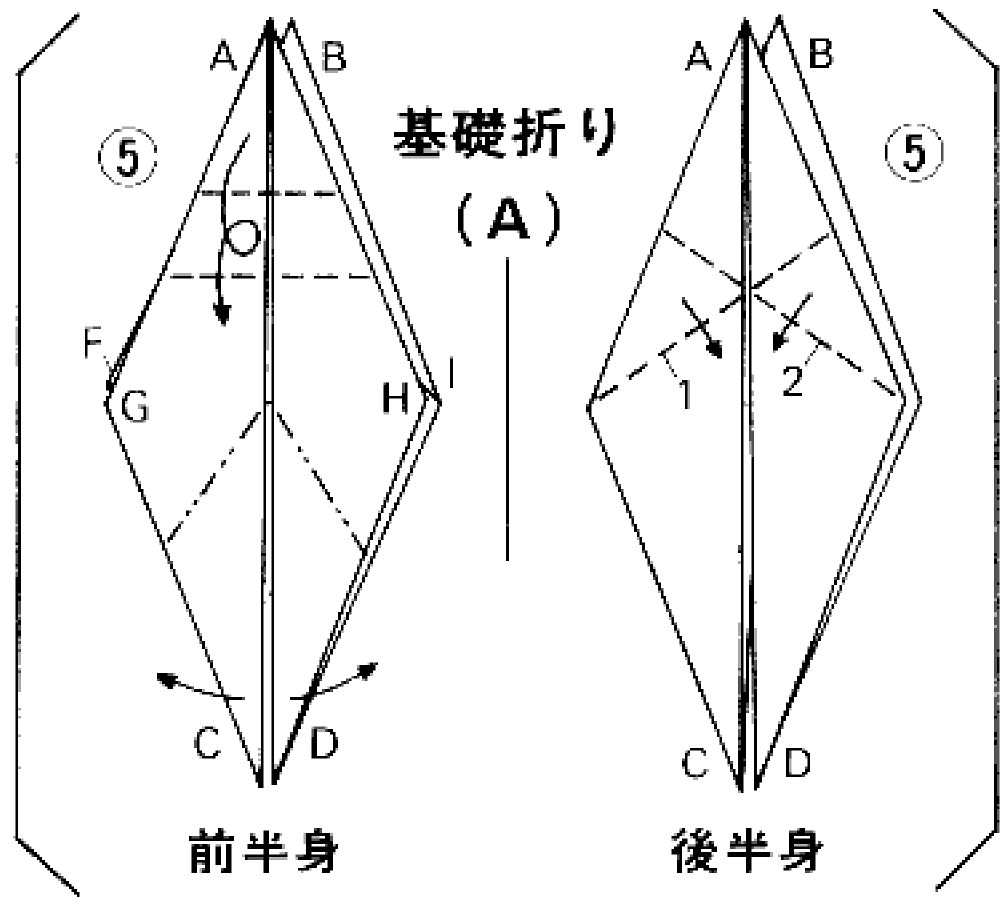
へび

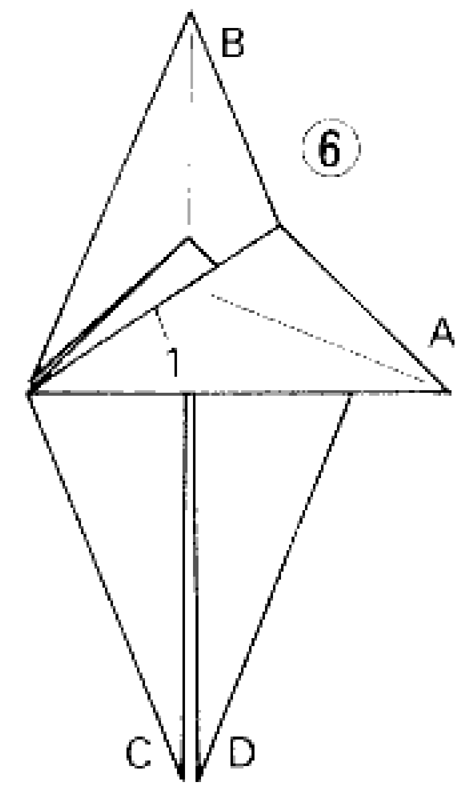


正方形の紙の対角線ＡＢに折り目をつけ、①②と折る。③細く折る。④Ｂを折ってから、⑤先のほうに重なっている部分をのばし、山線のところから中へ入れる。⑥山線と谷線で段をつける。⑦二つに折る。⑧矢印に一段ずつ引き出して丸やかにする。⑨Ａを矢印に折る。⑩谷線の位置から矢印に開いて折りかぶせる。⑪⑫Ａの菱形の下の点線へ中から引き出し、先のほうに段をつける。Ａの先を細くしてそらし、舌にしてから、頭を丸やかに左右から押さえて形をととのえ、首の付け根を上下につぶして平らにし、首は内側へ折り込むようにしてととのえる。からだは⑨の谷線を折って平仮名の「の」の字のように丸める。⑬出来上がり。

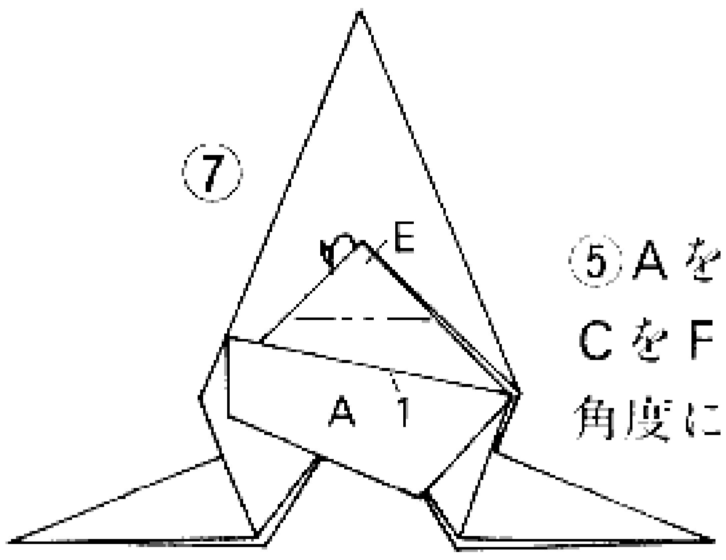
正方形の紙二枚で基礎折り(A)から、前半身と後半身を折って作る。





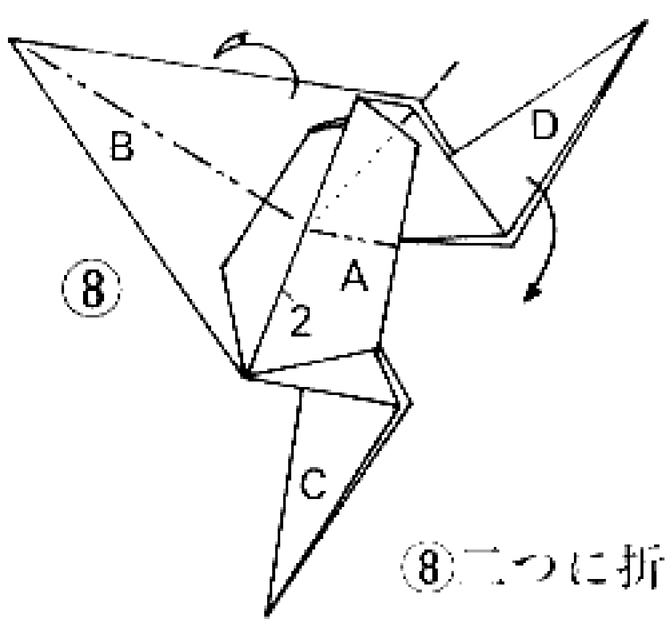


⑤⑥Aを1の谷線で⑥のように折ってのばし、2の谷線で⑦のように折る。

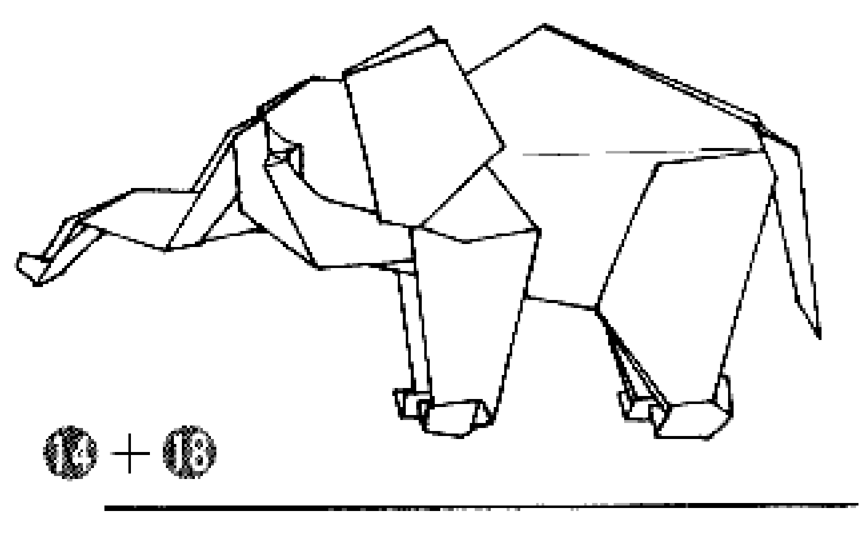


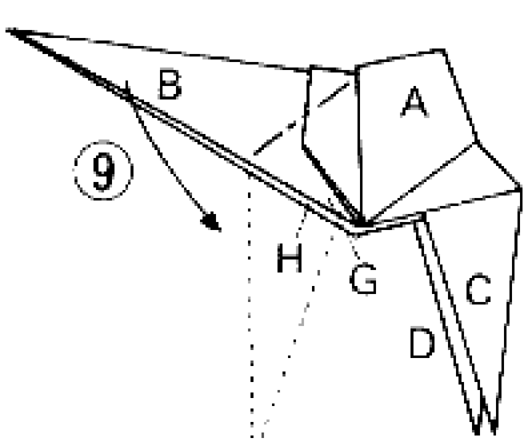
⑤Aを谷線の位置から二回折り、CをFGの間へ、DをHIの間へ角度に注意して折る。

⑥⑦Aを1の谷線で折り、Eを間へ折ってからAをのばして、2の谷線を折る。



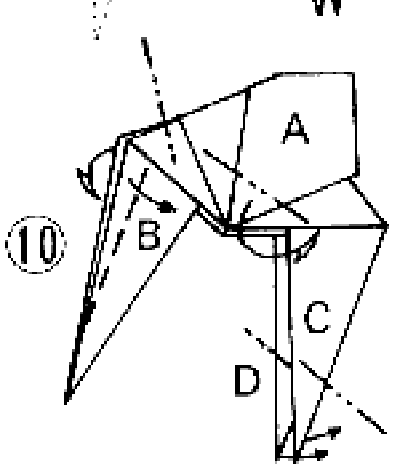
⑧二つに折る。





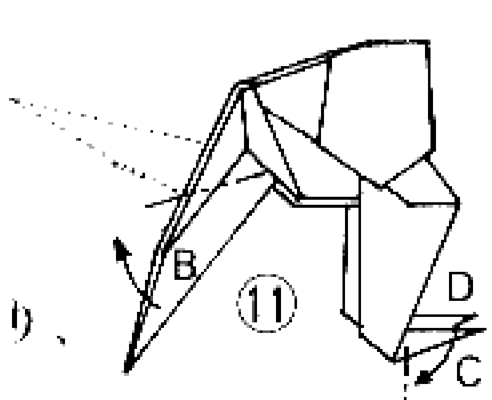
⑨BをGHの間へ折り下げる。

⑩Bを鼻の太さに折り、上のほうを顔の中へ折り込み、Aの下を間へ折り、裏側も同様に折ってからCDを折る。

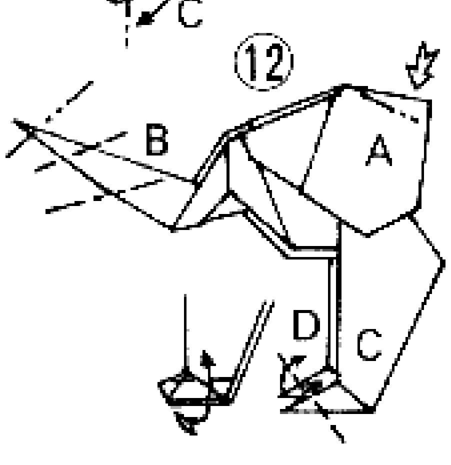


〈組み合わせ方〉 前半身⑫のCを上げて⑬の矢印に、後半身⑰のAを差し込んでからCをもどし、目の位置を小さく折り返して、全体の形をととのえる。⓮＋⓲出来上がり。

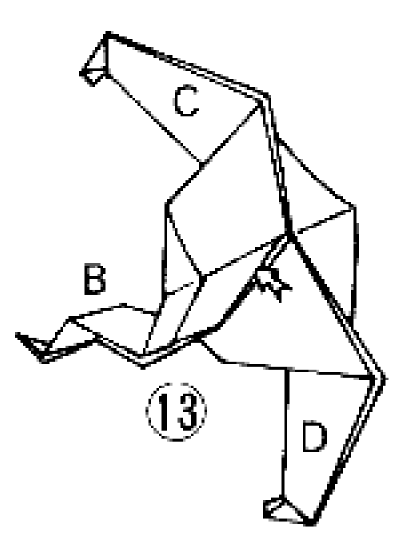
⑰CDを足の形に折り、FGのカドにBの○印と△印をかぶせて尾を作る。

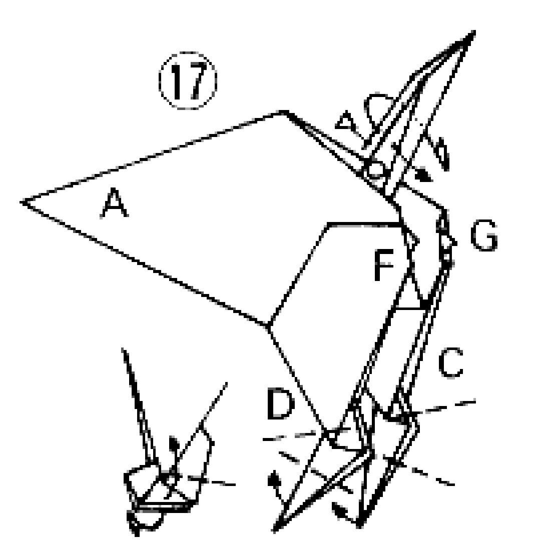


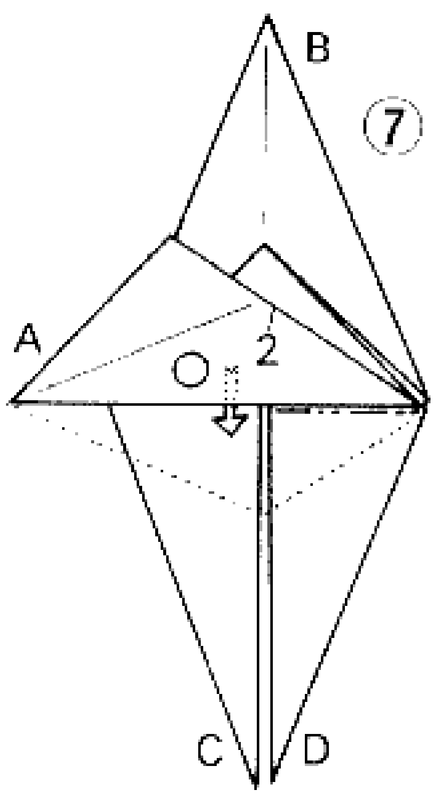
⑪Bを点線へ折り、CDを折り返す。



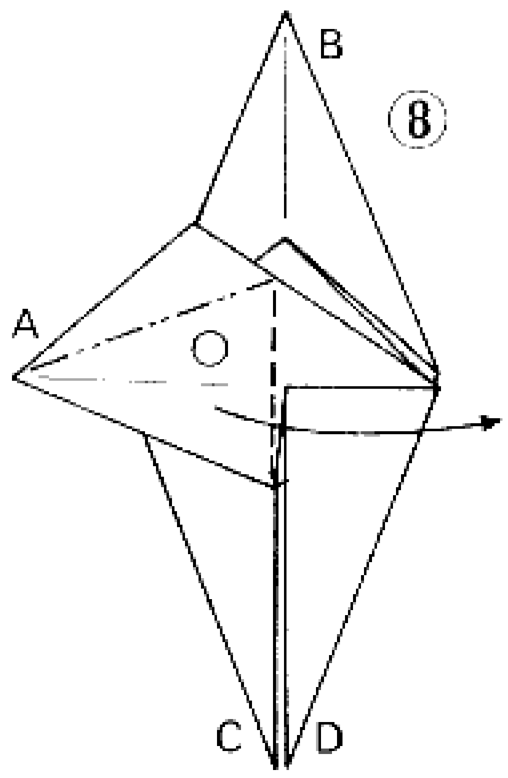
⑫Aのカドを折り込み、Bを鼻の形に折り、CDの先を平らにして上に折ってから、左右に折り上げる。



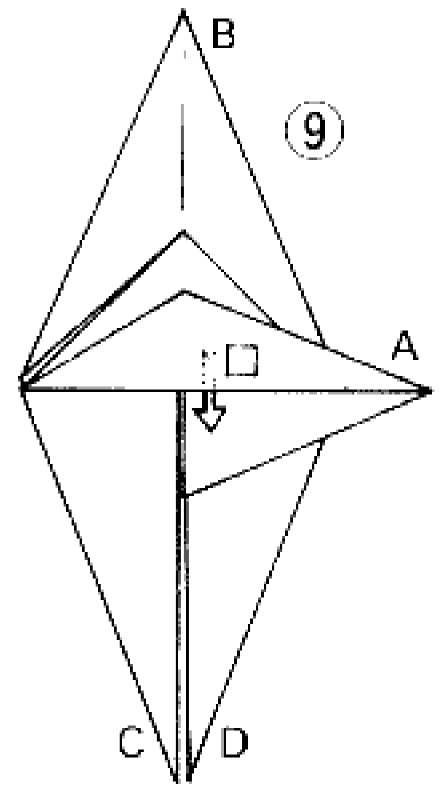




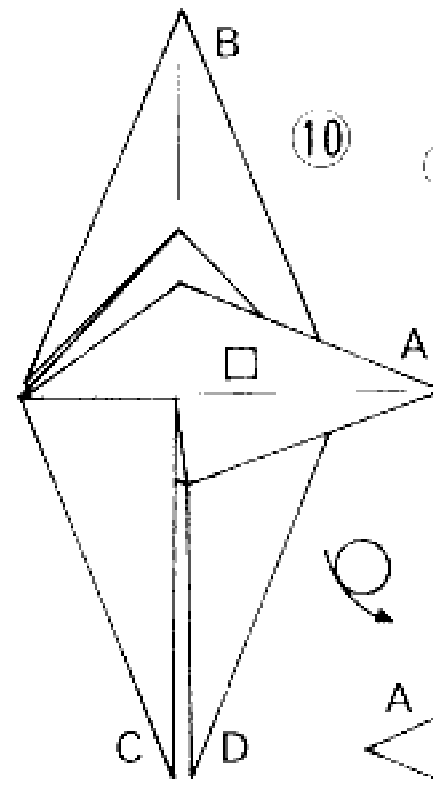
⑦○印の内側から⑧のように開き出す。



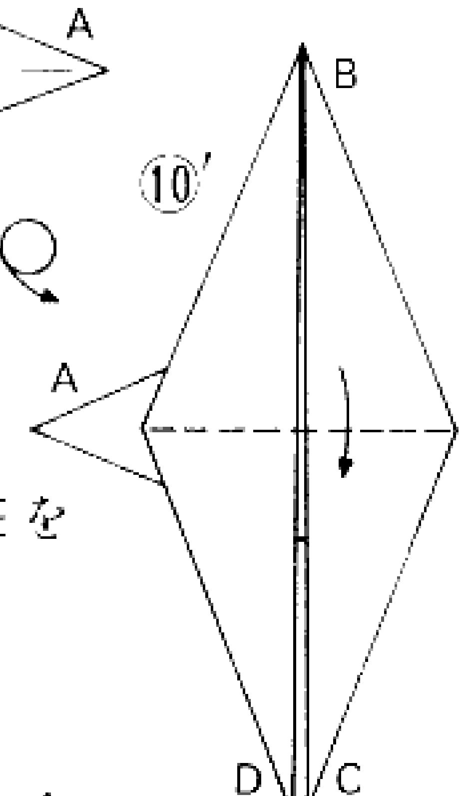
⑧Aを右側へ返す。



⑨を⑦と同じように□印の内側から開き出す。

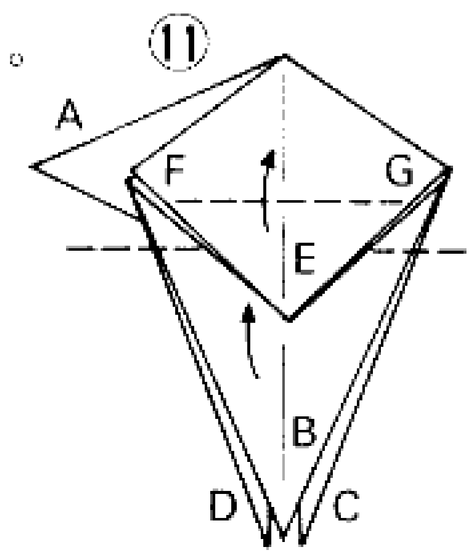


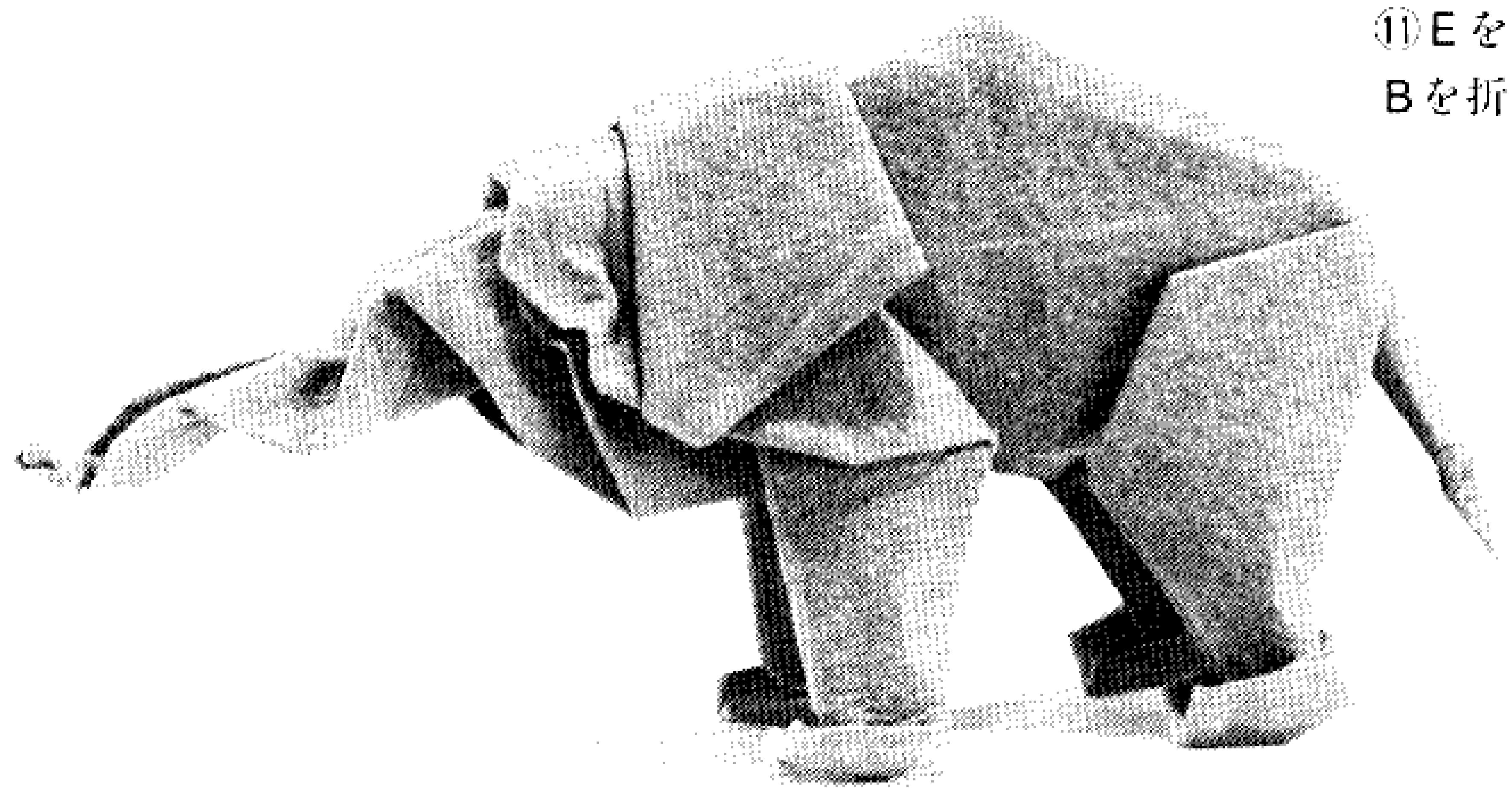
⑩裏返す。



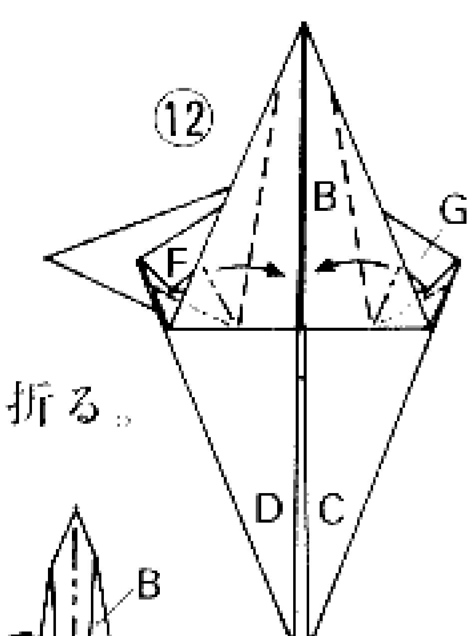
⑩′Bと裏側のEを折り下げる。

⑪Eを折ってからBを折り上げる。

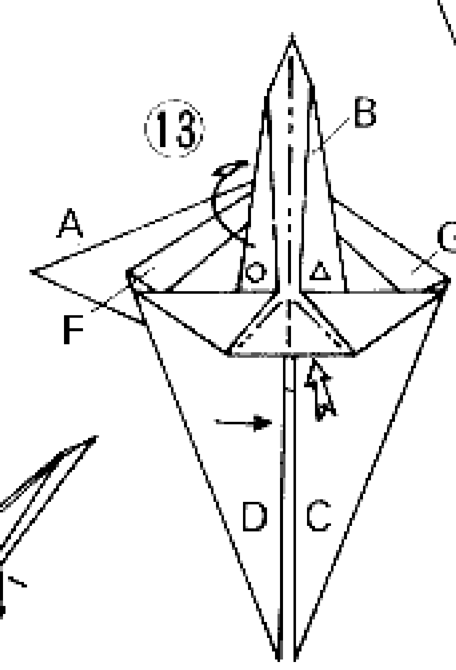




象

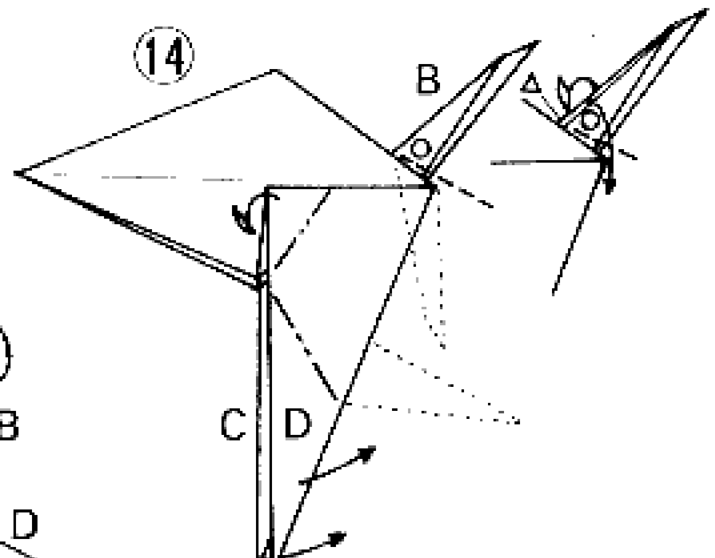


⑫Bを細く折る。

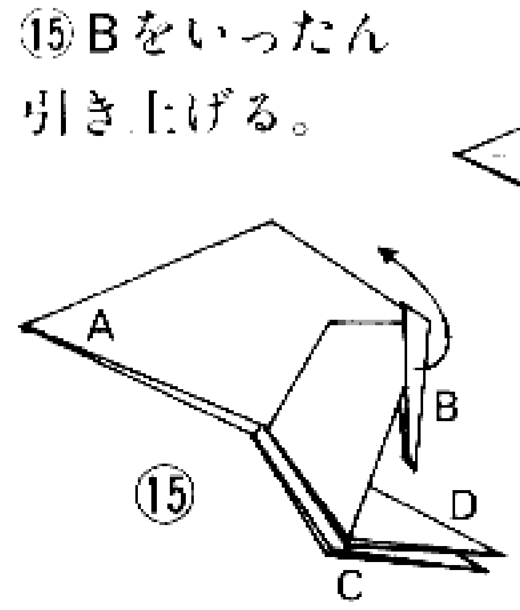


⑬Bの山線を折りながら、下の三角を矢印に押し込んで、DをCの上に重ねて平らにする。

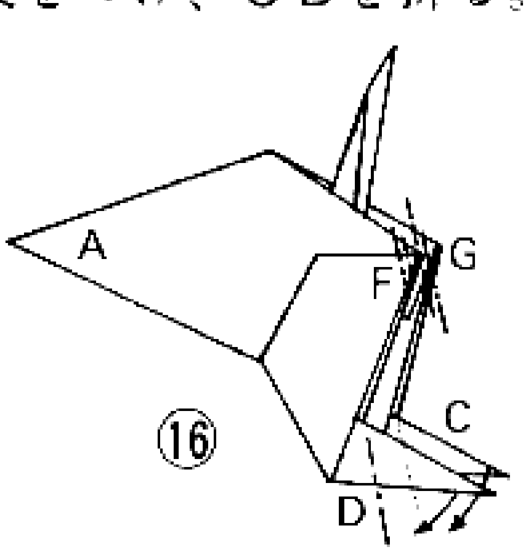
⑭Bを矢印に開いて折りかぶせ、尾の角度にたらして折り目をつけ、CDを矢印に折る。



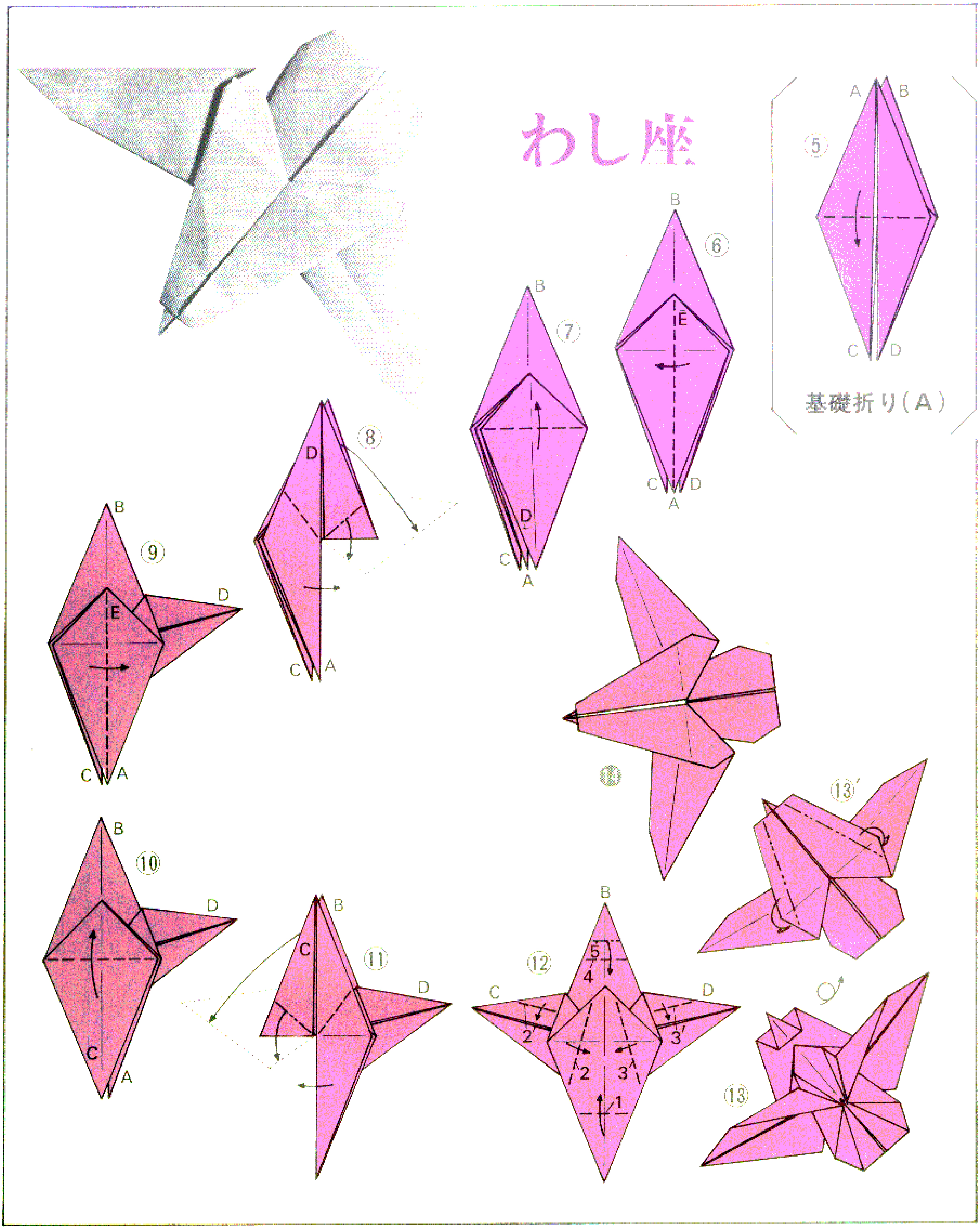
⑮Bをいったん引き上げる。



⑯FGのカドに小さく段をつけ、CDを折る。



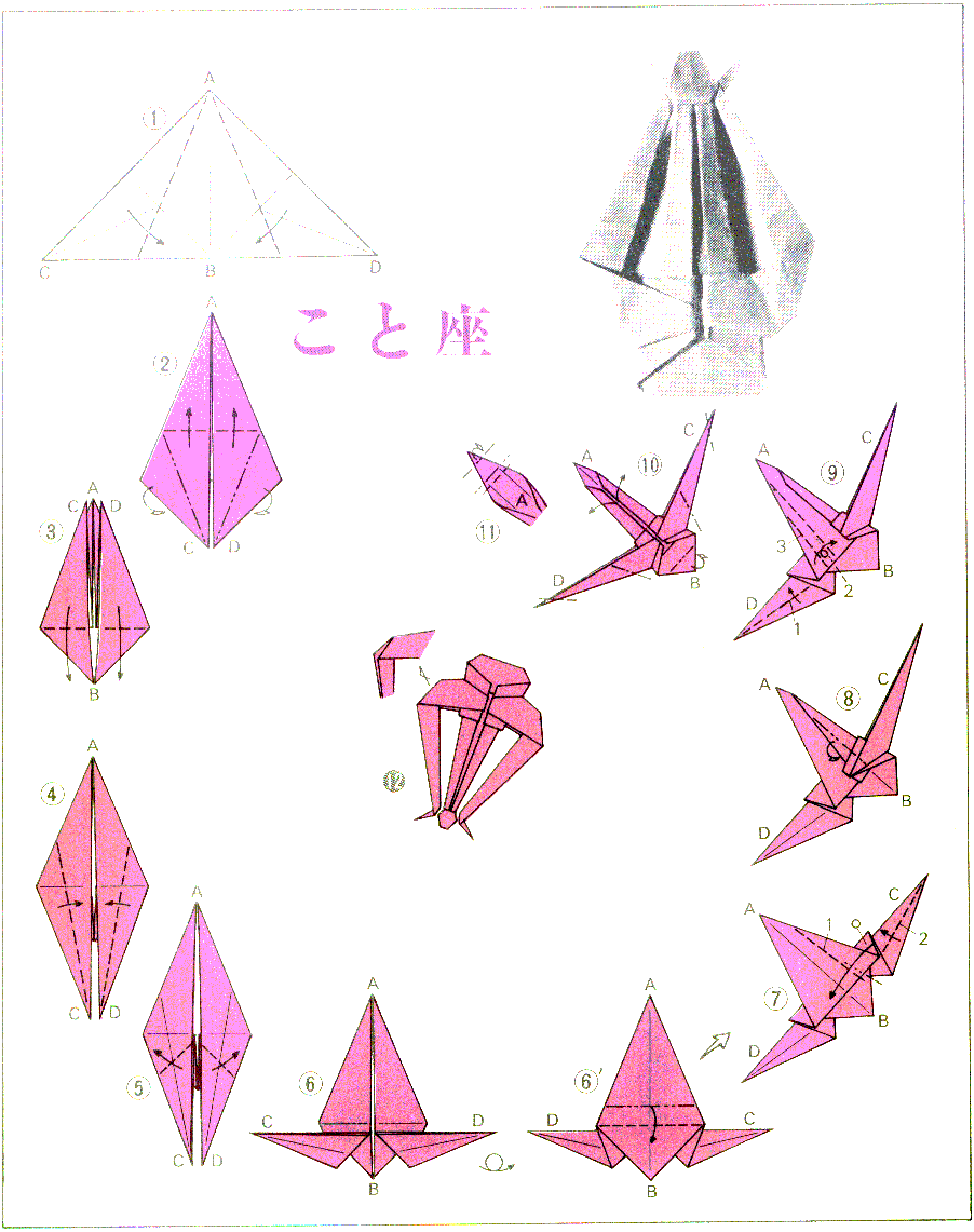
わし座



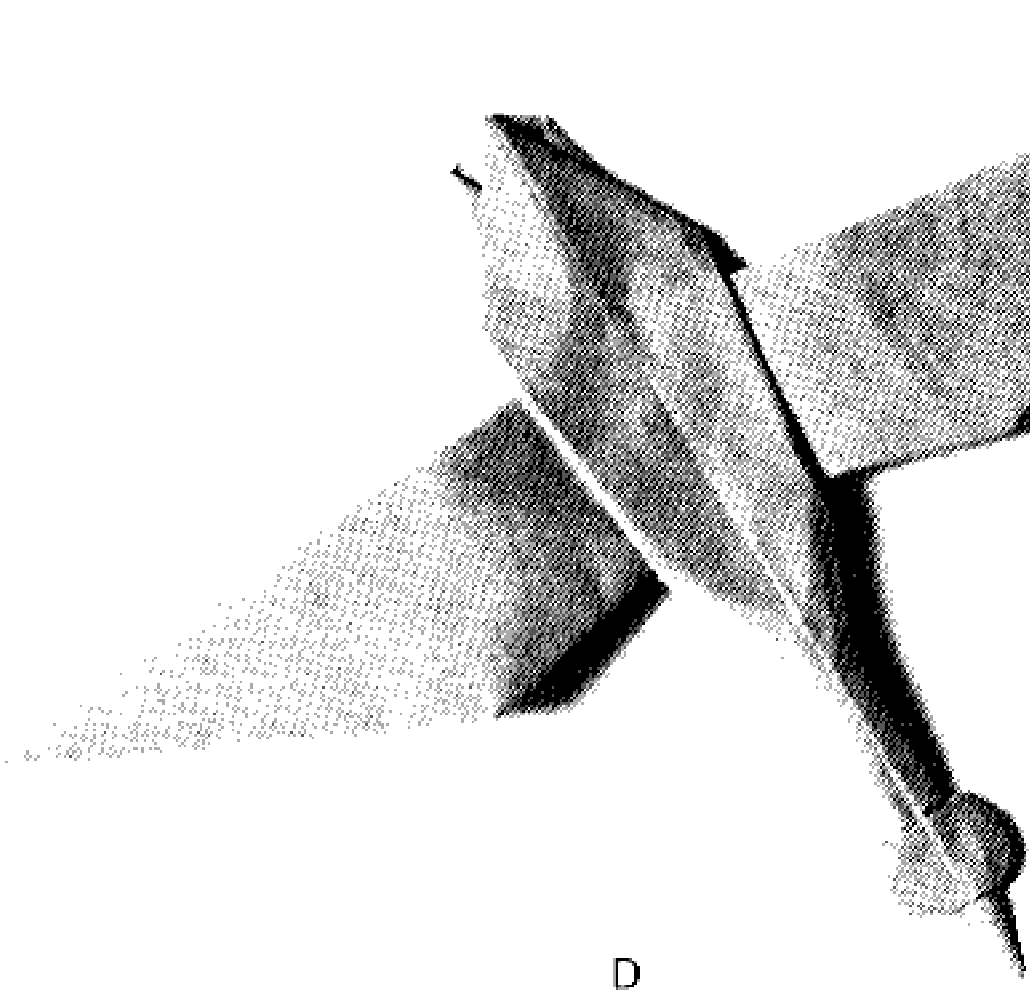
基礎折り(A)から折る。

⑤⑥⑦を折る。⑧Dを山線と谷線で点線へずらして折りながら、Aを返す。⑨⑩⑪左側のCをDと同様に折る。⑫矢印にそれぞれ折る。⑬裏返す。⑬′矢印に間へ折る。⑭出来上がり。

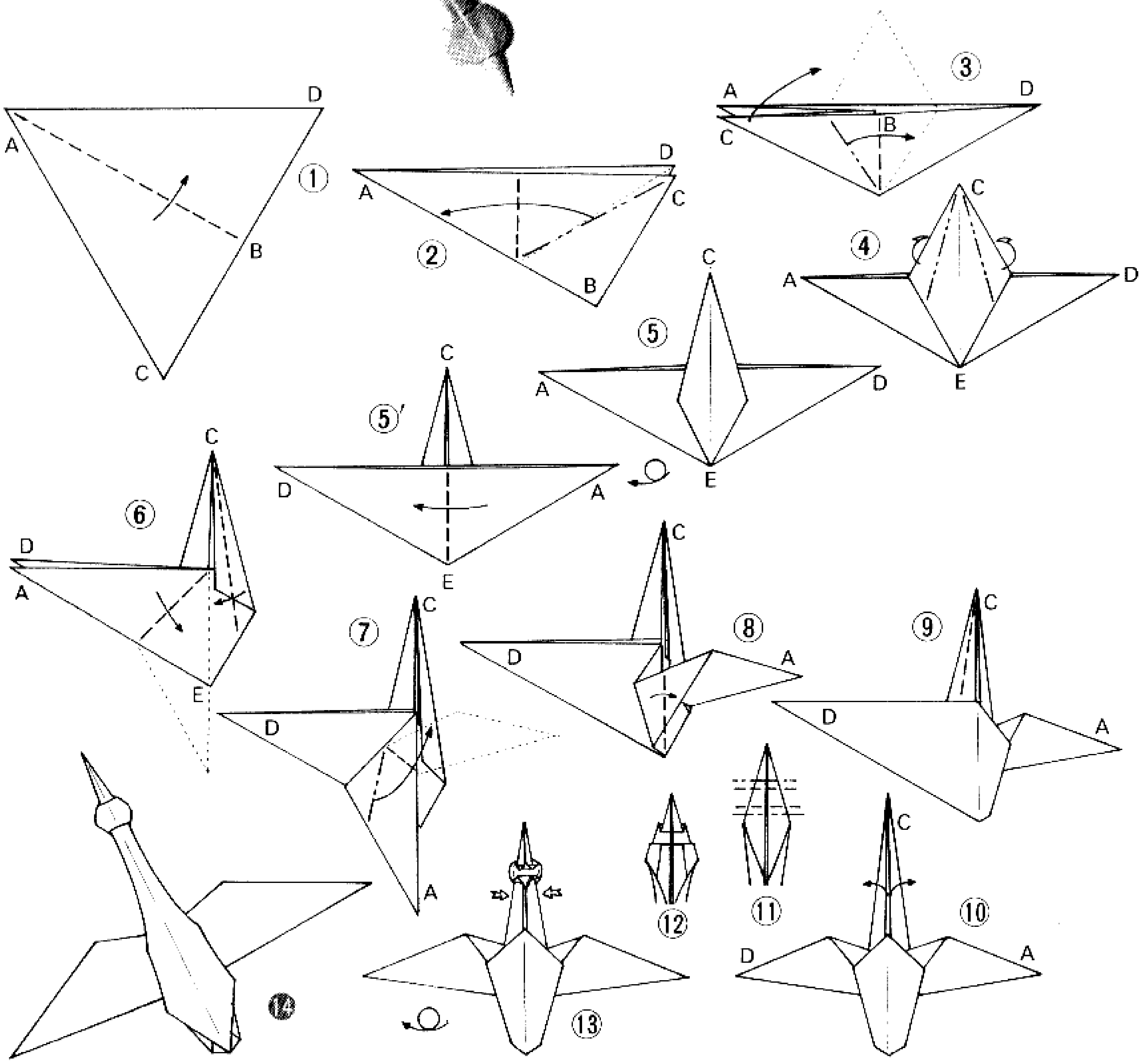
こと座



直角二等辺三角形の紙を用いる（正方形の紙を対角線から切ったその一枚）。①②③を折る。④谷線に折り目をつける。⑤矢印に折る。⑥裏返す。⑥′段をつける。⑦谷線1、2と折って、○印の部分を矢印に返しなじませる。⑧山線から折って、矢印のように間へ入れる。⑨左側も右側と同様に折る。⑩Aを⑪のように開いて段をつけてから折りまとめ、CとDを山線、谷線で折り、Bを折る。⑫出来上がり。



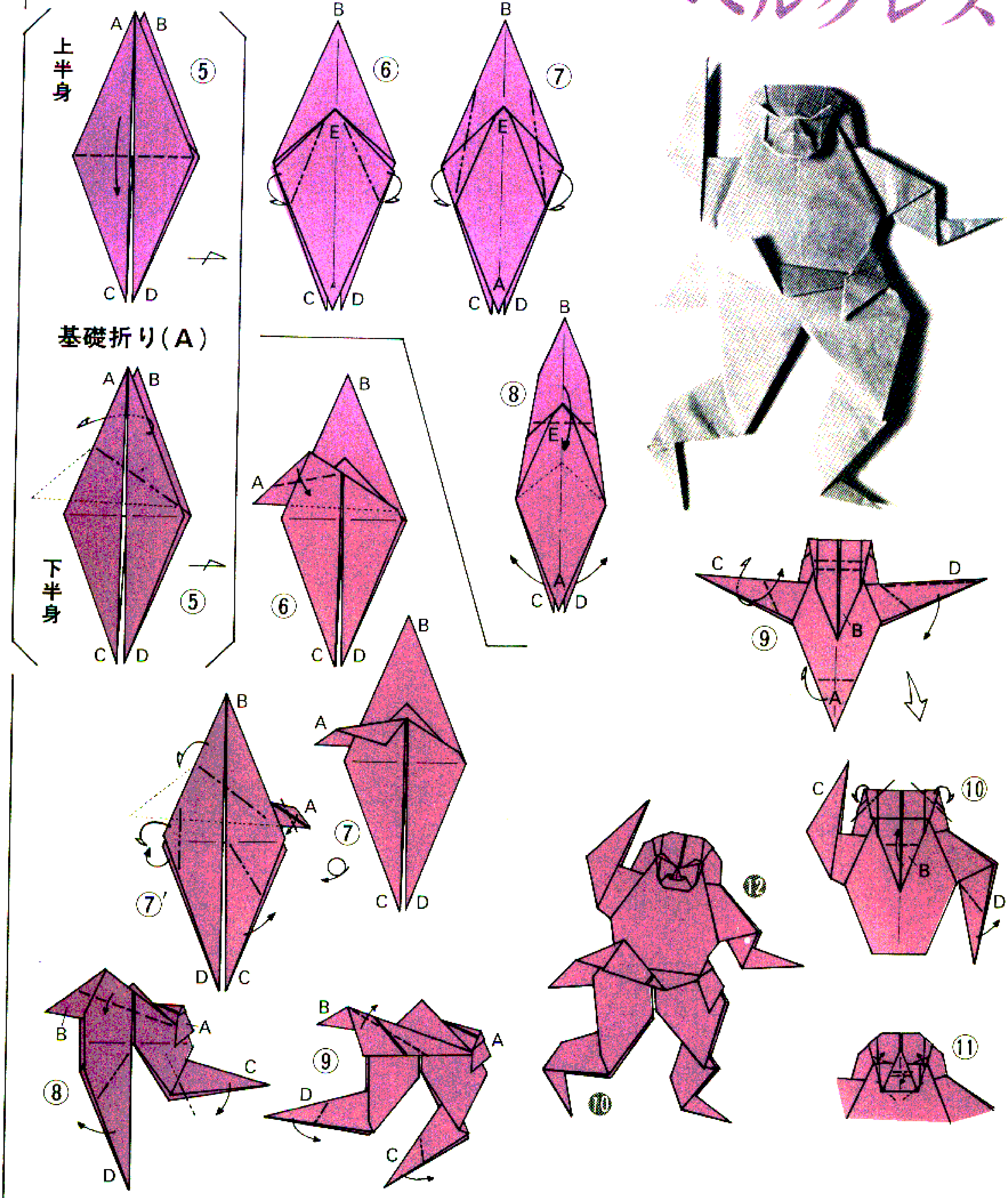
白鳥座



正三角形の紙を用いる（用紙の作り方は37ページ参照）。

①②③を折る。④矢印に間へ折る。⑤裏返す。⑤′⑥を折る。⑦山線と谷線でAを点線へずらして折る。⑧上だけ矢印に折る。⑨DをAの折り方で折りまとめる。⑩⑪Cの先を広げて段をつけ、⑫⑬のように、首のところを左右から矢印に押しつぶして、首を細く折りととのえて、表に返す。⓮出来上がり。

ヘルクレス

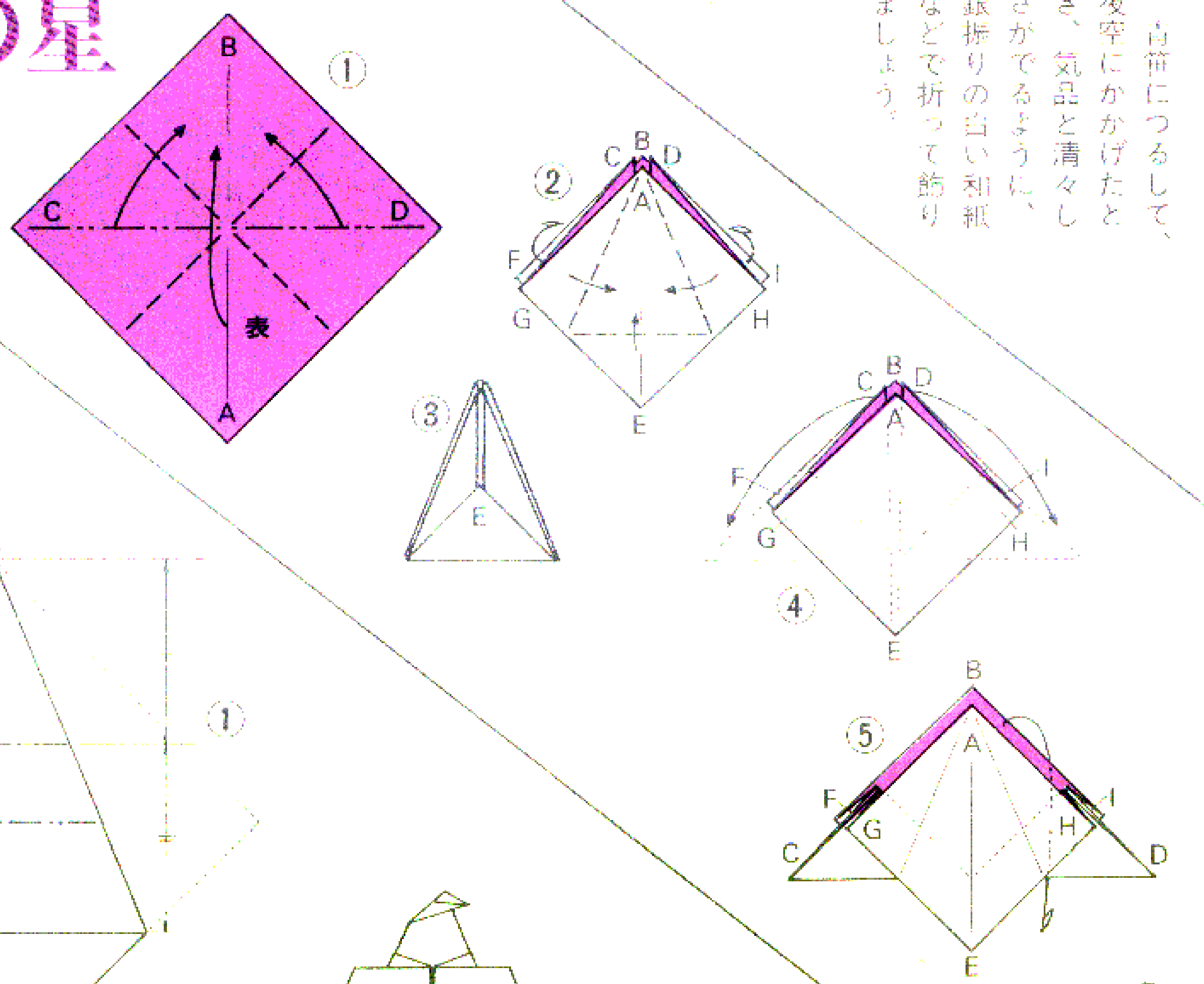


正方形の紙二枚で基礎折り(A)から上半身と下半身を折って作る。

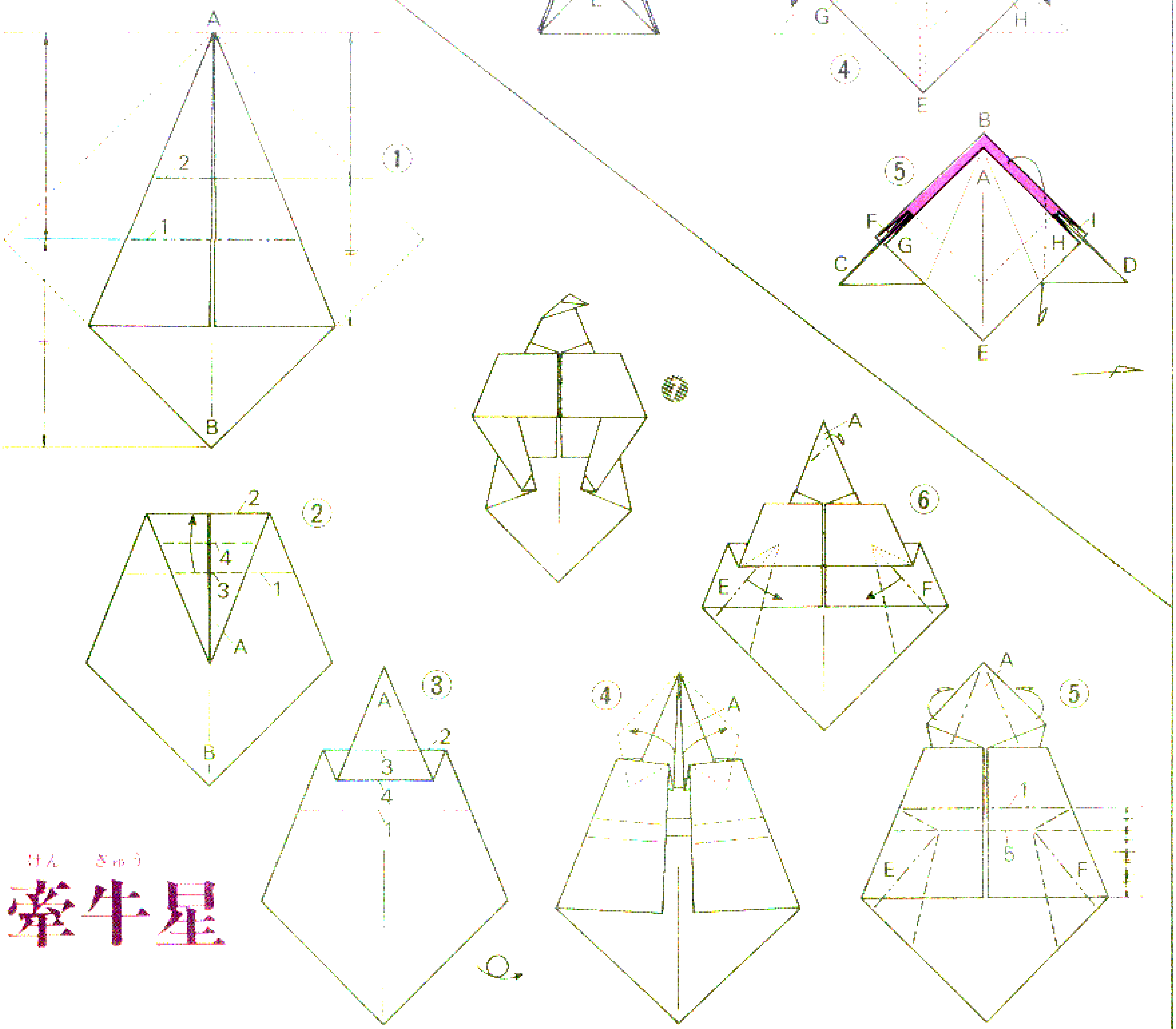
〈上半身〉⑤⑥⑦を折る。⑧CとDを点線の内側から左右に折り上げ、Bを谷線から折る。⑨Bに段をつけ、Cの先を広げて折りかぶせ、Dを間へ折り、Aを裏へ折る。⑩を折り、部分図⑪のように折って上半身の出来上がり⑫。

〈下半身〉⑤Aをねじって間へ折る。⑥矢印に折る。⑦裏返す。⑦'Bを間へ折り、それぞれ矢印に折る。⑧⑨矢印に折り、下半身の出来上がり。上半身を下半身の間へ差し込んで形をととのえる。⑫+⑩出来上がり。

十字の星



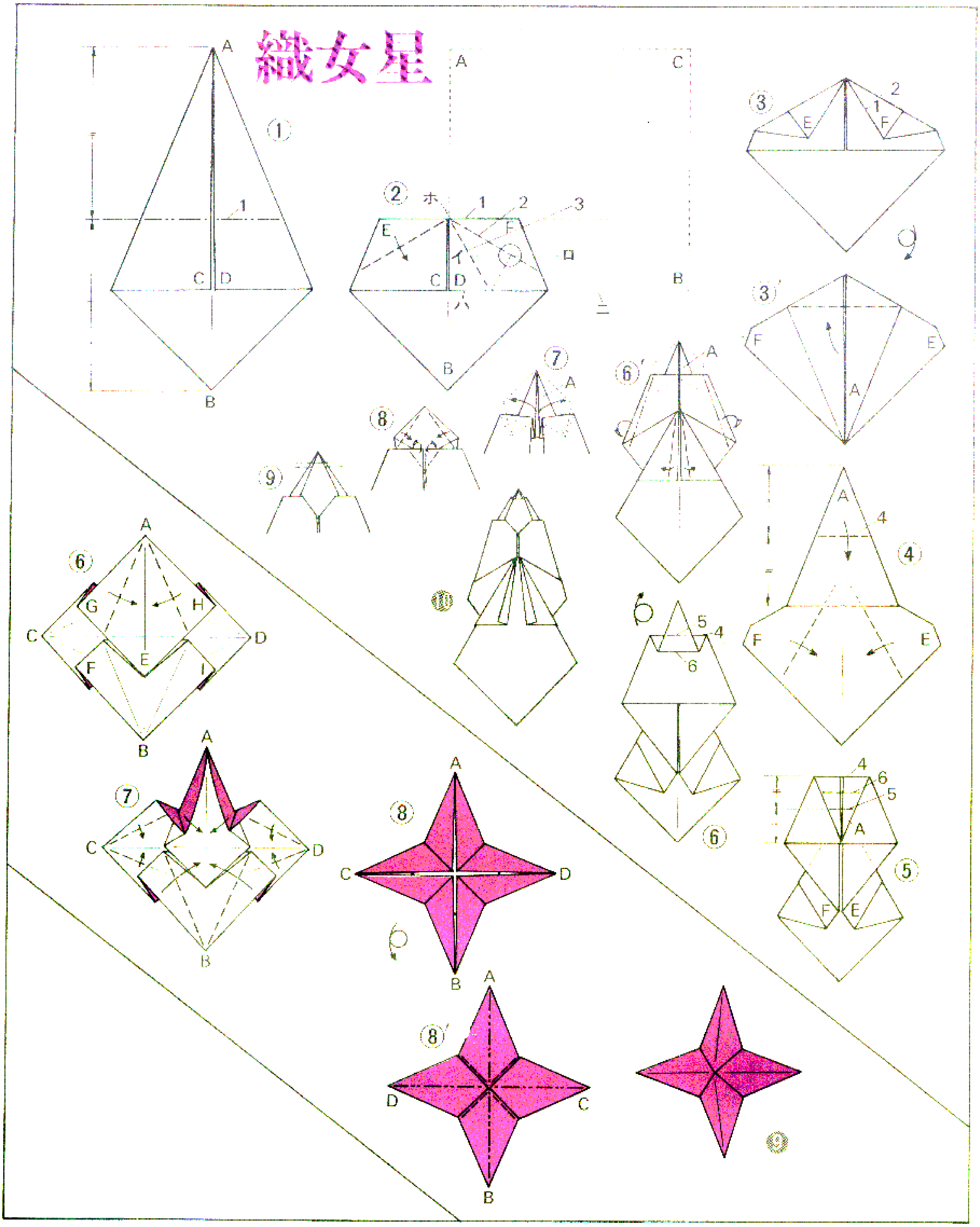
白笹につるして、夜空にかかげたとき、気品と清々しさがでるように、銀振りの白い和紙などで折って飾りましょう。



牽牛星(けんぎゅう)

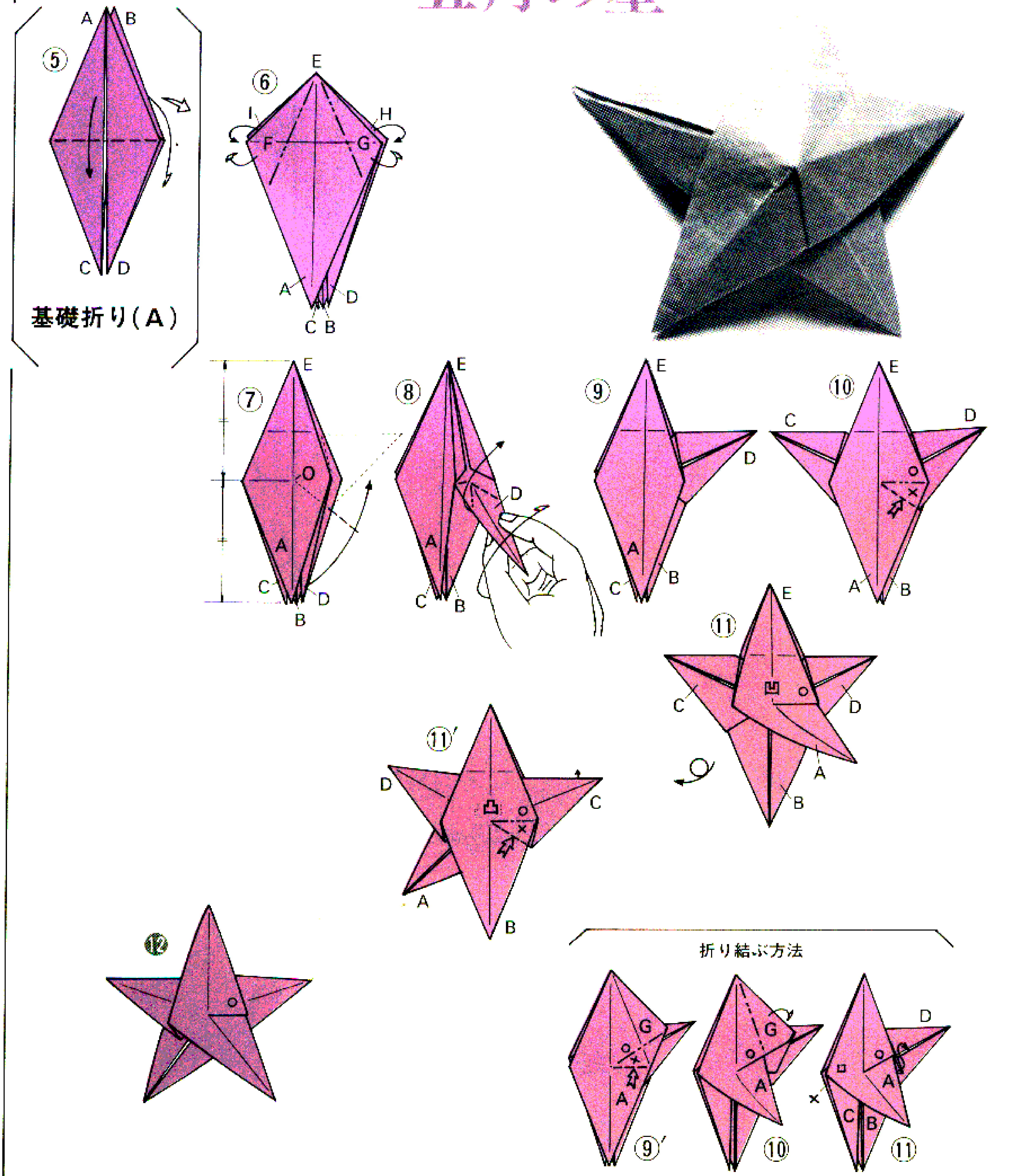
〈牽牛星(けんぎゅう)〉正方形の紙を①のように折ってから、AとBのカドを合わせて1の山線で折り目をつけてのばし、2の山線を折って裏返す。②Aのカドを2の折り目に合わせて3の折り目をつけ、3の折り目を2の折り目に合わせて4を折る。③を表に返して、いったん広げ、④のようにたたみかえる。④Aを点線に引き出す。⑤Aの左右のカドを裏へ折り、1の山線と5の谷線を折って⑥のようにしてから、EとFを内側へずらして折り、手を作る。Aの先を折ってかぶりものの感じを出す。⑦出来上がり。

織女星



〈織女星〉 正方形の紙を①のように折り、Aを裏へ折ってBに合わせる。②EFを折る。この場合、三等分(30度)に折るには点線のように広げて、ハニの線を1の折り目に合わせ、イロの○印の部分に軽く折り目をつけ、ホのカドを支点として、Dのカドをイロの線上に合わせ、3を折って、2の折り線を求める。実際には目測で折ってもよい。③裏返す。③′④を折る。⑤Aを$\frac{1}{2}$のところに折り目をつけ、その折り目を上の4の折り目に合わせて折る。⑥表に返す。⑥′Aをのばして開き、⑦のようにたたみかえてから、⑧⑨と折って頭を作り、⑥′の両わきと前を折って、⑩出来上がり。

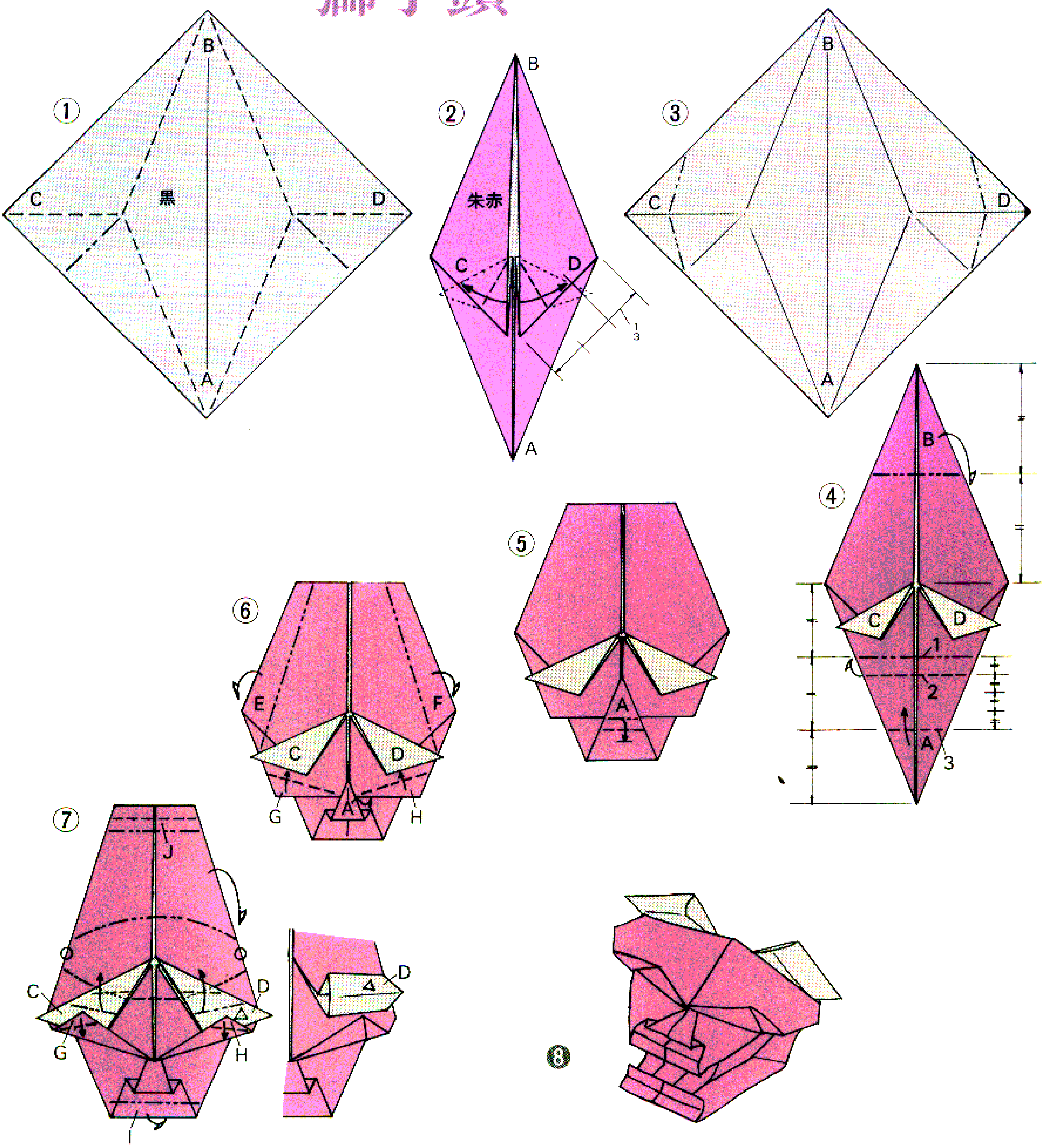
五角の星



基礎折り(A)から折る。⑤AとBを折り下げる。⑥FGHIのカドを、それぞれ左右の間へ折り込む。⑦Oを支点(星の中心)として、Dを点線へ⑧のようにしてねじりながら折り広げる。⑨CもDと同様に左側へ折る。⑩Aの×印を○印の内側へ押し込む。⑪裏返す。⑪′BをAの折り方と同様に折って形をととのえる。⑫出来上がり。

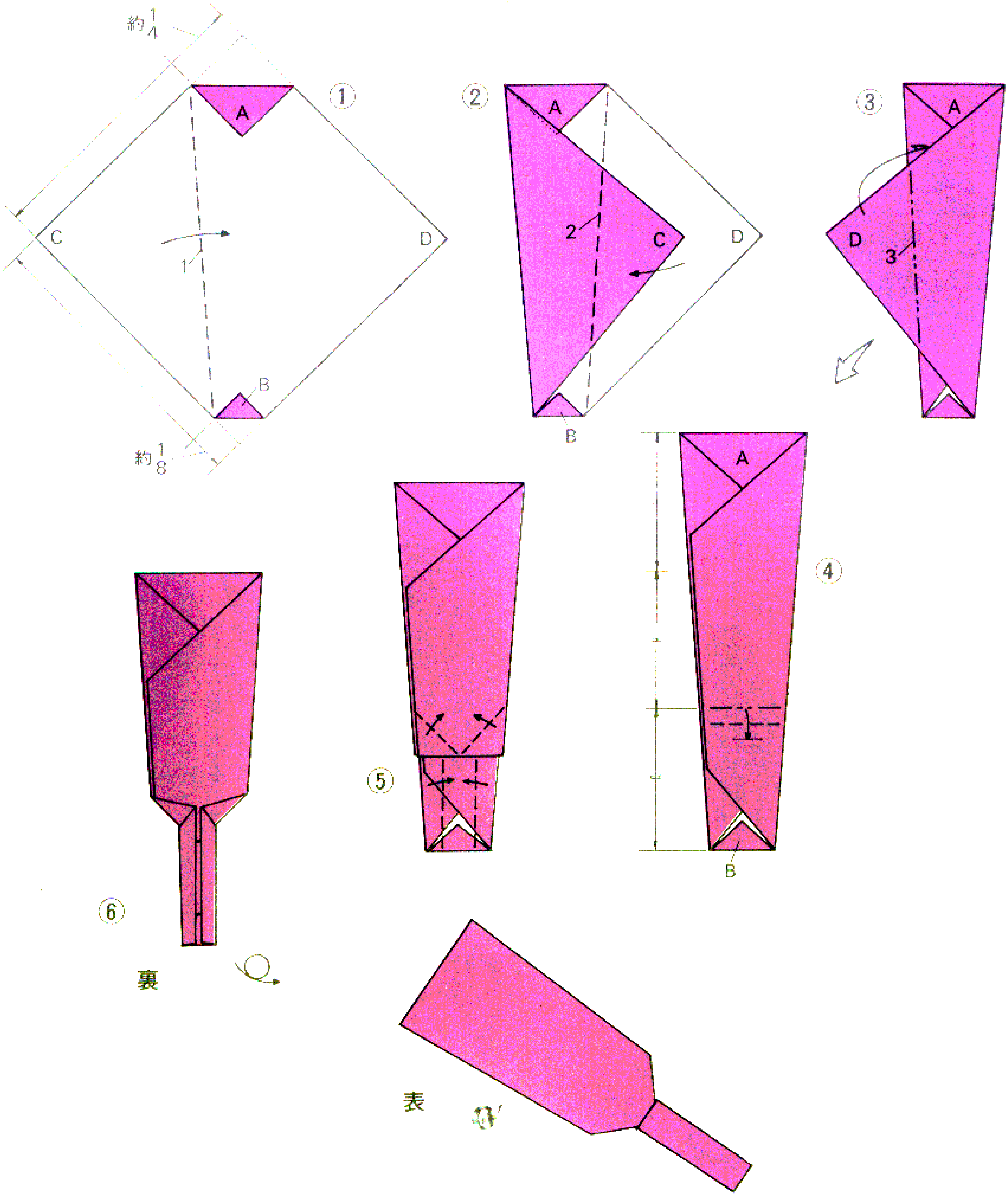
〈折り結ぶ方法〉⑨のEの中から、⑥で折ったGを引き出し⑨′。⑩を折り、⑪Aの裏のカドをDの袋へ入れる。CとBを右側と同様に折れば、Cの×印の部分がひだになるから、□印の裏へ差し込む。中心に親指をあてて持ち、Aを引っぱって密着させる。

獅子頭



朱赤と黒の色紙を重ねて、表を朱赤、裏を黒にして折る。

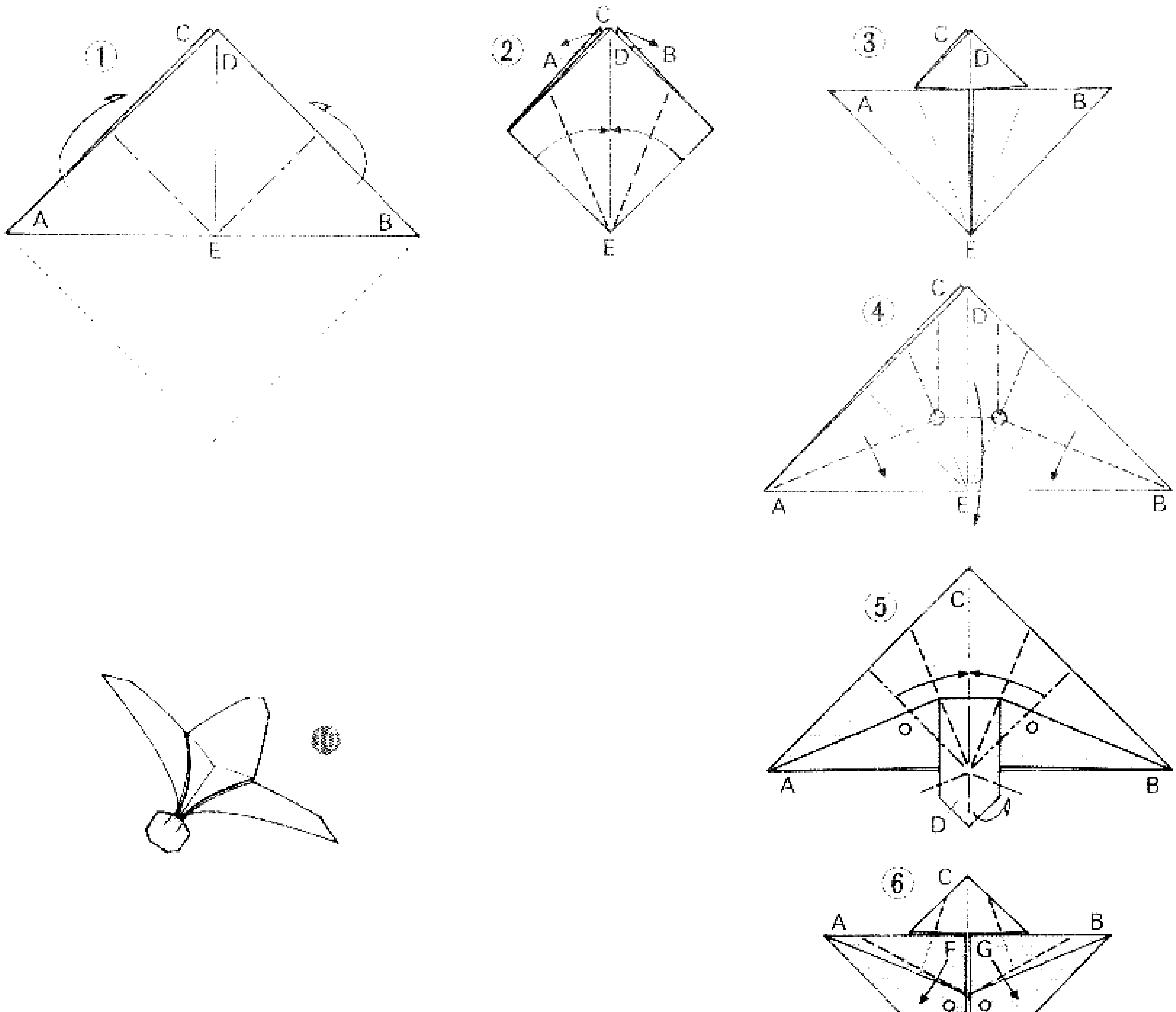
①山線と谷線で②のように折り、CとDの折り目をつけてから広げる。③CとDを②で折った折り目で、黒のほうを山線に折りながら、①でつけた折り目でまとめる。④Aの1、2の折り線で段をつけ、3で先を折り上げ、Bを裏へ折る。⑤Aに段をつける。⑥Aの先を間に入れ、GとHを折り返し、EとFを裏へ折る。⑦GとHのカドを折り下げて目を作り、1を折って上あごを作り、CとDを袋状に広げて耳を作り、Jを折って、下あごにする。曲線の山線の裏側に、左手の人さし指の先を当て、右手の親指と人さし指で押しつけるようにして折り目をつけて、❽のように形をととのえる。耳の下のところ(⑦図の○印)を左右から指先で持って、パクパクと口を動かす。

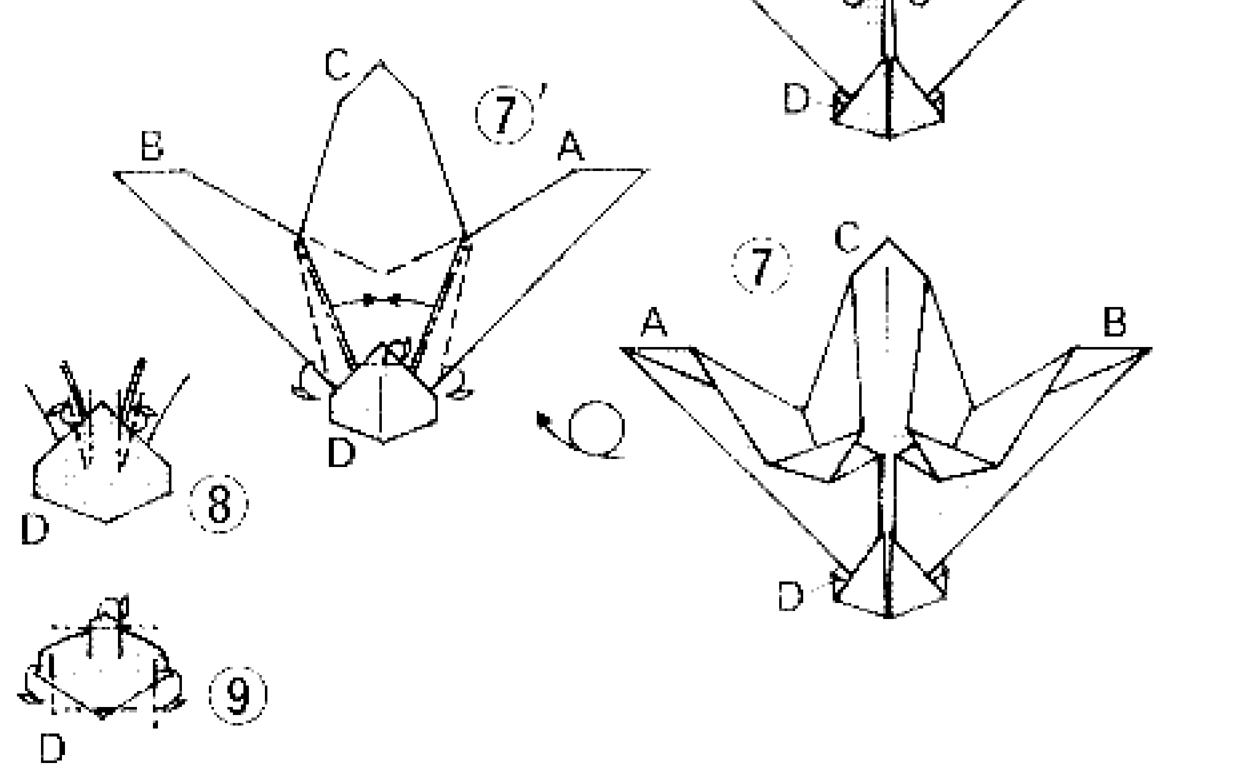


羽子板

①正方形の紙のAとBを図のように折り、羽子板の形を考えてCを折る。②CDを2の折り線で折る。③裏側の①で折った折り目に合わせてDを間へ折る。この場合、少し内側へひかえて折る。④図の割合に段をつける。⑤矢印にそれぞれ折って柄を作る。⑥出来上がり。

お年玉を入れるのし袋や友だちへの年賀のごあいさつなどに使えます。





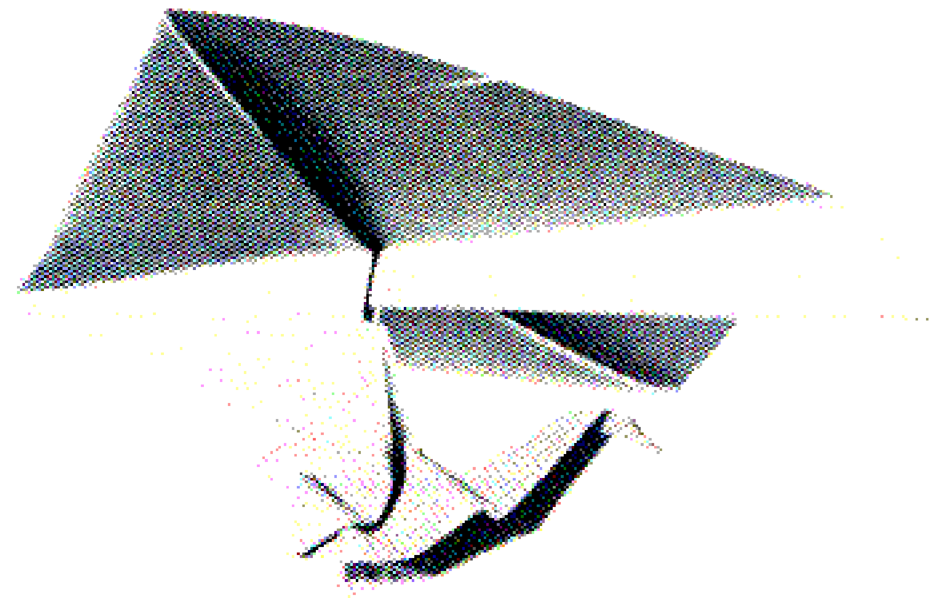
追い羽根

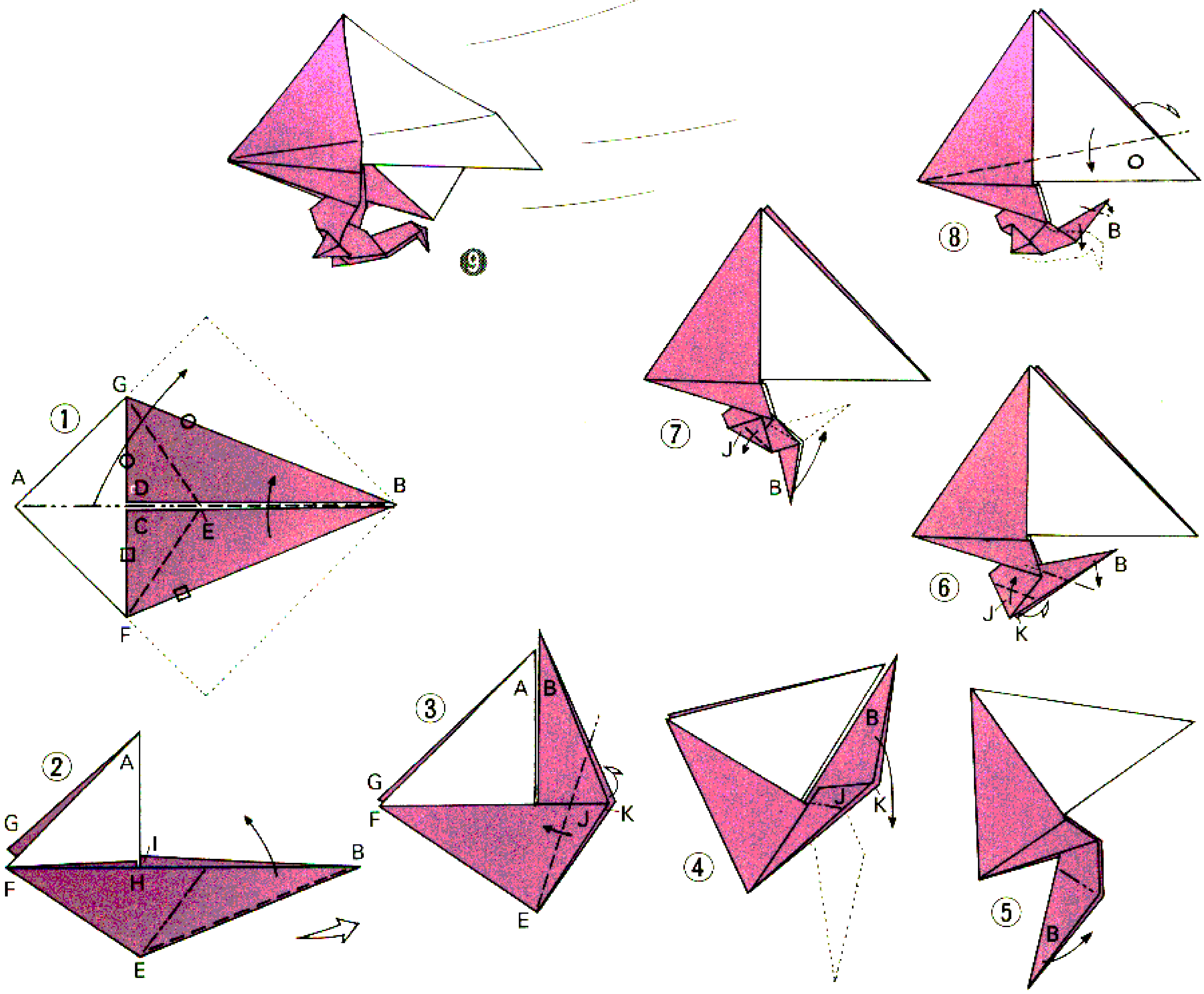
①正方形の紙を対角線に折ってから、さらにＡＢを裏へ折る。②矢印に中心に折って、裏側からＡＢを開き出す。③を④の形まで広げる。④ＡＢＣの上側だけ、それぞれの切り目を底辺に合わせて谷線の折り目をつけ、②で折った折り目（Ｅからの放射線の折り目）との交点○印から、中心の縦の線に平行に谷線の折り目をつけて、それぞれの折り目を折って⑤のようにする。⑤は②でつけた折り目に従って山線を中心に合わせ、Ｄを裏へ折る。⑥ＦＧを矢印に折りながらＣを細くする。⑦裏返す。⑦'ＡＢの下のほうを山線と谷線で中心に折りまとめ、Ｃの谷線に折り目をつけて羽の形をととのえ、Ｄを部分図⑧⑨のように折って丸やかにする。⑩出来上がり。

羽子板と追い羽根をセットにする場合、大きさの割合は羽子板を折る紙の、一辺の長さの$\frac{1}{4}$ぐらいの正方形が適当です。

正方形の紙を①のように折ってから、○印を○印に合わせ、□印を□印に合わせて折り目をつけてから、Ａの山線とＢの谷線を折って②のようにする。②ＢをＨＩの間へ折る。③④⑤矢印に折る。⑥Ｂを折り下げ、ＪＫを折る。⑦Ｂを点線へ折り返し、ＪＫを折る。⑧点線へＢを引き下げて足の先を折り、主翼を谷線から左右に折って形をととのえる。⑨出来上がり。⑧の○印を持って軽く投げて飛ばす。なお、主翼の下側の三角の袋状のところをあけるとよく飛ぶ。

ハンググライダー

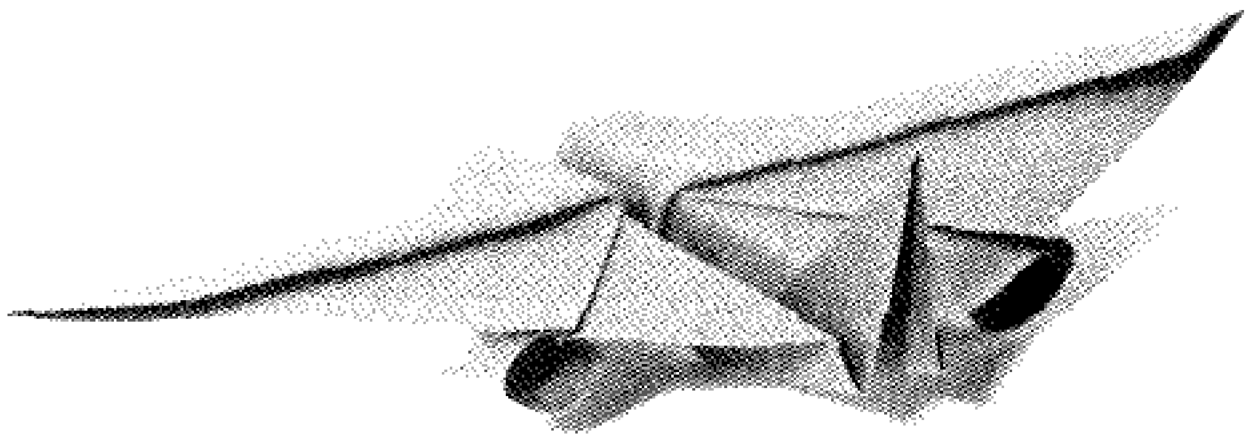


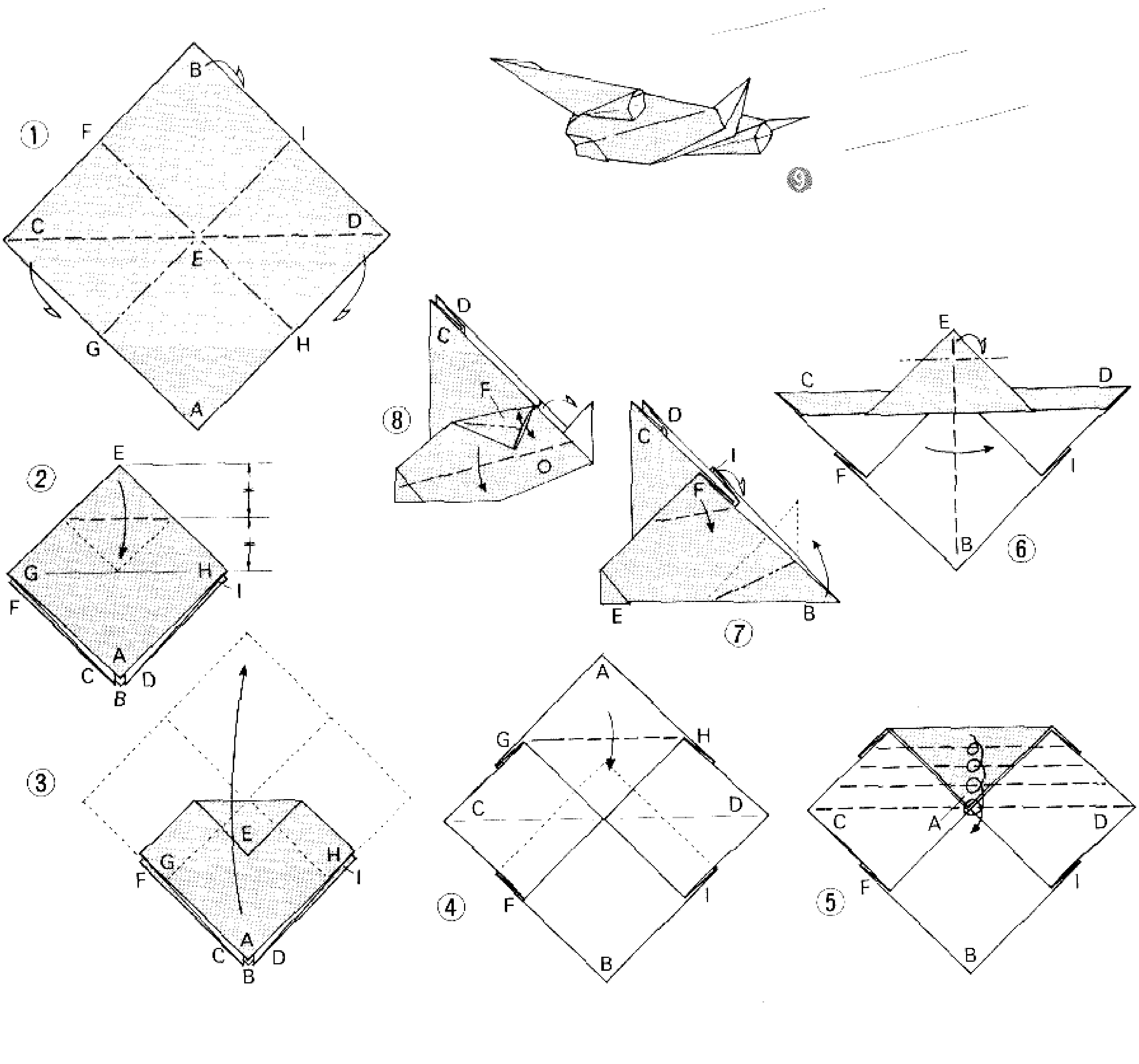


ハンググライダーは新しいスポーツの一つですが、折り紙のグライダーに人間の姿を折って重心のバランスを計算して作った作品です。飛ばすときに、翼を平らにととのえ、数回飛ばしてみて、気流の関係によって人体の位置を前後に加減してください。

ジェット機型

グライダー

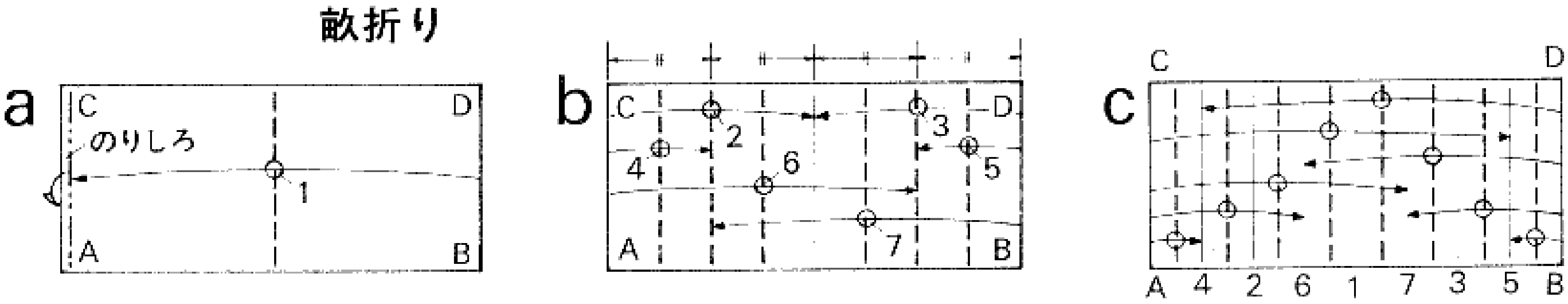


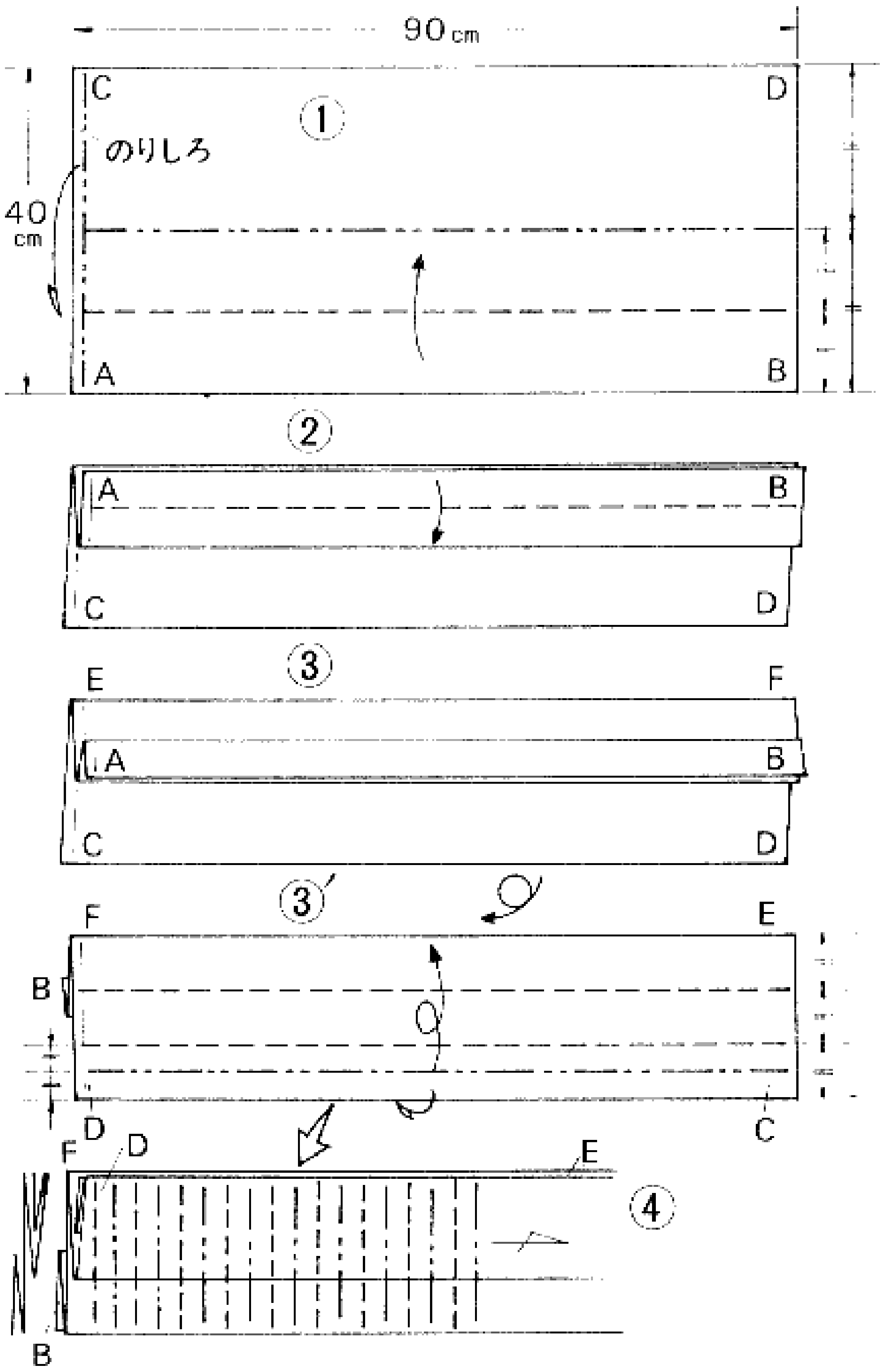


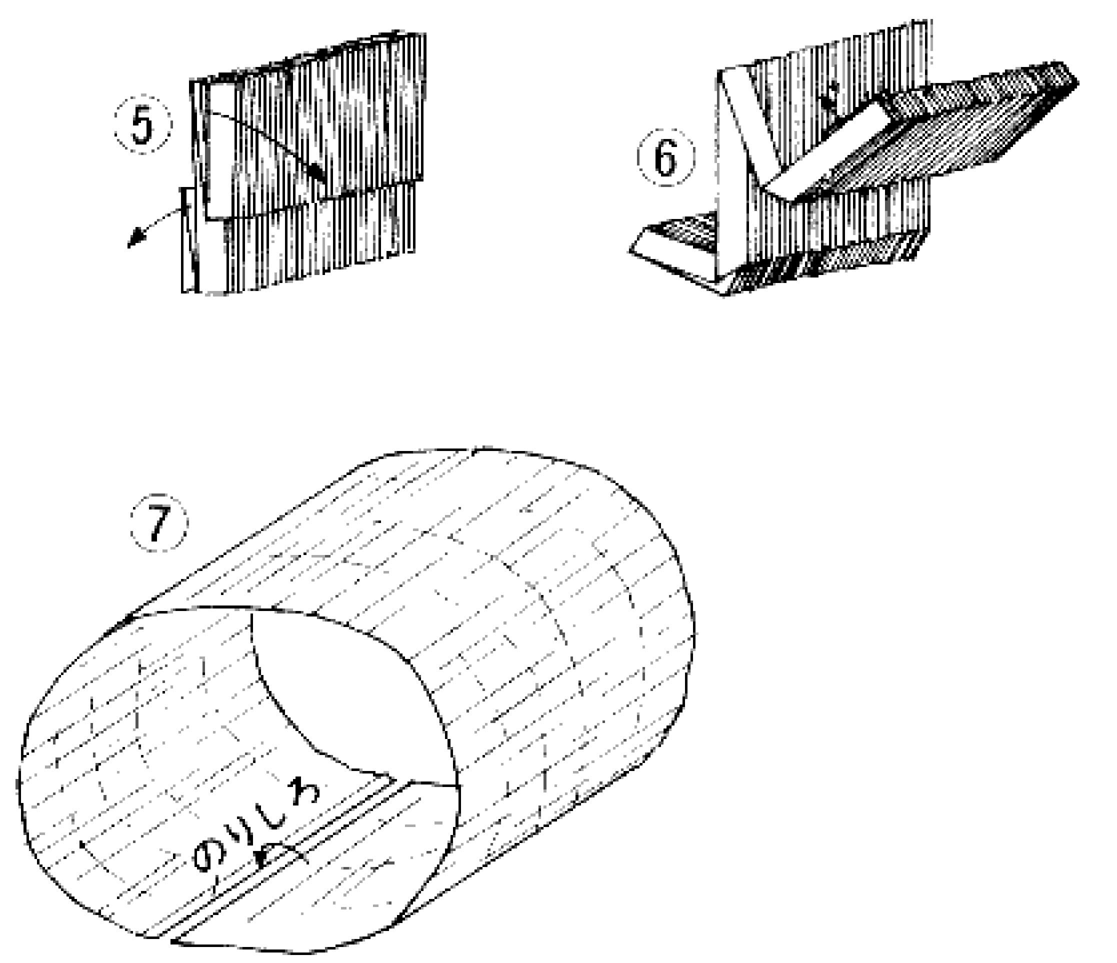
①正方形の紙を山線と谷線に折り目をつけて②のように折りまとめる。②Eを中心に合わせて折る。③FGHIの点線の位置に折り目をつけて、AとCDを開き出して④のようにする。④Aを折る。⑤半分まで巻き折りにする。⑥Eを裏側へ折ってから二つに折る。

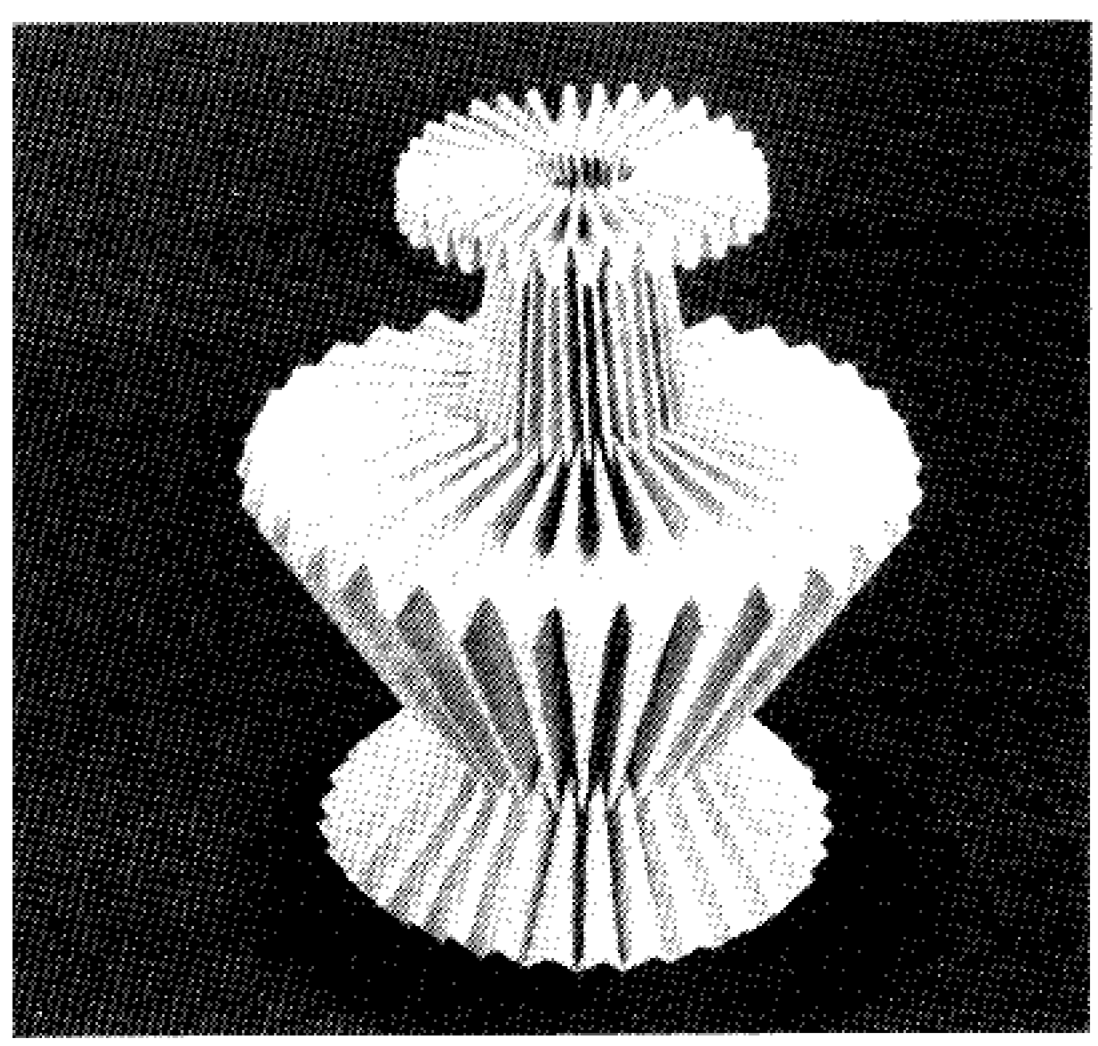
⑦Bを山線から間へ折り、FIを谷線から折り返す。⑧谷線の位置から主翼を左右に折り返し、Fと裏側のIの三角の袋を広げてジェットエンジンの形にする。❾出来上がり。⑧の○印を持って軽く投げて飛ばす。

畝折り







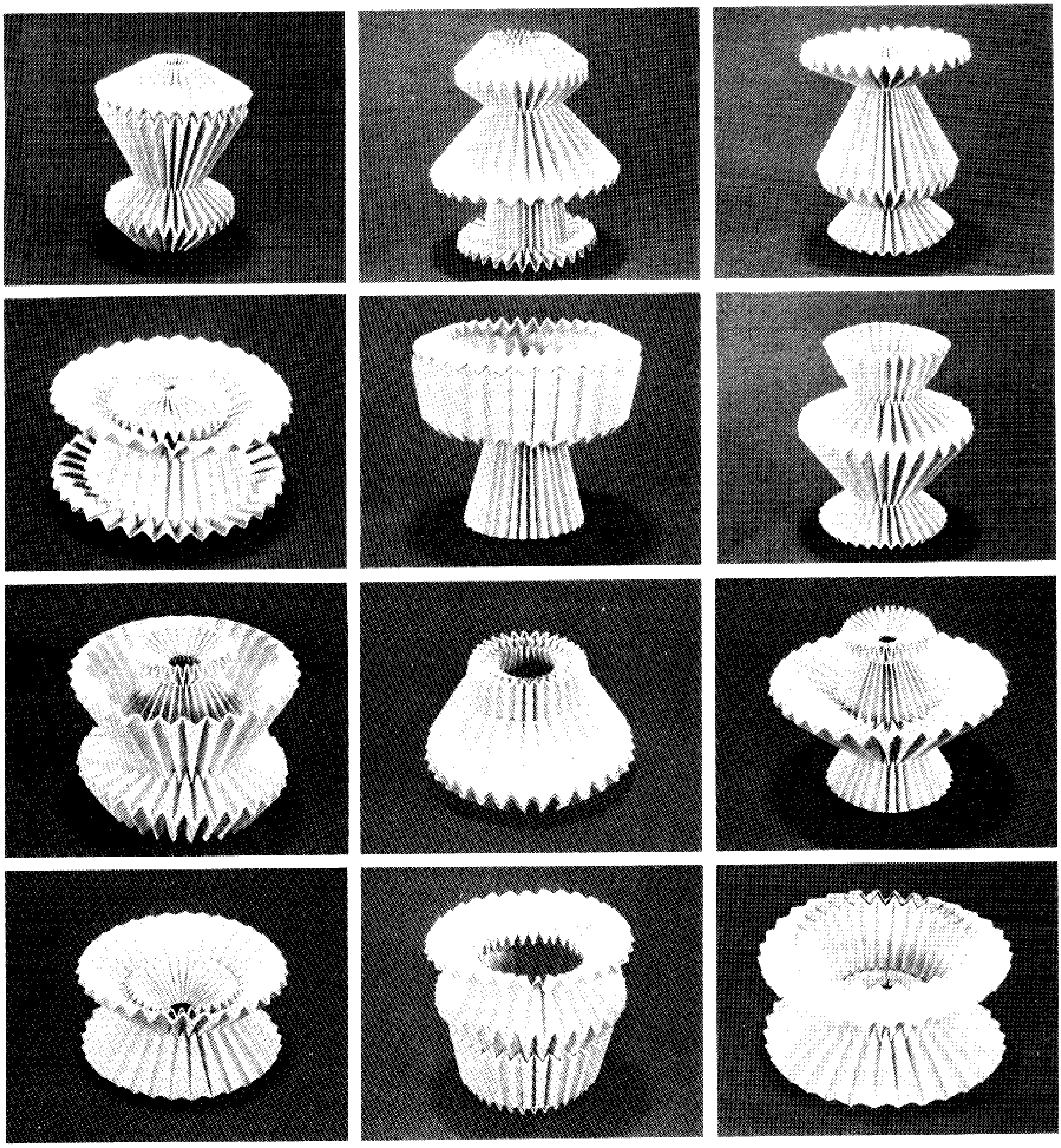


魔法の壺

用紙は丈夫で弾力のあるハトロン紙などが適当である。

〈畝折り〉長方形の紙の端にのりしろを細く折ってから、ａｂｃのように同じ面に半分半分に32等分まで折る。次に裏返して、その折り目（山線と山線）を一つずつ合わせて62等分に折る。

①62等分の折り目をつけてのばしたものとする。山線と谷線で②のように折る。②ＡＢを折り返す。③裏返す。③′山線と谷線の割合で折る。④このままで、はじめにつけた〈畝折り〉を折る。⑤七、八山ぐらいを持って矢印に引き出し、順に全部引き出す。それぞれを⑥のように引き出して押しつけておく。⑥いったん広げて⑦のようにして、のりしろをはり合わせる。つけてある折り目に従って、さまざまな形に変化させる。

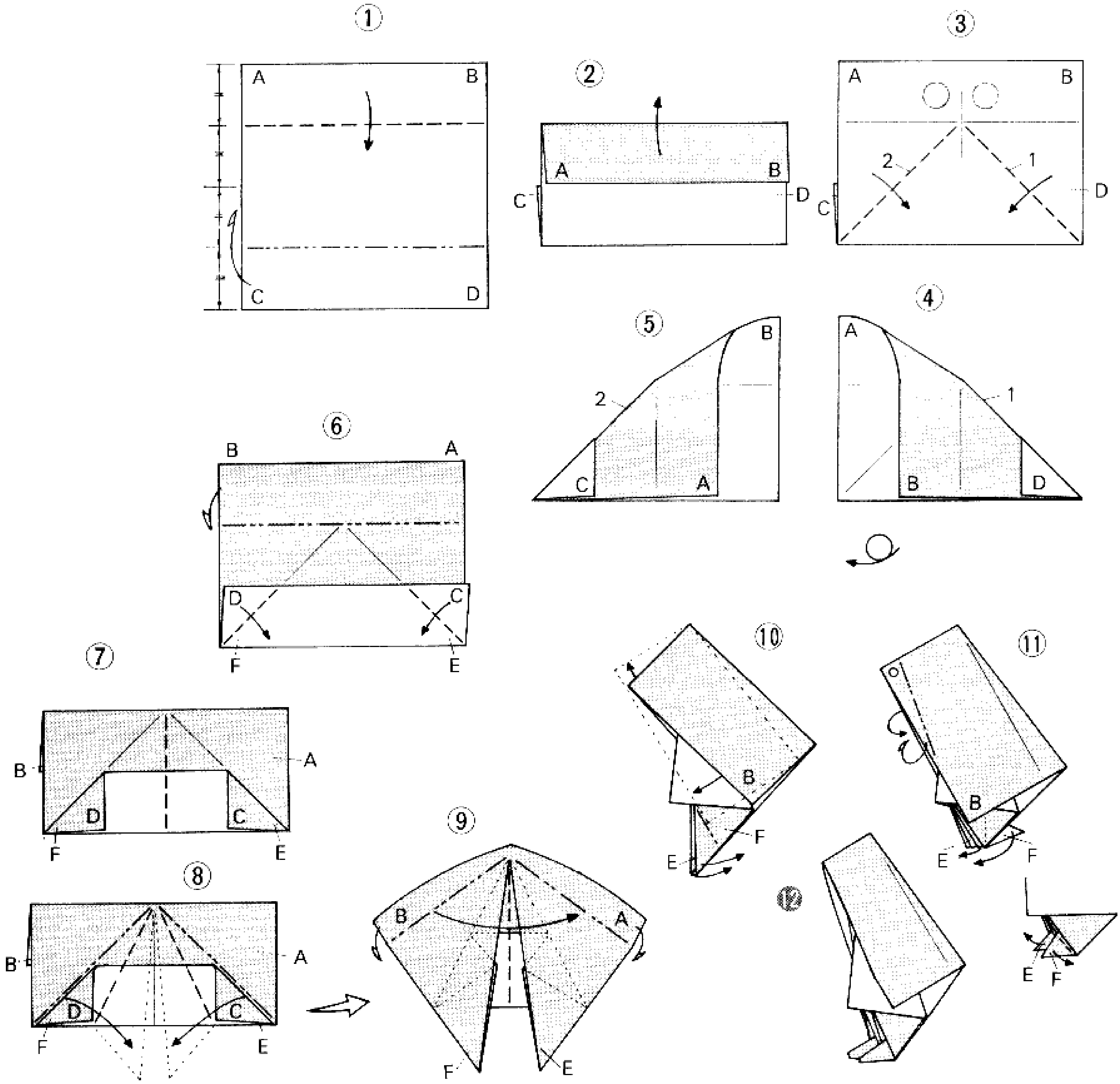


この折りは単純であるが、工夫すると限りない楽しさが秘められている。

平行線の畝折りに対して、直角や適当な角度の折り目を与えることによって出来る折り線で、伸び縮みする「ジャバラ折り」は生活のいろいろの面に応用されている。紙の弾力で引き出したり、押し込んだりできる面白さを「魔法のぼうし」として拙著にすでに発表してあるが、横ひだの分割を工夫して整理したのがこの「魔法の壺」である。かつて朝日新聞『遊びの博物誌』欄において「そのシルエットの首や胸や腰、脚などに相当する部分の広がりを加減することで、……およそ回転対称型のかたちなら何でも作り出せるほどである。あるいは、この帯状の構造を、一部だけひっくり返してゆがみをつけ、人間や動物の顔の表情に似せることまでできる。……」

と紹介されている。さらに、その分割を人体の各部分に比例させたものや、自然界の生物、洗練された生活の中の器具などに現れた形と対比させて作り、さまざまな形に変化させたものの一部を紹介してみた。

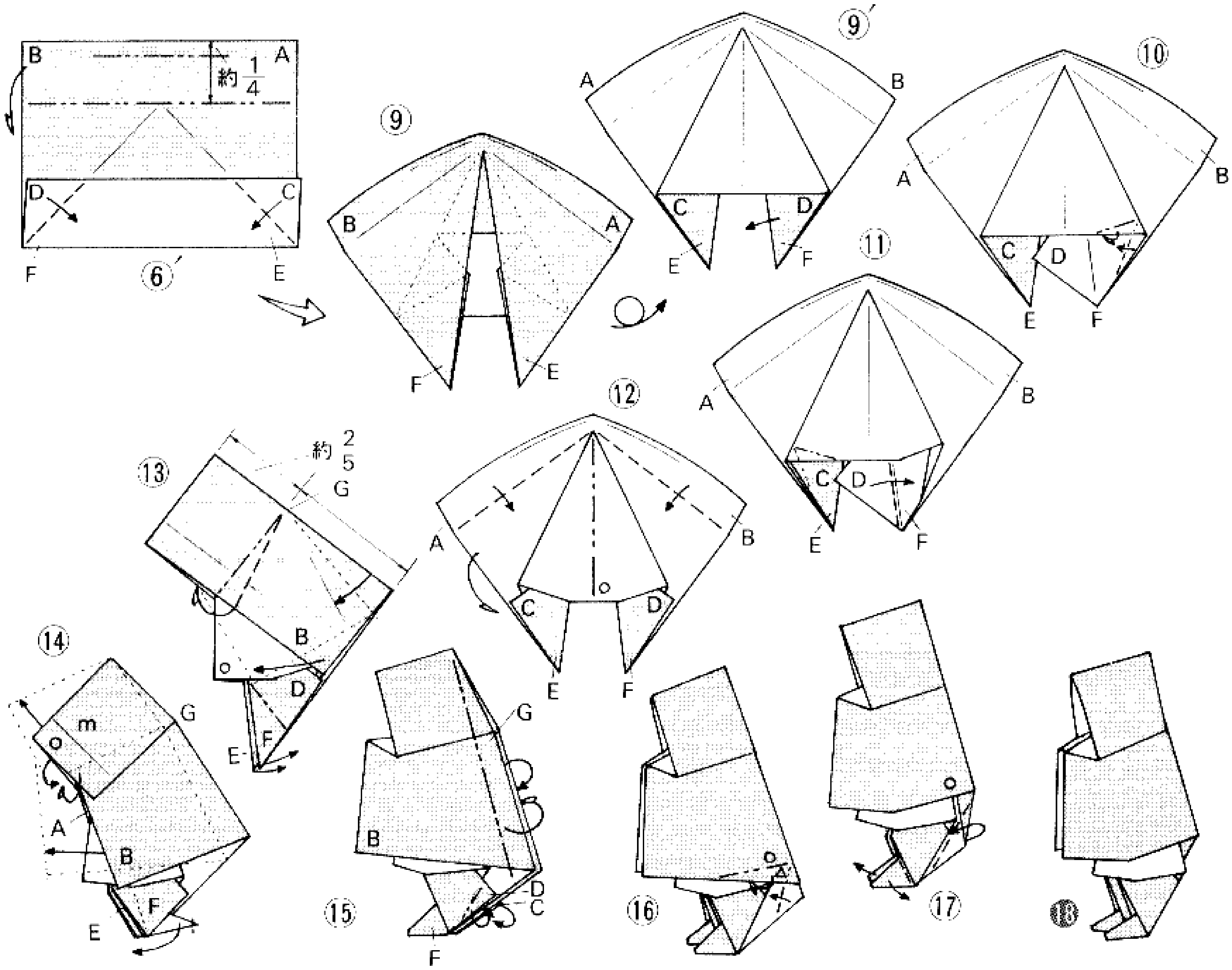
雪国の子ども



その(一)

①正方形の紙を図の割合に、AとBを表に、CとDを裏へ折る。②AとBを開く。③○印のところは折らないようにして、1と2の谷線を④⑤のようにして折り目をつけてから裏返す。⑥ABを裏へ折り、CとDを折る。⑦中心に折り目をつける。⑧は④⑤でつけた折り目をつまみ上げて、AとBには折り目をつけないようにして点線へ折る。⑨中心で折る。⑩EとFを持って、AとBを点線へずらして折って〝みのぼっち〟を作ってから、EとFを山線から折り返す。⑪○印の部分を山線から折り込み、EとFを折り返し、先を小さく折り込んで雪ぐつの形にして、先を左右に少し開く。⑫出来上がり。

雪ぐつの中心に重心がゆくようにすればよく立つ。

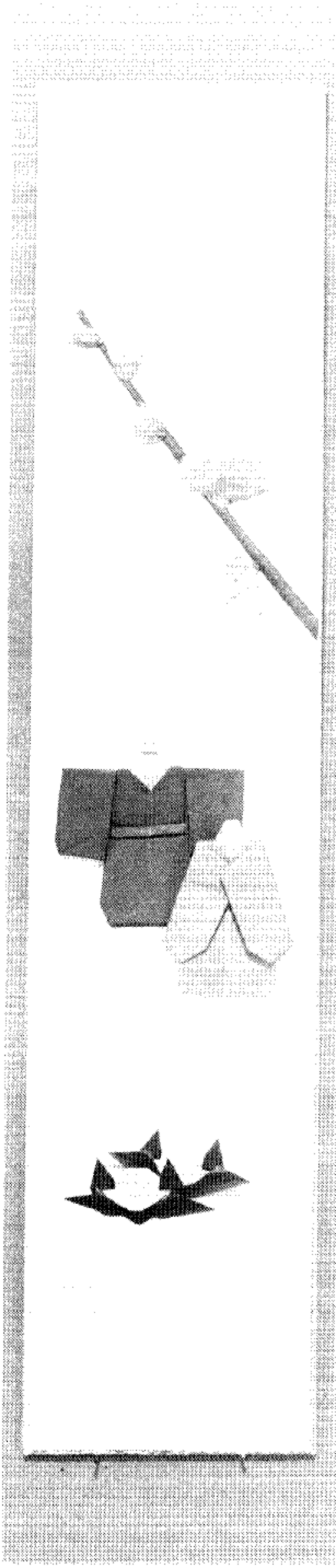


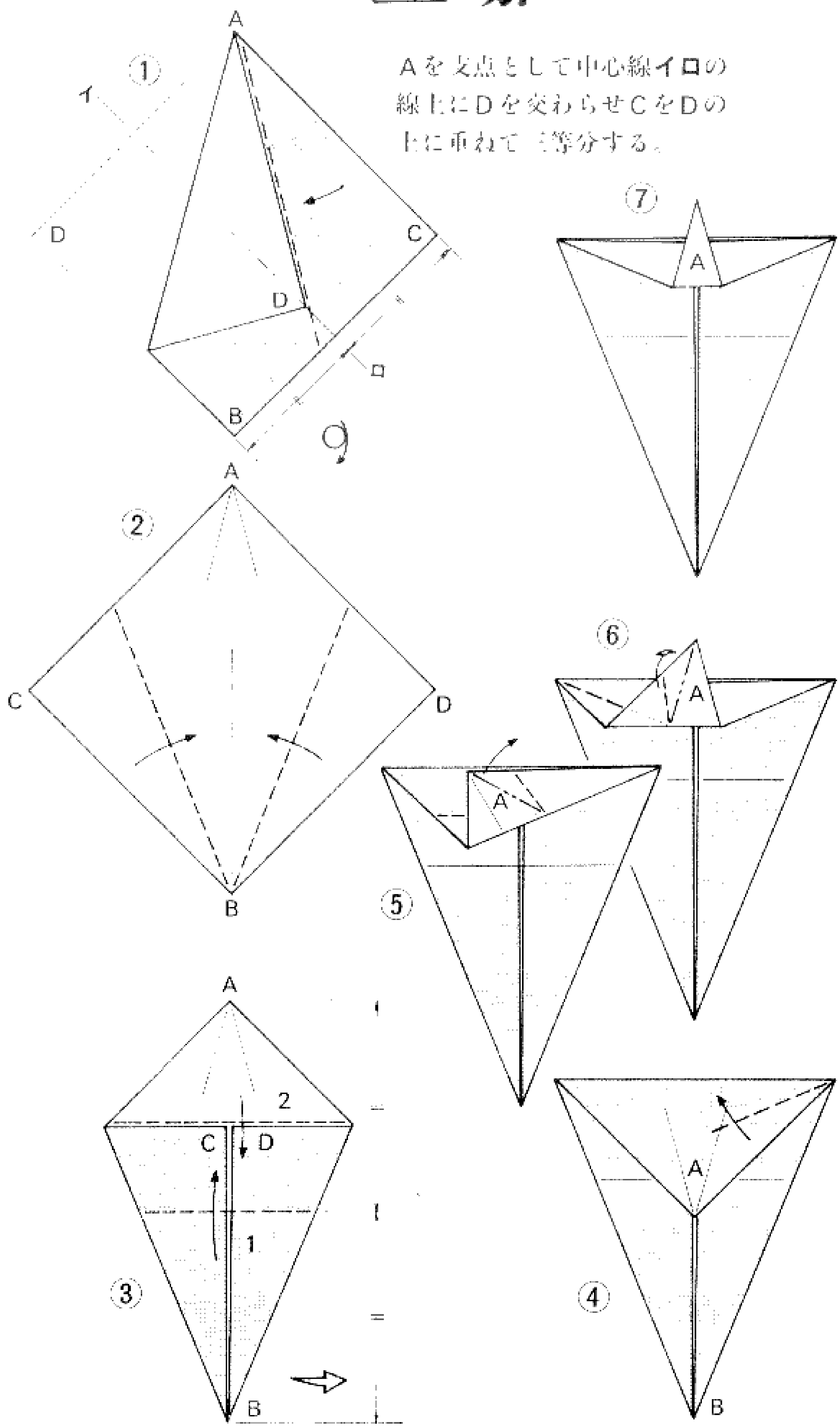
その(二)

「その(一)」の折り方で⑥まで折り、⑥'AとBの間の山線の部分だけ折り目をつけ、⑨まで同じに折って裏返す。⑨'Dを矢印に返す。⑩山線と谷線で間へ折り込む。⑪Dを矢印にもどし、左側も同様に折る。⑫二つに折って平らにする。⑬Gを支点として山線と谷線に折り目をつけてBを矢印にずらし、裏側のAも同様に折り、EとFを折る。⑭EとFを持ってAとBを点線へずらし、折り目を押しつけて固定する。○印の部分を折り込み、EとFを折って雪ぐつを作る。⑮Dと裏側のCを間へ折り込んでから、Gの部分をB側と裏のA側のそれぞれ山線から間へ折り込む。⑯山線と谷線で△印を○印の下へ折り込み、裏側も同様に折り込む。⑰後ろを折り込み、雪ぐつの下を左右に広げる。⑱出来上がり。

この折り方は紙の表と裏で、みのぼっちと着物の感じが出るようにしてありますから、それぞれの色を選んで重ねて折れば、男の子と女の子のかわいい姿になります。

立雛

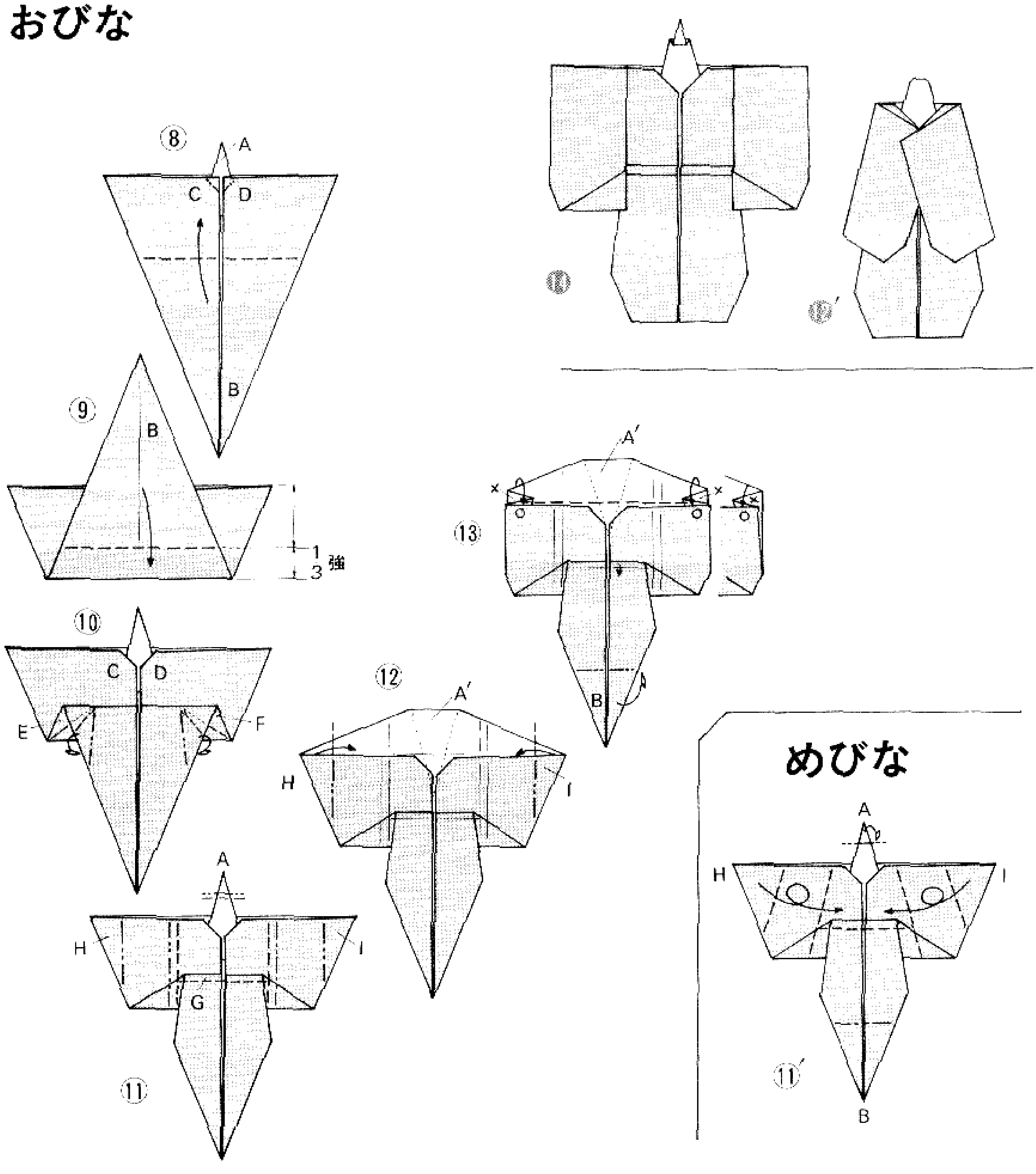




千代紙で作る場合は、柄の小さい上品な模様を選びます。厚紙を支えにして立てたり、色紙や短冊につけて飾ります。参考作品の短冊には橘と桃を配しました(折り方は44ページ)。古くは右近の橘、左近の桜といいましたが、ひな祭りはまた桃の節句とも呼んで、桃の花をそえるようになりました。

〈おびな〉①裏の白い正方形のいろ紙を用い、Aのカドに三等分の折り目を、先のほうにだけつけ

おびな

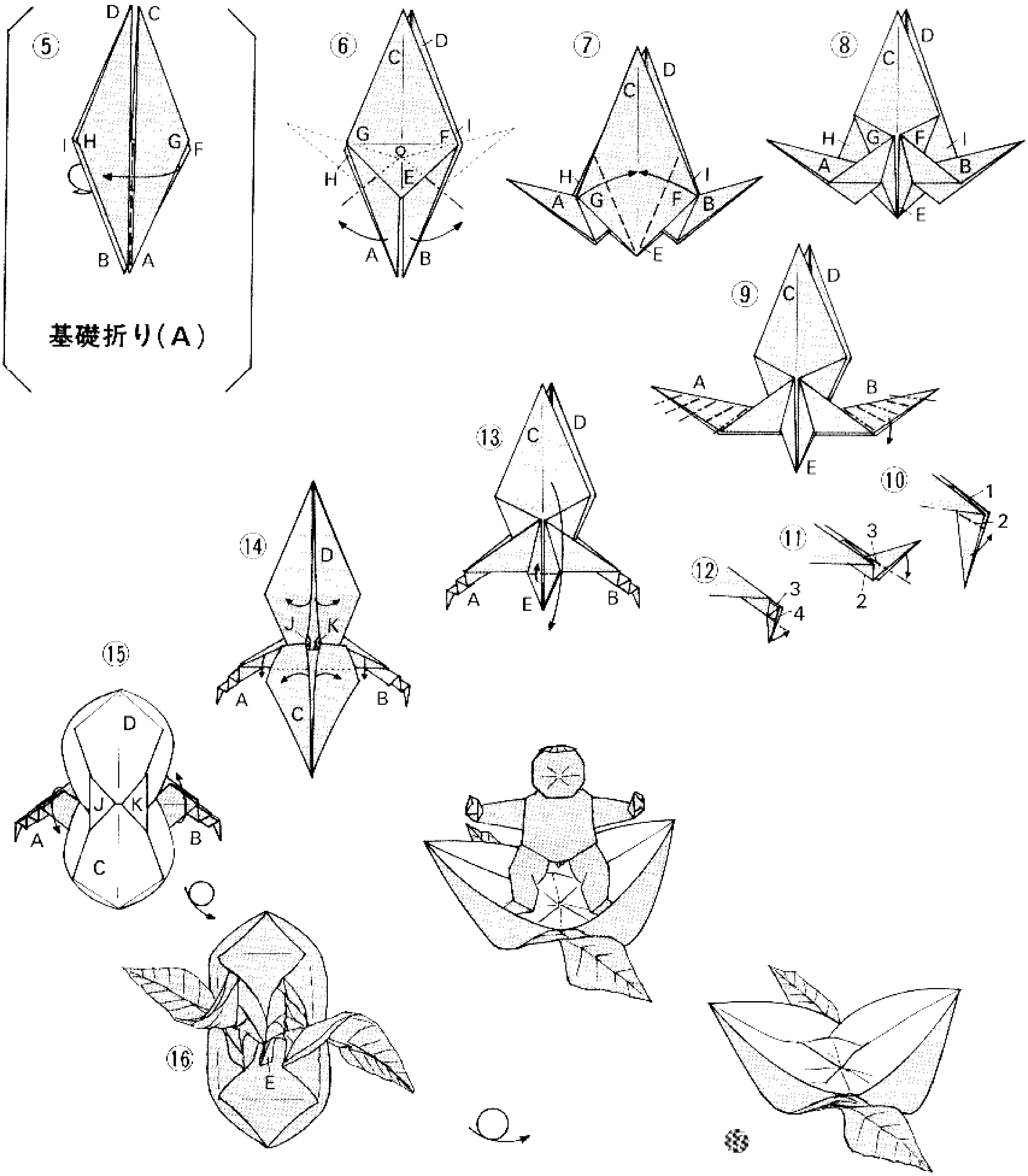


めびな

てのばし、裏返す。②対角線ＡＢに軽く折り目をつけ、ＣとＤを対角線に合わせて折る。③１の谷線に折り目をつけてのばし、２の谷線を折る。④Ａを斜めに折る。⑤山線と谷線でＡを立てる。⑥Ａの左側を右側と同様に折って、Ａの裏側に重ねる。⑦Ａの裏側からＣとＤを引き出す。⑧ＣとＤのカドを小さく間へ折って衿の形にととのえ、③で折った折り目でＢを折り上げる。⑨Ｂを$\frac{1}{3}$強の高さから折り下げる。⑩山線と谷線でＥとＦを折り込む。⑪山線と谷線でそれぞれに折り目をつけてから、衿の下から⑫のように開き出す。⑫ＨとＩを中に折り込む。⑬○印の内側に×印を差し込み、Ａを⑪の形にもどし、Ｂを裏へ折って形をととのえる。⑭出来上がり。

〈めびな〉〈おびな〉の⑪まで折り、⑪′ＡとＢ、ＨとＩのカドを折って形をととのえる。⑭′出来上がり。「めびな」は「おびな」より小ぶりに仕上げるために、それぞれの折り込む分量を加減する。

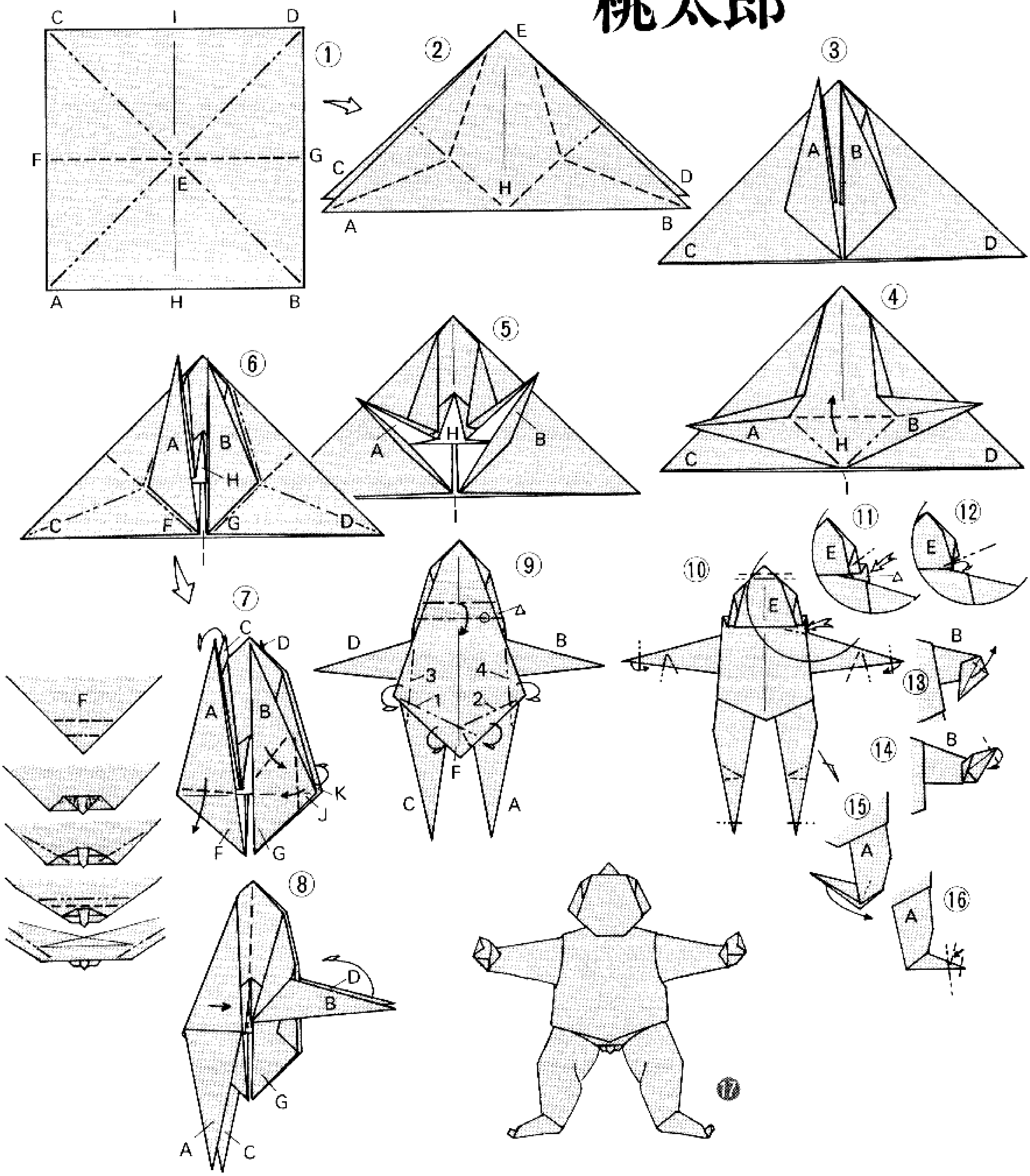
桃太郎の桃



基礎折り（A）から折る。⑤Ｉを裏へ、Ｇを表に返す。⑥ＡをＧＨの間へ、ＢをＦＩの間へ折る。ＡＢの付け根は○印の部分を残して、Ｅの袋の内側で折る。⑦ＦＧを中心へ折る。⑧裏側のＨＩもＦＧと同様に折る。⑨ＡＢを部分図⑩⑪⑫のように折る。⑬Ｅを折り上げてから、Ｃを折り下げる。⑭ＣＤを矢印に大きく開きながら、ＪＫを下のほうまで広げて平らにする。⑮⑯ＡＢの付け根を、元のほうでねじって葉の形に広げ、Ｅをつまんで折り元の柄にする。●出来上がり。

桃の中の赤ちゃんは右ページの桃太郎の折り方で、Ｅの袋状になっているところを丸やかに広げてから、上のほうを少しつまんで前に折り、芥子坊主にして赤ちゃんの産毛にみたてたものです。

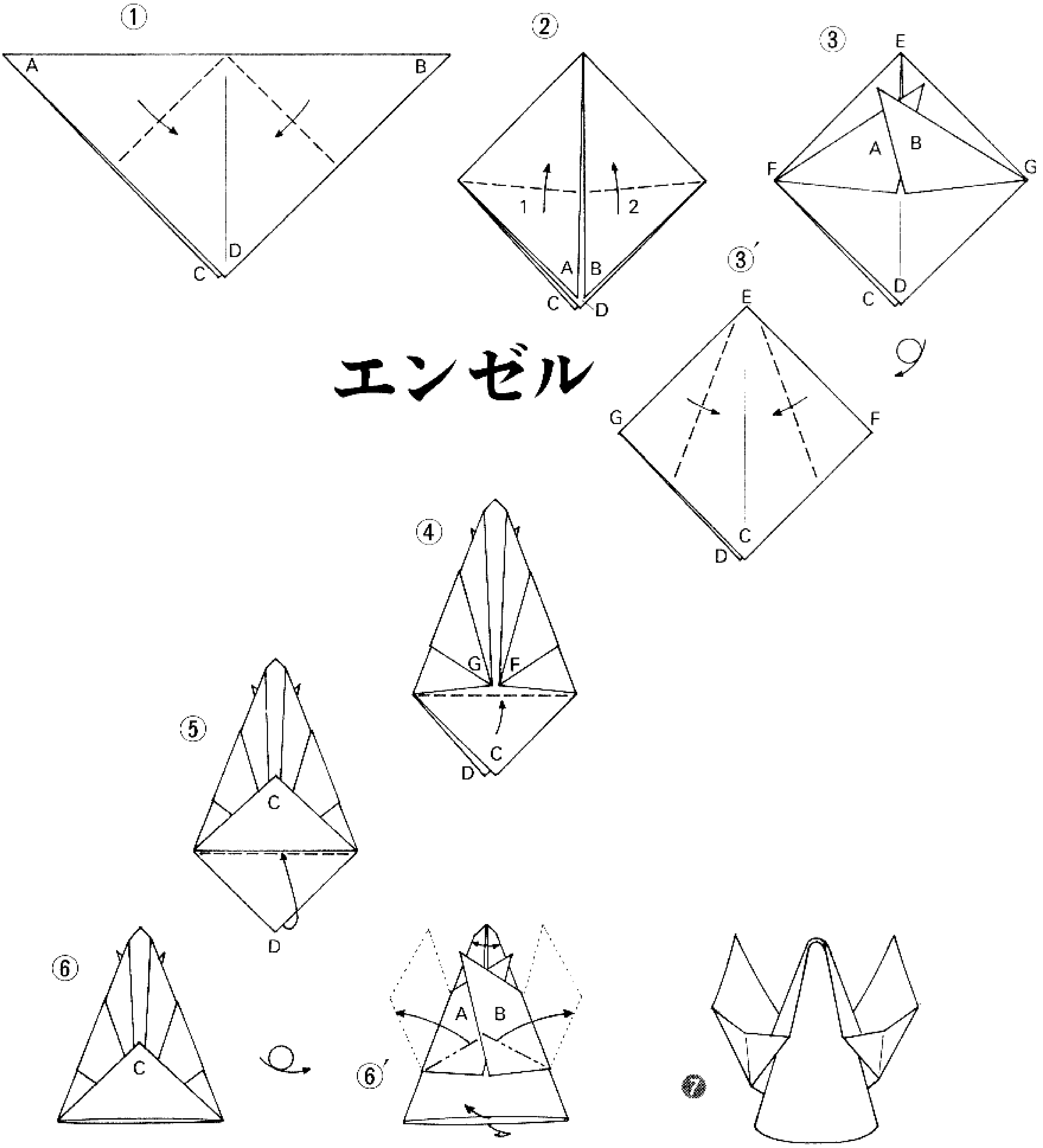
桃太郎



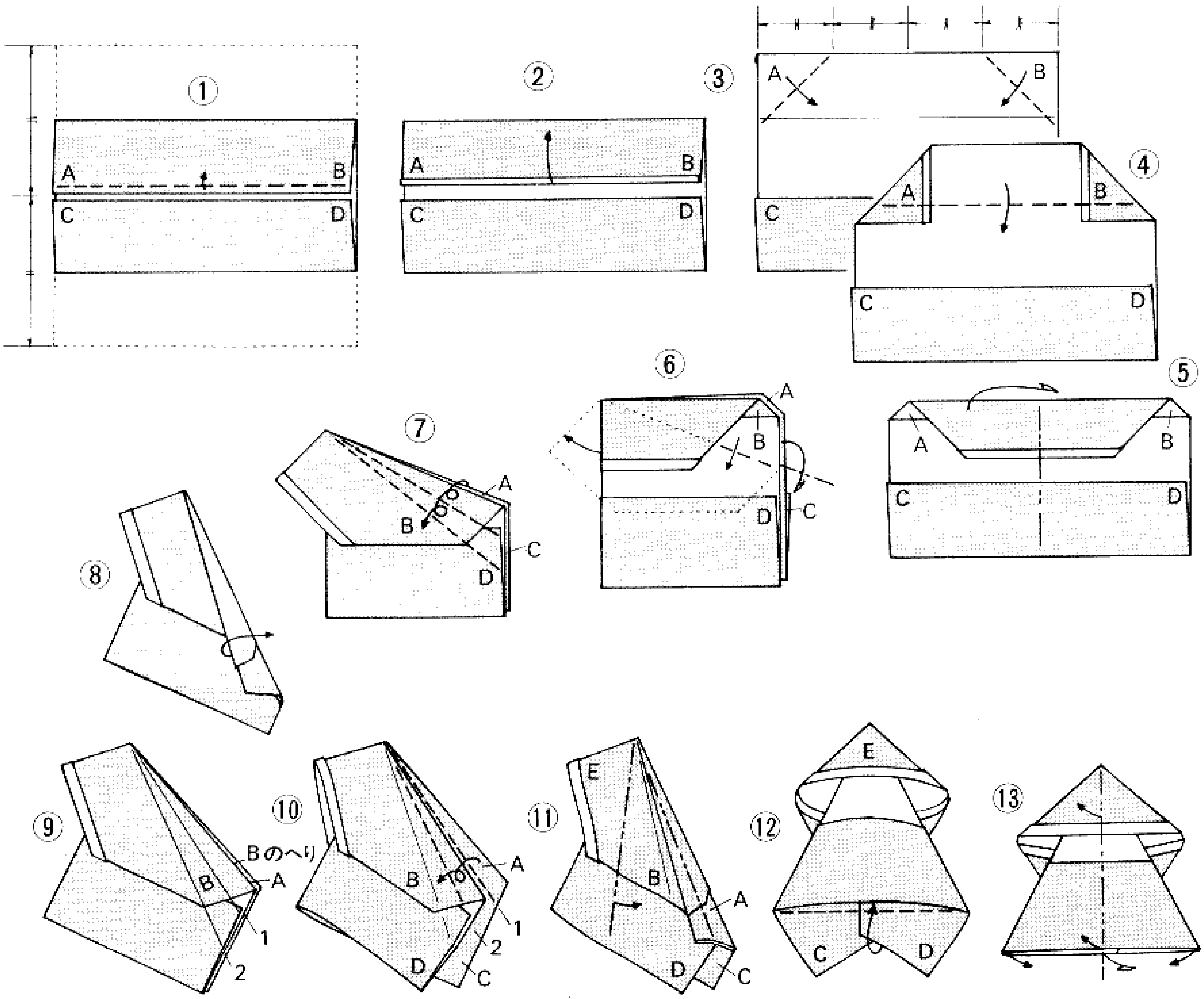
日本の男の子を象徴したもので、ただかわいらしいだけでなく、力強さを表現します。

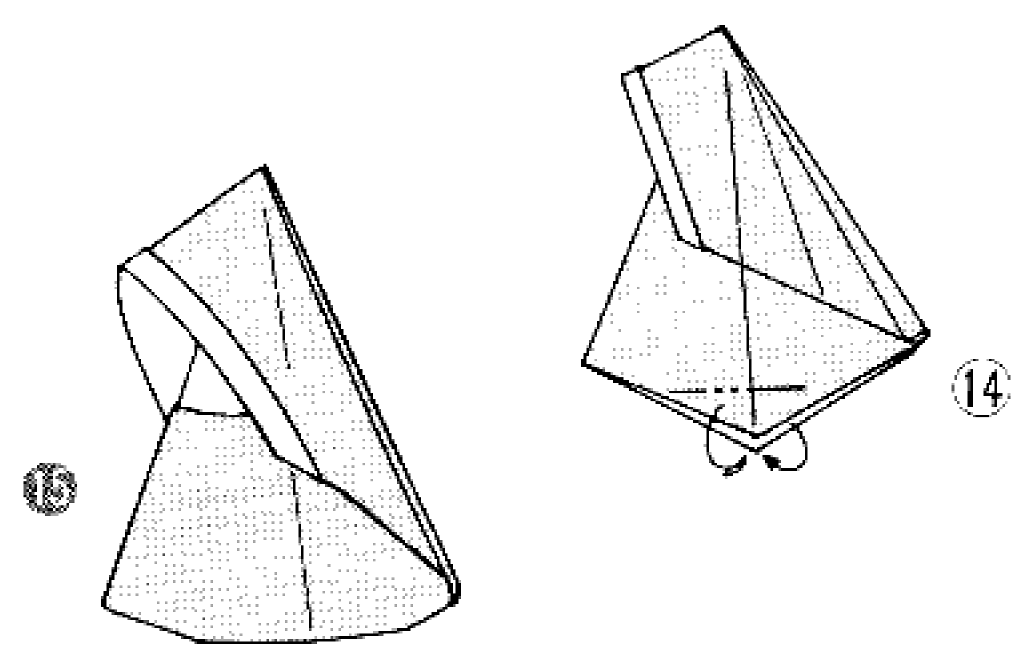
①正方形の紙を山線と谷線で折りまとめる。②AとBをそれぞれつまみ上げる。③半開きにして④⑤のようにしてHを折り上げる。⑥C D Iを裏側へA B Hと同様に折る。⑦J Kを折ってから、B Dを横に折り、A Cを少し斜めに折り下げる。⑧開きかえる。⑨腹の部分を1 2 3 4の順に折り込んでから、首の部分に段をつける。⑩首の付け根を一枚だけ矢印に折り込む(⑨図の○印の部分)。つづいて⑪を矢印に折り込む(⑨図の△印の部分)。⑫顎の下を折り込んで顔の輪郭を作る。この場合、折り込んだ紙が首すじや肩から見えないように折る(見えない小さな部分でも、きれいに折る)。⑬⑭で手、⑮⑯で足を作り、腕の付け根を袖ぐりの曲線につまみ折りにして、腹掛けをかけた感じにして、形をととのえる。⑰出来上がり。

エンゼル



①正方形の紙を対角線に折り、AＢを折り下げる。②1、2の順に折る。③裏返す。③'上の方を少し残してＦＧを折る。④Cを折り上げる。⑤DをCの下のへりに合わせて谷線に折り目をつけてから、中へ入れる。⑥裏返す。⑥'ABを矢印に開き出し、上のカドを頭の形にととのえる。❼出来上がり。





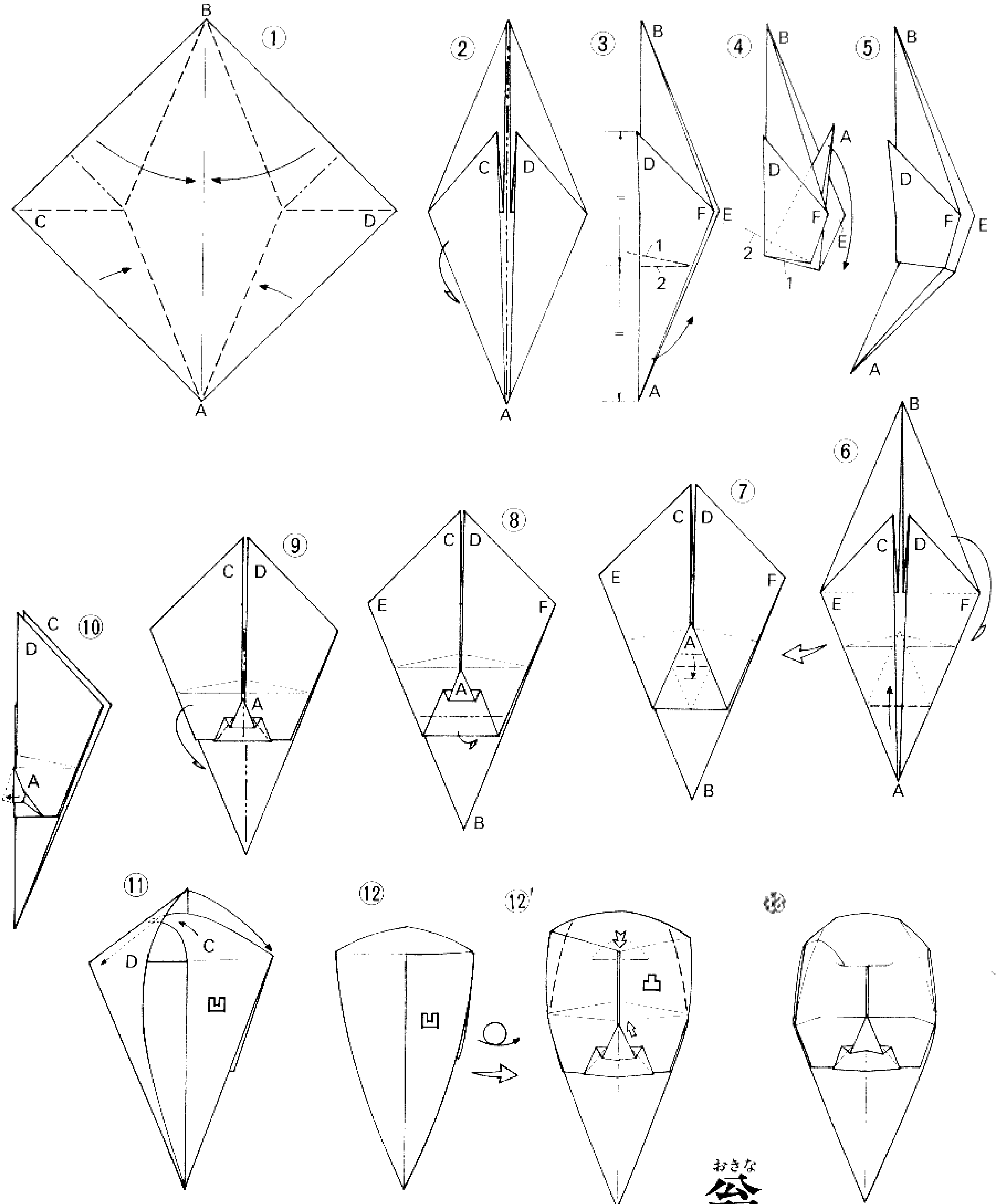
修道女

人の姿を造形の対象として、単純な折り線構造で敬虔な祈り、静かでしかも親しみのある姿に表現しました。

かぶりものの縁の分量や、折り目のつけ方で感じが違ってきます。

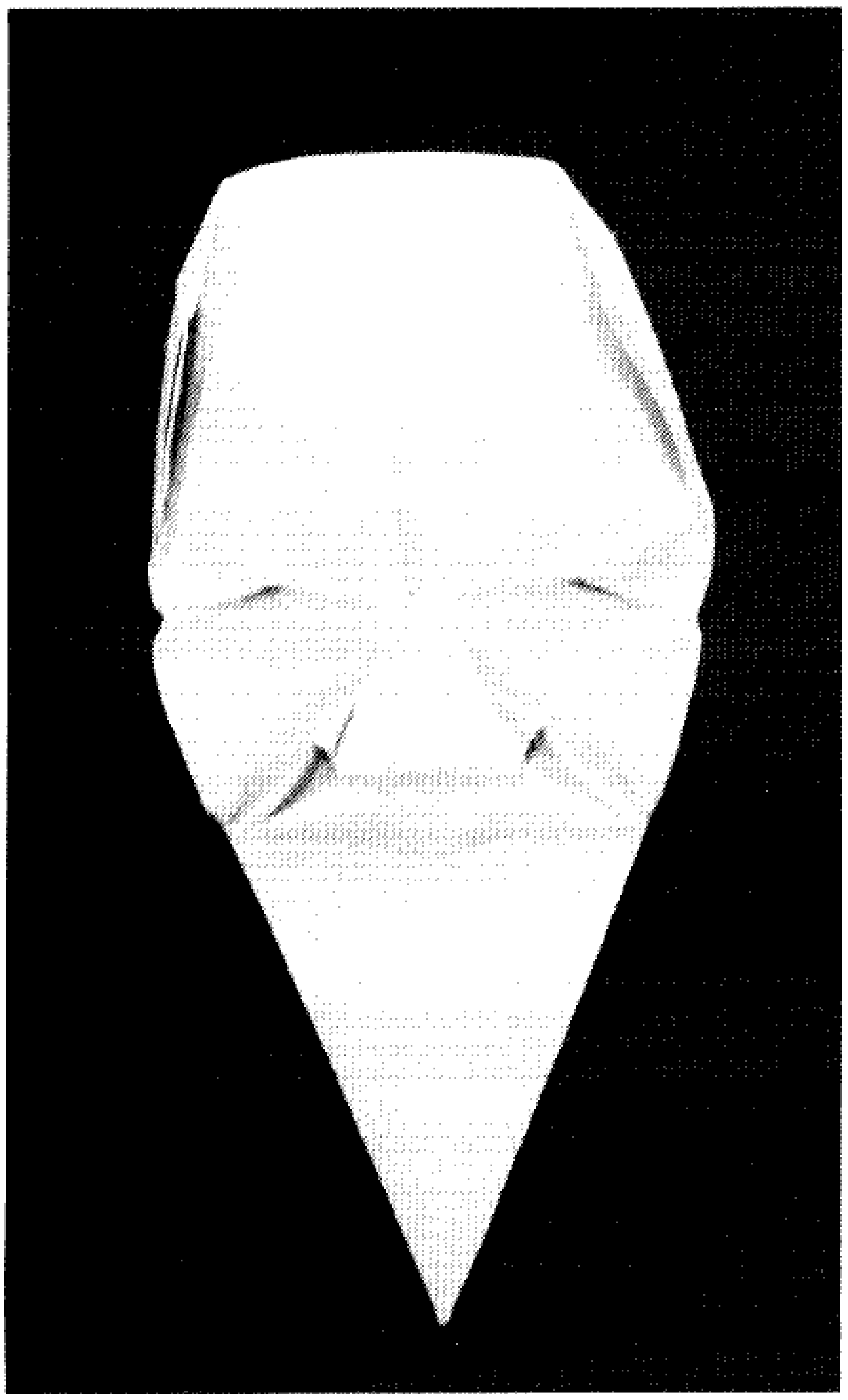
〈折り方〉

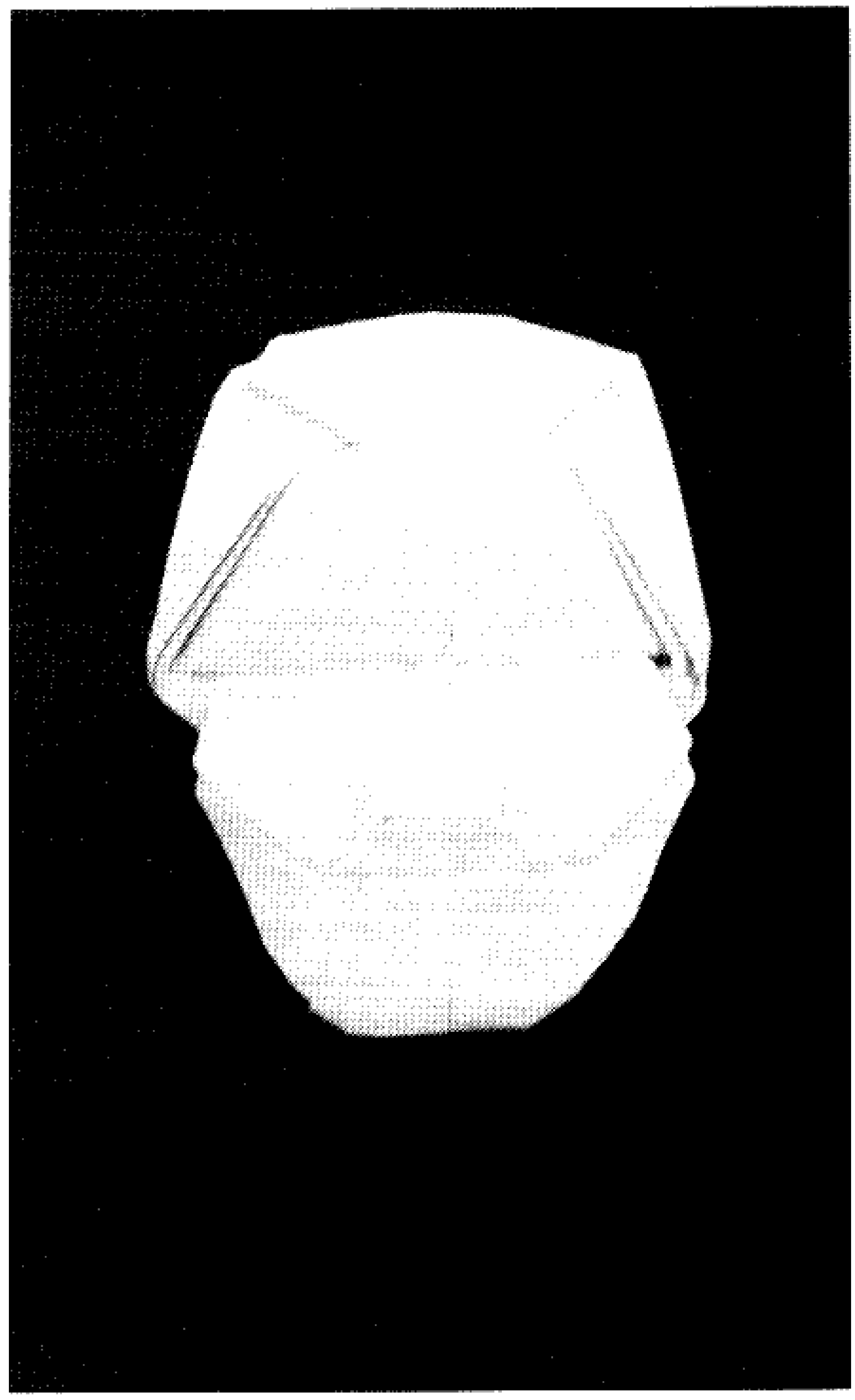
裏の白い黒の紙を用いる。①正方形の紙の$\frac{1}{2}$の線にCDを合わせて折り、ABは$\frac{1}{2}$の線より少しあけて折ってから、細く折り返す。②上側だけ開く。③④⑤それぞれ矢印に折る。⑥Bの谷線を（その延長の点線の下を袋の内側で）折り、Aも裏側へ同様に折る。⑦⑧折り目をつけてもどす。⑨Aの1の折り目に、Bのへりをずらして合わせる。⑩AをBにかぶせてから、重ねたままもう一度折る。⑪ABをはずれないように持って、中を袋状にして⑫のようにする。⑫CDを中へ折る。⑬開いて折りかえる。⑭下のカドを折り込んでから、丸みをもたせて形をととのえる。⑮出来上がり。

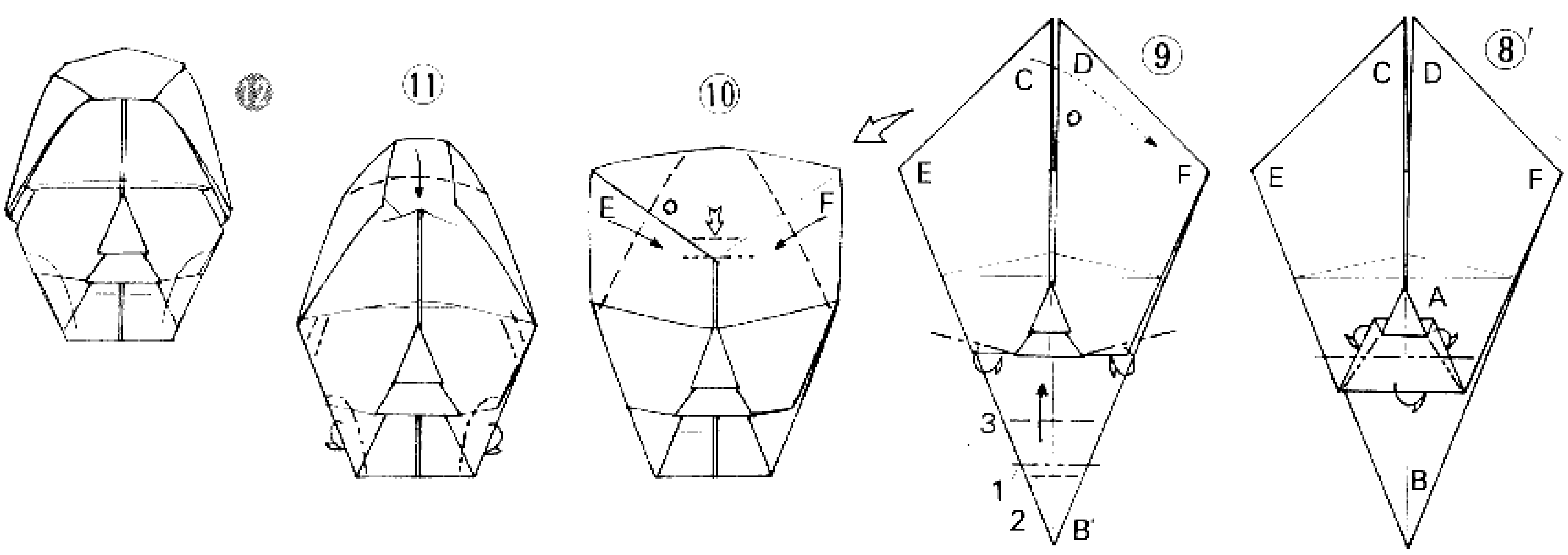


翁（おきな）

①正方形の紙を山線と谷線で②のように折ってから二つに折る。③④Aを1の山線でEFの間へ折り、2の谷線で折り返す。⑤を平らにする。⑥Bを折り下げ、Aを点線へ折る。⑦鼻の大きさを考えてAに段をつける。⑧矢印に間へ折る。⑨⑩Aの左右のカドを折ってから二つに折り、Aを引き出してから、⑪のようにしてDの袋へCを入れると、裏側が舟底のようにひっこむ⑫。⑫裏返す。⑫'額の矢印に押し込んで平らに押しつぶし、左右のカドを折ってから、目のところを③～⑤で折った折り目で折り込み、目と目の間を少し平らにして形をととのえる。⑬出来上がり。







媼（おうな）

翁の⑧まで同じように折り、⑧'Aの左右を折ってから、その下を間へ折る。⑨上あごの左右のカドを間へ折り、Bの1の山線と2の谷線に折り目をつけてのばしてから、3の谷線で上あごの下へ入れ、Dの袋へCを入れる。⑩顔の矢印に押し込んでから、EFを折る。⑪顔の左右に斜めに段をつけ、それぞれ矢印に折って形をととのえる。⑫出来上がり。